機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.2

大事典編

キャラクターPICK UP

宇宙世紀を駆け抜けた多彩な青春群像
君は彼らを覚えているだろうか？

地球連邦軍

アムロ・レイ

ミライ・ヤシマ

ブライト・ノア

カイ・シデン

セイラ・マス

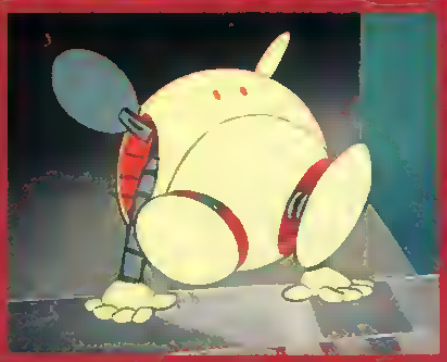
リュウ・ホセイ

ハヤト・コバヤシ

フラウ・ボウ

スレッガー・ロウ

ハロ



キッカ・カツ・レツ

地球連邦軍

レビル将軍

マチルダ・アジャン

エルラン中将

ウッディ大尉

金髪の美少年(笑)

テム・レイ

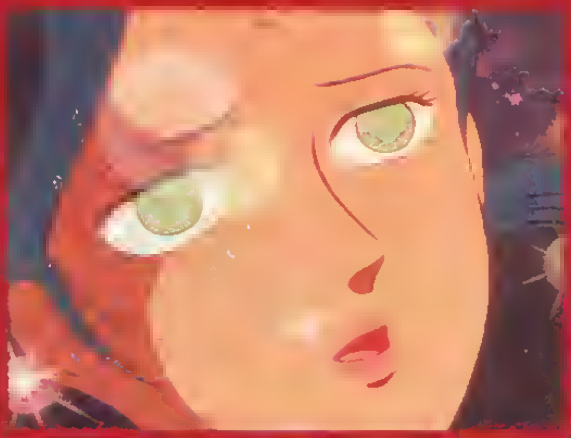
地球連邦軍

ジオン公国軍

シャア・アズナブル

ギレン・ザビ

ララァ・スン



ドズル・ザビ

キシリア・ザビ

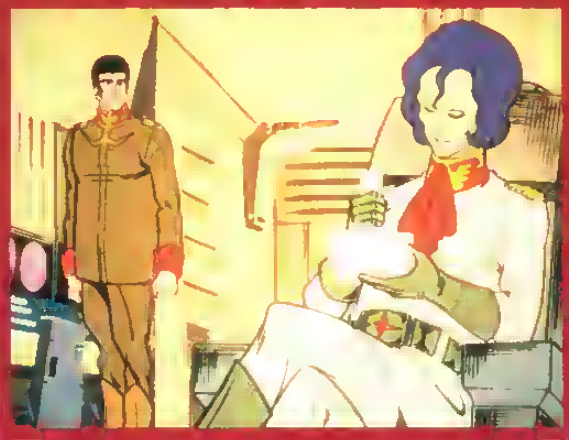
デギン・ザビ

ガルマ・ザビ

クラウレ・ハモン

ランバ・ラル

ウラガン(後方)



マ・クベ

ジオン公国軍

ジオン公国軍

ドレン

黒い三連星　ガイア

シャリア・ブル

コンスコン

トワニング

フラナガン・ブーン

その他

ミハル・
ラトキエ

カムラン・ブルーム

イセリナ・エッシェンバッハ

ゼナとミネバ

カマリア・レイ

MOBIL SUIT GUNDAM

機動戦士ガンダム
宇宙世紀vol.2
大事典編

語彙から見た宇宙世紀

この本の読み方

辞典は辞書の丁寧な説明であって言葉を集め特定の法則で並べ用法等を説明する物である。対して事典は「百科事典」的な意味合いが強く、説明したい物を優先して必ずしも順番通りに並んでいなかったりする。

ガンダム大事典…普通は「大辞典」をタイトルにするものなのだろうけれと、アニメック流の拘りは「精密ではないけれど、奥の深い解説」が基本となっている。だから当初から番組解説ムックには『大事典』というタイトルを用いているのである。さすがに20年も継続していると『ラポートの大事典シリーズ』だけで書店も読者も納得していただける。

さて、今回の『大事典編』は、なんと4度目のガンダム大事典となるわけだが、設定が変化したという事もあり、今回は初の改訂版と思っていただいてかまわないだろう。

歴史編を、お買い上げいただいた人には説明するまでもないが、弊社のガンダム本は編集者の主観だらけの記述で埋まっている。

基本的にはフィルムにあったエピソードがメインで、他の印刷物を使わない方針にしている。それでも、放送当時に設定解説が少なかった為に、少しでも参考になる資料を全て使い、当時のファン常識とされていた解説は全て残す事にした。よって、この本の解説は、あくまでもアニメック流であるとご了承願いたい。

後述するように、『機動戦士ガンダム』から『Vガンダム』までの「同じ宇宙世紀」を共有する物語の整理統合を行う大計画が進行している。パソコン通信『ニフティ・サーブ』のサンライズ・ガンダムステーションにて行われている『U・C・年鑑』がそれである。

もちろん、アニメックの過去の出版物からの引用はこの『U・C・年鑑』に限り制限はしていない。逆に英文表記等は、今まで使っていた物を変更して、参考にさせていただいている。過去、馬力表示であったメカスペックはこれを全廃し、オフィシャルデータに統一してみた。そういった事で、20年前の解説と新規データが混在する大事典としてみたのだが、いかがなものだろうか。

今回の大事典編では、一年戦争に関係する全てのメカとキャラを網羅する予定であったが、どうしても辻褄の合わない設定があり、これは割愛させていただいた。

同じ宇宙世紀でありながら、機動戦士ガンダムの活躍する一年戦争を中核にすると、どうしても整合性がとれなくなる事象については、あえて入れないようにしたのをご了承願いたい。

また残念な事に、艦船関係のスペックはまだ統一できていないので、掲載を見合わせ、本編がまだ完結していない『第08MS小隊』については中途半端になるので、同じく割愛した。

そのかわりといっては何だが、一年戦争に限っては眠っていた資料や、新規の解釈を補強し、過去に出版した大事典資料の倍の文字量に仕上がっており、満足していただける物と思う。

これで、『歴史編』と併せて読めば、機動戦士ガンダムの世界は網羅できるのではないだろうか。まだ足りないと思われる事があれば編集部までご一報いただきたい。

放映中から解説を書いていた身としては、それが常識と考えていた事でも、今の世の中では説明不足になる部分も多々あるようで、多少回りくどい表現になった部分もあるのでご理解いただきたい。

世の中には、LDで機動戦士ガンダムを初めて見るという人もいるので、そういう方たちにも楽しめるように解説したつもりである。

最後に、過去20年間に渡り雑誌アニメックとガンダム大事典の編纂に関った全ての編集者と、叱咤激励を続けていただいた読者のみなさんに感謝いたします。今となっては、どの部分とは指摘できないくらいに融合してしまっていますが、事典の抜けの指摘や補遺について、多数の読者の協力がなければ、この本はできなかったのですから。

この大事典の持つ独特の雰囲気は、昔のままであると信じています。『歴史編』をお読みになった読者のみなさんからの反響を聞くにつれ、ここまで付き合ってくれる読者を持って幸せだなぁと考えています。

アニメック編集部　小牧雅伸

C O N T E N T S

機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.2
大事典編

キャラクターPICK UP
3

序章●再び宇宙へ
12

第一章●キャラクター設定資料館
15

第二章●MS&MA設定資料館
59

第三章●機動戦士ガンダム キャラクター大事典
75

メカニカルPICK UP
107

第四章●宇宙世紀設定資料館
115

第五章●機動戦士ガンダム メカ&用語大事典
131

第六章●機動戦士ガンダムの謎
197

第一章●キャラクター設定資料館

オフィシャル資料の読み方

BASIC 通称または本名。
正式名称よりも、一般的な呼称です。

名前：フルネームと英文表記です。不明部分は空白とします。
出身地：わかる範囲の出身地です。
生年月日：設定されている範囲の年・月・日です。
身体的特徴：身長・体重・頭髪色・アイカラー・眼鏡の有無をフォローしていますが、色彩については参考程度とお考え下さい。
軍階級：民間人　地球連邦軍　ジオン軍で分類
人物紹介：物語の中でどんな立場・役割りだったかをまとめてあります。
登場話数：TV版1～43話の話数。映画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの話数。
※ はっきりしない部分、設定されていない内容は空欄のままにしてあります。
（1998年7月1日現在）

BASIC アムロ・レイ

名前：アムロ・レイ（AMURO　RAY）
出身地：地球・日本山陰地方（TV）
地球・北米大陸西部プリンスルバート（映画）
生年月日：UC００６４・？・？
身体的特徴：身長／１６８㎝　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人→地球連邦軍・曹長（TV）、地球連邦軍・（曹長→）少尉（映画）
人物紹介：ガンダムのメインパイロット。
UC００６４、父・テムと母・カマリアとの間に長男として生まれる。
まだ幼い頃に、技術者であった父と共に宇宙へと上がる。
UC００７９、サイド７に住む機械いじりの好きな内向的な少年へと育つ。
偶然手に入れたマニュアルをもとにガンダムを操縦。以後、現地徴用兵としてガンダムのメインパイロットとして活躍する。
ジオン公国軍のシャアやランバ・ラルとの戦闘を通じ、戦いの厳しさを知り、ニュータイプへと覚醒していく。
ジャブローにおいて正式に曹長として任官される（TV）。
ジャブローにおいて正式に少尉として任官される（映画）。
ジオン公国軍のニュータイプ少女、ララァ・スンとの出会いと死別とが、心に大きなトラウマを残すこととなる。
最後はア・バオア・クー戦を生き抜き、ニュータイプ能力を発揮して助けたホワイトベースの仲間の元へと無事帰還した。
登場話数：１～４３話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC カマリア

名前：カマリア・レイ（　）
出身地：地球
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（地球）
人物紹介：アムロの母親。宇宙に馴染めないため、一人地球で暮らしていた。
UC００７９、避難民キャンプでボランティアをしていた。
里帰りしたアムロがジオンの軍人に向けて発砲したことに激怒し、息子の気持ちを考えずに、思わずなじってしまう。
再会は、互いの生き方の違いを思い知らされるだけのものであった。
登場話数：１３話、映画Ⅰ

BASIC テム・レイ

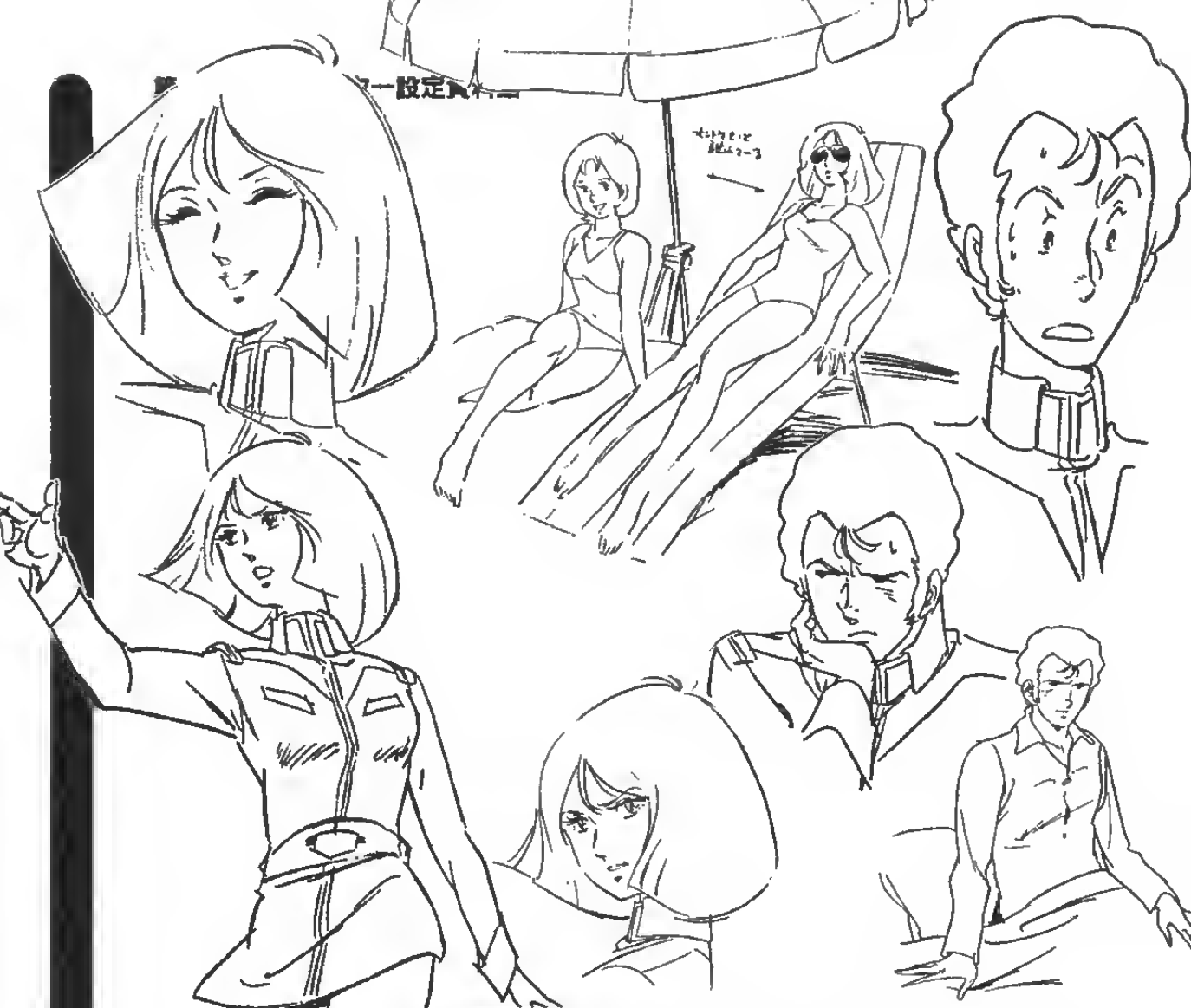
名前：テム・レイ（　）＊第１話では「ティム」
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／パープル　アイカラー／ブラック　眼鏡／有
軍階級：地球連邦軍・技術大尉
人物紹介：アムロの父にしてガンダムの設計技師。
ホワイトベースでサイド７に到着。ガンダムの受領のため上陸していたが、ザクの爆発でコロニーに開いた穴から宇宙に吸いだされる。
宇宙を漂流後、サイド６のジャンク屋に拾われ住み着くが、その脳は酸素欠乏症に冒されていた。その姿にアムロは絶望する。
ＴＶ中継でコンスコン隊を撃破するガンダムの活躍を見てはしゃぎまわり、階段から足を滑らせ転落死する（映画）。
登場話数：１、３３～３４話、映画Ⅰ、ⅠⅠⅠ

BASIC ブライト・ノア

名前：ブライト・ノア（BRIGHT　NOA）
出身地：地球
生年月日：UC0060・?・?
身体的特徴：身長／175㎝　体重／66㎏
頭髪／グリーン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・?→少尉→中尉（TV）、?→少尉→大尉（映画）
人物紹介：ホワイトベースの艦長。
UC0079、士官候補生としてホワイトベースに乗り込んでいたが、正規の軍人が次々と倒れる中、やむなく素人だらけの艦の指揮官となる。的確な状況判断で幾多の危機を乗り越えていくが、若さ故か、艦内の人間関係の調整は不得手。戦いの中、ミライを愛するようになる。
地球において少尉に任官後、ジャブローで中尉に任官する（TV）。
地球において少尉に任官後、ジャブローで大尉に任官する（映画）。
激務の中、過労で倒れたこともある（TV）。
ア・バオア・クー戦では、アムロの助けで、沈む艦より生存者全員を無事退艦させた。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅢⅠ

BASIC ミライ・ヤシマ

名前：ミライ・ヤシマ（　）
出身地：
生年月日：UC0061・?・?
身体的特徴：身長／163㎝　体重／55㎏
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人→地球連邦軍・少尉
人物紹介：ホワイトベースの操舵手。地球連邦政府元高官の令嬢。
UC0079、父親の死後に移住したサイド7で戦禍に巻き込まれ、ホワイトベースに逃げ込む。クルーザー級スペースグライダーのライセンスをもっていたため、操舵手に志願した。
ニュータイプと見紛うほどの勘の良さによる操艦で、ホワイトベースを危機から救う。ブライトから信用されており、度々意見を求められる。
クルーの纏いものをするなど家庭的な暖かさを感じさせる女性で、スレッガーいわく「ホワイトベースのおふくろさん」。
ブライトが倒れた時、慣れないながらも指揮官代理を果たした（TV）。
親の決めていた許嫁・カムランがいたが、彼女の心は別の男性へと傾きつつあった。
ジャブローにおいて正式に少尉に任官される。
ア・バオア・クー戦では、アムロの助けで、沈む艦より生存者全員を無事退艦させた。
登場話数：2～43話、映画Ⅰ～ⅢⅠ



BASIC セイラ・マス

名前：セイラ・マス（　）
出身地：サイド３
生年月日：ＵＣ００６２・？・？
身体的特徴：身長／１６５㎝　体重／５２㎏
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブルー　眼鏡／無
軍階級：民間人→地球連邦軍・軍曹（ＴＶ）、地球連邦軍・准尉→少尉（映画）
人物紹介：本名アルテシア・ソム・ダイクン。
ホワイトベースの通信担当、後にパイロット。。
ＵＣ００６２、父ジオン・ズム・ダイクンの長女として生まれる。
父が暗殺されたため、兄キャスバルと共にジンバ・ラルの手によって地球に逃れ、セイラ・マスの名で隠れ住む。
ＵＣ００７９、看護学生としてサイド７に住んでいたが、ジオン軍の襲撃によりホワイトベースに逃げ込み、以後通信担当のクルーとなる。
後に、無断でガンダムで出撃した経験を買われ、パイロットに転向。
Ｇファイターのパイロット（ＴＶ）。
コアブースター「００６」のパイロット（映画）。
ジャブローにおいて正式に軍曹に任官される（ＴＶ）。
ジャブローにおいて正式に准尉に任官される（映画）。
ジオン軍のシャアの正体が生き別れの兄・キャスバルであることから、戦場でのシャアとの遭遇が彼女の中に様々な葛藤を生む。
最後はアムロの誘導でア・バオア・クーより脱出し、ホワイトベースのクルーのもとに生還する。
登場話数：２～４３話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC カイ・シデン

名前：カイ・シデン（　）
出身地：
生年月日：UC0061・?・?
身体的特徴：身長／169cm　体重／56kg
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人→地球連邦軍・伍長（TV）、少尉（映画）
人物紹介：ガンキャノン（C－108）のメインパイロット。
サイド7に住む技術者の息子で、大型特殊車両の免許を保有していることから、ガンキャノンのパイロットとして戦うことになる。
始めの頃はアウトロー的な挙動が目立ったが、徐々に打ち解けてきた。
ジャブローにおいて正式に伍長として任官される（TV）。
ジャブローにおいて正式に少尉として任官される（映画）。
ジオンの女スパイ・ミハルとの交流から、自分なりの使命感に目覚める。
最後はア・バオア・クー戦を生き抜き、ホワイトベースの仲間とともに無事帰還した。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC ハヤト・コバヤシ

名前：ハヤト・コバヤシ（HAYATO　KOBAYASHI）
出身地：
生年月日：UC0064・?・?
身体的特徴：身長／150cm　体重／48kg
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人→地球連邦軍・伍長（TV）、地球連邦軍・曹長（映画）
人物紹介：ガンタンク、ガンキャノンのパイロット。
UC0079、サイド7でアムロの向かいに住んでいたが、ホワイトベースに逃げ込み、クルーとなった。
協調性はあるが、納得のいかないことに対しては反抗する（TV）。
ジャブローにおいて正式に伍長として任官される（TV）。
ジャブローにおいて正式に曹長として任官される（映画）。
アムロに対して密かに対抗心を燃やしていたが、及ばない自分に苛立ちを感じていた。そんな自分を気づかうフラウ・ボウに惹かれていく。
最後はア・バオア・クー戦を生き抜き、ホワイトベースの仲間とともに無事帰還した。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC リュウ・ホセイ

名前：リュウ・ホセイ（　）
出身地：
生年月日：UC0061・?・?
身体的特徴：身長／180cm　体重／85kg
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・曹長→中尉（TV）、曹長→大尉（映画）
人物紹介：ガンタンクのメインパイロットで、操縦担当。
ホワイトベース正規のクルーの中で唯一生き残ったパイロット候補生だったが、実戦経験は皆無に等しかった。
ブライトと反対におおらかな性格であり、人間関係についてよく相談を受けていた。
ランバ・ラル隊との白兵戦で負傷。ランバ・ラルの仇討ちに来たハモンのマゼラトップにコアファイターで体当たりし果てるが、彼の死により、クルーの結束が一層固まることとなる。
ジャブローで戦死者特進で中尉となる（TV）。
ジャブローで戦死者特進で大尉となる（TV）。
登場話数：2～21話、映画Ⅰ～Ⅱ

BASIC フラウ・ボゥ

名前：フラウ・ボゥ（　）
出身地：
生年月日：UC0064・?・?
身体的特徴：身長／160cm　体重／48kg
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラウン　眼鏡／無
軍階級：民間人→地球連邦軍・上等兵
人物紹介：ホワイトベースの通信担当、他。アムロのガールフレンド。
UC0079、サイド7で一人暮らしの多いアムロの世話を焼いていたが、ジオン軍の襲撃で家族を失い、ホワイトベースに逃げ込んだ。同じ境遇の3人の子供達を、お姉さん代わりとして面倒をみている。セイラがパイロットに転向後は、通信担当を一手に受け持つ。
身の回りのこともろくに出来なかったアムロが、戦士として、男として成長していくのを好ましく思う反面、ニュータイプへと覚醒していくことで自分と疎遠になっていく寂しさも感じていた。
ジャブローにおいて正式に上等兵として任官される。
ア・バオア・クー戦では、アムロの誘導で、ホワイトベースより無事に脱出した。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC ハロ

名前：ハロ
製造地：サイド7
製造年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
ボディカラー／うぐいす色　アイカラー／レッド
軍階級：ロボット
人物紹介：アムロがフラウにプレゼントした、手製のペットロボット。
球体のボディで転がって移動するが、収納された手足を使って階段の昇降も可能。簡単な会話が可能で、脳波レベル測定も可能。
ホワイトベース内ではもっぱらキッカのおもちゃになっていた。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC カツ

名前：カツ・ハウィン（　）
出身地：
生年月日：UC0071・?・?
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド7）
人物紹介：サイド7難民の3人の子供達の最年長で、おっとりとした性格の男の子。
フラウ・ボウを慕って、ホワイトベースに居ついてしまった。
年下の面倒みがいいなど大人びた面もあるが、「VIP」と「VSOP」とを勘違いして覚えているなど、まだまだ子供である（TV）。
ニュータイプの素養があり、ジャブローやア・バオア・クーでは大いに活躍した。
最後はホワイトベースのクルーとともに無事生還した。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅢⅠ

BASIC レツ

名前：レツ・コファン（　）
出身地：
生年月日：UC0073・?・?
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド7）
人物紹介：サイド7難民の3人の子供達の一人で、やんちゃ坊主。
フラウ・ボウを慕って、ホワイトベースに居ついてしまった。
歯が丈夫でロープもかみ切る。
ニュータイプの素養があり、ア・バオア・クーではアムロの脱出を誘導し、ホワイトベースのクルーとともに無事生還した。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅢⅠ

BASIC キッカ

名前：キッカ・キタモト（　）
出身地：
生年月日：UC0075・?・?
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブルー　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド7）
人物紹介：サイド7難民の3人の子供達の最年少で、元気な女の子。
フラウ・ボウを慕って、ホワイトベースに居ついてしまった。
感情表現が豊かな子で、ハロと仲良し。
ニュータイプの素養があり、ア・バオア・クーではアムロの脱出を誘導しする。最後はホワイトベースのクルーとともに無事生還した。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅢⅠ

BASIC マーカー

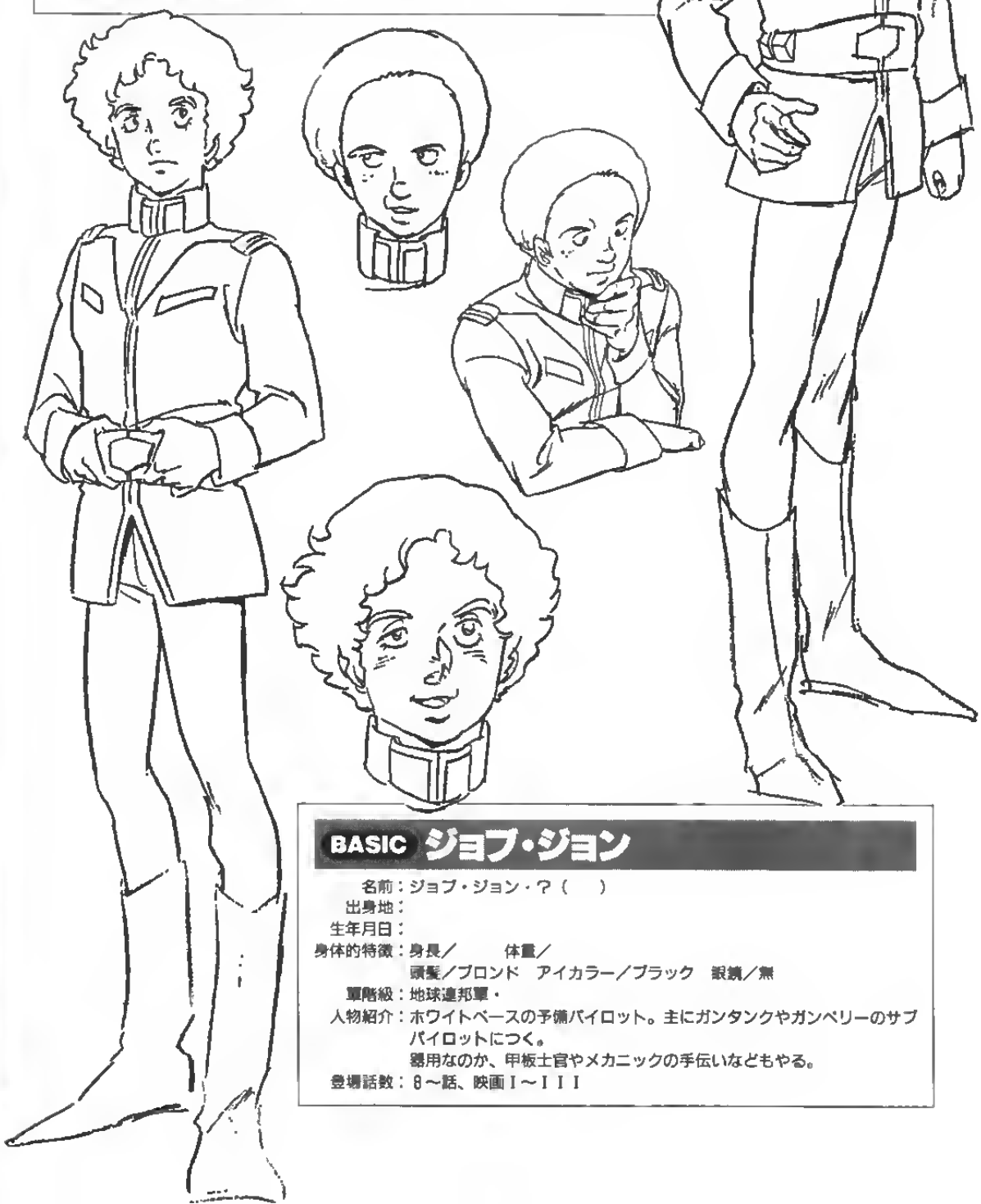
名前：マーカー・クラン（　）
出身地：
生年月日：UC００６２・？・？
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍
人物紹介：ホワイトベースの左舷側担当ブリッジオペレーター。
訓練生として乗り込んでいたが、サイド７で正規のオペレーター達が全員死亡してしまったため、任に着いた。
状況報告だけでなく、アドバイスを述べる時もある。
ア・バオア・クー戦では沈むホワイトベースから無事脱出した。
登場話数：２～４３話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC オスカ

名前：オスカ・ダブリン（　）
出身地：
生年月日：UC００６３・？・？
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／　眼鏡／有
軍階級：地球連邦軍
人物紹介：ホワイトベースの右舷側担当ブリッジオペレーター。
訓練生として乗り込んでいたが、サイド７で正規のオペレーター達が全員死亡してしまったため、任に着いた。主に索敵担当。
相棒のマーカーと対照的に、時々くだけた言葉での指示が出る（映画）。
ア・バオア・クー戦では沈むホワイトベースから無事脱出した。
登場話数：２～４３話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC オムル

名前：オムル・ハング（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
単階級：地球連邦軍
人物紹介：ホワイトベースのメカニックマン。
正規兵であり、メカニックマンの中心的な役割を果している。
ジオン軍のコズン少尉が脱走しエアロックに逃げ込んだ時には、バズーカを持ち出してドアを吹き飛ばそうとするなど、状況判断が素早い。
登場話数：7～話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

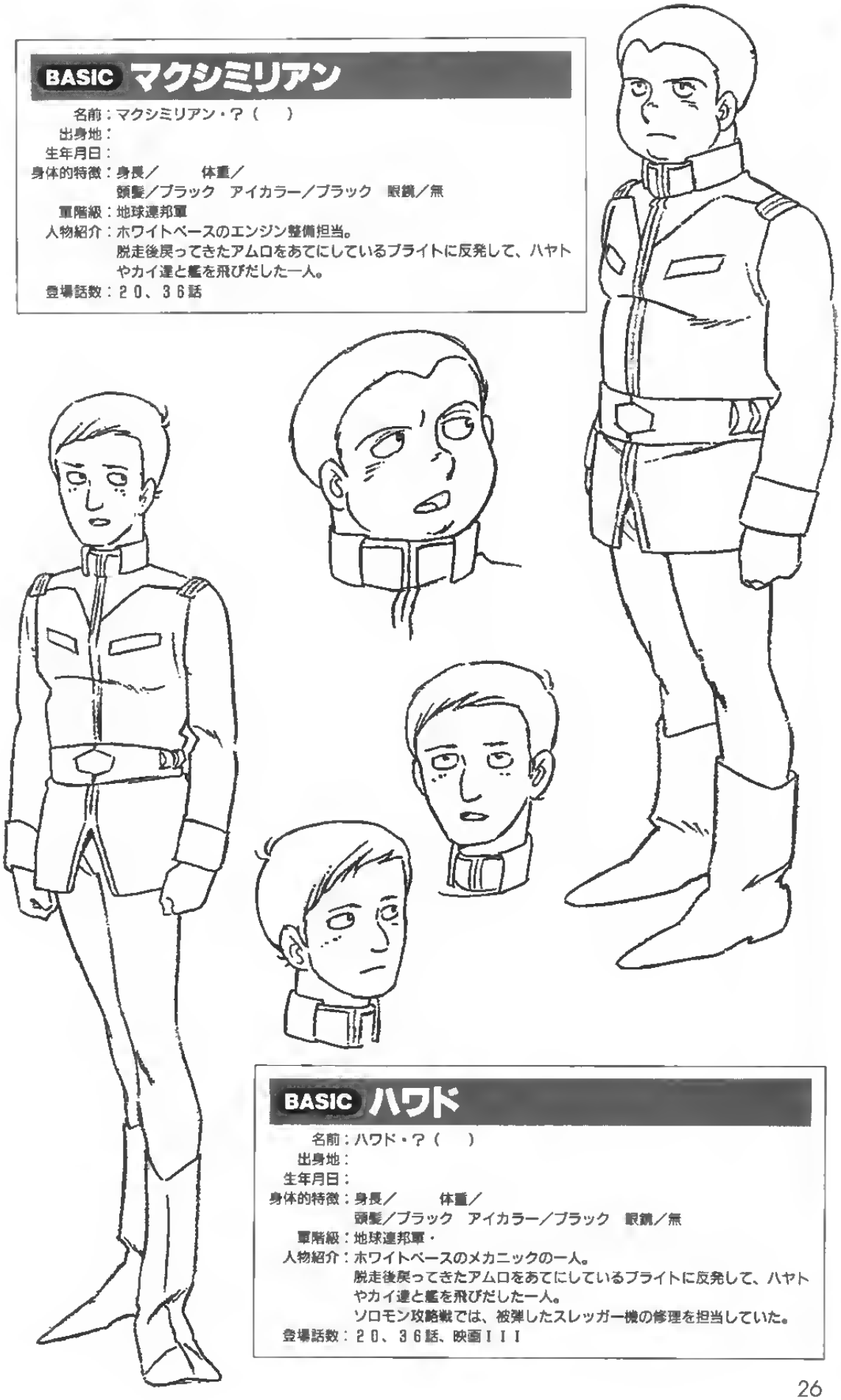


BASIC ジョブ・ジョン

名前：ジョブ・ジョン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
単階級：地球連邦軍・
人物紹介：ホワイトベースの予備パイロット。主にガンタンクやガンペリーのサブパイロットにつく。
器用なのか、甲板士官やメカニックの手伝いなどもやる。
登場話数：8～話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC マクシミリアン

名前：マクシミリアン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍
人物紹介：ホワイトベースのエンジン整備担当。
脱走後戻ってきたアムロをあてにしているブライトに反発して、ハヤトやカイ達と艦を飛びだした一人。
登場話数：２０、３６話

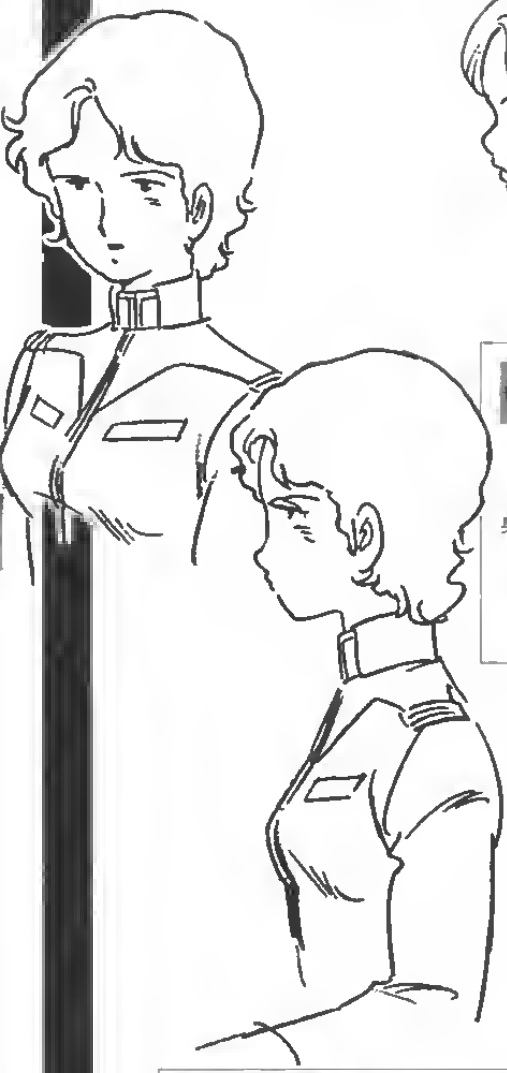


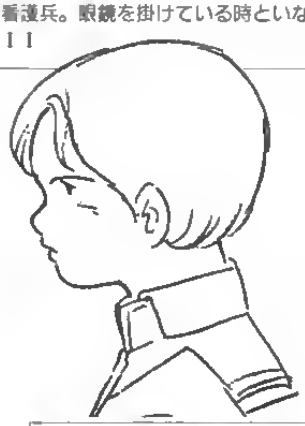
BASIC ハワド

名前：ハワド・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・
人物紹介：ホワイトベースのメカニックの一人。
脱走後戻ってきたアムロをあてにしているブライトに反発して、ハヤトやカイ達と艦を飛びだした一人。
ソロモン攻略戦では、被弾したスレッガー機の修理を担当していた。
登場話数：２０、３６話、映画ＩＩＩ

BASIC サンマロ

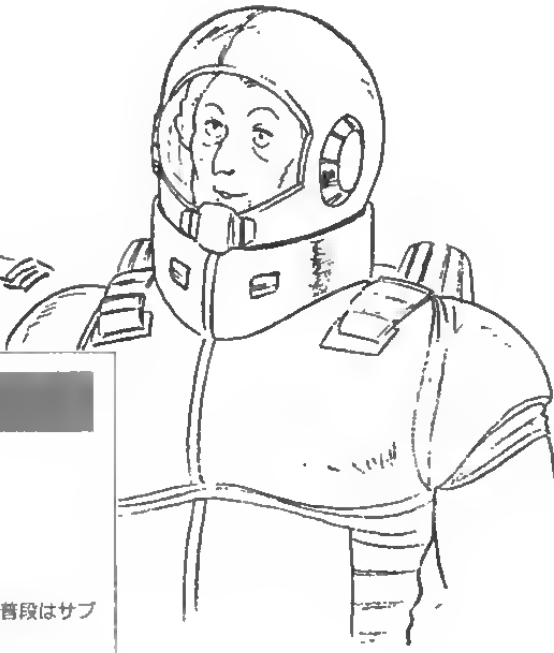
名前：サンマロ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／有／無
軍階級：地球連邦軍・
人物紹介：ホワイトベースの看護兵。眼鏡を掛けている時といない時がある。
登場話数：１６～話、映画ＩＩＩ





BASIC マサキ

名前：マサキ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・軍曹
人物紹介：ホワイトベースの看護兵。
登場話数：３５話、映画ＩＩＩ



BASIC バンマス曹長

名前：バンマス・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・曹長
人物紹介：ホワイトベースのクルーの一人。操舵手の交代要員として、普段はサブブリッジにいる。
登場話数：３６話、映画ＩＩＩ

BASIC スレッガー・ロウ

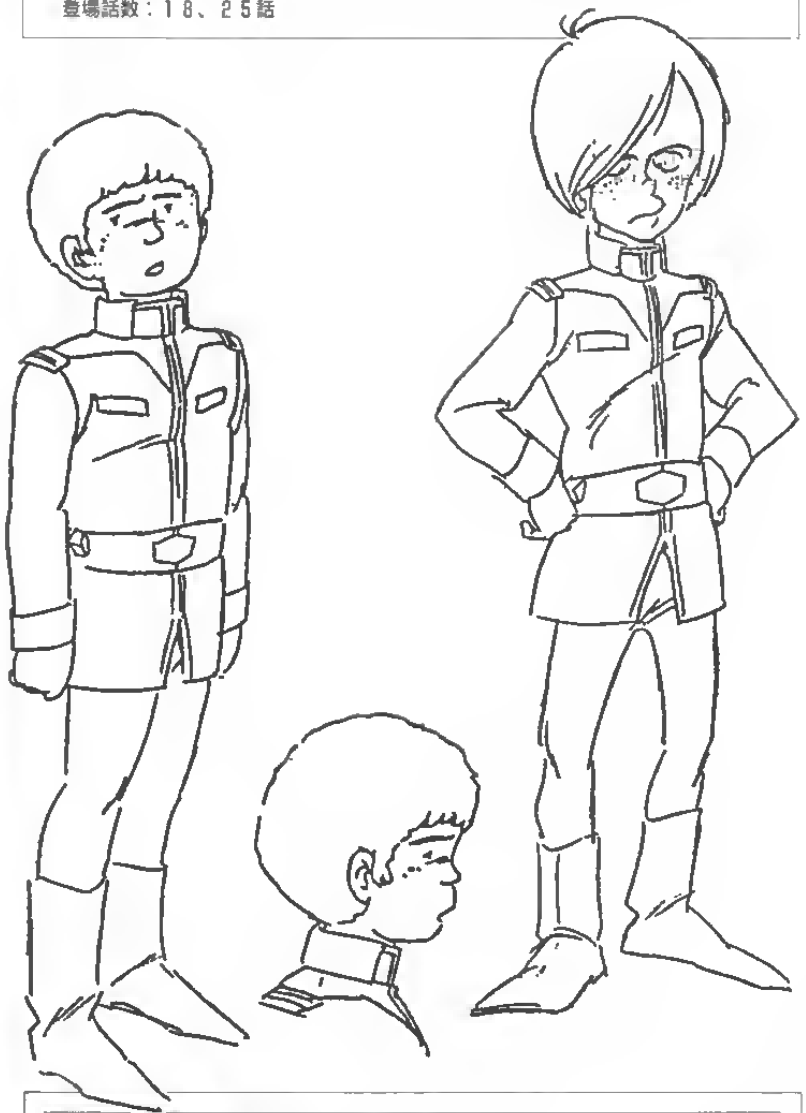
名前：スレッガー・ロウ（　　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・中尉
人物紹介：リュウの補充要員としてジャブローで配属されたパイロット。
Gファイターのパイロットだが、主砲の砲撃手も出来る（TV）。
コアブースター「００５」のパイロット（映画）。
潰れ曲がった鼻、着くずした軍服、青いパーソナルカラーのノーマルスーツ、と個性の強い男。
ソロモン攻略戦の最中ミライから想いを告白され、母親の形見の指輪を彼女に託して出撃。ビグ・ザムのビームバリアを突破して攻撃を掛けようとして失敗、最後の手段で特攻し、帰らぬ人となる。
登場話数：３１～３６話、映画ＩＩ～ＩＩＩ

BASIC タムラ中尉

名前：？・タムラ（　　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・中尉
人物紹介：ホワイトベースのコック長。食材の調達・管理も担当している。
登場話数：９・１６・３３話、映画ＩＩＩ

BASIC カル

名前：カル・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・
人物紹介：ホワイトベースのメカニックマンの一人。見た目は「小柄なカイ」。
いつもぶつぶつと文句をいいながら仕事をこなしている。
登場話数：１８、２５話



BASIC フムラウ

名前：
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・
人物紹介：脱走中のアムロについて、ジョブ・ジョンとカルと会話していた少年。
登場話数：１８話

BASIC サイド7駐留部隊の指令官

名前：
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・中佐
人物紹介：V作戦の実質的な責任者。サイド7の港ブロックにいたが、シャアのムサイからの初弾によって死亡。
登場話数：1話、映画Ⅰ

BASIC パオロ艦長

名前：パオロ・カシアス
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・中佐
人物紹介：ホワイトベースの初代艦長。サイド7を襲ったジオン軍を迎撃中にリュウをかばって負傷し、ルナツー入港後に艦を降りる。
ルナツー脱出の際の戦闘中、力尽きて亡くなる（TV）。
登場話数：1～4話、映画Ⅰ

BASIC ワッケイン司令

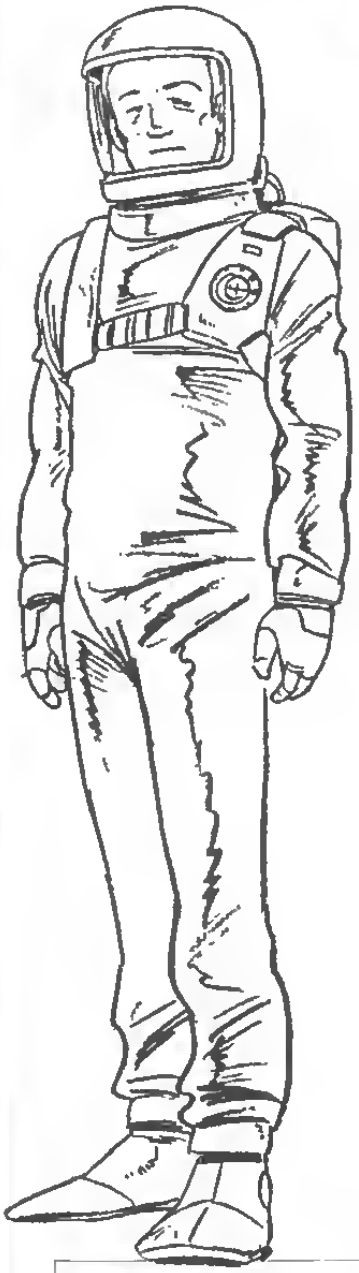
名前：ワッケイン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・少佐
人物紹介：ルナツーの司令官。戦争末期を「寒い時代」評した。
ホワイトベースのクルーを、軍事機密に触れたという罪状で拘留したが、バオロ艦長の取りなしで、ホワイトベースのジャブローへの回航をたくす。
ソロモン攻略戦ではマゼランに乗り先鋒隊の指揮をとった。
その後、テキサスコロニーにてシャアのザンジバルと交戦、撃沈される（以上、TV）。
ジャブローの命令により、入港したホワイトベースをそのまま地球に送りだした。ソロモン攻略戦ではマゼランに乗り先鋒隊の指揮をとった。
その後、ア・バオア・クー戦において撃沈された（以上、映画）。
登場話数：4、35～38話、映画Ⅰ、ⅠⅠⅠ

BASIC マチルダ中尉

名前：マチルダ・アジャン（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／レッド　アイカラー／ブラウン　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・中尉
人物紹介：ミデア輸送部隊・マチルダ隊の指揮官。ウッディ大尉の婚約者。
レビル将軍の直命でホワイトベースの補給とメンテナンスを行った。
ホワイトベースではファンが多く、記念写真を撮りたがる者も多い。
戦争という破壊行為の中で唯一生産に携わる「補給」という仕事にプライドを持っている。
オデッサ作戦直前、修理の完了したホワイトベースを守ろうとしてミデアでドムに攻撃をかけるが、コクピットごと潰され散っていった。
登場話数：９～２４話、映画Ⅰ～ⅠⅠ

BASIC レビル将軍

名前：レビル・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・大将
人物紹介：地球連邦軍の実質的な最高指揮官。葉巻を吸う。オデッサ作戦を指揮。
ルウム戦役ではジオン軍の「黒い三連星」に捕虜にされた経験がある。
ホワイトベースの戦果に興味を持ち、軍事機密に触れたにもかかわらず民間人をそのまま登用し支援をおこなうが、その裏には彼らを英雄に仕立て上げて厭戦気分をカバーするという計算がはたらいていた。
ア・バオア・クー戦を指揮するため宇宙に上がるが、ジオン公国のデギン公王との和平会談中、ソーラレイによって焼かれた。
登場話数：２３～４１話、映画ⅠⅠ～ⅠⅠⅠ



BASIC ウッディ大尉

名前：ウッディ・マルデン（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・大尉
人物紹介：ジャブローの宇宙船整備担当士官。マチルダ中尉の婚約者。
入港したホワイトベースのオーバーホールと宇宙用艤装の責任者。
ホワイトベースを守るためにホバークラフト・ファンファンで出撃し、
シャアのズゴックに挑んだが、コクピットごと潰され、散った。
登場話数：２９話、映画ＩＩ

BASIC セキ大佐

名前：セキ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・技術大佐
人物紹介：マチルダ隊が連れて来た技術士官。ホワイトベースおよび搭載機について熟知している。
温厚そうな人物だが、アムロを「サンプル」と表現するなど、シビアなものの見方をする（映画）。
オデッサ作戦直前にホワイトベースの修理のため乗り込む。以後ペルファストまで同乗していた模様。
登場話数：２４話、映画ＩＩ

BASIC シャア・アズナブル

名前：シャア・アズナブル（CHAR　AZNABLE）
出身地：サイド３
生年月日：ＵＣ００５９・？・？
身体的特徴：身長／175㎝ 体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブラック　眼鏡／アイマスク着用
軍階級：ジオン公国軍・少佐→大佐
人物紹介：本名キャスバル・レム・ダイクン。目元を隠すマスクを着けている。
ＵＣ００５９、父ジオン・ズム・ダイクンの長男として生まれる。
父が暗殺されたため、妹アルティシアと共にジンバ・ラルの手によって一度地球に逃れるが、ザビ家を父の仇と信じ、シャア・アズナブルの名前でサイド３の軍士官学校に入学、ザビ家末子ガルマに近づく。
ＵＣ００７９、華やかな戦果で少佐に昇進。乗機のカラーリングから「赤い彗星」と呼ばれ、自身も赤い軍服を着用するようになる。
ゲリラ掃討作戦より帰投中にホワイトベースを発見、サイド７にてガンダムと交戦、そのまま追撃の任務につく。
地球においてガルマを謀殺し復讐の第一歩を遂げるが、それは彼に虚しさをもたらしただけであった。
ガルマを守れなかったことにより軍を罷免されるが、キシリアの采配で大佐として復帰、マッドアングラー隊隊長としてホワイトベースを追う。
ガンダムのパイロット、アムロをライバルとして認識し興味をもつが、ララァ・スンを巡っての関係は、彼の心にも深い傷を残した。
ア・バオア・クー戦後、行方不明。
地球圏を離脱する戦艦の艦橋に彼の姿を見たという報告もある（映画）
登場話数：１～１２話、２６話～４３話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

BASIC ドレン

名前：ドレン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・少尉→大尉（TV）、中尉→大尉（映画）
人物紹介：シャアの副官。後に大尉に昇格しキャメル艦隊の司令となる。シャアのザビ家に対する企みを知っていながら協力していたフシがある。
シャアの要請で、宇宙に出たホワイトベースの頭を抑えるべく艦隊戦を仕掛けるが、逆にガンダムに艦隊を壊滅させられる。
登場話数：１～１１、３２話、映画Ⅰ、ⅠⅠⅠ

BASIC マリガン

名前：マリガン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・中尉
人物紹介：マッドアングラーに配属されたシャアの副官。
登場話数：２６～４１話、映画ⅠⅠ～ⅠⅠⅠ

BASIC デギン・ザビ

名前：デギン・ソド・ザビ（　）
出身地：
生年月日：UC0017・?・?
身体的特徴：身長/170cm 体重/
頭髪/　アイカラー/ブラック　眼鏡/有
軍階級：ジオン公国・公王
人物紹介：ジオン公国の創始者。ジオン・ダイクンの側近の一人であったが、彼を暗殺したが、死の床でジオン共和国2代目首相を指名されたと言われている。
コロニーの独立主権を唱えたジオンの主張を「宇宙移民者はエリートなので、地球に従う必要はない」とすり替え、連邦に対して独立戦争を仕掛けた。
実務は子供達に任せていたが、ガルマの死に全く動じないギレンに不信感を抱き、その暴走を止めようとレビル将軍に和平交渉を申し入れるが、ギレンによってソーラ・レイで焼かれた。
登場話数：10～41話、映画Ⅰ、ⅠⅠⅠ

BASIC ギレン・ザビ

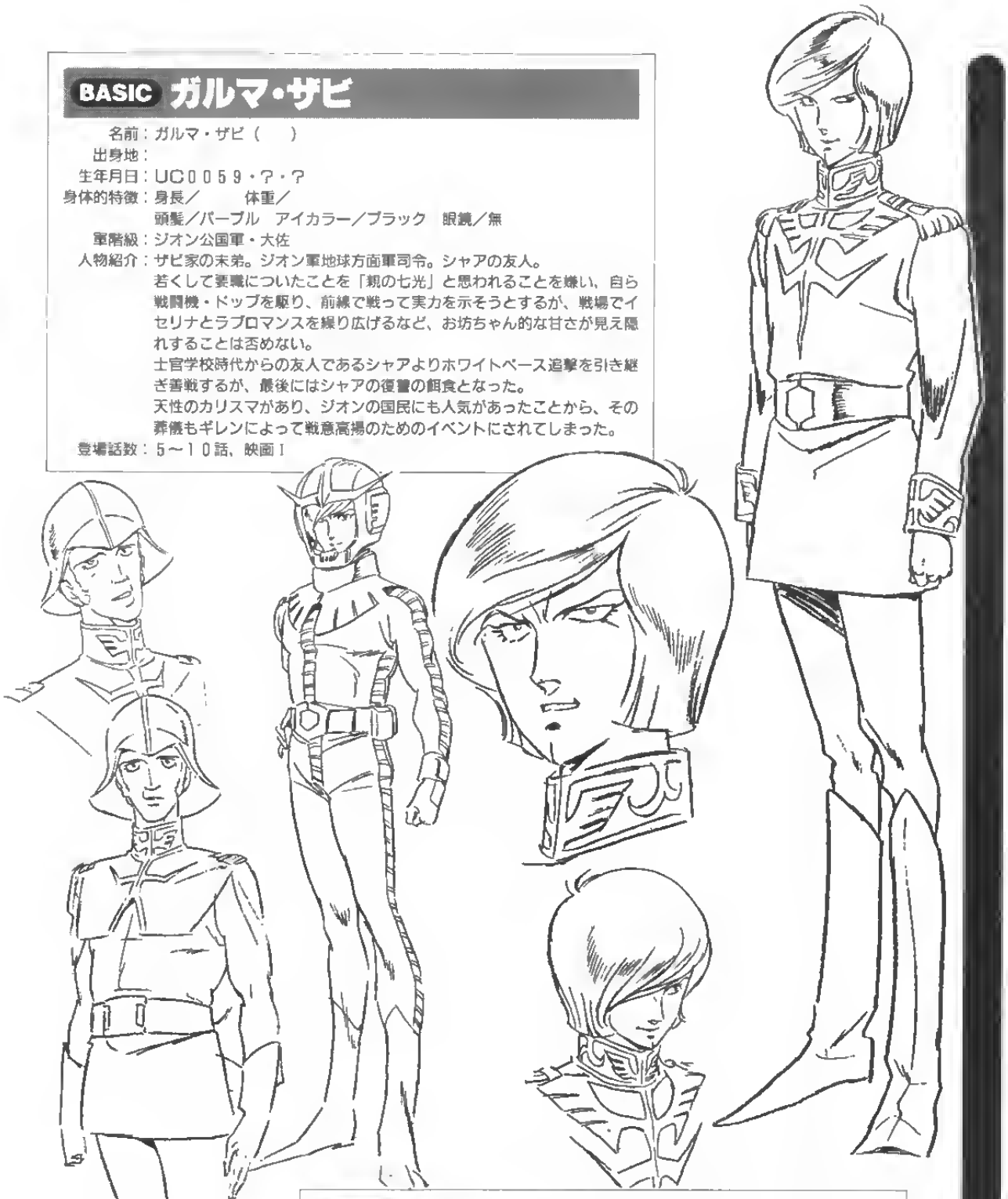
名前．ギレン・ザビ（　）
出身地：
生年月日：UC0044・?・?
身体的特徴：身長/190cm 体重/
頭髪/グレー　アイカラー/ブラック　眼鏡/無
軍階級：ジオン公国軍・大将
人物紹介：ザビ家長男。ジオン公国軍総帥。実質的な公国の指導者。
野心家であり、目的のためには手段を選ばない。弟の葬儀すら戦意高揚のために利用する。
一種の選民思想の持ち主で、デギンいわく「ヒットラーの尻尾」（映画）
ソーラ・レイの射線上に父・デギンがいることを知りながら発射を指示。
だが、その報いとして妹・キシリアに眉間を撃ち抜かれることとなる。
登場話数：12～42話、映画Ⅰ、ⅠⅠⅠ

BASIC キシリア・ザビ

名前：キシリア・ザビ（　　）
出身地：
生年月日：UC0055より5才以上前・？・？（年齢を引き上げる）
身体的特徴：身長／173cm 体重／
頭髪／レッド　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・少将
人物紹介：ザビ家の長女。ジオン軍突撃機動軍司令。ガルマの直接の上司でもある。ドズルが罷免したシャアを拾うなど合理主義者であり、フラナガン機関を支援したりする先見の明もある。体面を重んじる軍人よりは政治家に近いタイプ。
ア・バオア・クー戦では父・デギン謀殺の容疑で実兄・ギレンを殺害。ジオン不利と見るや戦艦・ザンジバルで脱出を図るが、信じていたはずのシャアによって、バズーカで狙撃され死亡。
登場話数：12～43話、映画Ⅰ、ⅠⅠⅠ

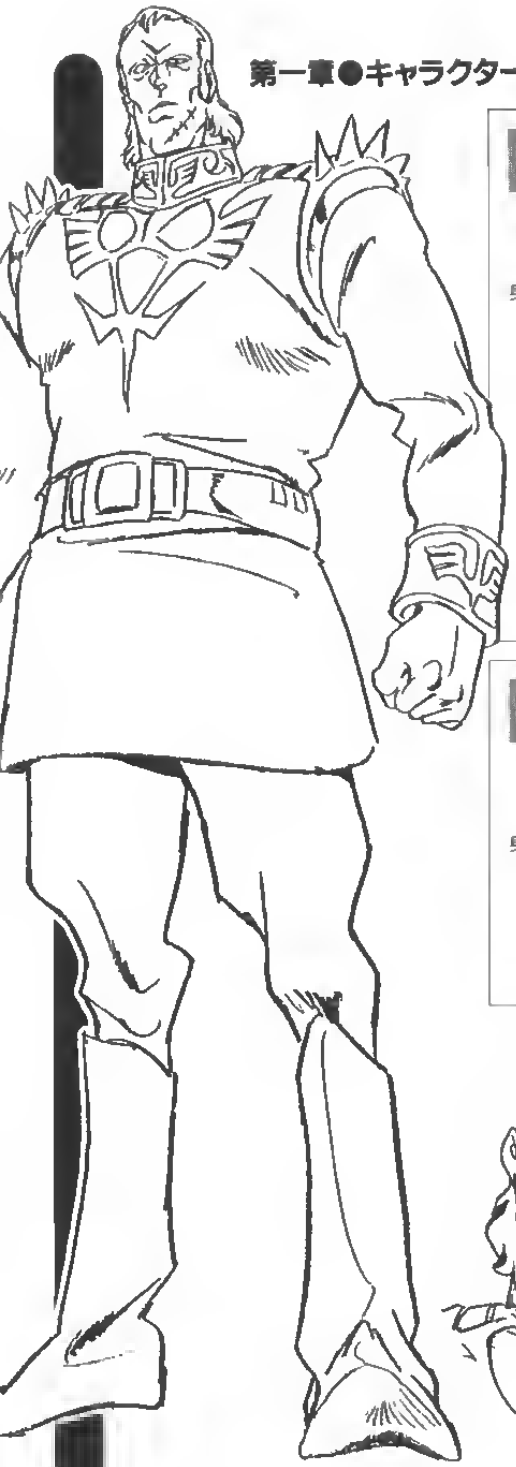
BASIC ガルマ・ザビ

名前：ガルマ・ザビ（　）
出身地：
生年月日：UC0059・？・？
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／パープル　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・大佐
人物紹介：ザビ家の末弟。ジオン軍地球方面軍司令。シャアの友人。
若くして要職についたことを「親の七光」と思われることを嫌い、自ら戦闘機・ドップを駆り、前線で戦って実力を示そうとするが、戦場でイセリナとラブロマンスを繰り広げるなど、お坊ちゃん的な甘さが見え隠れすることは否めない。
士官学校時代からの友人であるシャアよりホワイトベース追撃を引き継ぎ善戦するが、最後にはシャアの復讐の餌食となった。
天性のカリスマがあり、ジオンの国民にも人気があったことから、その葬儀もギレンによって戦意高揚のためのイベントにされてしまった。
登場話数：5～10話、映画Ⅰ



BASIC ダロタ中尉

名前：ダロタ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブルー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・中尉
人物紹介：ガルマの部下。イセリナに協力し、ガウ攻撃空母でホワイトベースに仇討ち戦を仕掛けたが、ガウの墜落に巻き込まれて死亡。
登場話数：11話



BASIC ドズル・ザビ

名前：ドズル・ザビ（　）
出身地：
生年月日：UC0051・?・?
身体的特徴：身長／210cm 体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・中将
人物紹介：ザビ家の三男。ジオン軍宇宙攻撃軍司令。顔中傷だらけの巨漢。
ギレンやキシリアと違い、常に兵達を気遣う愚直な武人タイプで、多くの部下に慕われている。また、家族を非常に大事にしている。ガルマの仇討ち部隊としてランバ・ラル隊を派遣したのも彼である。
ソロモン攻略戦では、形勢不利とみるや兵達にソロモン脱出を指示、自らはビグザムに乗り込み、連邦軍の主力へ特攻をかける。
スレッガーの特攻によりビグザムを行動不能にされるが、軍人としての愚かしいまでのプライドからマシンガン一丁でガンダムと対峙するも、ビグザムの爆発に巻き込まれ果てた。
登場話数：2～36話、映画Ⅰ、ⅠⅠⅠ

BASIC ゼナ

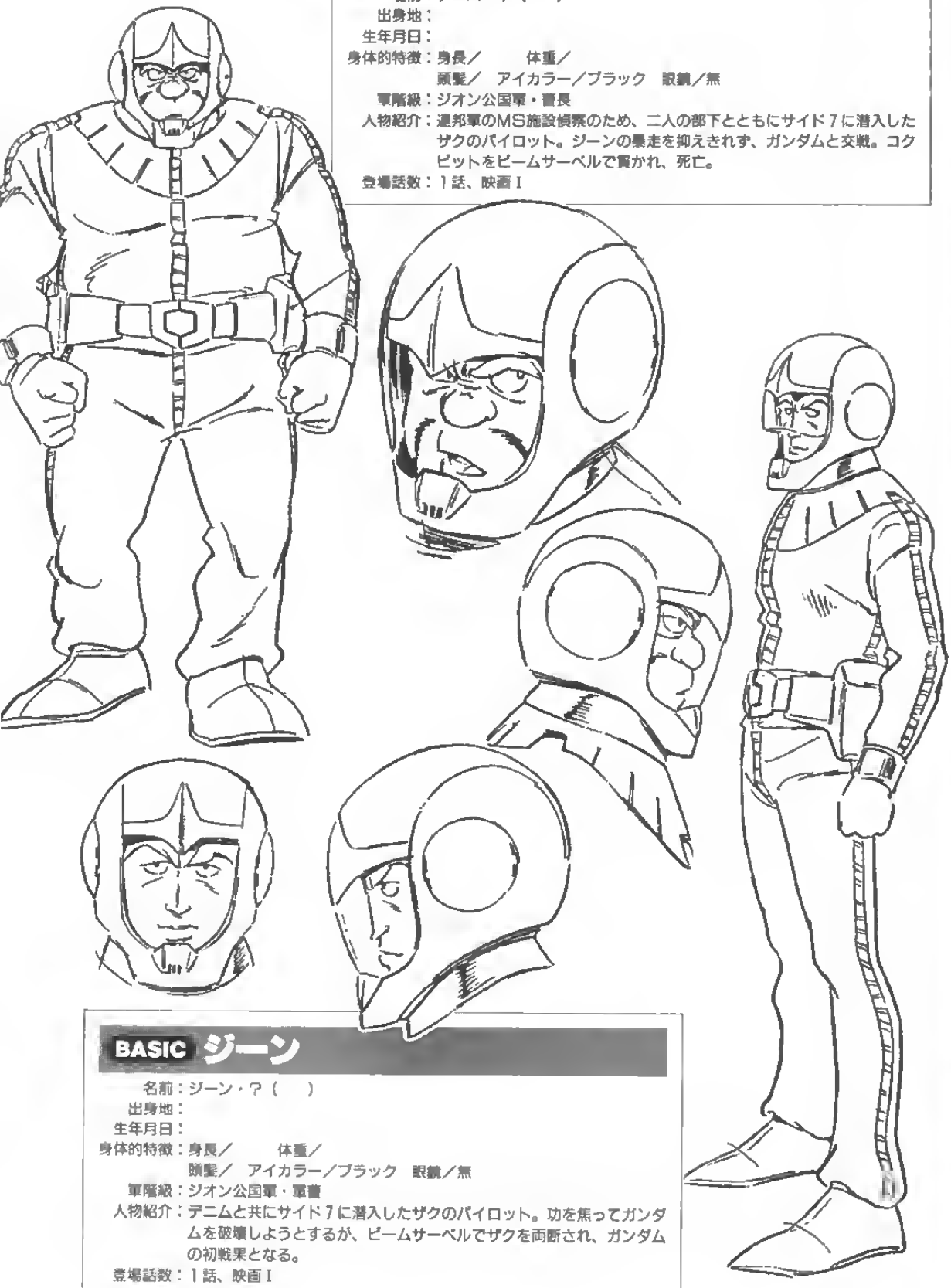
名前：ゼナ・ザビ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／グリーン　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：ドズルの妻。ミネバの母親。ドズルの手により、ミネバと数人の女官達とでソロモンより脱出。マ・クベの艦隊に救助される。
登場話数：35～36話、映画ⅠⅠⅠ

BASIC ミネバ

名前：ミネバ・ラオ・ザビ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：ドズルの長女。
登場話数：35～36話、映画ⅠⅠⅠ

BASIC デニム

名前：デニム・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・曹長
人物紹介：連邦軍のMS施設偵察のため、二人の部下とともにサイド７に潜入したザクのパイロット。ジーンの暴走を抑えきれず、ガンダムと交戦。コクピットをビームサーベルで貫かれ、死亡。
登場話数：１話、映画Ⅰ



BASIC ジーン

名前：ジーン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・軍曹
人物紹介：デニムと共にサイド７に潜入したザクのパイロット。功を焦ってガンダムを破壊しようとするが、ビームサーベルでザクを両断され、ガンダムの初戦果となる。
登場話数：１話、映画Ⅰ

BASIC スレンダー

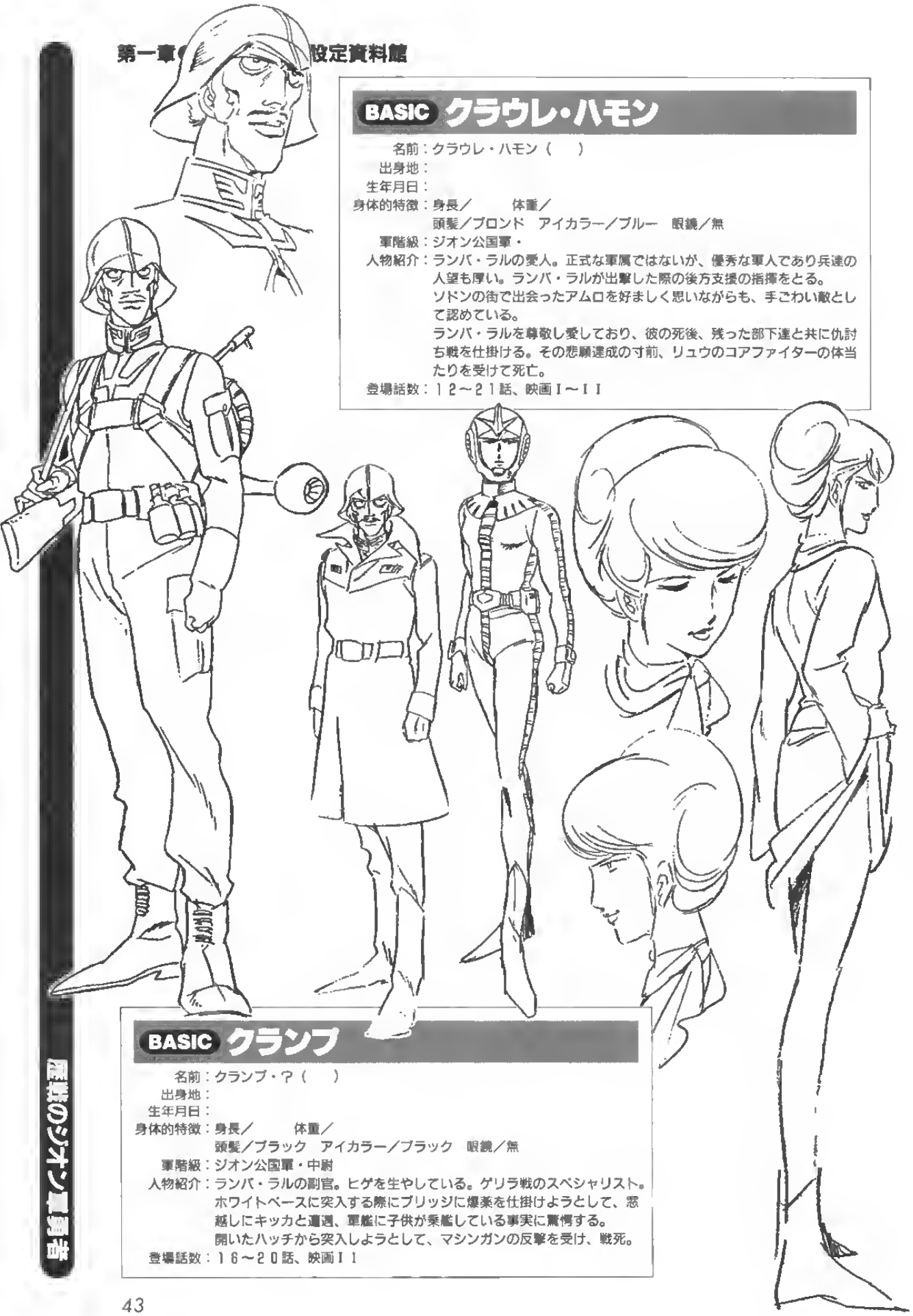
名前：スレンダー・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・軍曹
人物紹介：デニムと共にサイド７に潜入したザクのパイロット。命令を忠実に守り偵察任務を完遂し脱出した。シャアと共に再度生身でサイド７に潜入後射出されたザクに乗り込みガンダムと対決したが、ビームライフルで撃破された。
登場話数：１～２話、映画Ⅰ

BASIC ガデム

名前：ガデム・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／サンド　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：補給艦バブアの艦長。サイド７のシャアの補給に駆けつける。艦を沈められ、旧ザクでガンダムに挑むが破れる（TV）。
登場話数：３話、映画Ⅰ

BASIC ランバ・ラル

名前：ランバ・ラル（　　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・大尉
人物紹介：ガルマの仇討ち部隊の隊長。ゲリラ戦のスペシャリスト。ジオン・ダイクンの側近であったジンバ・ラルの息子であり、幼少の頃のセイラと面識がある。
どんな逆境にも負けず、ひたすら任務遂行の方法を模索する軍人。自らグフを駆って前線に赴き、部下からの人望も厚い。
アムロに対するシャアを「永遠のライバル」と定義するならば、彼はアムロの「乗り越えなければならない壁」だったといえる。
グフを失い、ホワイトベースに白兵戦を仕掛けるが、艦内でセイラと遭遇した油断から重傷を負い、アムロの目前で爆弾による自決を図った。
登場話数：１２～２０話、映画Ⅰ～Ⅱ



BASIC クラウレ・ハモン

名前：クラウレ・ハモン（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブルー　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：ランバ・ラルの愛人。正式な軍属ではないが、優秀な軍人であり兵達の人望も厚い。ランバ・ラルが出撃した際の後方支援の指揮をとる。
ソドンの街で出会ったアムロを好ましく思いながらも、手ごわい敵として認めている。
ランバ・ラルを尊敬し愛しており、彼の死後、残った部下達と共に仇討ち戦を仕掛ける。その悲願達成の寸前、リュウのコアファイターの体当たりを受けて死亡。
登場話数：１２～２１話、映画Ⅰ～ⅠⅠ

BASIC クランプ

名前：クランプ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・中尉
人物紹介：ランバ・ラルの副官。ヒゲを生やしている。ゲリラ戦のスペシャリスト。
ホワイトベースに突入する際にブリッジに爆薬を仕掛けようとして、悪越しにキッカと遭遇、軍艦に子供が乗艦している事実に驚愕する。
開いたハッチから突入しようとして、マシンガンの反撃を受け、戦死。
登場話数：１６～２０話、映画ⅠⅠ

BASIC タチ中尉

名前：タチ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・中尉
人物紹介：ランバ・ラルの部下。ラル亡き後、ハモンを補佐して仇討ち戦を仕掛けた。ザクに乗り込み、カーゴを支えるガンダムを背後から倒そうとしたが、投げ飛ばされ、マゼラトップに激突して爆死した。
登場話数：２１話、映画ＩＩ

BASIC コズン少尉

名前：コズン・グラハム（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・少尉
人物紹介：ランバ・ラル隊のザクのパイロット。セイラの乗るガンダムを捕獲しようとして失敗し、ホワイトベースの捕虜になる。
隠し持っていた爆薬で牢を破って脱走。本隊にホワイトベースの戦力についての情報を送信後、パーソナルジェットで脱出しようとするが、バズーカの爆風に吹き飛ばされ、墜落死した。
登場話数：１２、１６～１７話、映画ＩＩ

BASIC アコース

名前：アコース・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：ランバ・ラル隊のザクのパイロット。コズンとのペアでグフの援護に付く。最後はアムロの乗るガンキャノンにやられる。
登場話数：１２、１６話、映画Ⅰ～ⅠⅠ

BASIC ゼイガン

名前：ゼイガン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：ランバ・ラル隊の一人で偵察が主任務。ソドンの街よりフラウ・ボゥを尾行し、ホワイトベースの居場所を突き止めた。
仇討ち戦の前にホワイトベースの状況を偵察してきた（TV）。
登場話数：１９、２１話、映画ⅠⅠ

BASIC ガイア

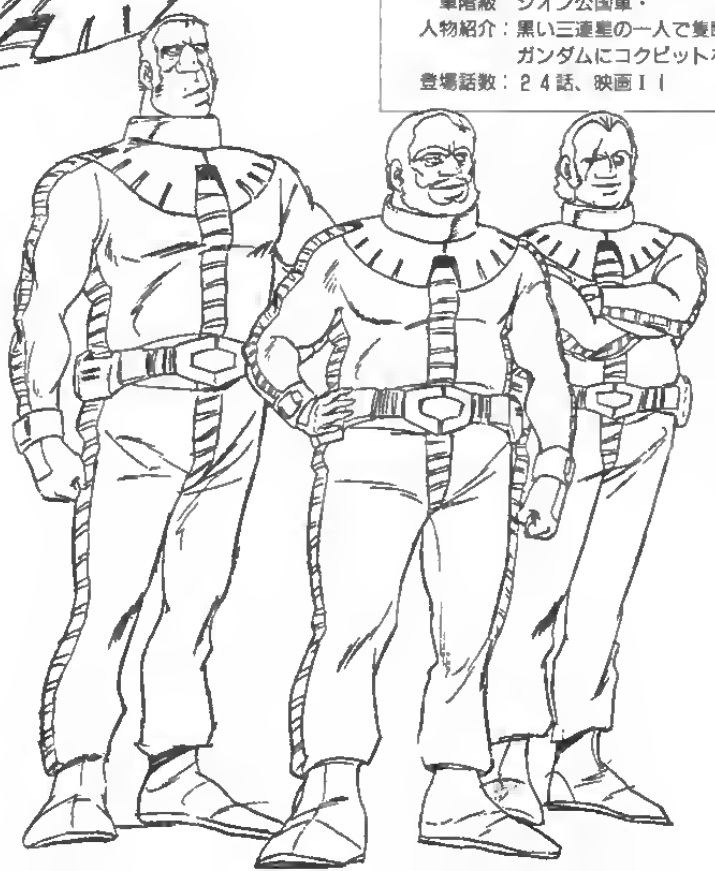
名前：ガイア・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／サンド　アイカラー／ブラック　眼鏡／黒
軍階級：ジオン公国軍・大尉（映画）
人物紹介：黒い三連星のリーダー。猛者だが、戦友の死を悼んで弔砲を撃つ一面もある。ガンダムとの第１戦では、２回目に仕掛けたジェットストリームアタックでドムを踏み台にされる。
善戦むなしく、ガンダムにコクピットをくし刺しにされて戦死した。
登場話数：２４～２５話、映画ＩＩ

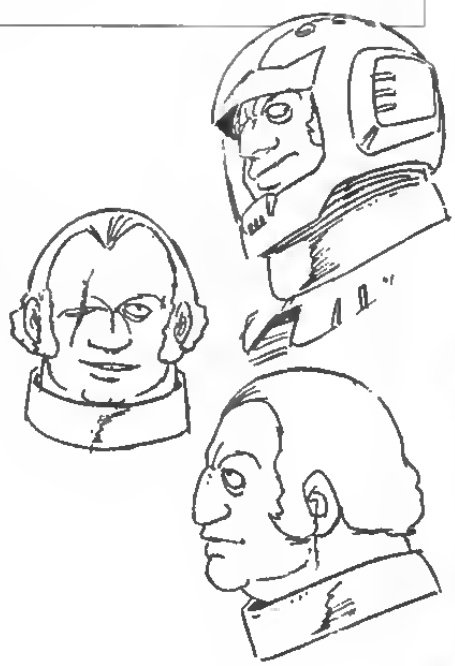
BASIC オルテガ

名前：オルテガ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：黒い三連星の一人。ジェットストリームアタックの最後尾に位置する。
Ｇスカイイージーに乗ったガンダムにドムを切り裂かれて戦死（ＴＶ）。
コアブースターのビームに撃ち抜かれて爆死（映画）。
登場話数：２４～２５話、映画ＩＩ

BASIC マッシュ

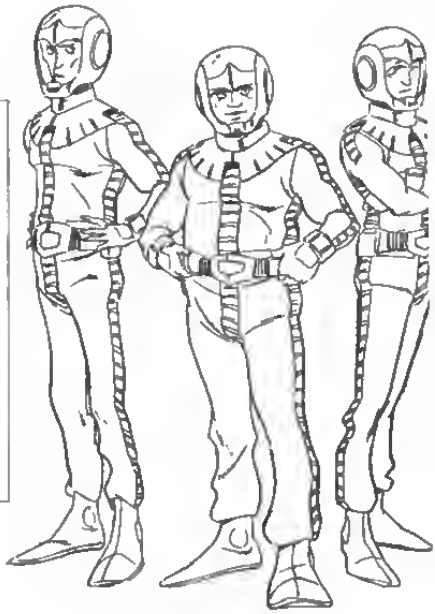
名前：マッシュ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／　眼鏡／黒
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：黒い三連星の一人で隻眼の戦士。ジェットストリームアタックの最中にガンダムにコクピットを貫かれる。
登場話数：２４話、映画ＩＩ





BASIC クワラン

名前：クワラン・？（　）
出身地：サイド３
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・曹長
人物紹介：パトロール部隊の兵士。コロニーに戻りたいがために、ガンダムを倒せば帰れる、という了承を部隊長から取り付けた。仲間を募り、小型ヘリ・ワッパでガンダムに時限爆弾を仕掛けるも、アムロにすべて解除されてしまう。解除したアムロの顔を見ようと、青年団に化けて通り過ぎた。
登場話数：１４話



BASIC ギャル

名前：ギャル・？（　）
出身地：サイド３
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・軍曹
人物紹介：クワランと同じパトロール部隊の兵で、隊唯一のザクのパイロット。ガンダムをおびき出す囮となる。
登場話数：１４話

BASIC ソル

名前．ソル・？（　）
出身地：サイド３
生年月日：
身体的特徴．身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・軍曹
人物紹介：クワランと同じパトロール部隊の通信兵。ガンダムに関する情報を入手し、クワラン達の作戦に参加する。
登場話数：１４話

BASIC マ・クベ

名前：マ・クベ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／パープル　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・大佐
人物紹介：キシリアの部下で専用の白い軍服を着ている。陶磁器蒐集が趣味。
連邦軍のオデッサ作戦で撤退するまでは、地球上の鉱物資源の採掘が任務であり、その採掘量はジオン軍があと１０年は戦争を継続できる程の量であったという。
策士のタイプであるが、駆け引きの道具として「核兵器」を持ち出すことさえも厭わず、またその使用にためらうこともない（TV）。
宇宙に戻った後は、ソロモン救援艦隊を指揮し、ゼナを救出した。
テキサスコロニーではギャンでガンダムに挑むが、破れさる（TV）。
登場話数：１６～３７話、映画ＩＩ～ＩＩＩ

BASIC ウラガン中尉

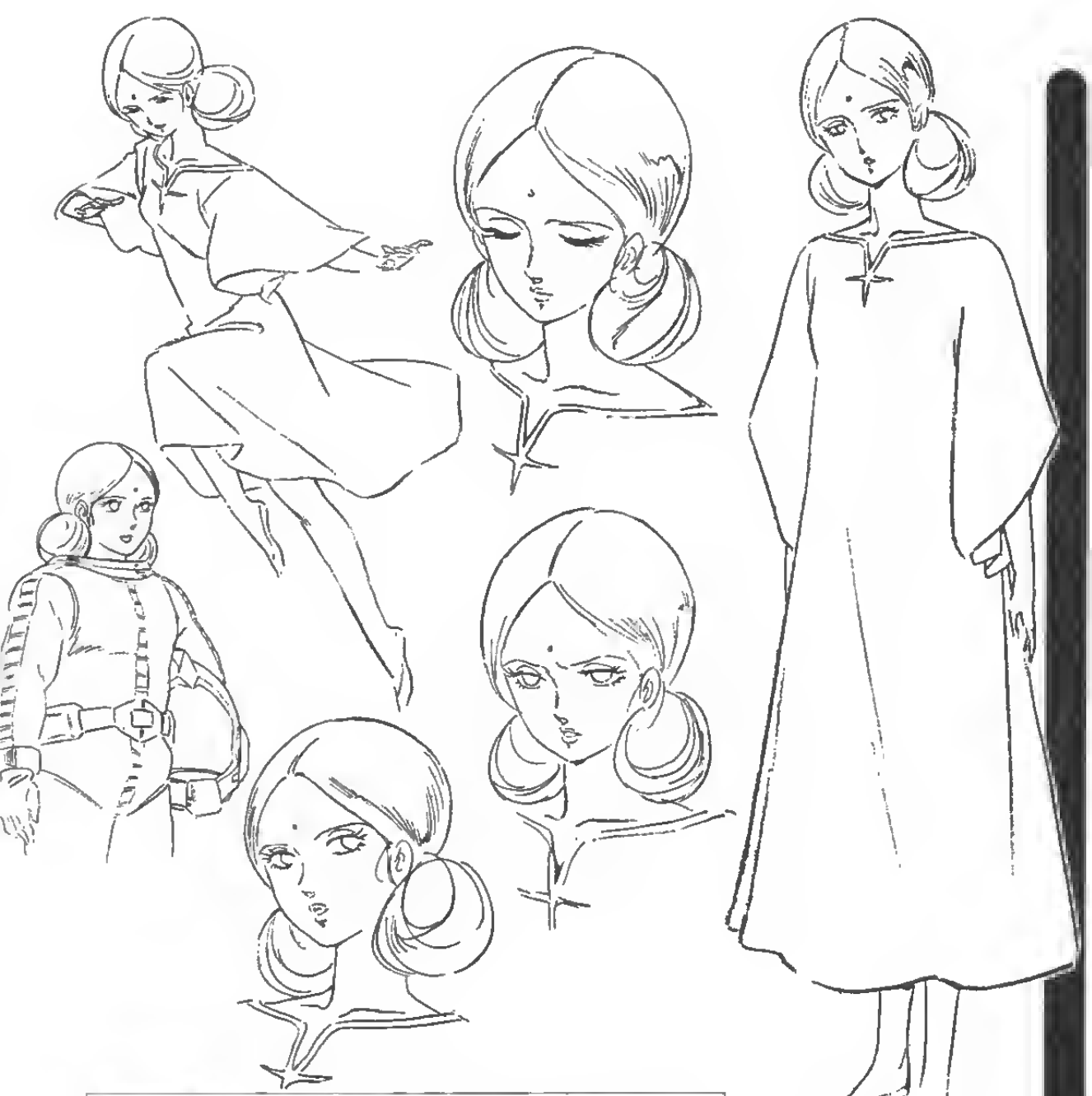
名前：ウラガン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・中尉
人物紹介：マ・クベ付きの士官で、ランバ・ラルとの連絡係などを務めた。
テキサスコロニーで戦艦・チベを撃沈され戦死（TV）。
登場話数：１６～２５、３７～３８話、映画ＩＩ

BASIC エルラン中将

名前：エルラン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・中将
人物紹介：レビル将軍のもとでオデッサ作戦の指揮を補佐していた将軍の一人。
ジオンと内通しており、オデッサ作戦発動と同時に裏切るはずであったが、伝令役のジュダックを偶然尾行したアムロを射殺しようとしてその事実を明かしてしまい、ビッグトレーの士官に逮捕される（TV）。
ホワイトベースの戦闘能力を疑っており、レビルの過大な支援を疑問視していた（映画）。
登場話数：２３～２５話、映画ＩＩ

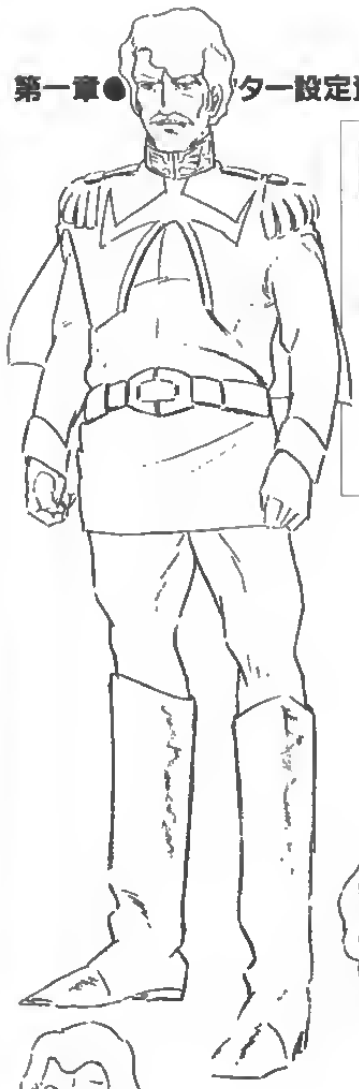
BASIC ジュダック

名前：ジュダック・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・
人物紹介：エルラン中将の部下で、ジオン軍との連絡係を受け持っていたが、連邦とジオンの二股を掛けたダブルスパイと思われるフシもある。
マ・クベのダブデから飛び立つところをアムロ達に発見されてしまい、ビッグトレーまで尾行されてしまう（TV）。
エルラン中将付きの士官としてビッグトレーにいた（映画）。
登場話数：２２～２５話、映画ＩＩ



BASIC ララァ・スン

名前：ララァ・スン（LARAR　SOWN）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／グリーン　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・少尉
人物紹介：戦災孤児だったところをシャアに拾われ、フラナガン機関に育てられたニュータイプの少女。エルメスのパイロット。卓越したニュータイプ能力により、エルメス搭乗時はベテランパイロットをも凌ぐ力を発揮する。シャアに対して恩義とも愛情ともつかない感情を抱いていたが、サイド6でアムロと出会ったことで、彼女の運命が動き始める。
同じ力を持つもの同士としてアムロに惹かれる一方、シャアに対する感情が常にブレーキとなっていた。そして彼女の出した結論は、シャアの危機に際して、その身を挺して庇うことであった。
その結果は、アムロにもシャアにも深い悲しみとして刻まれることとなった。
登場話数：３４～４１話、映画ＩＩＩ



BASIC シャリア・ブル

名前：シャリア・ブル（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・大尉
人物紹介：木星船団の長。ブラウ・ブロのパイロット。潜在的なニュータイプ能力を見込まれ、ギレンからキシリアのもとへ派遣された。ブラウ・ブロでガンダムに挑むが破れる。
登場話数：３９話

BASIC フラナガン博士(映画)

名前：フラナガン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド６）
人物紹介：ニュータイプの研究をしている。サイド６のフラナガン機関の責任者。やや小太りのユダヤ系。
登場話数：映画ＩＩＩ

BASIC フラナガン博士(TV)

名前：フラナガン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ホワイト　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド６）
人物紹介：ニュータイプの研究をしている。サイド６のフラナガン機関の責任者。揉み上げから連なる髭が特徴。やせ型。
登場話数：３７話

BASIC コンスコン

名前：コンスコン・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブルー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・少将
人物紹介：シャアの無能さを証明すべく、ドズルが派遣したチベ艦隊の司令官。３分も経たないうちに１２機のリック・ドムを全滅させられたり、サイド６の領空内で狙い撃ちされたりと散々な目にあった末、ガンダムにチベを沈められた。
登場話数：３３～３４話、映画ＩＩＩ

BASIC シムス中尉

名前：シムス・アル・バハロフ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／有
軍階級：ジオン公国軍・中尉
人物紹介：ブラウ・ブロの調整を担当していた技術士官。シャリア・ブルと出撃したが、戦死した。
登場話数：３３、３９話

BASIC ブーン艦長

名前：フラナガン・ブーン（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：潜水艦・ユーコンの艦長。漁業組合員に化けてホワイトベースに潜入したこともある。部下達の敵討ちのため、MAグラブロで出撃する。
ガンダムのビームサーベルに貫かれ、戦死（TV）。
ガンペリーのミサイルにやられ、爆死（映画）。
登場話数：２６～２８話、映画ＩＩ

BASIC コノリー

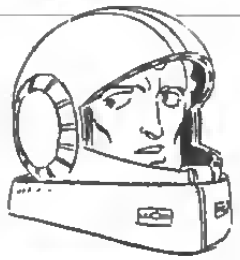
名前：コノリー・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・
人物紹介：ブーンの副官。ズゴックの襲撃に乗じてベルファストに上陸し、ミハルに金と連邦の制服とブーンからの指示書を渡した。
登場話数：２７話、映画ＩＩ

BASIC キャリオカ

名前：キャリオカ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：ジオン公国軍・軍曹
人物紹介：ホワイトベースに潜入したミハルと接触するために、ブーンとともにベルデ諸島の漁業組合の人間を装って乗船。ジオン訛りが強い。
登場話数：２８話、映画ＩＩ

BASIC リード中尉

名前：リード・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・中尉
人物紹介：ルナツー艦隊のサラミス艦長。ワッケインの命令で、ホワイトベースをジャブローに届けるために随行していたが、サラミスの突入カプセルに被弾し、左腕を負傷する。
ブライトより位が上のためホワイトベースの艦長席に座るが、彼よりも素人のクルー達の方が有能であった。
サラミスの他の乗組員達と共に、補給に訪れたマチルダ隊に引き取られていった。
登場話数：5～9話、映画Ⅰ



BASIC カミラ

名前：カミラ・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラック　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：地球連邦軍・少尉
人物紹介：リード中尉のサラミスの乗組員。物事を良い方へと考えることが現在の自己を形成していると信じている。
登場話数：5話

BASIC スミス老人

名前：スミス・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／　アイカラー／　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド7）
人物紹介：サイド7の避難民。南米に住んでいたことがある。ペロという孫がいる。
登場話数：5話、映画Ⅰ

BASIC ペロ

名前：
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブルー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド7）
人物紹介：サイド7の避難民。スミスの孫。
アムロにラジコンを修理してもらった（TV）。
登場話数：5話、映画Ⅰ

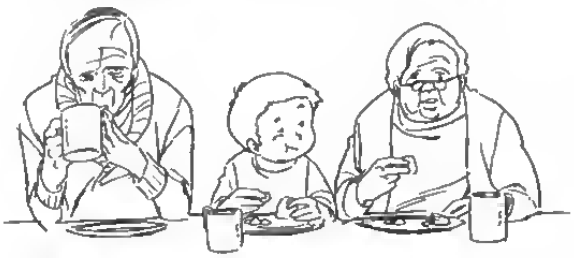
BASIC ベルシア

名前：
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ダークブラウン　アイカラー／ブルー　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド７）
人物紹介：サイド７の避難民。息子のコーリーと共に亡き夫の故郷・セントアンジェへと向かうが、そこは荒野と化していた。
登場話数：８話

BASIC コーリー

名前：コーリー・？（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド７）
人物紹介：夫の故郷・セントアンジェを目指すベルシアの息子。
登場話数：８話

※その他多数のサイド７からの難民たち。
軍属が集まっていたはずだが、みんな我がままだった。



BASIC イセリナ

名前：イセリナ・エッシェンバッハ（　）
出身地：地球
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブロンド　アイカラー／グリーン　眼鏡／無
軍階級：民間人（地球）
人物紹介：元ニューヤーク市長の父の反対を押し切り、ガルマ・ザビと恋仲に落ちた。
ガルマがホワイトベースに倒されたと知ると、仇を討つためにガウ攻撃空母に乗り込むが、アムロに銃を突きつけたところで命尽きた（TV）。
登場話数：10～11話、映画Ⅰ

BASIC エッシェンバッハ市長

名前：？・エッシェンバッハ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（地球）
人物紹介：元ニューヤークの市長で、イセリナの父。立場上ジオン軍と接触があるが、反ジオン感情が強く、ガルマとイセリナの仲を認めようとしなかった。
登場話数：10話、映画Ⅰ

BASIC カムラン

名前：カムラン・ブルーム（　　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／黒　眼鏡／有
軍階級：民間人（サイド６）
人物紹介：サイド６の検察官。親同士が決めた、ミライの許嫁（フィアンセ）。
サイド６に入港したホワイトベースを訪れた際にミライと再会。だが、彼の愛し方は、ミライが望んでいたものではなかった。
それでもミライの無事をひたすら願い、ジオン軍のコンスコン隊に対するホワイトベースの橋となることを申し出、チャーター機でサイド６の領海線まで随伴した。
登場話数：３３～３４話、映画ＩＩＩ

BASIC ベルガミノ

名前：
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　　体重／
頭髪／グレー　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（サイド６）
人物紹介：サイド６の修理屋。連邦、ジオン両軍に顔がきき、領空外の浮きドックで艦の修理を請け負い、大儲けしている。
登場話数：３３話

BASIC ミハル

名前：ミハル・ラトキエ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／レッド　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（地球）
人物紹介：ジオン軍のスパイ・１０７号。生活のために情報を売って生計をたてている。ベルファストに弟と妹がいる。
ジオン軍に命令されるままにホワイトベースに潜入するが、親身になってくれるカイに対して心を開き、ジオン軍に利用されるだけの人生を恥じて、カイと共にガンペリーで出撃する。壊れたミサイル発射装置を手動で動かそうとするが、ミサイルの発射に巻き込まれ、飛行中のガンペリーから大西洋上空に吹き飛ばされた。
登場話数：２６～２８話、映画ＩＩ

BASIC ジル

名前：ジル・ラトキエ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ダークブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（地球）
人物紹介：ミハルの弟。姉の言いつけでカイを見張る。
登場話数：２７話

BASIC ミリー

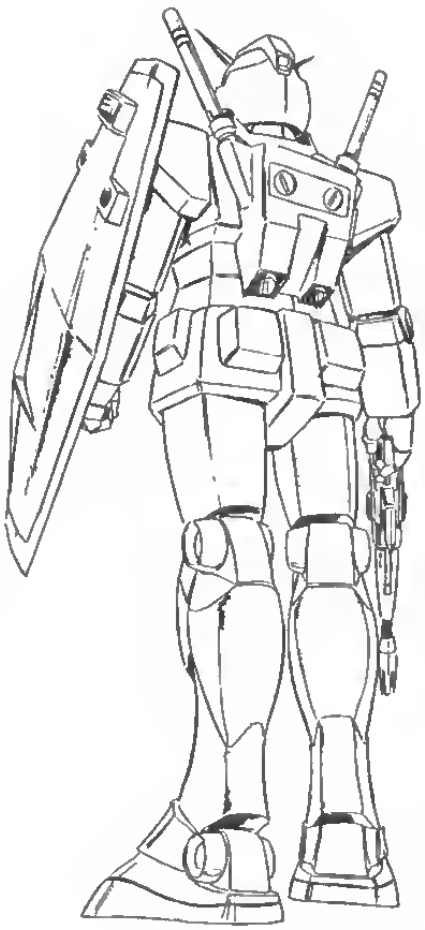
名前：ミリー・ラトキエ（　）
出身地：
生年月日：
身体的特徴：身長／　体重／
頭髪／ブラウン　アイカラー／ブラック　眼鏡／無
軍階級：民間人（地球）
人物紹介：ミハルの妹。
登場話数：２７話

第二章●MS&MA設定資料館

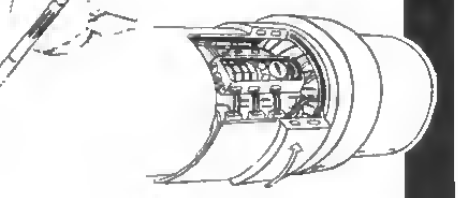
オフィシャル資料の読み方

BASIC 通称

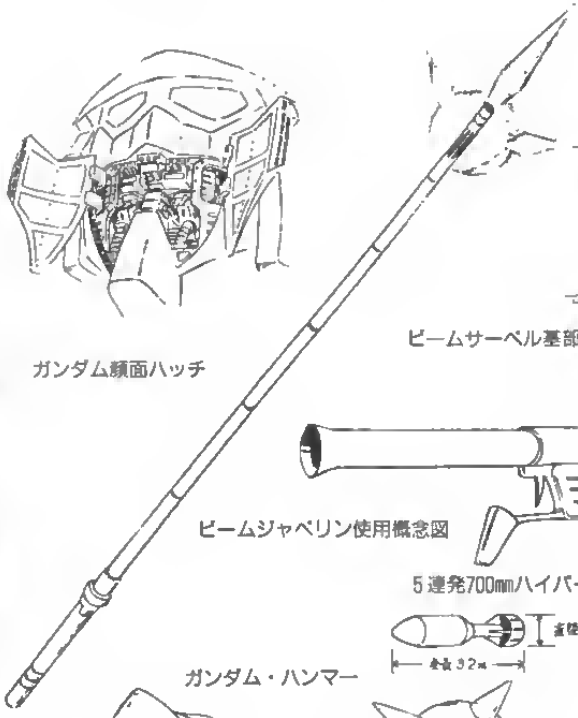
機体名称：正式名称と英文表記　例：ガンダム（GUNDAM）
形式番号：機体の正式開発ナンバー
開発基地：開発または生産拠点
スペック：頭頂高・本体重量・ジェネレーター出力・スラスター推力
　　装甲材質をフォローしてあります
武装：固定／手持を記載してあります
パイロット：主パイロット
機体解説：基本的な特徴を記述してあります
登場話数：１～４３話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠで表示してあります



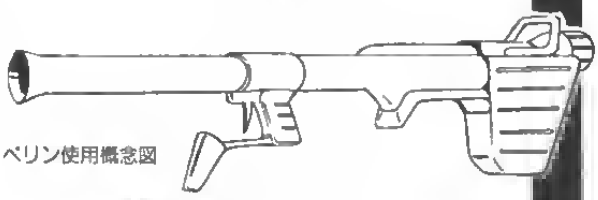
ガンダム顔面ハッチ



ビームサーベル基部メンテナンスハッチ

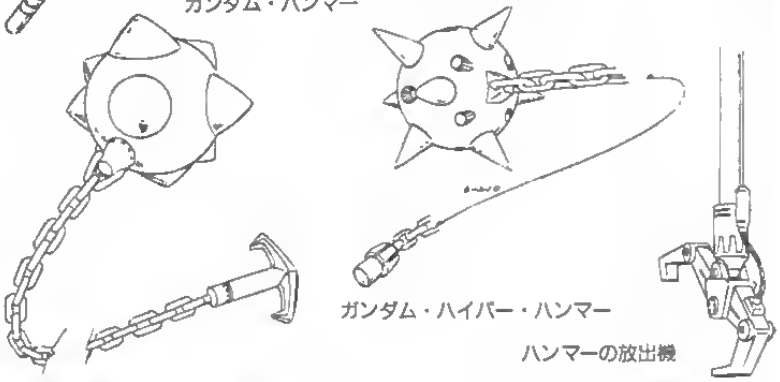


ビームジャベリン使用概念図



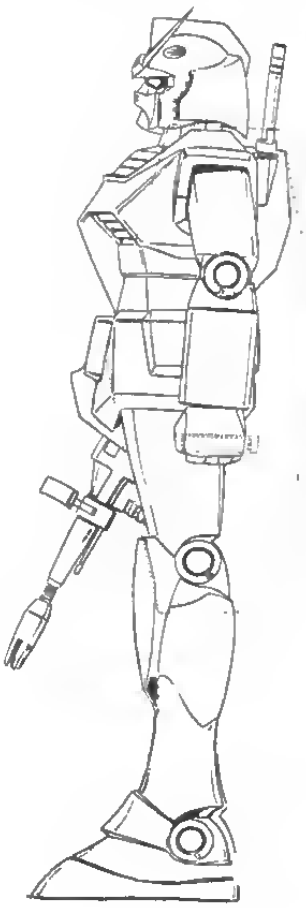
5連発700mmハイパー・バズーカ

ガンダム・ハンマー



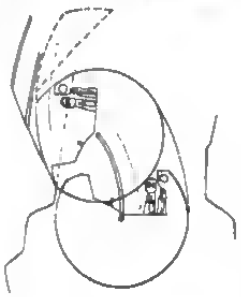
ガンダム・ハイパー・ハンマー

ハンマーの放出機



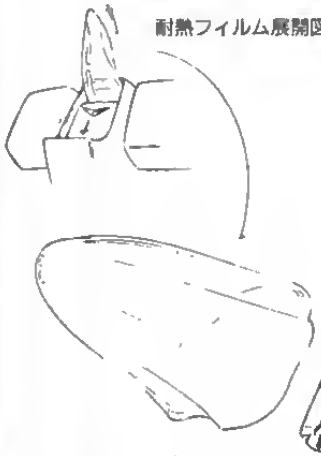
BASIC ガンダム

機体名称：ガンダム（GUNDAM）
形式番号：RX－78－2
開発基地：地球連邦軍・サイド7
スペック：頭頂高／18.0m　本体重量／43.4t　ジェネレーター出力／1380kW
スラスター推力／55500kg　装甲材質／ルナ・チタニウム
武装：固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル×2
ビームジャベリン×2（TV）　耐熱フィルム（TV）
耐熱フィールド（映画）
手持／専用ビームライフル　ハイパーバズーカ　ガンダムシールド
ガンダムハンマー（TV）　ハイパーハンマー（TV）
スーパーナパーム
パイロット：アムロ・レイ、セイラ・マス、リュウ・ホセイ他
機体解説：地球連邦軍がジオン公国軍のザクを参考に開発した、白兵戦用MS。サイド7にて試験を行う予定であったが、ジオンの急襲を受けたため、そのまま実戦配備され、史上初の「戦艦並の威力を持つビーム兵器を操るMS」の戦闘力の高さから「連邦の白いヤツ（MS）」として、ジオン公国軍の前線兵士を震え上がらせた。
コクピット兼動力炉であるコアブロック（コアファイターの変形）を挟み込む形で、上半身のAパーツと下半身のBパーツが合体している。
輸送機・ガンペリーからのパーツ投下により、空中換装も可能（TV）。
オデッサ作戦以降、合体強化パーツでもある支援戦闘機・Gファイターとの連携により、戦い方に幅が出た（TV）。
ソロモン攻略戦後、機体にマグネットコーティング処理が施され、反応速度がアップした。
最後はア・バオア・クー戦においてジオン公国軍のジオングと相討ちとなった。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

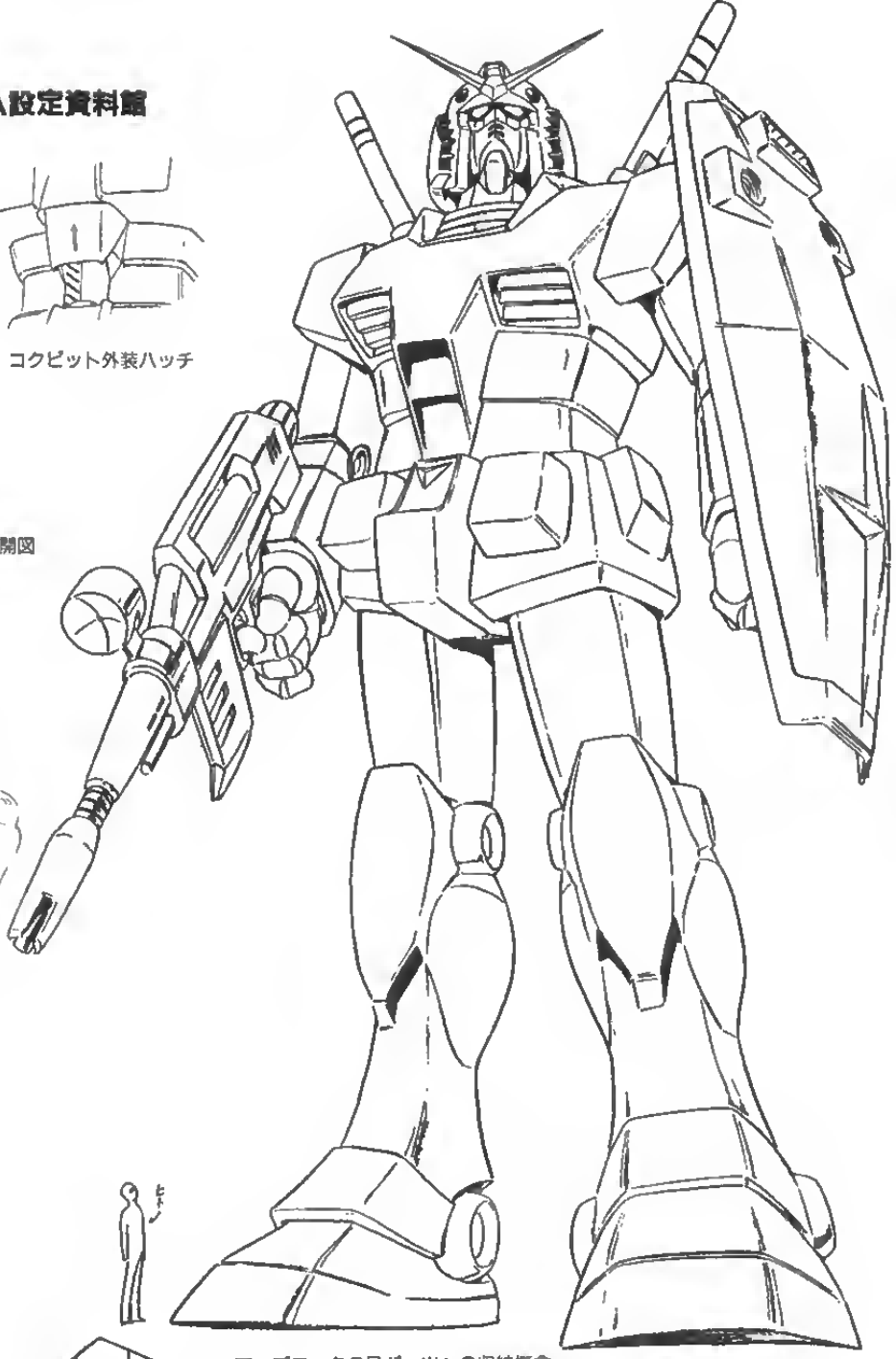


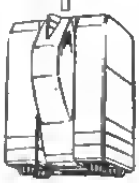
コクピット移動概念図

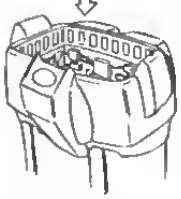
コクピット外装ハッチ



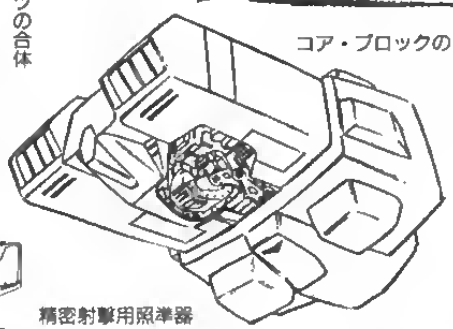
耐熱フィルム展開図



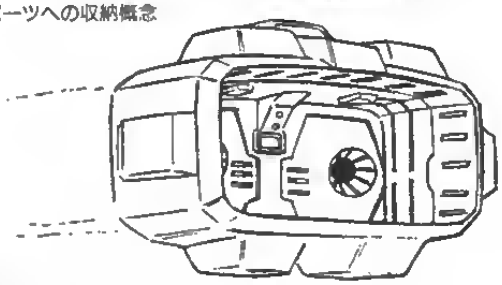




Aパーツ・コアブロック・Bパーツの合体

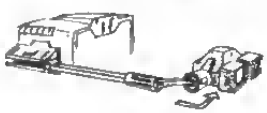


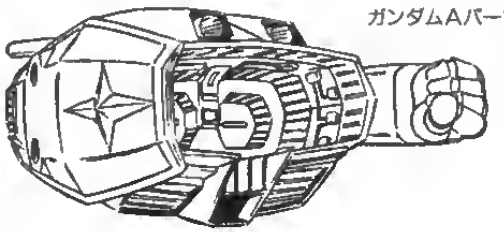
コア・ブロックのBパーツへの収納概念



ガンダムBパーツドッキング部分

精密射撃用照準器

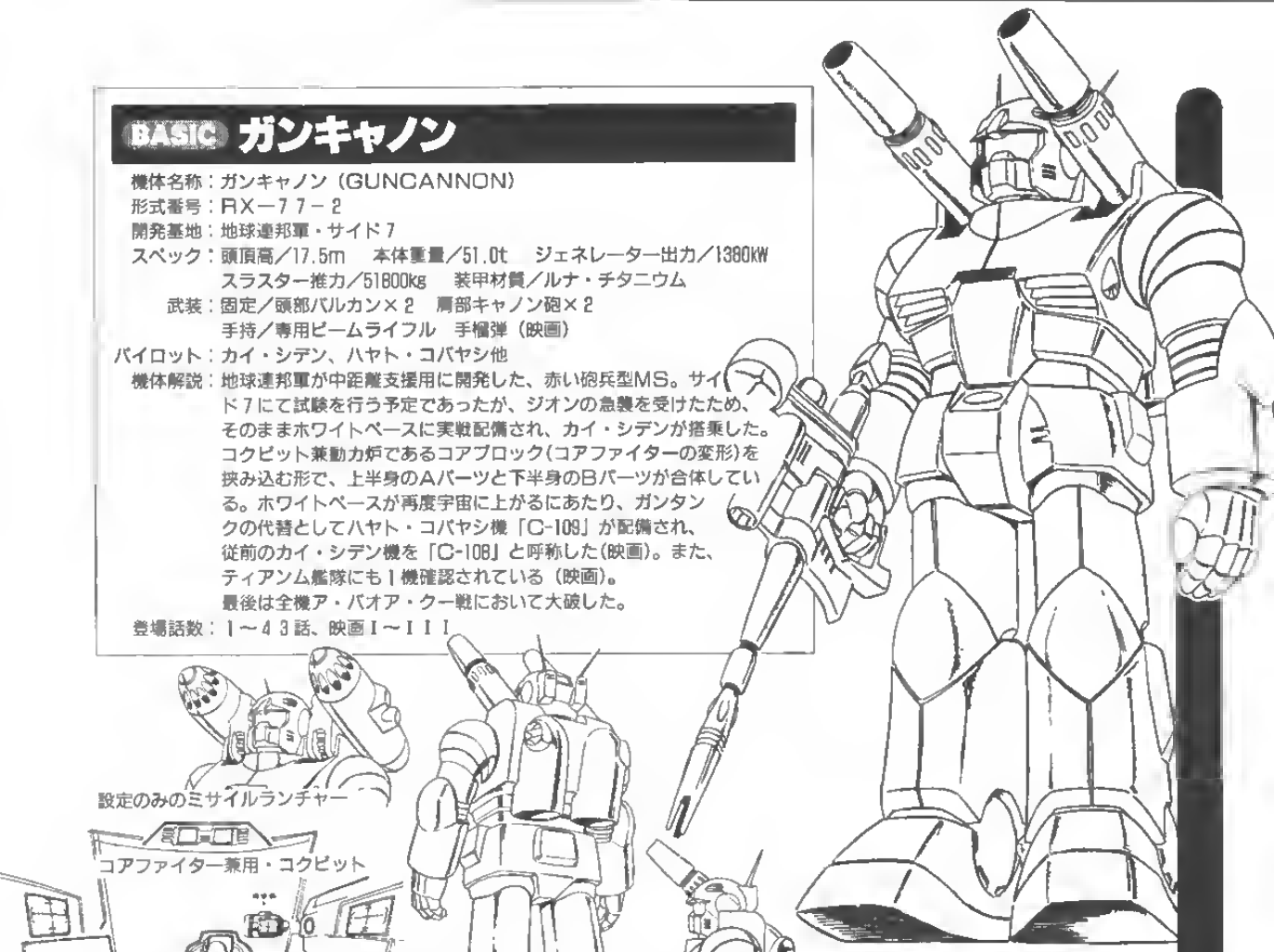




ガンダムAパーツドッキング部分

BASIC ガンキャノン

機体名称：ガンキャノン（GUNCANNON）
形式番号：RX－77－2
開発基地：地球連邦軍・サイド7
スペック：頭頂高／17.5m　本体重量／51.0t　ジェネレーター出力／1380kW
スラスター推力／51600kg　装甲材質／ルナ・チタニウム
武装：固定／頭部バルカン×2　肩部キャノン砲×2
手持／専用ビームライフル　手榴弾（映画）
パイロット：カイ・シデン、ハヤト・コバヤシ他
機体解説：地球連邦軍が中距離支援用に開発した、赤い砲兵型MS。サイド7にて試験を行う予定であったが、ジオンの急襲を受けたため、そのままホワイトベースに実戦配備され、カイ・シデンが搭乗した。コクピット兼動力炉であるコアブロック（コアファイターの変形）を挟み込む形で、上半身のAパーツと下半身のBパーツが合体している。ホワイトベースが再度宇宙に上がるにあたり、ガンタンクの代替としてハヤト・コバヤシ機「C-109」が配備され、従前のカイ・シデン機を「C-108」と呼称した（映画）。また、ティアンム艦隊にも1機確認されている（映画）。
最後は全機ア・バオア・クー戦において大破した。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ



設定のみのミサイルランチャー

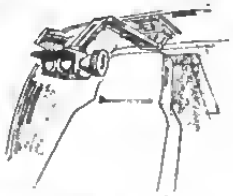
コアファイター兼用・コクピット

専用ビームライフル

ビームスプレーガン

BASIC ジム

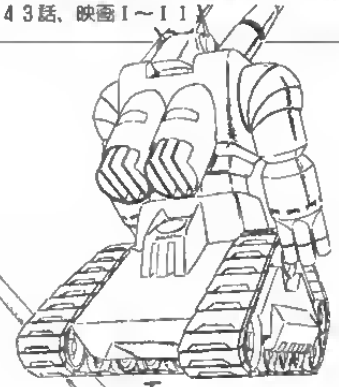
機体名称：ジム（GM）
形式番号：RGM－79
開発基地：地球連邦軍・ジャブロー
スペック：頭頂高／18.0m　本体重量／41.2t　ジェネレーター出力／1250kW
スラスター推力／55500kg　装甲材質／チタン系合金
武装：固定／頭部バルカン×2　ビームサーベル
手持／ビームスプレーガン　ガンダムシールド
ガンダム用ビームライフル（TV）　ハイパーバズーカ
パイロット：シン少尉他
機体解説：地球連邦軍がガンダムの簡易量産型として開発した、白兵戦用MS。ソロモン攻略戦直前にロールアウトし、以後の戦闘に大量投入された。
登場話数：29～43話、映画ⅠⅠ～ⅠⅠⅠ



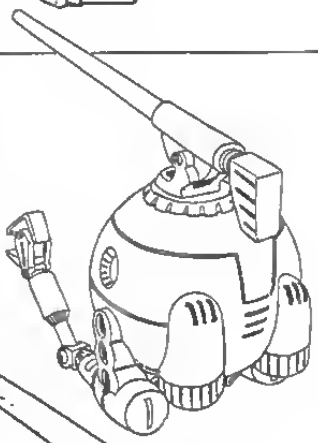
ガンタンク砲座コクピット

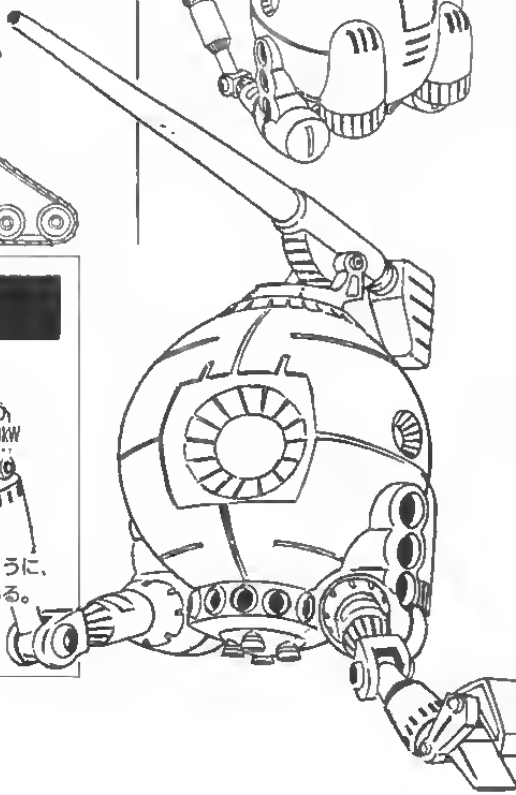
BASIC ガンタンク

機体名称：ガンタンク（GUNTANK）
形式番号：RX－７５
開発基地：地球連邦軍・サイド７
スペック：頭頂高／15.0m　本体重量／56.0t　ジェネレーター出力／878kW
スラスター推力／88000kg　装甲材質／ルナ・チタニウム
武装：固定／肩部キャノン砲×２　腕部ポップミサイル砲×２
手持／なし
パイロット：リュウ・ホセイ、ハヤト・コバヤシ他
機体解説：地球連邦軍が長距離支援用に開発した、組の戦車型MS。サイド７にて試験を行う予定であったが、ジオンの急襲を受けたため、そのままホワイトベースに実戦配備された。出力不足でビーム兵器は使えない。
コクピット兼動力炉であるコアブロック（コアファイターの変形）を挟み込む形で、上半身のAパーツとキャタピラのBパーツが合体している。コアブロック側で機体の操縦を、頭部のコクピットで照準を担当する複座式であったが、オデッサ作戦直前に頭部で全てを制御出来るよう改造された。
宇宙でも善戦したが、最後はア・バオア・クー戦で大破した（TV）。
ホワイトベースが再度宇宙に上がる際の装備変更で、ガンキャノン「C－１０９」と交代し、その役目を終えた（映画）。
登場話数：１～４３話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ



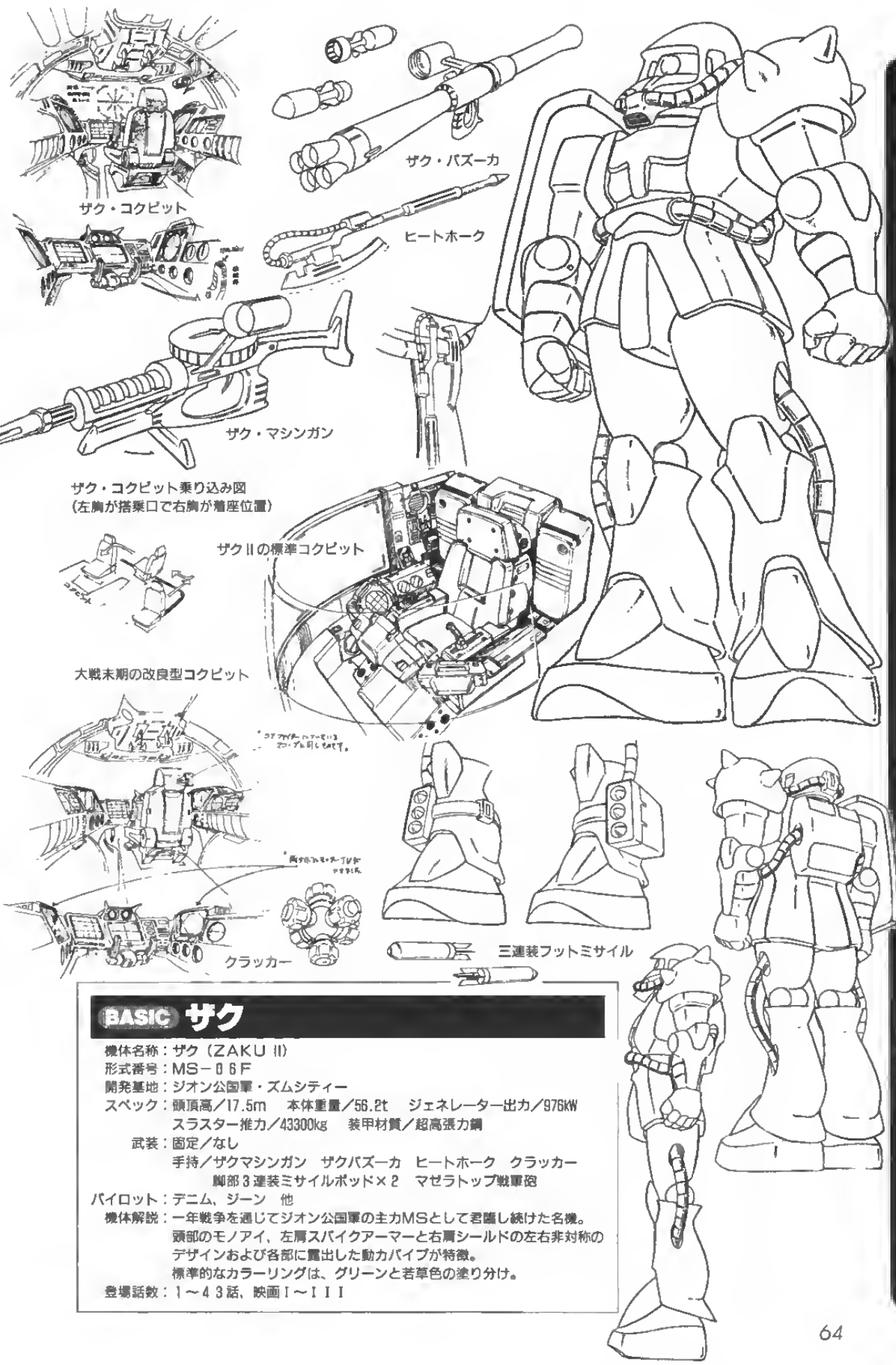
上半身強制排除レバー





BASIC ボール

機体名称：ボール（BALL）
形式番号：RB－７９
開発基地：地球連邦軍・ルナツー
スペック：頭頂高／12.8m　本体重量／17.2t　ジェネレーター出力／400kW
スラスター推力／　装甲材質／
武装：固定／キャノン砲
手持／なし
パイロット：
機体解説：地球連邦軍が支援用に開発した、簡易型MS。名称からも判るように、MSというよりは、武装された作業用ポッドというおもむきがある。
ソロモン攻略戦以後の戦闘に大量投入された。
登場話数：３５～４３話、映画ⅠⅠⅠ

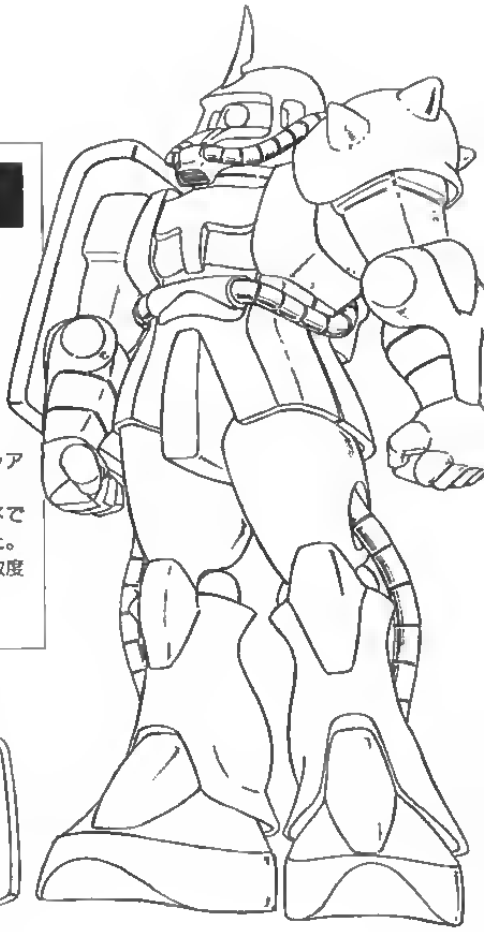


BASIC ザク

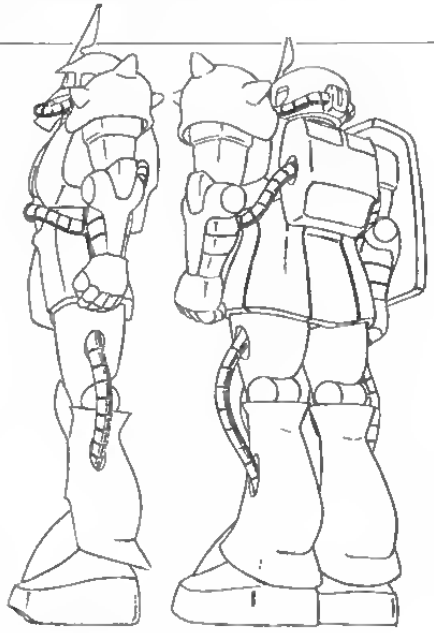
機体名称：ザク（ZAKU II）
形式番号：MS－06F
開発基地：ジオン公国軍・ズムシティー
スペック：頭頂高／17.5m　本体重量／56.2t　ジェネレーター出力／976kW
スラスター推力／43300kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／なし
手持／ザクマシンガン　ザクバズーカ　ヒートホーク　クラッカー
脚部3連装ミサイルポッド×2　マゼラトップ戦車砲
パイロット：デニム、ジーン　他
機体解説：一年戦争を通じてジオン公国軍の主力MSとして君臨し続けた名機。
頭部のモノアイ、左肩スパイクアーマーと右肩シールドの左右非対称のデザインおよび各部に露出した動力パイプが特徴。
標準的なカラーリングは、グリーンと若草色の塗り分け。
登場話数：1～43話、映画Ⅰ～ⅠⅠⅠ

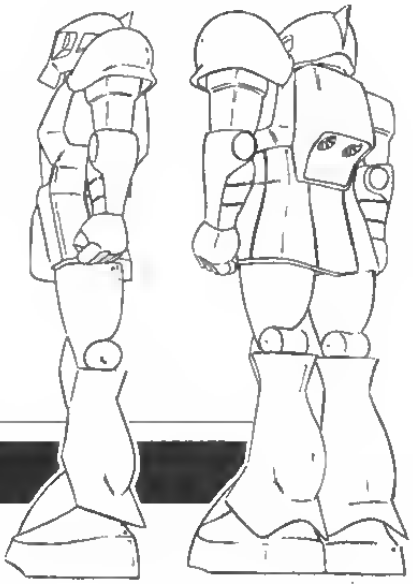
BASIC シャアザク

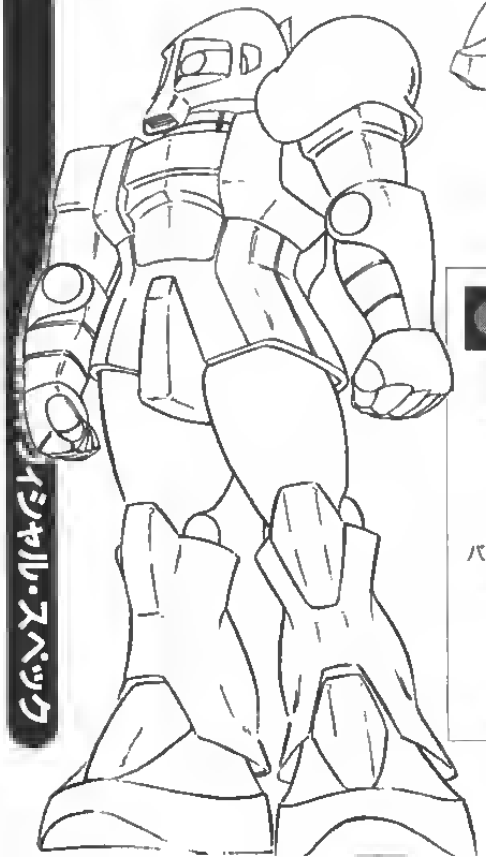
機体名称：シャア専用ザク（CHAR'S　ZAKU）
形式番号：MS－06S
開発基地：ジオン公国軍・？
スペック：頭頂高／17.5m　本体重量／　ジェネレーター出力／
スラスター推力／　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／なし
手持／ザクマシンガン　ザクバズーカ　ヒートホーク
パイロット：シャア・アズナブル
機体解説：中隊指揮官用ザクを赤とピンクのパーソナルカラーに塗り分けたシャアの専用機。ルウム戦役で5隻の地球連邦軍戦艦を沈めた。
中隊長機の印として頭に角飾りを有し、量産型ザクの3倍のスピードで動くことが出来ることから「赤い彗星」として連邦将兵に恐れられた。
サイド7でガンダムと交戦以後、連邦のホワイトベース隊追撃中に数度出撃。シャアがドズル中将に能免された後の行方は不明。
登場話数：2～11話、映画Ⅰ



マゼラトップの
砲を持つザク





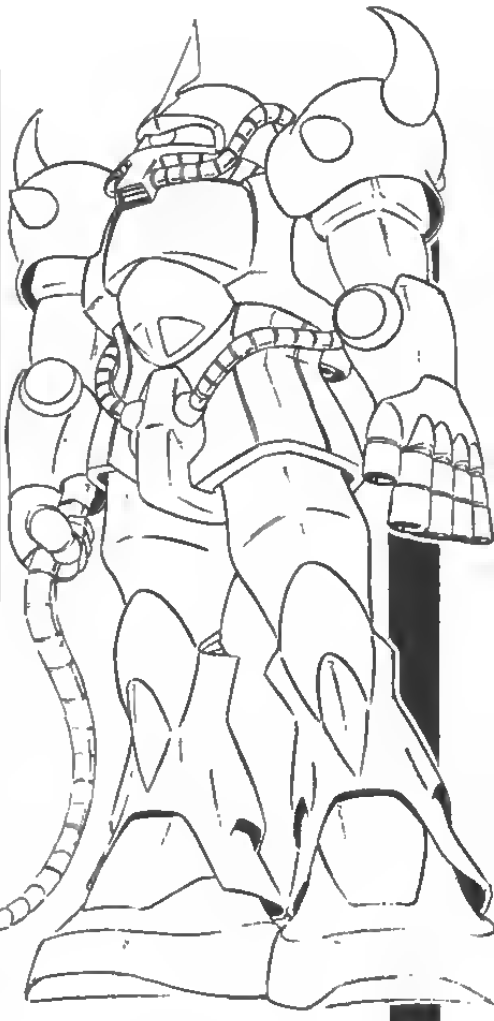


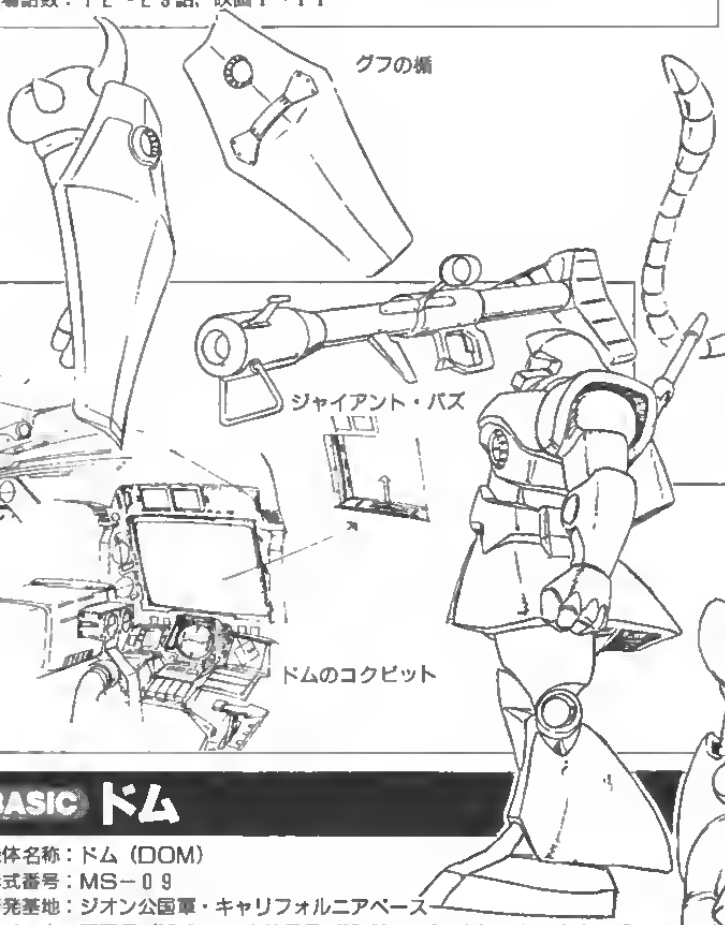
BASIC 旧ザク

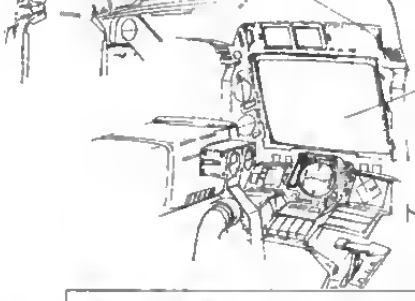
機体名称：旧型ザク（ZAKU Ⅰ）
形式番号：MS－05B
開発基地：ジオン公国軍・ズムシティー
スペック：頭頂高／17.5m　本体重量／65.5t　ジェネレーター出力／899kW
スラスター推力／40700kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／なし
手持／ザクマシンガン（映画）
パイロット：ガデム（TV）
機体解説：ジオン公国軍が初めて実用化した量産型MS。ザクが配備されるようになってからは、補給部隊の作業用などに回される。
戦争末期にはMSの必要数をまかなうために要塞防衛に駆り出された例が確認されている（映画）。
カラーリングは、グリーンとブルーの塗り分け。
登場話数：3話、映画ⅠⅠⅠ

BASIC グフ

機体名称：グフ（GOUF）
形式番号：MS－07B
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／18.2m　本体重量／58.5t　ジェネレーター出力／1034kW
スラスター推力／40700kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／ヒートロッド　5連装フィンガーバルカン
手持／専用シールド　ヒートナイフ　ザクマシンガン（TV）
ジャイアントバズ（映画）
パイロット：ランバ・ラル、ヘイブ、マーチ　他
機体解説：ジオン公国軍が地球での陸戦用に的を絞った、ザク改良の格闘戦用MS。
中・近距離用の武装が充実しており、パイロットの力量次第ではガンダムと互角に渡り合うことが可能。ランバ・ラルの操縦による初の実戦では、ガンダムを圧倒した。
要撃機・ドダイYSとのコンビネーションによる空中戦も可能（TV）。
カラーリングは、ブルー。
登場話数：12～29話、映画Ⅰ～Ⅱ

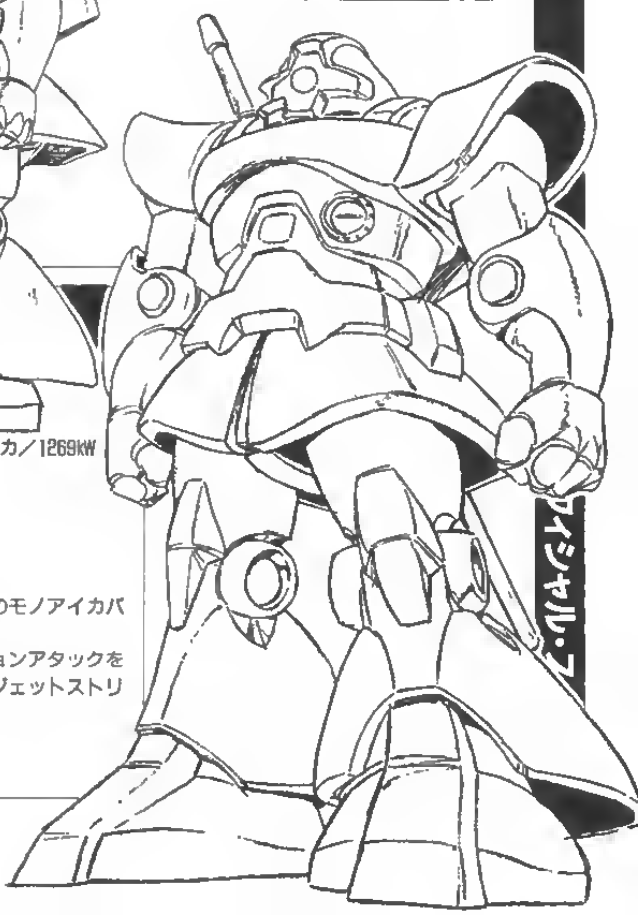


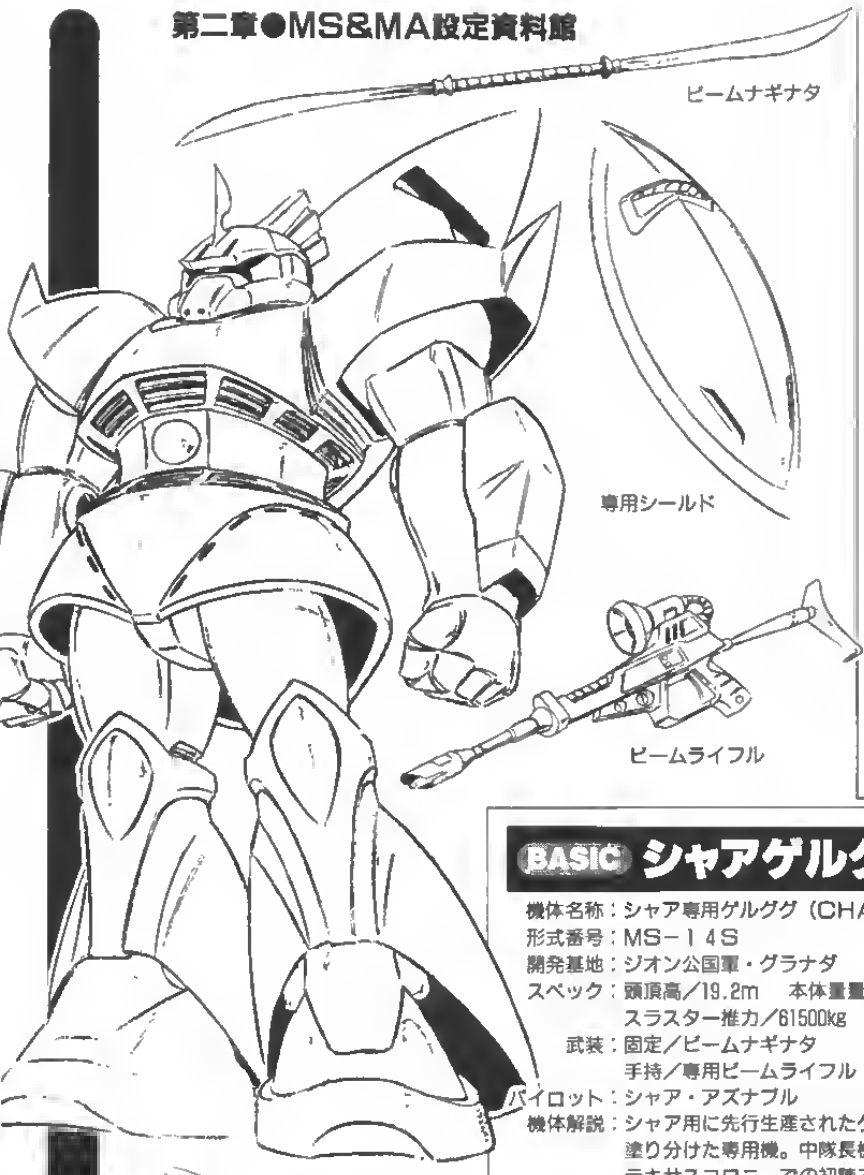


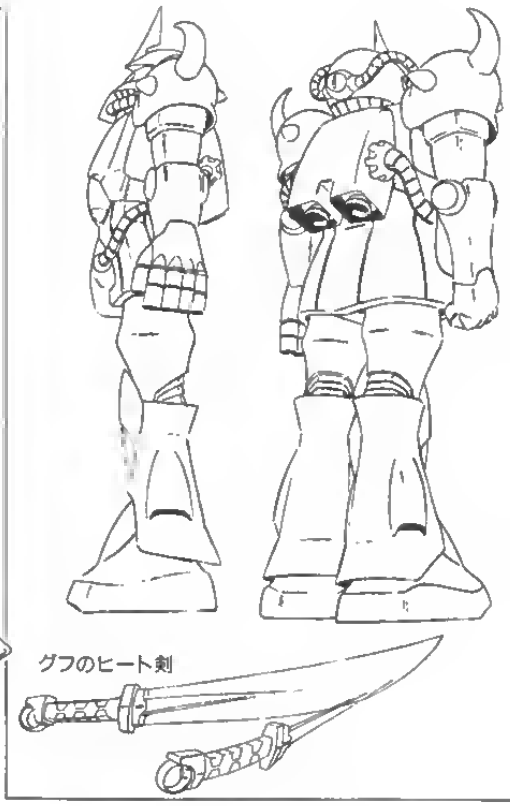


BASIC ドム

機体名称：ドム（DOM）
形式番号：MS－09
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／18.6m　本体重量／62.6t　ジェネレーター出力／1269kW
スラスター推力／58200kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／ヒートサーベル　拡散ビーム砲
手持／ジャイアントバズ
パイロット：ガイア、オルテガ、マッシュ　他
機体解説：ジオン公国軍が開発した局地戦用重量型MS。
バーニアを内蔵する脚と腰の大きなカバーと、十文字状のモノアイカバーが特徴。
ホバー移動により軽快な機動性を発揮し、フォーメーションアタックを仕掛けることが可能。黒い三連星による初の実戦では、ジェットストリームアタックでガンダムを苦しめた。
カラーリングは、黒とパープルの塗り分け。
登場話数：24～29話、映画Ⅱ







BASIC シャアゲルググ

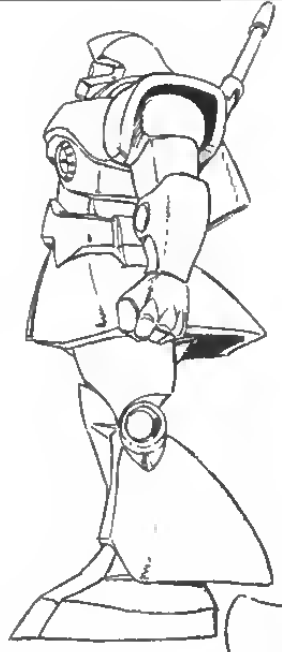
機体名称：シャア専用ゲルググ（CHAR'S　GELGOOG）
形式番号：MS－１４S
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ
スペック：頭頂高／19.2m　本体重量／42.1t　ジェネレーター出力／1440kW
　　スラスター推力／61500kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／ビームナギナタ
　　手持／専用ビームライフル　専用シールド
パイロット：シャア・アズナブル
機体解説：シャア用に先行生産されたゲルググを赤とピンクのパーソナルカラーに塗り分けた専用機。中隊長機の印として頭に角飾りを有する。
　　テキサスコロニーでの初陣ではかろうじてガンダムと引き分けた。
　　ア・バオア・クー戦直前の最後の戦いではガンダムに圧倒され、エルメスが楯となって九死に一生を得た。
　　ア・バオア・クー戦以降の行方は不明。
登場話数：３７～４１話、映画ＩＩＩ

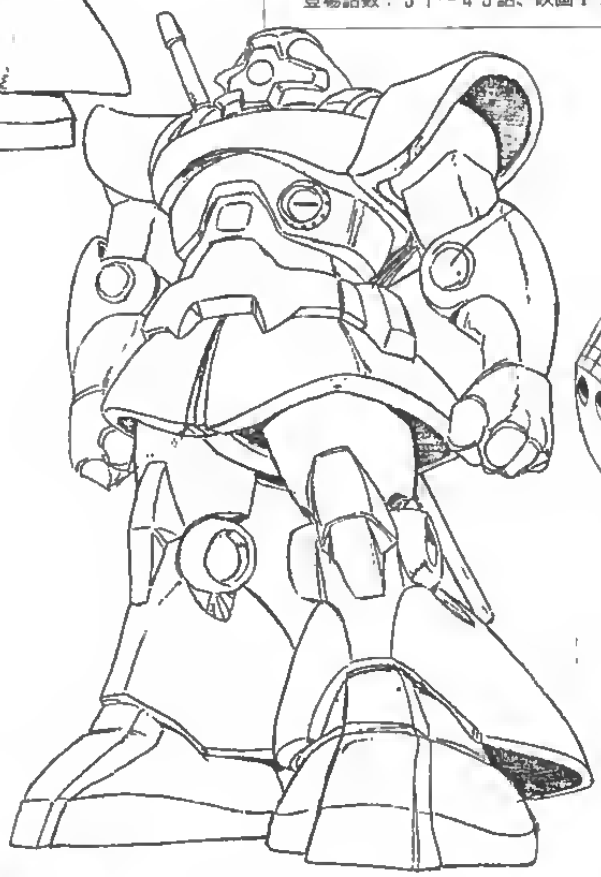
BASIC ゲルググ

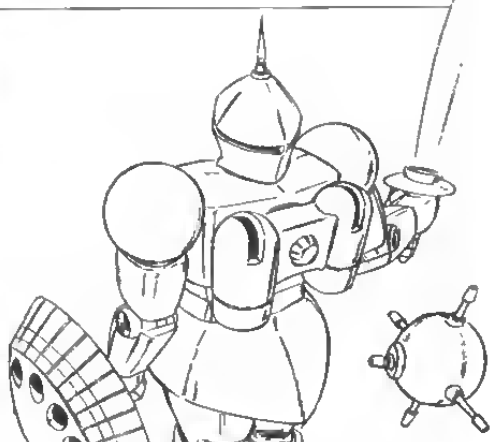
機体名称：ゲルググ（GELGOOG）
形式番号：MS－１４
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ
スペック：頭頂高／19.2m　本体重量／42.1t　ジェネレーター出力／1440kW
　　スラスター推力／61500kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／ビームナギナタ
　　手持／専用ビームライフル　専用シールド
パイロット：
機体解説：ジオン公国軍初の、ビームライフルを標準装備した量産型MS。
　　狼を思わせる鼻面とバーニアを格納した巨大なスカートとスネが特徴。
　　ア・バオア・クー戦に投入されたが、速成パイロットが機体の優秀さについて行けず、真価を十分に発揮することが出来なかった。
　　標準的なカラーリングは、グリーンとグレーの塗り分け。
登場話数：４２～４３話、映画ＩＩＩ

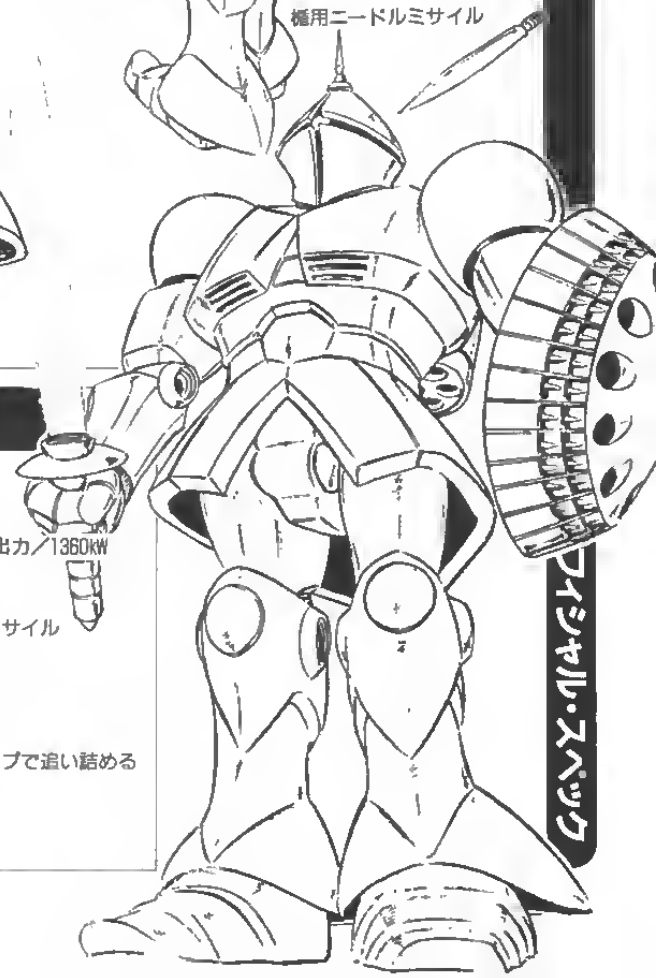
BASIC リック・ドム

機体名称：リック・ドム（ＲＩＣＫ　ＤＯＭ）
形式番号：ＭＳ－Ｒ０９
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ
スペック：頭頂高／18.6m　本体重量／43.8t　ジェネレーター出力／1199kW
スラスター推力／53000kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／ヒートサーベル　拡散ビーム砲
手持／ジャイアントバズ
パイロット：カヤハワ、バタシャム　他
機体解説：陸戦用ドムのバーニアを宇宙用に強化した量産型宇宙用重ＭＳ。
その特徴あるスタイルから、連邦将兵に「スカート付き」と呼ばれた（映画）。
登場話数：３１～４３話、映画ＩＩＩ



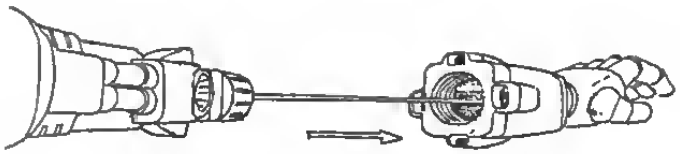




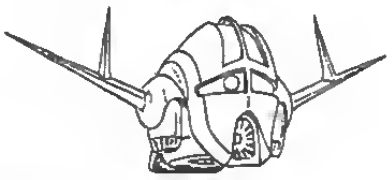


BASIC ギャン

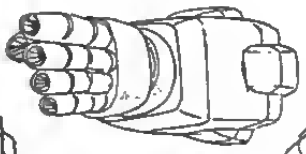
機体名称：ギャン（ＧＡＮＮ）
形式番号：ＭＳ－１５
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ
スペック：頭頂高／19.9m　本体重量／52.7t　ジェネレーター出力／1360kW
スラスター推力／56200kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／なし
手持／専用ビームサーベル　専用シールド　ニードルミサイル
ハイドボンプ
パイロット：マ・クベ
機体解説：ジオン公国軍がマ・クベ用に開発した、白兵戦用ＭＳ。
中世の騎士を思わせる外観が特徴。
テキサスコロニーでガンダムを待ち伏せ、数々のトラップで追い詰めるも最後はビームサーベルに切り裂かれて爆発した。
カラーリングは、パープルとすみれ色の塗り分け。
登場話数：３７話



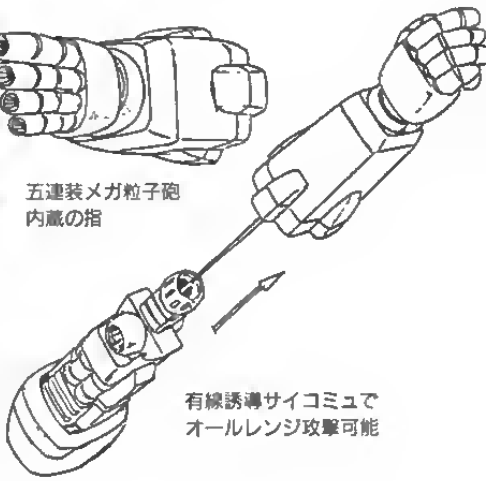
ワイヤー誘導の
メガ粒子砲



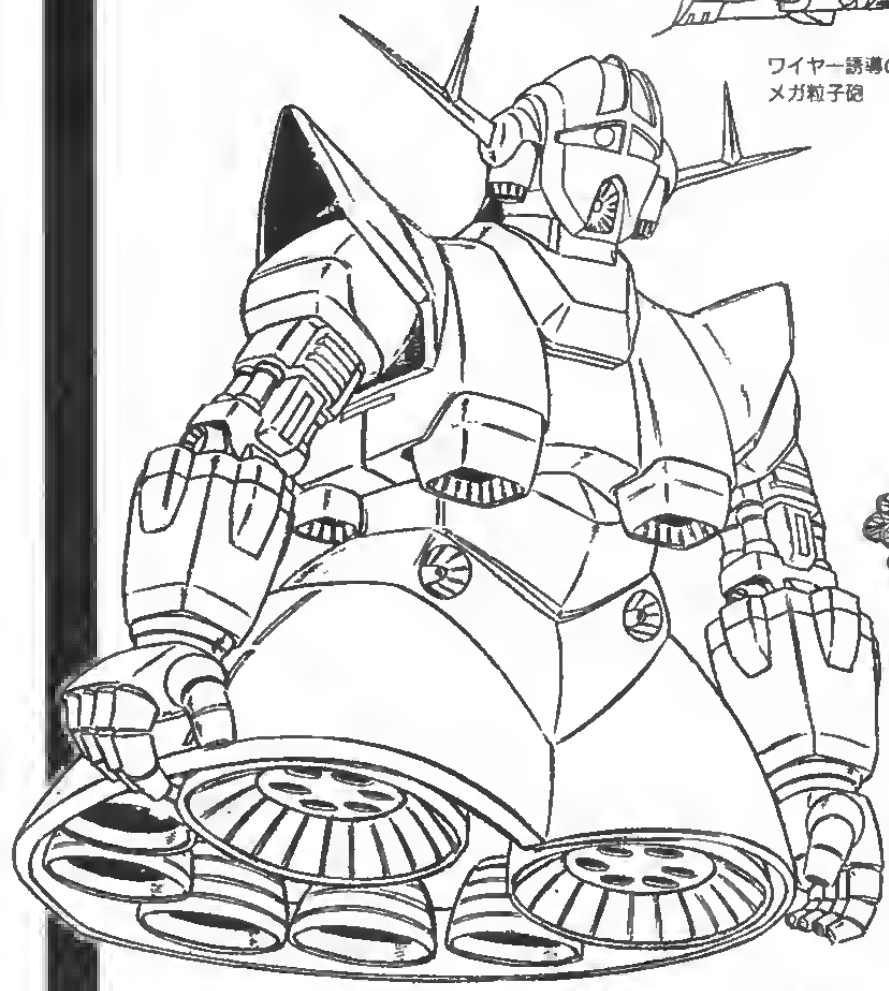
頭部脱出カプセル

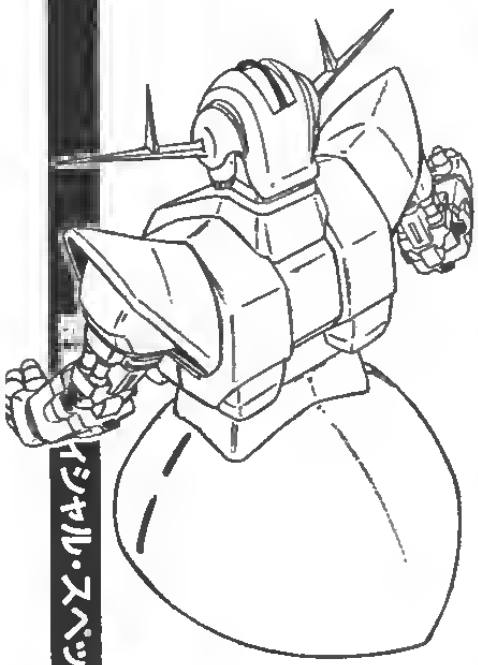


五連装メガ粒子砲
内蔵の指



有線誘導サイコミュで
オールレンジ攻撃可能





BASIC ジオング

機体名称：ジオング（ＺＩＯＮＧ）
形式番号：ＭＳＮ－０２
開発基地：ジオン公国軍・ア・バオア・クー
スペック：頭頂高／17.3m　本体重量／151.2t　ジェネレーター出力／9400kW
スラスター推力／187000kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／頭部メガ粒子砲１門　本体メガ粒子砲２門　有線誘導メガ粒子砲
２門　手持／なし
パイロット：シャア・アズナブル大佐
機体解説：　ジオン公国軍が開発したＮＴ専用ＭＳ。ア・バオア・クー戦では80％の未完成状態で脚部はなかった。有線サイコミュを搭載で、本来は２人乗りＭＳとして開発されており、頭部と胴体にそれぞれコクピットがある。

　完成していれば、頭部・腕部・腰部・脚部がそれぞれ中央胴部から分離が可能で、全ての部位がサイコミュによって攻撃できた。

　頭部は脱出カプセルにもなり、メガ粒子砲を１門搭載しており、腰部もメガ粒子砲が２門装備されている。

　五連装のメガ粒子砲を持つ腕部は、有線誘導式サイコミュが特徴でブラウ・ブロの技術が投入されていた。

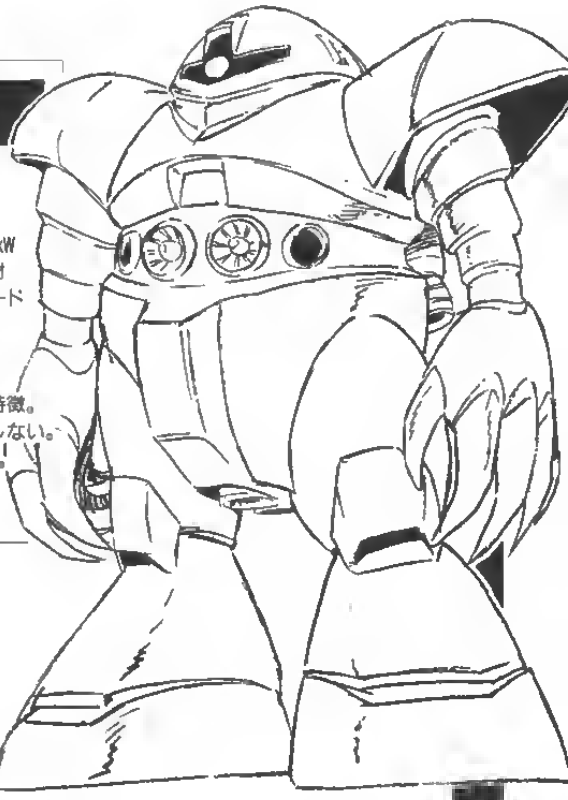
　ジオン軍の威信を賭けた究極のＭＳを目指したため、ジオングの名が付けられたと言われている。

　赤い彗星、シャア・アズナブルがプロトタイプ機に搭乗し、地球連邦軍のＭＳを１８機、戦艦４隻を沈めたものの、ア・バオア・クー内部でガンダムと相討ちとなった。

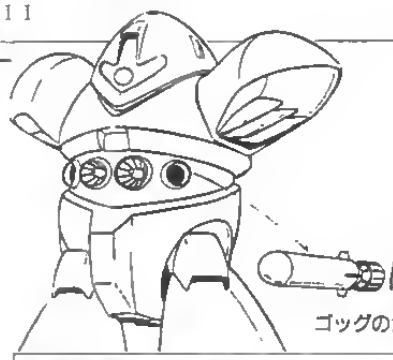
登場話数：４２～４３話　映画ＩＩＩ

BASIC ゴッグ

機体名称：ゴッグ（GOGG）
形式番号：MSM－03
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／18.3m　本体重量／82.4t　ジェネレーター出力／1740kW
スラスター推力／121000kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武装：固定／腹部メガ粒子砲×2　腹部魚雷発射管×2　フリージーヤード
手持／なし
パイロット：マーシー、ラサ　他
機体解説：ジオン公国軍が開発した水陸両用量産型重MS。
卵型のフォルム、両手の5本の鉤爪、矢印型のモノアイカバーが特徴。
手足を収納して水中を進む。分厚い装甲は機雷程度ではびくともしない。
ガンダムのハイパーハンマーをも受け止める頑丈さを誇る（TV）。
カラーリングは、茶色とカーキの塗り分け。
登場話数：26～29話、映画II



ズゴックの昇降用リフト



ゴッグの魚雷と発射口

BASIC ズゴック

機体名称：ズゴック（Z'GOK）
形式番号：MSM－07
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／18.4m　本体重量／65.1t　ジェネレーター出力／2480kW
スラスター推力／83000kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武装：固定／頭部6連装ミサイル砲　腕部メガ粒子砲×2
手持／なし
パイロット：カラハ、ゴダール　他
機体解説：ジオン公国軍が開発した水陸両用量産型MS。
両手の3本の爪、全周型のモノアイカバーが特徴。手足を収納して水中を進む。ビーム兵器でしか貫けない頑丈な装甲を生かした、ミサイルを連射しながらの体当たり攻撃が可能。
標準的なカラーリングは、すみれ色とグレーの塗り分け。
登場話数：27～29話、映画II

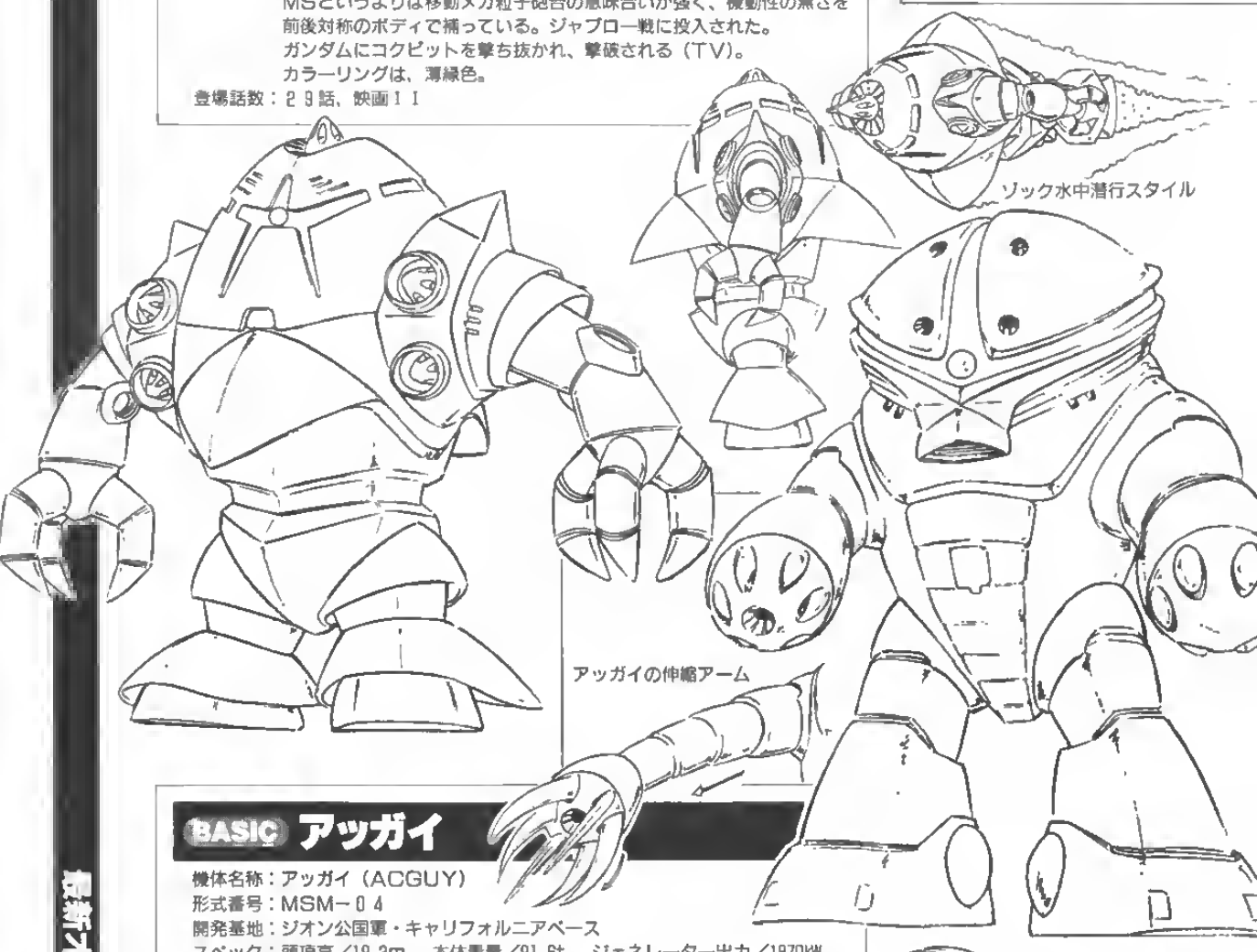
メガ粒子砲

BASIC シャアズゴック

機体名称：シャア専用ズゴック（CHAR'S　Z'GOK）
形式番号：MSM－07S
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／18.4m　本体重量／65.1t　ジェネレーター出力／
スラスター推力／　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武装：固定／頭部6連装ミサイル砲　腕部メガ粒子砲×2
手持／なし
パイロット：シャア・アズナブル
機体解説：チューンアップされたズゴックを赤とピンクのパーソナルカラーに塗り分けたシャアの専用機。
量産型ズゴックより機動性が向上しており、腕の鋭い爪でジムの装甲を一撃で貫くなど、ジャブローに「赤い彗星」の伝説を復活させた。
ガンダムと互角の戦いを繰り広げたが、最後は右腕を切り落とされ撤退。
シャアが再度宇宙に上がった後の行方は不明。
登場話数：29～30話、映画II

BASIC ゾック

機体名称：ゾック（ZOCK）
形式番号：MSM－１０
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／23.9m　本体重量／167.6t　ジェネレーター出力／3849kW
スラスター推力／253000kg　装甲材質／チタン・セラミック複合材
武装：固定／頭部メガ粒子砲　肩部メガ粒子砲×８
手持／なし
パイロット：ボラスキニフ
機体解説：ジオン公国軍が開発した水陸両用大型MS。
極端な短足、量型のモノアイカバー、そして前後対称のボディが特徴。
MSというよりは移動メガ粒子砲台の意味合いが強く、機動性の無さを前後対称のボディで補っている。ジャブロー戦に投入された。
ガンダムにコクピットを撃ち抜かれ、撃破される（TV）。
カラーリングは、薄緑色。
登場話数：２９話、映画ＩＩ

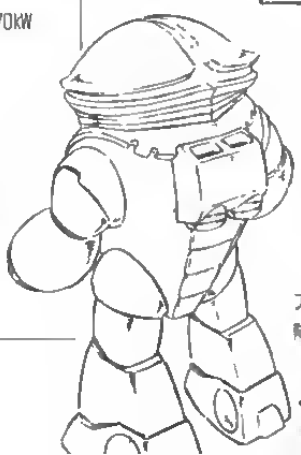


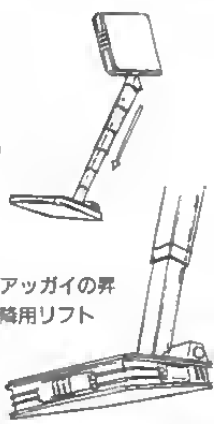
ゾック水中潜行スタイル

アッガイの伸縮アーム

BASIC アッガイ

機体名称：アッガイ（ACGUY）
形式番号：MSM－０４
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／19.2m　本体重量／91.6t　ジェネレーター出力／1870kW
スラスター推力／109600kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／頭部バルカン×４　右腕メガ粒子砲
左腕８連装ミサイルランチャー
手持／なし
パイロット：赤鼻、クラフト、マジソン　他
機体解説：ジオン公国軍が開発した水陸両用量産型MS。
三方にのびたモノアイレールとザクのようなくちばしが特徴。
右腕が伸縮し６本の爪を天井に突き刺しながら移動することが可能なため、ジャブローへの潜入に用いられた。
カラーリングは、ブラウンと砂色の塗り分け。
登場話数：３０話、映画ＩＩ

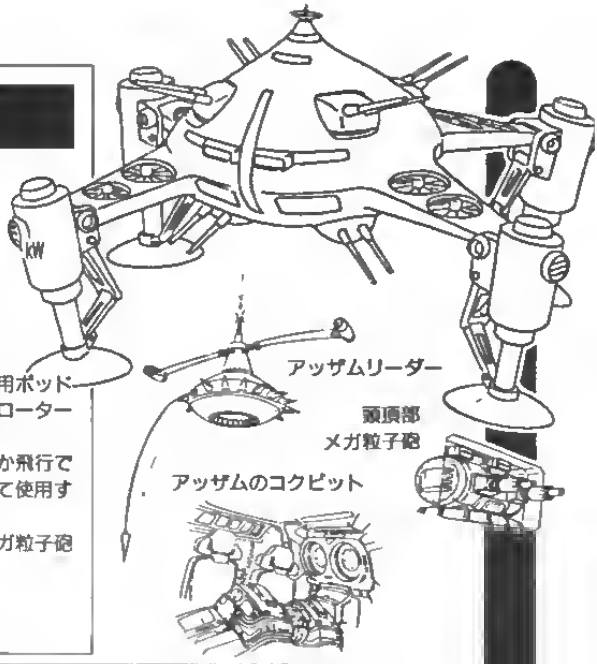


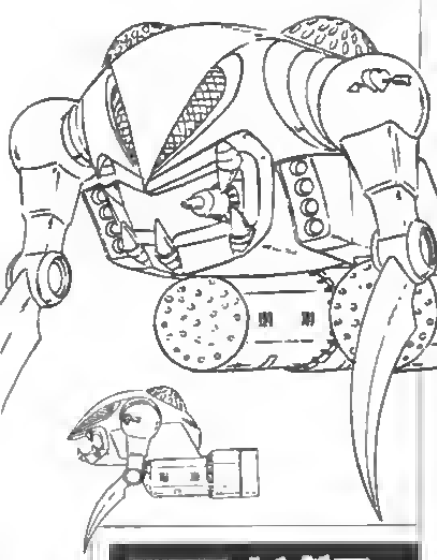


アッガイの昇降用リフト

BASIC アッザム

機体名称：アッザム（AZZEM）
形式番号：MAX－03
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ基地
スペック：頭頂高／24.0m　本体重量／300t　ジェネレーター出力／　kW
スラスター推力／　kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／2連装メガ粒子砲8基
手持／なし
パイロット：キシリア少将、マ・クベ大佐
機体解説：　ジオン公国軍が開発した試作型の移動重機関砲座。月面探索用ポッド「ルナ・タンク」をベースとして製作され、4本の足と8基のローターが特徴。
　試作型のミノフスキークラフトを装備しているが、短時間しか飛行できない。MAの前段階的な存在で、元来は対トーチカ兵器として使用する予定であったが、ガンダムの奇襲により前線で使用された。
　底部よりリーダーを発射することが可能で、本体に2連装メガ粒子砲を8門も装備している。
　カラーリングは、パープル単色のみ。
登場話数：18話



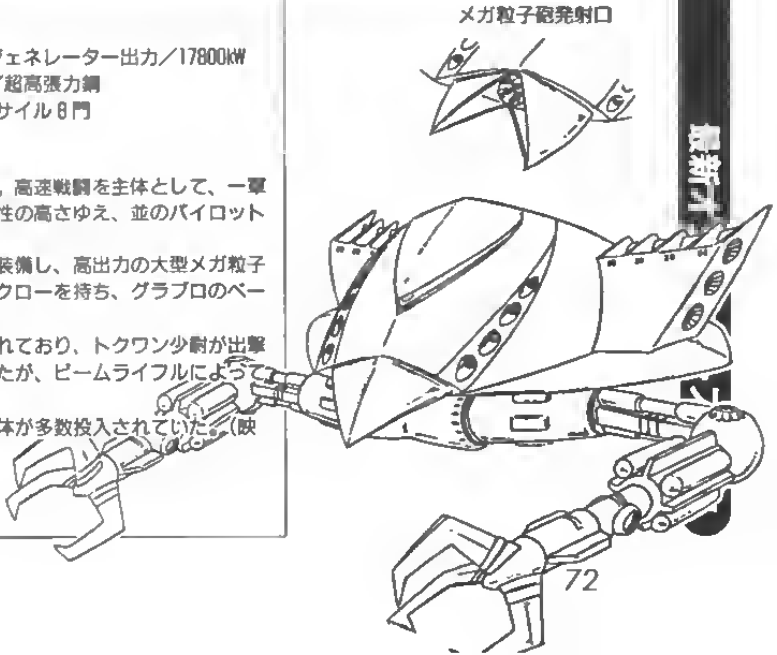


BASIC ザクレロ

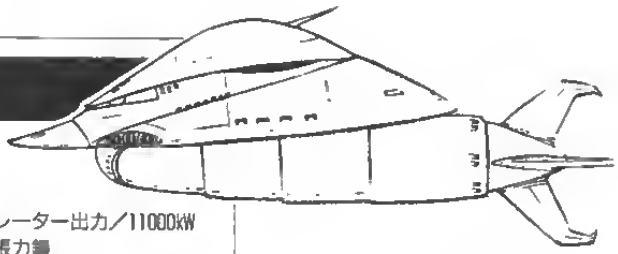
機体名称：ザクレロ（ZAKRELLO）
形式番号：MA－04X
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／　m　本体重量／　t　ジェネレーター出力／　kW
スラスター推力／　kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／ヒートナタ　拡散ビーム砲　ミサイル8門
手持／なし
パイロット：デミトリー曹長
機体解説：　ジオン公国軍が開発した宇宙戦用MA。テストの結果、機動性が悪いのが確認され、廃棄する予定であった。
しかし、トクワン少尉の仇を討とうしたデミトリー曹長が無断で出撃したもののGアーマー・Bパーツを装着したガンダムによって撃破された。
　形状はジオンのMAの中では特殊な形をしており、モノアイでなく複眼式のメインカメラを採用していた。姿勢制御用大型バーニアを2基備え、中央に拡散ビーム砲と4連装のミサイルランチャーを2門が主兵装であった。接近戦用にヒートホークを応用したヒートナタを両腕に装備していた。
　カラーリングは、黄色と赤の塗り分け。
登場話数：32話

BASIC ビグロ

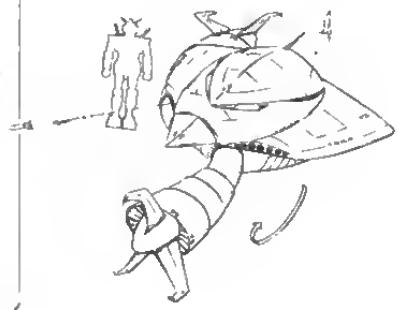
機体名称：ビグロ（BYGRO）
形式番号：MA－05
開発基地：ジオン公国軍・キャリフォルニアベース
スペック：頭頂高／45.5m　本体重量／125.5t　ジェネレーター出力／17800kW
スラスター推力／136100kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／大型メガ粒子砲　クロー2本　ミサイル8門
手持／なし
パイロット：トクワン少尉
機体解説：　ジオン公国軍が開発した宇宙戦用MA。高速戦闘を主体として、一撃離脱を得意とする。しかし、余りの機動性の高さゆえ、並のパイロットではGに耐えられない。
　ミサイルランチャーを左右に4門ずつ装備し、高出力の大型メガ粒子砲を1門中央に持つ。接近戦用に巨大なクローを持ち、グラブロのベースとなった。
　シャア大佐のザンジバルに1機搭載されており、トクワン少尉が出撃し、ガンダムを高速戦闘によって苦しめたが、ビームライフルによって撃破された。（TV版）
　ア・バオア・クー戦には量産された機体が多数投入されていた。（映画版）
　カラーリングはグリーン。
登場話数：31話　映画ⅠⅠⅠ

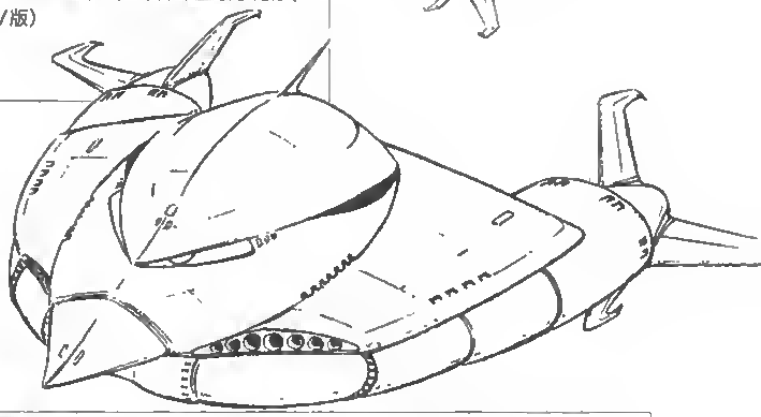


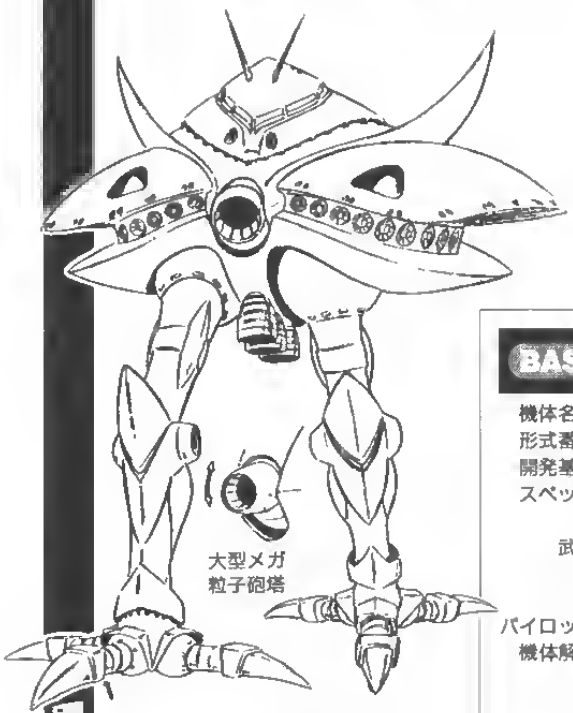
BASIC グラブロ



機体名称：グラブロ（GRUBLO）
形式番号：MAM－07
開発基地：ジオン公国軍・サンディエゴ基地
スペック：頭頂高／40.2m　本体重量／324.1t　ジェネレーター出力／11000kW
スラスター推力／　　kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／ヒートナタ　拡散ビーム砲　ミサイル8門
手持／なし
パイロット：フラナガン・ブーン大尉
機体解説：　ジオン公国軍が開発した水中戦用MA。水中での高速戦闘が可能で、水中での運動性能、火力共に水陸両用MS群を凌ぐが、水中でしか行動出来ない弱点を持つ。
　左右各7門ずつの魚雷を持ち、各1門の対空用ブーメラン型ミサイルを装備している。接近戦用に使用する巨大なクローは、航行中後方に収納している。
　シャア大佐率いる、マッドアングラー隊にプロトタイプ機が配属されており、ユーコンの艦長であるフラナガン・ブーン大尉自らが搭乗し、大西洋上で、圧倒的なパワーでガンダムの翻弄し、片脚を破壊したが、ビームサーベルで破壊された。（TV版）
　カラーリングはブラウン。
登場話数：28話　映画II







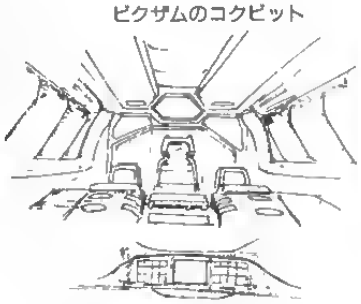
大型メガ
粒子砲塔

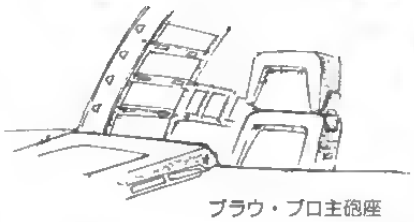
BASIC ビグザム

機体名称：ビグザム（BYGZAM）
形式番号：MA－08
開発基地：ジオン公国軍・ア・バオア・クー
スペック：頭頂高／59.6m　本体重量／1021.2t　ジェネレーター出力／140000kW
スラスター推力／580000kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／大型メガ粒子砲1門　メガ粒子砲26門　対空ミサイル6門
対ビーム用電磁波膜（Iフィールド・ジェネレーター）
手持／なし
パイロット：ドズル中将、マイヤー少尉
機体解説：　ジオン公国軍が開発した対要塞攻撃用MA。本来は、ジャブロー攻略用に開発されたが、間に合わず、ソロモン攻防戦に臨むドズル中将の下へギレン総帥が送った。
　戦艦を1撃で撃沈出来る強力な大型メガ粒子砲を中央に1門装備し、全周囲に攻撃可能なメガ粒子砲を26門も内蔵している。接近戦も可能で、2本の脚に付いている6本の爪は対空ミサイルとしても使用できる。
　対ビーム用電磁波膜によるビームバリアーで一切のビーム兵器を無効とし、ソロモン攻略戦主力艦隊旗艦やサラミス級巡洋艦等を撃沈した。
　通常3人のパイロットが必要だが、操縦系統を切り換えることにより1人でも操縦できる。
　ソロモン戦でドズル中将が搭乗し、脱出する兵たちの囮となったが、スレッガー中尉のGファイターの特攻とガンダムのビームサーベルの連携によって撃破された。（TV版）
　量産の計画もあったが、大戦末期に開発されたため終戦には間に合わなかった。
　カラーリングはグリーン。
登場話数．35～36話　映画III

対空クロウ

ビグザムのコクピット



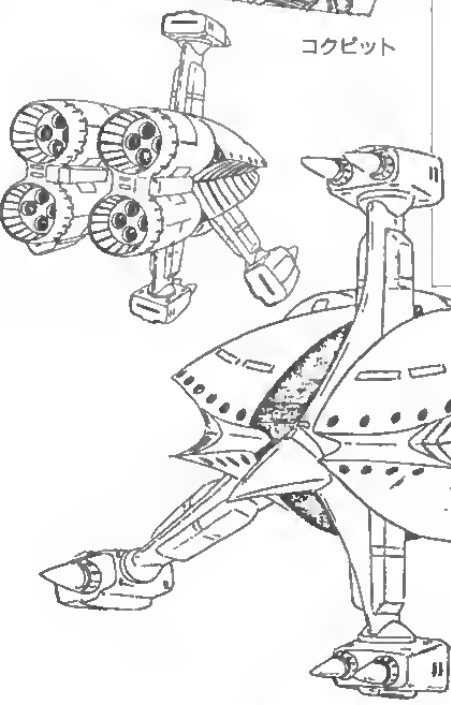


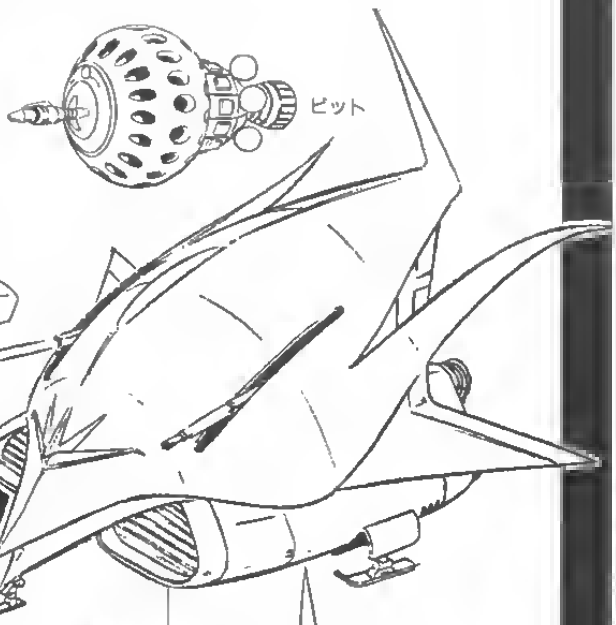
ブラウ・ブロ主砲座

コクピット

BASIC ブラウブロ

機体名称：ブラウ・ブロ（BRAWBRO）
形式番号：MAN－０３
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ基地
スペック：頭頂高／60.2m　本体重量／1735.3t ジェネレーター出力／74000kW
スラスター推力／1760000kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／有線誘導メガ粒子砲４門
手持／なし
パイロット：シャリア・ブル大尉、シムス・アル・バハロフ中尉、コワル少尉
機体解説：　ジオン公国軍が開発したNT専用MA。本体が３機に分離可能で、それぞれが単独航行ができる。
有線誘導式のサイコミュを初めて搭載し、４門のメガ粒子砲でオールレンジ攻撃が出来た。砲手が別にいれば、普通のパイロットでも使用が可能であった。
調整に難航していたらしく、サイド６領空近くでテストをしている際にガンダムと交戦し、撃破されている。
再修理を行い、シャリア・ブル大尉用に調整し直した物の再び、ガンダムと交戦し、撃破されている。
カラーリングはパープル。
登場話数：３３・３９話　映画ＩＩＩ

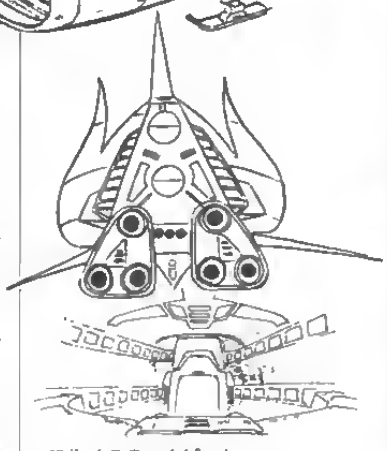




ビット

BASIC エルメス

機体名称：エルメス（ＥＬＭＥＴＨ）
形式番号：MAN－０８
開発基地：ジオン公国軍・グラナダ基地
スペック：頭頂高／85.4m　本体重量／163.7t　ジェネレーター出力／14200kW
スラスター推力／645200kg　装甲材質／超高張力鋼
武装：固定／メガ粒子砲２門　ＢＩＴ１２基
手持／なし
パイロット：ララァ・スン少尉
機体解説：　ジオン公国軍が開発したＮＴ専用MA。サイコミュを搭載し、無人攻撃兵器「ＢＩＴ」を複数同時にミノフスキー通信を利用して無線操縦で遠隔攻撃が可能である。
フラナガン機関出身のララァ・スン少尉がパイロットを務め、シャア大佐率いるザンジバルに編入された。
ソロモン陥落後に、駐留していた地球連邦軍艦隊を奇襲し、次々と撃沈させ、「ソロモンの亡霊」と恐れられた。
サイド１とサイド５の間の宙域で、ホワイト・ベースを強襲したが、ガンダムのパイロットであるアムロ・レイ曹長とニュータイプの共鳴を起こし、シャア大佐を庇って、ガンダムのビームサーベルによって破壊されている。
カラーリングは、ライトグリーン。
登場話数：３９～４１話　映画ＩＩＩ



エルメスのコクピット

第三章●機動戦士ガンダム　キャラクター大事典

凡例　FG：機動戦士ガンダム
ZG：機動戦士Zガンダム

あ行

赤鼻　FG(30)

ジャブローのGM工場破壊工作員の一人。シャアの部下であり、破壊工作隊のリーダー的な存在であった。爆弾工作終了後、アッガイに乗り込み、ジャブロー内を攻撃するが、ガンダムによって破壊された。

アクアラング兵　FG(28)

マッドアングラー隊の中で、水中での特殊任務を行う部隊の兵をこう言う。

アコース　FG(12・16)

ランバ・ラルの部下。一年戦争以前からMSのパイロットであり、MSの操縦技術には確かなものを持っている。ランバ・ラル部隊においては、ラル、コズンと共にMSのチームを組んでいた。対WBの2戦目でアムロ搭乗のガンキャノンの至近弾を受け、ザクと共に爆死。

アサクラ大佐　FG(40・41)

ジオンの技術士官。ギレン・ザビが指揮をしていたコロニーレーザーの技術的な指導者。戦前は密閉型のコロニーであるサイド3の太陽電池の開発責任者であった。名前を見れば分かるように、日系人であると放映中には解説していたが、この時代に日系人の意味があるのかどうかは不明。

アナハイム・エレクトロニクス幹部　ZG(9)

グラナダに入港してきたアレキサンドリアのガディ艦長と会話をしていた。彼に艦への補給は無料であると語っており、会社とともに彼もずるがしこい印象を与えていた。アナハイムの名前はZG以降の物である。しかし年代順で説明すると0083では登場している。宇宙世紀を年表にする時に混乱するのは、作品順と年代が必ずしも一致しない事による。

アムロ・レイ　FG全話・ZG(6〜)

一年戦争編の主人公。サイド7にシャアの強襲があるまでは、内向的で孤独癖のある少年であった。癖は親指の爪をかむこと。趣味はホビー系のものがメインだったようだ。事実、TVの1話でも、顕微鏡を使っていたのは、コンピューターのチップを組み込むためであった。フラウ・ボウにプレゼントしたハロもアムロの手製であるが、子供が作った物とは思えない性能を持っていた。戦火の中でたまたまガンダムのマニュアルを拾ったことにより、ガンダムのパイロットとして戦争に巻き込まれていくことになる。

ガンダムの提唱者であるテム・レイを父に持ち、ガンダムの最終慣熟調整を行う父と一緒にサイド7に住んでいた。サイドの建設技師でもあったテムの仕事柄、アムロは幼少の頃から各地のサイドを転々としていた。故郷は現日本の山陰地方にあり、母カマリアは父と別居して今もここに住んでいる。

母との思い出が少なかったことが、アムロの内向的な性格を助長していたのは、間違いないだろう。年齢は15歳、サイド6でシャアと出会ったときに、年齢を聞かれて16歳と答えたのは、彼の精一杯の背伸びであった。アムロが偶然の出来事からガンダムのパイロットとなり様々な経験をし、成長していくさまに視聴者は自分を重ねあわせて静かな声援を送り続けていた。

ZGでは、一年戦争後の英雄として扱われつつ、ニュータイプの存在に危険を感じた連邦によって地球上に封じ込められてしまった。その時間は彼の精神の疲れは取りはしたが、同時に彼の心を眠らせてしまうには十分なものでもあった。互いに理解しあいながらもララァを殺してしまった事を恐怖として感じだしたのである。その為に再び彼女との様な出会いが起こる可能性を嫌い、連邦によって封じられるままに身をまかそう、と思い込んでしまったのである。だが時代は、もう一度彼の出番を用意した。彼はそれを拒否しようとしていたが、昔の仲間であるフラウ、カツ達によって眠っていた心を覚まされてしまう。一度輝いた者が、もう一度輝き出したのである。それはアウドムラで出会ったベルトーチカに負う所が大きい。彼女は彼の中に欠けてしまった人の強さを、女性として示す事によってそれを彼に再認識させ得たのだ。この瞬間、彼は英雄として再生した。シャアとの確執さえも捨てて…。元々本質的には彼はシャアの事が好きであるのだから、この部分が失われてしまえばさほど心配はないのである。だからこそ彼はダカールでのシャアの演説を上空から護ることさえしていたし、自己嫌悪にひたる彼を叱咤できたのである。ただ、彼にとって無念であったのは、カミーユとフォウを悲劇から救い出せなかった事であろう。自分が七年間苦しみ抜いたのと同じような出来事を目前で行わせてしまったのだから…。しかし彼はそんなカミーユに方向性を与え、導く事に成功する。それが先陣を成した者のする事であり、彼は出来得る限りの事をしたはずである。その結果カミーユは彼の努力もあり自己の中に閉じこもらずに済んだのである。間もなく彼が地球上で行わなければならない事は終わるであろう。その時には彼も再び宇宙へ出てきてララァの魂と再会しなければならない。しかし、今の彼ならばそれも可能であろうと思える。彼は完全に再生を果たしたはずなのだから。

アルテイシア・ソム・ダイクン　FG

ジオニズムの提唱者ジオン・ズム・ダイクンの娘。詳細はセイラ・マスの項を参照。シャアが一目見て、妹であると判断できるくらいの年齢までは一緒に生活していた。優しくて聡明なアルテイシアが軍に居るわけはないと打ち消しつつも、シャアは妹の安否を気遣うのであった。ジンバ・ラルと一緒にいた頃のアルテイシアしか知らないランバ・ラルですら激戦の最中に一目

で姫と気が付いている。

アントニオ・カラス士官　FG(29)

ジャブロー防衛に関しての指揮権を有している防衛士官。その役目は、ジャブロー自体が攻撃を受けたときにのみ果たされる。

育児官　FG(30)

ジャブローにある託児施設の軍の担当者。育児センターに収容されるはずだった、カツ、レツ、キッカの3人をWBに乗り込めるように手配してくれた人である。ガチガチの官僚制で固められた連邦軍の中にあって、子供達にとって、いま何が一番大切かをよく考えて、自分の裁量でチビたち3人をWBに乗船させてくれた。

イセリナ・エッシェンバッハ　FG(10・11)

ジオンの占領下、ニューヤーク市長、エッシェンバッハの娘。パーティーの席上でガルマと出会い、父親の反対にあいながらも、次第に想いを募らせるようになる。一見上品でつつましやかであるが、内に秘めたものは、理想が高いことで有名なジオンの兵でさえも動かすほどのものだ。ガルマの戦死によって、その恋に終止符を打たれたが、その想いの強さから、木馬に仇討ちの戦いを仕掛けていった。アムロの目の前で仇を叫びながら死んだ彼女であったが、そのことがアムロに自分もまた加害者の立場になることもあるのだということを知らしめた。

イリュージョン　FG(21)

ランバ・ラルの部下、ラル亡き後の生き残り部隊16人のうち一人。ハモンの指揮の下、WBに特攻をかけた。

ウッディ大尉　FG(29)

ジャブロー基地における、修理担当士官。地球をほぼ1周し、傷ついたWBをオーバーホールする役を負っていた。マチルダの婚約者。マチルダが命をかけて守ったWBを守るため、ジャブロー内に侵入したシャアのズゴックに特攻をかけ、戦死。このとき赤い彗星の乗るズゴックのモノアイを潰したのは彼の執念だったのだろうか……。

ウラガン　FG(16〜25・37・38)

ジオン軍中尉。マ・クベの元で補佐的な役をこなしていた人物。職務に忠実であったが、その分融通が利かないところがあり、マ・クベは彼のそんなところを疎んでいたようだ。特にマ・クベが執着を待って収集した壺の自慢をしても、まったく関心を持たないあたりがジオンの軍人らしい。テキサスコロニーでのWBとの戦闘で、死亡。

エッシェンバッハ　FG(10)

ニューヤーク市の市長。侵攻してきたジオン軍を絶対に認めようとはせず、その確執から、娘イセリナとガルマの恋愛を認めようとはしなかった。市民の安全のためジオン占領後もニューヤークに留まっているらしいが、本当のところは分からない。

エドウィン　FG(14)

ジオン軍のレクリエーション部隊付の魔術師。もともと彼は『無敵鋼人ダイターン3』のゲストキャラであった。

だからこのとき、彼の芸を見守る観客の中に、ダイターンの主人公・波嵐万丈とその執事ギャリソンがいたのである。

エドワウ・マス

シャアが幼少の時、ジオンから逃れるために使っていた偽名。

エルラン中将　(23〜25)

地球連邦ヨーロッパ方面軍の高級将官。ジオンのマ・クベと密かに通じており、連邦の情報を腹心のジュダックを通じて送っていた。オデッサ作戦遅延の原因は彼によるところが多い。さらにレビル将軍のWBへの援助を怪しみ、マ・クベに報告した事により、ジオンは貴重な戦力をWBに振り向けてしまう。オデッサの作戦の開始直前に、アムロ達の働きによってその行為が発覚し、失脚。これが、オデッサにおける連邦の勝利の大きな要因となった。

オスカ・ダブリン　FG

マーカーと共にWBのオペレーターを担当する16歳。当初からWBには訓練兵として乗り込んでいた。レーダーと対空監視は、マーカーと二人で負担する。トロそうな顔をしているが、仕事はキチンとこなしているのである。

オムル・ハング　FG(7〜)

WBの乗務員。メカニックマンの養成員だった。現在メカマンのチーフ的存在で、ガンダムやGメカの修理を中心に行っている。ガンダムタイプのシミュレーション訓練も一応行っている。

おばさん　FG(13)

アムロの生家の近くに住むおばさん。アムロの幼なじみだった、コミリーという女の子のお母さんである。だがコミリーの一家は、このおばさんを除いて、全員戦争で死亡していた。リンゴなどの雑貨や食料品を売って生計を立てていたところをアムロと偶然出会い、アムロの母、カマリアの居場所が難民キャンプである事を教えた人。

オルテガ　FG(24・25)

キシリア直属の部下、黒い三連星の一人。大男である。黒い三連星とは、赤い彗星と並ぶジオンの英雄。その戦歴は輝かしく、ルウム戦役(サイド5戦)のときは連邦のレビル将軍を人質に捕ったことさえある。もともとザク(MS-06R)を黒く塗り、カスタムメイド化した機体を使っていたために、黒い三連星という名で呼ばれるようになった。彼らはジェットストリームアタックというMSを使った技を得意とし、オルテガはその攻撃法によって常に3番目のしんがりを努める。24話では、そのジェットストリームアタックをマチルダの指揮するミデア輸送機に邪魔されたためミデアのコクピットをマチルダごと潰し、撃墜。その後、オデッサの戦いで、ガンダムとGスカイの攻撃により戦死。

か行

ガイア　FG(24・25)

ジオンの黒い三連星のリーダー。荒

削りで粗野な感じのする、自信家の兵士。実力を重んじるキシリアの直属の部下ということからも、歴戦の勇士である彼らの力が伺い知れよう。連邦のオデッサ進攻作戦に対して、マ・クベを援護するために、地球に下りてきた。だが、生粋の軍人である彼らとマ・クベは、あまりウマが合わなかったようだ。彼らの対比は、まるで体育会系と文化会系のノリであった。共に長い間戦ってきた3人組のため、仲間意識が強く、黒い三連星の一人、マッシュがガンダムに殺されてからは、ガンダムを仇として狙っていた。だが、返り討ちにあう形でオデッサの戦い終盤に、ガンダムによって撃破されてしまった。

カイ・シデン　FG

プエルトリコ系の18歳。父親はコロニー関係の技師であった。それで開発途中のサイド7に移住して来たのだが、そこでジオンの侵攻に合い、WBに乗り込むこととなる。主としてガンキャノンに搭乗。当初は日和見主義で、口数が多く、一人では何もできないという、どうしようもないキャラクターだった。そのため他のクルーからも冷ややかな目で見られていたが、過酷な生き残りの戦闘を繰り返していくうちに、次第に周囲の人々との協調性、優しさの表現などを学んでいった。とくにミハルとの事件があった後は、人間としても大きく成長した。

ZGではアムロと同じように、連邦により宇宙に出ることを封じられており、フリーのジャーナリストと言うわどい仕事に就いている。それまでにはきっとミハルの妹や弟の行方を探し回った事であろう。だが、彼等の消息は不明であったはずである。

また、味方陣営にシャアの姿を発見し、彼と一緒に行動するのを嫌うが故にアウドムラから去り一人で行動を続けていく。理由は「偽名を使って地球連邦政府と戦うシャアは嫌いだ。奴は本来、もっとできる男のはずだ。俺はそう思っていた。なのに、地球圏に戻って、ドンパチしかやらんとは、卑怯だ……云々」というハヤトへの手紙に表されている。シャアに苦汁をなめさせられた者としては感じても仕方のないものであろう。だが、彼の思惑通りにダカールで演説をするシャアの姿を酒場でテレビを通じて見ながら彼は何を思ったのであろう。シャアの悩みを見抜いていたから再び姿を現さないのだろうか…。性格的には七年前と大して変わっておらず、斜に構えていてレコアが屈辱を受けた事に対してもヘイヘイとしていた感がある。だから未だに独り身なのかもしれない。白のスーツでアマゾンのジャングルに現れた時には、古くからの女性ファンを相当数失ったであろう。

カツ・コバヤシ　ZG(13～)

旧姓はカツ・ハウイン。両親が義理の者である事、アムロが鬱屈していた事、自分が宇宙に出られない事、その他モロモロの事が彼を生意気な子供にしてしまっていた。三年前のあの素直

さが嘘のようである。
しかし、本来の純粋さは失われていなかった。彼はそれをサラに示したかったのであろう。彼女の心と共にありたいが為に、彼女の心を引き込んでいってしまうシロッコに対して異常な程の敵意を示していた。しかし、その彼を倒すはずのビームを彼女が身をもって防いだ時、彼は人の心の哀しみを確かめてしまい、そしてさらにガムシャラに突き進んで行き死んでしまった。だが彼は死してやっと彼女と一緒になり、素直さを取り戻した。もしかしたら彼はアムロよりも先へ行ったのかも知れない。ただし、〝死〟という代償を払っての上であるが…。それがこの時代の人々の限界であったのである。
旧WBの乗組員で最初の死亡者であった。

カツ・ハウイン　FG

WBの名物チビちゃん3人組の一人。3人の中では一番お兄さんで、年齢は8歳。カツ・レツ・キッカの3人は、サイド7でジオンの侵攻があったときに、3人とも両親が亡くなってしまい、それ以来フラウ・ボウを姉として慕っている。フラウ・ボウも3人に両親が見つかるまでは面倒を見るという約束をしているため、WBではフラウが3人の両親の代わりをしていたのである。彼らはまさに宇宙時代の申し子。心が純粋な分だけ、確実に真の意味でのニュータイプに近い。

ガデム　FG(3)

補給艦パプアの艦長。ドズル軍の指揮下にある補給部隊の歴戦の勇士である。シャアの依頼を受けたドズルの命によって、3話で補給艦パプアを駆って、ルナツー付近までやって来た。無骨な職業軍人といった感じの男で、高年齢を精神力でカバーしている。ザクの旧タイプを愛用しているところをみると、彼はどうやらザクタイプ以前からのMSのテストパイロットもやっていたようである。旧ザクでガンダムに特攻をかけるも、ビームサーベルの一閃で戦死とあいなった。シャアに対して、補給部隊としての意地と貫禄を見せつけた。ジオンには戦争目的をきちんと持っている軍人がいるのだな、ということを我々視聴者に教えてくれた最初の人物である。

ガバラ　FG(6)

ガルマのガウより降下したザクの小隊長。地上部隊のマゼラアタックと連携して、ガンダムに波状攻撃を浴びせるが、ガンダムのパワーの前にザクごとマゼラアタックに叩きつけられ死亡。

カマリア・レイ　FG(13)

アムロの実の母。宇宙の生活に馴染めないという理由で、夫テム&アムロと別居していた。母親が一番必要だった時期のアムロに彼女がついていなかったのは、アムロにとって大きく精神的影響を与えた。長い別居のせいで、アムロは母に対する失望の想いしか残っていなかったのだ。そんなアムロと母との再会は、13話のように悲劇で終わるしかなかったのである。アムロが

ララァに言われた「守るべき者が何もない」という台詞は、アムロの家族関係に対して言われた言葉だった。端的に言えば、アムロはニュータイプとして覚醒できる素質を持っていたが、地球にこだわって自分のエゴを捨てきれなかったカマリアは、オールドタイプの代表的存在だったということである。

カミラ　FG(5)

サラミスの乗組員。リードの部下で、楽天家である。物事を良い方へと考え、それが現在の自分を形成していると信じている。

カムラン・ブルーム　FG(33・35)

サイド6の検察官。ミライの婚約者であったが、ジオンの地球侵攻の際、離ればなれになってしまった。サイド6でミライと再会し、永住を勧めるが、すでにお互いの住む世界の違うことをミライに指摘され、別れを告げられる。性格的にも親のスネかじり的なところがあり、風采の上がらないタイプである。だが心からミライのことを想っている。地味であるが、まともな政治折衝が出来る人間として、「逆襲のシャア」で、大活躍をした。

カムラン級のパイロット　FG(35)

サイド6を出港するWBを見送るためにカムランが高給でチャーターした民間パイロット。当たり前だが、コンスコン隊とWBの戦闘に巻き込まれそうになるのをおびえていた

カヤハワ　FG(33)

ジオン軍少尉。コンスコン隊所属。サイド6に寄港していたWBを、リック・ドムで偵察していた。

カラハ　FG(27)

ズゴック搭乗員。ガンキャノンと対戦し、窮地に陥らせたが、ガンダム&ガンタンクの連携プレイの前に爆死。

カル　FG(18・25)

WBの乗務員。カイを小さくしたような少年。小言が多い。メカニックを担当している。当初は設定書にも名前がなく、出てくる名前で「こっちがカルか?」と推理していた。

ガルマ・ザビ　FG

デギン・ザビ公王の四男。姉キシリアの突撃機動軍の大佐で、地球攻撃軍司令という要職についている。赤い彗星のシャアとは士官学校時代の同級生で、彼を信頼できる親友だと信じきっている。おぼっちゃん育ちのせいか、人を疑うことを知らず、利用されやすい。そのため、戦略に甘さがみられ、WBの戦力を見抜くのが遅れた。最後の一瞬まで、シャアの企みに気づかず、WBに特攻をかけ、爆死。むくわれることのないイセリナとの恋に情熱を燃やすような、純粋な一面も持っている。母ナルスとは幼少の頃に死別している。末っ子のためか、キシリア、ドズルに特にかわいがられていたようだ。また、その甘いマスクのため、ジオン公国においては戦意高揚としても一役かっていたようである。

ギーン　FG(17・20)

ランバ・ラル隊のザクのパイロット。戦死したアコース、コズンに代わって

ザクに乗り込み、ランバ・ラルのグフを支援する。ラル達がWBに特攻をかけた時に囮としてザクで出撃するが、セイラの操縦するガンダムとの交戦中に戦死。

キシリア・ザビ　FG

公王デギン・ザビの長女で、地球からの資源調達と地上制圧のための突撃機動軍を統括している。階級は少将。弟ガルマの直属の上司にあたる。政治的な手腕に長けており、兄のギレンを将来の政敵と見なしている。そのためかギレンに対抗する仕事が多い。例えば、マ・クベに命じてユーラシア大陸のレアメタル鉱山を押さえていたのは、ギレンが木星船団を組んで、ヘリウム3を収集させていたことに対するものだろうし、サイド6の中立化政策もキシリアがギレンを意識して打ちだした政策である。また、ギレンが人間不信的なところがあるのに対し、キシリアは早くからニュータイプを認めるなど、あくまでも人を信じようという考えが見うけられる。その考えは彼女が幼い頃、ジオン・ズム・ダイクンの思想に共感したからではないだろうか。そう考えると、キシリアがシャアを、その正体を見破りながらも重んじていた理由が分かってくるだろう。ただ、若干彼女のニュータイプに対する考え方が歪んでいるのは、戦争の指導者としては仕方がないと言えよう。

表面は冷たい「鉄の女」を装いながらも、その実、人間を信じていたいキシリアは、自分の部下であったシャアによって、バズーカで頭部を吹き飛ばされるという悲壮な最期を遂げる。ここに彼女にガルマと同様の甘さをかいまみることが出来る。

キッカ・コバヤシ　ZG(13〜14)

一年戦争の時にはカツやレツと一緒にWBに乗り込んでいた女の子。ア・バオア・クーからアムロを助け出す時に3人揃ってニュータイプとしての能力を示した事もあった。それが為に現在は子供ながらも連邦からマークされている。フラウとハヤトが結婚した後、養子になった為に名前が変わった。旧姓はキッカ・キタモト。宇宙へと出る為にカツがアムロと行動を共にした時も、彼女はフラウとフラウのお腹の赤ちゃんを護る為にレツと地上に残った。3人いつも一緒に行動していたのが離れ離れになってしまったのである。カツが宇宙で死んだ時、彼女は宇宙を見上げる事ができたであろうか。

キッカ・キタモト　FG

WBの生活班に所属するチビちゃん3人組の一人。4歳。階級は……おそらくないでしょう。元気でおちゃめな女の子。補給班の邪魔者として活躍する乗務員のマスコット的存在。艦内の掃除は彼女が筆頭で働いていた。足がとても器用で、ブーツを脱ぎ捨てロープをほどく事ができる。最終話でアムロの位置を知り、ア・バオア・クーからの脱出に大きな役割を果たす。『ガンダム』の中で最も純粋なニュータイプの一人。

キャスバル・レム・ダイクン　FG

シャアの本名。ジオン・ズム・ダイクンの遺児で継承者。キシリアは3歳の時のキャスバルをお守りした事があった。シャア・アズナブルの項参照。

キャリオカ　FG(28)

ブーンの部下で軍曹。ベルデ諸島の漁業組合と称して、ブーンと共にWBへの潜入に成功。ブーンは、ミハルからの情報をシャアのもとに流すことに成功する。ジオン訛りが強いからしゃべるなとブーンに注意されていたが、いったいどのような訛りなのだろうかというのは放映中からの話題である。

ギャル　FG(14)

クワランの仲間で軍曹。パトロール隊唯一のザク・パイロット。クワランの話に一口乗り、ザクでマチルダ機を襲撃しガンダムをおびき出す役を負った。局地兵のため、装備も満足になかったらしく、ザクを整備する様は、涙を誘った。逆にこういった兵士の日常生活が描かれた事でガンダム世界が身近になった側面もあり、MSVであるザクタンクが何の抵抗もなく受け入れられる要因となっている。

ギレン・ザビ　FG

デギン・ザビの長男。冷徹で頭の切れる男。父デギンの隠居と共にジオン公国の実質的な指導者となった。彼の唱える有能人種生き残り説は、無能な人種を切り捨て、ジオンを中心とした社会を創るという、一種の選民思想であり、また、冷徹なまでの合理的計算に基づいた人口整理としての考えである。自分の思想を最上のものとし、自分以外の人間を蔑すんでみるようなところがある。独裁者の長男として育った彼が、他人を愚民として見るようになったのも無理はないことといえよう。だが、そんなギレンの考え方は、彼に多くの敵を作っていった。連邦宇宙艦隊への最終兵器であるソーラレイ・システムを全艦隊の集結する前に発射したのもそうである。和平交渉に向かった父デギンを、弱腰とみなしレビルら連邦主力艦隊と共に葬り去る為にゲルドルバ照準で発射しているが、もう少し後にすれば、連邦の半数までもが葬れたはずである。一番の政敵となる可能性のあったキシリアをみくびっていた節もある。野望を持つ妹キシリアに「親殺し」として射殺されてしまったのはギレンの誤算であったろう。

だが、ギレンの持つ野望は、人間なら誰しも持つ可能性があるという点も忘れてはならないだろう。「ヒトラーの尻尾」と実の父親であるデギンに言われた事もあった人物。

金髪の美少年　FG

WBの攻防で拳銃を振り翳していた少年。ジョブ・ジョンに似ているが、あまりにも美形に描かれているので別人とされている。当時の編集部では設定書が見つからず、「麗しの美少年は謎の人」とうわ言のように呟く人間が続出した。

ククルス・ドアン　FG(15)

ザクの操縦にも熟達した一級のジオ

ン軍兵士だったが、焦土作戦に参加した際、住民の皆殺しを命令され、ザクに搭乗したまま脱走。東シナ海の孤島に、作戦時に命を助けた少年少女達と共にくらすようになる。ある意味ではジオンの兵士の道徳心の高さを象徴していた人物だった。が…以下省略とされる場合の多い不遇なキャラクターである。

クム　FG(15)

ドアンが育てていた孤児の一人。

クラウレ・ハモン　FG

ランバ・ラルの愛人。ルウム戦役の戦火の中、ラルと出会い、助けられる。以後、ラルの側に影のように寄り添う美しい女性。ラルは、ハモンにとって三人目の男。彼女にとっての最初の男はジオン・ズム・ダイクンであった。ガルマの仇討ち部隊として地球に降りてきたラルは実直な男で、彼女なりに彼を理解し補佐していた。ラルの死後、自ら指揮を執りラルの遺志を継ごうと少ない武器を駆使して、木馬へ特攻をかけるが、リュウの捨て身の攻撃に倒れる。隊内におけるハモンの立場は、正式な軍人ではないにもかかわらず、相当な発言力を有し、ラルの部下たちからも慕われていた。

アムロとの関わりは印象深く、人としても女としても強く、ある意味においてマチルダとは対照的なところの理想の女性であると言えよう。

クラウン　FG(5)

シャアの部下のザク・パイロット。WBが大気圏を突入するところを狙って、シャアと共に出撃するが、ガンダムとの戦闘が長びいた結果、大気圏に突入、その摩擦熱によって、ザクもろとも燃え尽きた。

ザクとガンダムの性能差を視聴者に納得させる為に散った悲惨なキャラクターであった。

クラフト　FG(30)

シャアの部下でGM工場破壊工作員の一人。工場内に爆弾を仕掛け、その後アッガイに搭乗して攻撃を仕掛ける。

クランプ　FG(12～)

ランバ・ラル隊の副官。ゲリラ戦のスペシャリストとして、ラルの信頼を得ている。クランプ隊(突撃揚兵部隊第2班)を指揮してWBに突っ込む際、全身に銃火を浴びて、戦死する。

クリンク　FG(23)

マ・クベの部下で、ジオン軍中尉。ヘイブ、マーチらと共にマチルダのミデア補給部隊を襲った際、戦死する。

クワトロ・バジーナ　ZG(1～)

シャアの偽名。本来はジオン・ズム・ダイクンの息子である彼の本名はキャスバル・レム・ダイクン。ジンバ・ラルにより地球に逃亡しザビ家から逃れる為の偽名はエドワウ・マス。一年戦争では父を暗殺したザビ家への復讐の為にジオン公国軍に入り、シャア・アズナブルを名乗ってザビ家に近づいていった。結局ザビ家の最後のひとりキシリアを殺した事で復讐すら果たしてしまった彼は、一時期ジオンの残党の集まりであるアクシズへ行き、ミネ

バと共に暮らしていた。しかし、そこは自分の居場所ではないと悟り再び地球圏へとやって来た。地球連邦軍の軍籍を偽造し、エウーゴの幹部となる為に使った名前が、4番目の偽名「クワトロ・バジーナ」である。だが、その戦いにおいてはシャアやジオンの忘れ形見という名を持つ者は、宿命を背負わねばならなかった。指導者、カリスマにならねばならないのである。彼は決してダカールでの演説などはしたくなく、それでもやってしまった自分の事を〝人身御供〟と語って蔑んでいたのであるし、彼の悩みの根幹となっていたのだった。結局は、「逆襲のシャア」において、自分の信念を貫き通し、アムロと共にララァの居る場所に還っていくのだった。(すごい解説だなと自分でも思う)

クワラン　FG(14)

極東に位置する、独立パトロール隊の下士官で、位は曹長。サイド3で生まれ、育った世代である。サイド3は比較的、初期に作られたコロニーであるため、生態系に不必要であると判断された害虫などは、地球から持ち込まれなかった。そのため、極地戦を行っていたクワラン達にとっては、地球は非常に汚らしい所だったようだ。20年経っても彼の台詞が視聴者の脳裏に焼き付いているのは素晴らしい。自分達の故郷に戻るためクワランは連邦の新兵器を自分達の手で撃破しようとする。歩兵が戦車に地雷をはりつける要領で、プラスチック爆弾と、ワッパを武器にしてガンダムに迫る。彼らの取った戦法は、アムロをシリーズの中で最大の危機に陥れた。それでいながら、必死で爆弾を取り外すアムロに共感して、顔を見る為に青年団に化けてやって来るあたり憎めないキャラクターである。

軍務官　FG(30)

連邦軍ジャブローの基地内士官。WBクルーに階級証を手渡した。その際、戦死者に対する上層部の態度に反感を持ち、つめ寄るアムロを殴った人物である。

ゲビル　FG(6)

ガルマの部下。ドップ戦闘隊長で、ガウ攻撃空母より発進しWBを攻撃する。不慣れなWB乗員は、この当時はドップ編隊ごときで追い詰められたのであった。

コーリー　FG(8)

WBの避難民の一人。ペルシアの息子。母親と二人でサイド7に移住していた。ペルシアはコー君と呼ぶ。故郷の町セント・アンジェは消えうせていても、ペルシアならば、必ずコーリーの故郷を作れたものと信じたい。

コズン・グラハム　FG

ジオン軍少尉。ランバ・ラルの部下で、ザクパイロット。ザクで戦闘中に、アムロ搭乗のガンキャノンに捕らえられ、WBの捕虜となった。さすがに歴戦をくぐり抜けてきただけあって、義歯に仕込まれたプラスチック爆弾を使って、素人集団のWBの独房から簡単に脱走。その情報をラル隊に送ること

に成功した。だが、セイラ達の追撃によって、第十八ハッチより脱出する際に、オムルの発射したバズーカにより爆風に巻き込まれ、死亡する。

ゴップ提督　FG(29)

連邦軍本部ジャブローにおり、階級は大将。WBにティアンム艦隊への配属を通達した。連邦の古狸といった存在で、経済界にも深く通じているようでミライにいらん事を言うものだからブライトとミライの関係がギクシャクしてしまう。レビル将軍が肩入れしているWBを煙たがっているようで、独立部隊といいつつも危険な囮任務を命じる。

コミリー　FG(13)

アムロの幼な友達。戦火に巻き込まれて死んでしまったかわいそうな女の子。昔よくアムロと丘の上の教会に遊びに行ったそうである。現在そこには難民キャンプがある。

コム　FG(5)

シャアの指揮のもと、大気圏突入直前のWBに強襲をかけたザクパイロット。ガンダムハンマーの強烈な直撃により、ザクもろとも爆死した。ガンダムハンマーで破壊された機体はこのひとつだけである。

コワル　FG(33)

シムスの助手で少尉。ブラウ・ブロのテストパイロットである。シムスと共にブラウ・ブロのテスト中、ガンダムと遭遇し、攻撃を仕掛けてしまう。

コンスコン　FG(33・34)

ドズル直属の部下。階級は少尉。もともと自分の部下であったシャアが、キシリアの部下となっているのが気にくわないドズルが、その無能さを暴くために、みずから重巡チベを与えて、派遣した人物がコンスコンである。コンスコン自身、シャアを良く思っておらず、一種の焦りと嫉妬をシャアに感じていた。シャアへの意地のために、中立のサイド6の領空内で、新鋭重MSリック・ドム12機を使い戦闘を仕掛けたが、ニュータイプの能力に目覚めつつあったアムロによって、チベと共にあっという間に沈められた。「シャアはなぜマスクをかけているのか?」という素朴な疑問を口にした唯一の軍人。

さ行

サイドフ指令　FG(1)

連邦軍中佐。この地におけるV作戦の実質的な責任者である。WBをサイド7に入港させるが、その直後、シャアの攻撃が始まり、ムサイからの初弾をゲート付近に受け、死亡する。

サグレド　FG(19)

ランバ・ラルの部下で、ソドンのレストランでマイルと見張りに立った兵士。おかげで彼らは、作戦前の最後の食事を食べ損ねたようだ。

サンマロ　FG

WBにおいて、マサキと共に医療面を担当している少年。仲間が病気にな

ったときや、怪我をしたときにのみ活躍し、初めて画面で目立ったのは、ブライトが病気になったときだった。眼鏡をかけたりかけなかったりすることで、人相が変わってしまうので、要注意。ハヤトが負傷した時の輸血担当。

ジーン　FG(1)

1話で、シャアが率いていた小隊のザクパイロット。新兵である。命令違反をして、サイド7のガンダム試験場に単独で攻撃を仕掛けてしまう。初めてMS同士の戦闘を経験した兵士である。彼のザクはサイド7から脱出する際に、ガンダムによって破壊され、死亡した。その際の爆発でテム・レイは行方不明となる。

ジェイキュー　FG(5)

大気圏突入直前のWBに特攻をかけたザクパイロットの一人。至近距離からガンダムのバルカン砲の直撃を受け、ザクと共に爆死。

ジオン・ズム・ダイクン　FG

ジオン公国の前身である、ジオン共和国の創始者であり、初代大統領。ジオニズム(サイド国家主義)を唱え、それを実践するために、サイド3でジオン共和国の独立を宣言。地球至上主義の連邦と対立を深めていく。その後、病死するが、ザビ家の暗殺説が囁かれていた。デギン・ザビを後継者として指名したと言われているが、事実は定かではない。

彼の死後、ジオン・ダイクンの遺志を継ぐという名目で、ザビ家はジオン公国を名乗り独立宣言を出し人民を掌握しつつ独裁主義に染まっていった。

首都にズムシティと名前を付け、ダイクンの思想を受け継ぐ者として国民を騙したのである。ジオン自身ニュータイプの始祖であり、その思想には宇宙時代を背景とした新しき生家の土壌を築くといった意味も含まれている。詳細は「歴史編」参照

ジオンの老人　FG(40)

ジオンのマハルコロニー居住者。コロニーからの強制退去中に、孫と別れ別れになってしまい、孫を探そうとし、スペースバスの搭乗順を乱しジオン兵に咎められた人。混乱期の作画なので、エッシェンバッハ家の執事を流用している。

士官　FG(25)

オデッサ作戦開始直前に、スパイのジュダックが操縦するドラゴンフライがビックトレーに乗り込んだ事を聞かされ、アムロを囮としてエルラン少尉のシッポをつかもうとした人物。そのためにアムロは生命の危機にさらされたのである。この士官の機転がなければ、オデッサ作戦は連邦の勝利にはならなかったかもしれない。

シムス・アル・バハロフ　FG(33・38)

ジオン軍のニューダイプ用MAブラウ・ブロ開発のスタッフの一人で階級は中尉。いかにも自立した女性といった感じの人物であった。ブラウ・ブロのテスト中、Gアーマーに発見され、攻撃をかけられるが脱出。その後、シャリア・ブルと共に出撃をした。だが、

ガンダムのビームライフルを受け、爆死。ジオン公国の兄弟間の覇権争いのワリを食ってしまったかわいそうな女性である。

シャア・アズナブル　FG

赤い彗星の異名を取る、ジオン軍の有数の戦士。登場時にはドズル旗下の宇宙攻撃軍少佐。後にキシリアの配下となり、突撃機動軍の中佐から大佐へと昇進する。1話において、彼の率いる特務隊が連邦軍のV作戦を発見したことが、この物語の発端となった。頭脳明晰・冷静沈着・優れた運動神経と、戦士として群を抜く才能を持つだけではなく、かなりの策士でもある。つねに仮面を着用し、他人には素顔を見せない。前線においては赤いMSに乗り込み、自ら出撃する。ルウム戦役の功績で、20歳の若さで少佐となる。この異例の出世に関しては、彼の友人で士官学校同期であったガルマ・ザビの取り計らいであったとも言われている。ガルマは将来的にシャアを自分の参謀にするつもりであったようだ。

また、その洞察力の強さには驚異的なものがあり、ジオン軍の中で彼のアイデアが幾つも採用されている。軍の戦略的なもの、ソーラレイ・システム、サイコミュはすべてシャアの発案によるものであろうと推察される。おそらくシャアはザビ家を分断するために、そのアイデアを兄弟達に教えていたのだろう。すなわち、軍の戦術的なもの(つまり自分自身)はドズルに、ソーラレイはギレンに、ニュータイプを含めたサイコミュの発想はキシリアに、という具合いだ。先読みのシャアと言われたルーツはここにあったのだ。

シャアの本名はキャスバル・レム・ダイクン、ジオン・ズム・ダイクンが実の父だ。父ジオンをザビ家によって暗殺された、いわゆる亡国のプリンスである。彼がジオンに潜入し、少佐の地位にまで上りつめたのは、父の仇討ちのためであった。その能力が突出している割に、考えに俗っぽい所があるのは、幼少時代を地球で過ごしたせいであろうか。ともあれ、彼はガルマを死に追いやることに成功するのだが、その後、戦闘時におけるニュータイプの発現に注目し、ザビ家打倒の目的が徐々に変わっていくこととなる。すなわち、真の人間の改革をその目で見てみたいという欲求に変わっていったのである。

だが彼のそんな願いも、戦場の中で脆くも崩れさった。連邦のニュータイプ、アムロ・レイの存在のためである。自ら発掘したニュータイプ、ララァ・スンをガンダムによって撃破されてしまった事で、彼はいったん人生の目的を失ってしまった。ついには素手でアムロと戦うはめに陥るのだが、最終的にはア・バオア・クーから脱出しようとするキシリアを、ザビ家打倒の終止符として葬った。ガンダムの最終章で彼自身の生い立ちにピリオドを打った訳である。

シャリア・ブル　FG(39)

ジオンの木星船団の指揮官で大尉である。潜在的なニュータイプの能力を買われ、ギレンからキシリアのもとへ送られる。これは、ギレンの政敵となりつつあるキシリアへの牽制であった。この当時キシリアは、シャアの示唆によりニュータイプ部隊を非常に重んじていたからだ。シャリア・ブル本人は、そんな政治の裏取引に翻弄される自分の立場をよく理解しており、自由に身動きできない自分をシャアに皮肉ったりしていた。シムス中尉と組んで、サイコミュを搭載しているブラウ・ブロを任され、そのニュータイプとしての能力を発揮させる。だがニュータイプとして覚醒しつつあったアムロのガンダムの前に倒れた。

ジュダック　FG(22・25)

エルラン中尉の腹心でマ・クベと通じていたスパイ連絡員。マ・クベのダブデから出て来る所を、Gアーマーの慣熟飛行をしていたアムロとセイラに見つかり、エルランの裏切りが発覚する。レビル将軍もジオン側にスパイを送り込んでいたのは確かで、黒い三連星が地球に降りた話などは、連邦に即刻伝わっている。エルランはジュダックがWスパイではないのかと疑っていたが、真相は定かではない。

女医先生　FG(29)

ジャブローにドック入りしたWBの乗組員(女性と子供)の身体検査を担当した。子供の扱いが非常にうまい人であった。

情報収集艦艦長　FG(26)

スパイ107号(ミハル)からWBに関する情報を、マッドアングラーにいるシャアに連絡した人。

情報収集艦通信員　FG(26)

スパイ107号(ミハル)からの連絡を受け、それを艦長に報告した。

ジョブ・ジョン　FG(8〜)

WB乗組員の1人で、予備パイロット。本放送中に話題になった謎の金髪の少年は、どうやら彼ではないかという説もあった。しかし、作画の乱れにしては雰囲気が違うので、かつてアニメックの付録としたガンダムカルタにある『金髪の美少年は謎の人』でいいだろう。

クルーが極端に少ないWBにあっては、ジョブ・ジョンは何でも屋として扱われている便利な少年だ。アムロ達と同様MSのシミュレーション訓練も受けているので、リュウ亡きあとは、ガンタンクの操縦も行っていた。

ジル　FG(27)

ミハルの弟で、ミハルが留守の間を妹のミリーと一緒に守っている。しっかりした少年。

シン少尉　FG(36)

ソロモン攻略戦で、ソロモン内に侵入。その際にドズル操るビグ・ザムと接触、その強力なメガ粒子砲にやられ戦死。やられ役の割には出番が多かったし、人名事典に必ず名前が乗る。たいていの兵士はABCで表記され、多い時にはXYZまでいたりする。

ジンバ・ラル　FG(20)

ランバ・ラルの父親でジオン・ダイクンに仕えていた忠臣である。ジオンの忘れ形見であるキャスバルとアルテイシアを暗殺から守る為に地球に亡命させ、偽りの名であるエドワウとセイラと名付け、二人を地球で育てた人物。シャアに一種の帝王学を学ばせたらしいのだが、少しばかり方向性を間違えたようである。

ステッチ　FG(17・19)

ランバ・ラル隊のザク要員アコース、コズンに代わってギーンと共にグフ支援の任務に就く。その後、WBへラルのグフと共に応急強化したザクで出撃。ガンタンクを戦闘不能にするが、WBを回り込んで後方より攻撃した際に戦死。

スミス　FG(5)

サイド7から脱出した民間人。サイド7に来る前は南米でコーヒー園を営んでいた。半ば強制的にサイドに移住させられたため、連邦に対して良い印象を持っていなかったようだ。サイド生まれの孫、ペロに地球を見せてやれることを喜んでいた。「俺は地球に骨を埋めるんだ」という彼の台詞には、地球を捨てきれないこの老人の悲哀を感じさせる。

スレッガー・ロウ　FG(31・35)

WBがジャブロー発進寸前に、戦死したリュウの補充要員として配属された。階級はブライトと同じ中尉だが、指揮権は先任のブライトにある。それまで文科系のノリであったWBに、体育会系のノリの彼は多少浮いていたが、兵としての実力は確かな物を持っており、追撃するザンジバルにただ一人主砲を命中させてからは、WBに溶け込むのも早かった。ミライが束の間の恋をするが、スレッガーはうまく捌いていた。ソロモン攻略戦でのビグ・ザムとの戦いで、ガンダムを突入させる楯となって戦死する。WBの中で唯一大人だったことが、死期を早めてしまったようだ。

スレンダー　FG(1・2)

シャア配下の兵士で、ジオン軍軍曹。サイド7へ偵察任務で向かったデニム小隊の一人で、V作戦を確認した後ムサイへ帰投。再びシャアに従ってサイド7に潜入、脱出後ザクでガンダムに向かうが、ビームライフルの直撃を受け、戦死。

ゼイガン　FG(19・21)

ランバ・ラル隊のひとり。偵察任務が得意で、バイクでフラウ・ボウのあとをつけ、WBの居場所を探った。

セイラ・マス　FG

聡明な17歳の少女。本名はアルテイシア・ソム・ダイクンで、ジオン公国の創立者ジオン・ズム・ダイクンの娘である。ザビ家が主権を確立した際、当時7歳だった彼女は、兄のキャスバルと共に名を変え、サイド3を脱出、地球へ渡る。幼少期をジンバ・ラルの元で過ごすが、兄が消息を断ったのちに、彼女もサイド7に移住していく。

サイド7が、ザクに強襲された際、WBに避難し、乗組員になる。医者と

なる勉強をしていたことから、当初WBでは医療面と通信面を担当していたが、後にGファイターのパイロットとなる。(インカムをつけたセイラのファンは予想以上に多い)。

戦火の中での兄との再会や、同僚の死は、彼女を大きく成長させたと同時に、ニュータイプとして目覚める契機となっていった。不幸な境遇のせいか、一種独特のかげりがある。ZGでは出ないはずだったのだか、出たもんはしょうがない。

セキ　FG(24)

連邦の技術大佐。ガンダムのパワーアップメカであるGメカを携えてマチルダと共にWBにやってきた。物静かな感じのする人物。度重なる激戦で満身創痍になっているWBの原子力エンジンを直すのが任務である。オデッサデイ寸前の到着でありながらも、かろうじてWBが戦いに参加できたのは、セキ技術大佐の力によるところが多い。

ゼナ　FG(35・36)

ドズルの妻。ソロモンにいたが、連邦軍の攻略のため、万一を考えるドズルによって、娘のミネバと共に脱出ポッドでソロモンを出る。グラナダに向かう途中でマ・クベ大佐によって救出された。ソロモンが落ちたことをマ・クベに知らされ、夫の死を嘆いた優しい女性。戦後、アクシズで病死。

ソル　FG(14)

クワランの仲間。司令官直属の通信兵で、ガンダムの情報は彼が聞き出した。ギャルらと作戦に参加する。18歳。

た行

タチ　FG(15)

ドアンが育てていた孤児の一人。

タチ　FG(21)

ランバ・ラル隊の将校で、ジオン軍中尉。ラル亡き後、ハモンを補佐し、少ない残存兵力を結集してWBに最後の特攻をかける。自ら最後のザクに乗り込み、作戦を援護するが、ガンダムとの戦闘中、味方のマゼラトップの砲撃に当たって戦死する。

タムラ　FG(9・16・33)

WBのコック長。少ない物資をやりくりして、常に乗組員達の栄養管理に気を使っている日系人のおじさん。補給もなしで難民が多数乗船していた時には、かなりやりくりしていたようである。

ダロタ　FG(12)

ガルマ・ザビの直属士官で、ジオン軍中尉。戦死したガルマの仇を討つべく生き残った部隊を再編成し、イセリナと共にWBを強襲した。ドップもないまま、残存するガウの3機編隊を使って攻撃を仕掛けるが、ガンダムの迎撃を受け、戦死。

ティアンム提督　FG(35・36)

ソロモン攻略戦の最高指揮官で、攻略戦主力艦隊(ティアンム艦隊)の旗艦から指揮をしていた。ソーラ・システムという新兵器を使用し、ソロモンを

陥落まで追い込むが、ビグ・ザムの特攻によって旗艦マゼランと共に爆死した。

チェーミン・ノア　ZG(17～)

ブライトとミライの間の子供。ハサウェイの妹である。

チヨ　FG(15)

ドアンが育てていた孤児の一人。女の子である。

デギン・ソド・ザビ　FG

ジオン公国の公王だが、今は隠居の身である。ジオン共和国の創立者であるジオンを暗殺した後、共和国制を公国制とした。ジオニズムを実践しつつ軍事国家制とし、一族による独裁をサイド3に敷いた人物である。MSという新兵器を戦力として蓄えた上で地球連邦に対立し、独立戦争を起こした。自己顕示欲の強い独裁者であるが、身内の情には甘い。戦局が願わない方向に進んでしまったため、局面を打開しようと和平交渉のために、グレートデギンで連邦主力艦隊を率いるレビルのもとに向かう。しかしその際、和平交渉に反対するギレンにより、ソーラレイの直撃を受け、レビル艦隊と共に葬られてしまう。暗殺によって政権を手にいれた独裁者の悲惨な最期であった。

デニム　FG(1)

シャア指揮下の古参兵で、ザクパイロットを努める曹長。物語の冒頭にジーンと共にサイド7に侵入し、連邦軍のV作戦を発見する。が、功を焦った部下のジーンを押さえきれず、史上初のMS同士の戦闘によって死亡。アムロがガンダムに搭乗するきっかけを作った人物である。

デミトリー　FG(32)

トクワンの部下で曹長。トクワンの仇を討つべく、シャアに無断でザクレロで出撃する。しかし、ガンダムのビームサーベルで倒された。

テム・レイ　FG(1・33・34)

アムロの父。連邦軍の大尉であった。技術士官だが、以前はサイド建設に尽力した人物。妻を地球に残し、アムロと共にサイド7にやってきた。戦争勃発時に軍に移籍し、V作戦のメンバーとなる。ガンダムの提唱者でもあるが、サイド7がザクに強襲されたときに、宇宙空間に吸い出され、行方不明になってしまった。サイド6の船に救助されるが、密閉された宇宙服の中で酸素が欠乏し、二酸化炭素中毒で、脳に障害をきたしてしまった。サイド6のジャンク屋で住み込みをしていたところ、アムロと悲劇とも言える再会をする。13話で、アムロを連れ家を後にする若き日のテムが回想で出て来る。

劇場版では、階段から落ちて死亡した事になっている。

デラミン　FG(38)

マ・クベ配下、チベ艦長。暗礁空域テキサスゾーンでWBと膠着状態に陥っていたが、マゼランの出現により、均衡が崩れてしまう。そのため、WBの集中砲火を浴び、チベと共に散って行った。

天幕の老人　FG(19)

中立地帯ソドンで天幕を張り、自活しているらしい老人。WBを脱走したアムロが、水と食事ができる所を求めてここに立ち寄るが断られる。

伝令の少年　FG(16)

ゴビ砂漠地帯にいたWBに、単身バギーに乗ってオデッサデイの事を伝令にきた少年。「砂漠に蝶は飛ぶのか」「…砂漠に飛ぶのはサボテンの刺」という合言葉を交わした。この伝令以後、WBは正式な作戦に参加するようになっていく。

トクワン　FG(31)

地球にてMAビグロのテストをしていたジオン軍少尉。WBを追うシャアと共にザンジバルで宇宙に出た。ザンジバルの追撃を追い払おうとするWBを撃破するために、ビグロで出撃する。ガンダムを捕獲し、あと一歩の所まで追いつめるが、アムロの異常なまでの耐久力によって撃破された。歴戦の勇士であったらしく、部下達によく慕われていた。デミトリーが規律違反を犯してまでガンダムを討とうと出撃したのは、ひとえにトクワンの仇を討ちたいがためであった。

ドズル・ザビ　FG

ジオン公国公王デギン・ザビの二男で、ジオン軍中将。宇宙空間におけるジオンの主力、宇宙攻撃軍指令官でもある。いかつい顔をしているが、実は部下思いの実直な性格で、ジオンの兄弟達の間で、兵隊に一番人気があった。ギレンとキシリアがジオンの覇権をめぐって対立している中で、彼だけがひとり、真摯にジオンの将来を考えて軍を率いていたと思われる。

ガルマに目をかけ、その将来を期待していたが、ガルマを守りきれなかったシャアを恨み、自分の軍隊から罷免してしまった。

妻ゼナとの間に生まれたばかりの娘、ミネバ・ラオ・ザビがいる。ソロモン攻略の際に、死を決したドズルは、その妻と娘と断腸の思いで脱出させる。その後、彼はMAビグ・ザムで、味方がソロモンから脱出する際の囮になり、宇宙に散っていった。顔の傷には諸説があり、真偽は定かではない。

トルガン　FG(21)

ラルの部下。ランバ・ラル部隊の生き残り16人のひとり。ラルの仇を討つため、ハモン指揮のもと、WBに特攻をかけた。

ドレン　FG(1〜11・32)

少尉。ドズルのもとにいた頃のシャアの副官。おそらくジオン軍の中で唯一人、シャアの素性を知っていた人物である。シャア自身も決してドレンに全幅の信頼を寄せてはいなかっただろうが、年上の副官ということで尊敬の念を持って接していたようだ。

シャアが左遷された後は大尉に昇進。ムサイ三隻からなるキャメル艦隊を任されていた。囮部隊として先行出撃したWBを追撃してきたシャア大佐と共同戦線をはって、WBの進路を塞ぐが、WBの力の前に屈し戦死した。最後の戦いぶりは、まったくシャアと同じで

あった。

トワニング　FG(12・42・43)

キシリア直属の部下の一人。キシリア側について、その様々な雑務をこなす。どちらかといえば、軍務以外の仕事が多かったようだ。シャアがドズルによって左遷されたときに、キシリアの命を受け画策したのも彼であった。最終戦となったア・バオア・クーでの戦いの時には、ギレンを殺したキシリアの命令にとまどう兵士に適切な指示を出し混乱を最小限に押さえている。最終防衛ラインが突破されたときには、キシリアを脱出させようとした。が、彼自身は防衛の際に負傷を負い、倒れてしまった。

な行

難民達　FG

ザクの強襲を受けて、サイド7から脱出したとき、WBに避難していた人々。そのほとんどは老人であった。戦闘開始時にシェルターなどに逃げ込むのが遅れた人々が、ミサイルの直撃を運よく避けられたため、逃げ足の遅かった老人達が多くなったようだ。半ば強制的にサイドに移民させられた人が多かったため、地球への想いは強烈であった。ジオンに包囲されている状況の中にもかかわらず、再び地球の土を踏みたいという一念が強かった。そのためWBのクルーを大いに困らせた。

は行

バイス　FG(22)

マ・クベの包囲網に先立ち、WBのECM発信機、及びミノフスキー粒子射出孔撃破の任務に就いた特殊工作隊の司令官。

バイソン　FG(8)

休戦を申し入れたWBを追尾し、その動向をガルマ大佐に報告するドップ編隊の指揮官。

バオロ・カシアス　FG(2~4)

連邦軍の新造戦艦WBの初代艦長。中佐である。連邦初のMSであるガンダムシリーズを用いる事を前提として作られたWBを任されたくらいであるから、連邦内では相当にデキル人だったのだろう。MSの最終テストの地サイド7にMSを受領しに行く途中、シャアのムサイに発見され、攻撃を受ける。この際、自ら迎撃に回ったために重傷を負ってしまう。その重傷がもとで、WBがルナツーを出港する際に死亡。優柔不断な系統指揮が多い連邦軍の中にあって、物事への対処が柔軟で、立派な人格者であった。WBの正規軍人のほとんどが戦闘不能となったあと、ブライトを筆頭とした若者たちによってWBを運用することを許可した人物である。

ハサウェイ・ノア　ZG(18~)

ブライトとミライの間に出来た二人の子供のうちの一人。将来、大活躍す

る。

バスク・オム　ZG(1一)

ティターンズの前線指揮をまかされている。階級は大佐。一年戦争時にジオンに捕らわれ拷問を受けた事によりスペースノイドを憎み、ティターンズの先頭に立ち弾圧するようになる。

バタシャム　FG(40)

リック・ドムのパイロット。ララァの前衛となって、エルメスの援護をする予定だったが、ニュータイプが操縦するエルメスの力を見たとき、その力に驚愕し、後方に下がってしまった。そのため充分な援護を得られずに、ララァは危機に陥ってしまった。が、その理屈はシャアも納得し、以後は後衛が認められる。

バムロ　FG(8)

ビックジョン(偵察機ルッグン)の機長。グレートキャニオンでの戦闘を控え、WBから下船する民間人を監視するお目付役だった。任務終了後、民間人から離れたペルシア親子を案じて救急カプセルを投下しようとしてガンタムに撃墜される。その負傷を自分の投下した医療キットでペルシアに治療してもらいながら、故郷であるセントアンジェが既に消失している事を語るのであった。

ハモン　FG

ソドンの町のレストランでランバ・ラルと一緒に登場し、アムロが大人の女の人と認識した敵。クラウレ・ハモンの項参照。

ハヤト・コバヤシ　FG

サイド7に住む少年。アムロの父が軍属で、サイド7に軍関係の研究所があるために、自分達が移転させられたと思っているので、アムロの隣に住みながら付き合いはあまりなかった。

ザクによるコロニー強襲の際に家族は全員死亡。その後にWBの乗組員となり、主にガンタンクの操縦を担当する。柔道が趣味であり、特技である15歳の日系人。父親はサイド7で警察官をやっていた。物語の中盤位までは、アムロに対していい印象を持っていなかったし、ブライトが、アムロばかりを重用するのを見限り、一度はWBを捨てようとまでした。

アムロをライバルとして見ていた時期もあるが、ソロモン攻略戦時に被弾して戦闘不能となるような傷を負い、アムロのニュータイプとしての活躍を自分のふがいなさとを比較し、深く落ち込んでしまう。そんな彼をフラウが献身的に看護したことから、二人の仲が進展していく。

ZGでは、終戦後に連邦によって地球上に封じ込められ、ケネディにある戦争博物館の館長を仕事としていた。フラウと結婚し、カツ・レツ・キッカを養子としてそれなりの家庭を築いてもいる。さらには本当の自分達の子供もフラウのお腹の中にいた。

子供たちの未来を信じ特攻して行く。

ハロ　FG

フラウ・ボウのペットロボ。直系40cmほどの球形ロボットで、アムロが製

作し、フラウにプレゼントした。アムロ手製のコンピュータが内蔵され、簡単な会話が可能な他、脳波測定器なども組み込まれている。通常、重力下においては転がりながら移動し、無重力下ではフワフワ浮いて移動しているが、その動力源の詳細は不明。また手足による移動が可能で、階段をのぼるときなどは手足を使う。玩具としての領域を越えたロボットだ。一年戦争後に玩具メーカーが量産して販売した記録がZGで出てくる。

バロム　FG(36)

キシリアが送ったソロモン救援艦隊の幹部一人。脱出ポットを見捨てようとしたマ・クベをたしなめて、ソロモンから脱出してきたドズルの妻ゼナを救った。その後、ソロモン陥落の報を受けると、ゼナ達をグラナダのキシリアのもとへ送る任に就いた。

ハワド　FG(20・36)

WB乗組員。アムロに過剰な期待をするブライトに反発して、カイ達3人とWBを脱走したこともある。メカ整備員であり、後半はスレッガーのGファイターの整備を担当していた。

ハンブル　FG(6)

ガルマ指揮下のドップ戦闘隊長。

バンマス　FG(36)

WB乗組員曹長。WBに最初から乗っていた一人である。操舵手の交代要員でもあり、ソロモン攻略戦の時には、一時ミライの代わりに操舵もした。

ビービ　FG(9)

ガルマ隊直属のドップ小隊長。ビービ隊を率いる。よもやMSが空を飛ぶとは思わず、ガンダムの空中戦に驚愕する。

ファム・ボウ　FG(1)

フラウ・ボウの母。家族でサイド7に移民していた。ザクからの至近弾の爆発により、死亡。

フムラウ　FG(18)

WBの乗組員の一人。目立たない少年である。

ブライト・ノア　FG

WBに搭乗していた、軍に入って半年の士官候補生だった。卒業すれば、少尉として配属されるのだが、この時点では軍人ではない。事件がなければ、1話でテム・レイをブリッジまで呼びに来る伝令の役をしておしまいだったかもしれない。パロオ艦長の死後、正規の軍人のいないWBにあって、彼が艦の指揮を取っていくことになる。

士官候補生だった割には、その指揮ぶりには確かなものがあり、不慣れな少年たちを指揮してWBをジャブローまで運んだのは驚異である。特にお目付け役のリード中尉が下船してからの方がWBの動きが良い。2話で弾幕の中を飛ぶシャアの持った偵察用カメラをライフルで見事に狙撃している(本体を狙って外れたという説もあるが)。また19話でWBにおいてゲリラ戦を行ったときには、かなり離れた位置からアムロともみ合っていたジオンの兵士を打ち抜いている。射撃に関しては、なかなかの腕と評価してもよいだろう。

当初はWBを動かすことに精一杯で、周囲の事まで考える余裕がなかったが、リュウの死をきっかけに他人の気持ちもよく汲み取れる指揮官として成長していった。同じクルーのミライに心の安らぎを見い出している。後に少尉に昇進、ジャブローで中尉となって、正式にWBの艦長となる。英国系の19歳の少年である。

ZGでは、軍功をあげていながらシャトルの機長などと言う閑職に回されていた。だが、それでも明確なニュータイプとしての能力を見せていなかったが故に宇宙に出る事は許されていた。偶然救われたアーガマへと移乗して後には艦長になるが、ブライトが艦長だと安心して見ていられる。

フラウ・コバヤシ　ZG(13～)

フラウはアムロを追うのに疲れ、ハヤトと結婚してカツ、レツ、キッカを養子としていた。ハヤトとの本当の子供であるお腹の中にいる六ヶ月の赤ちゃんと共に男たちの戦いを優しく見守る妻となっていた。

フラウ・ボウ　FG

サイド7ではアムロと隣り同士だった。アムロとは同い年の15歳だが、母親のいないアムロの面倒を、お姉さん気どりでよくみていた。ザクの強襲の際、目前で両親を亡くすが、めげずにがんばり、WBのメンバーとして行動する。艦内では医療や生活環境を受け持ち、カツ、レツ、キッカの母親代わりとしてもよくやっていた。アムロが戦士として、ニュータイプとして、どんどん成長していくのに対して、フラウは自分がおいていかれるような感じを受けていた。だが、セイラの代わりとして通信担当になってからは徐々に自信を取り戻していった。後に遠ざかるアムロよりも、ハヤトに心魅かれていく。

ZGでは、一年戦争後にハヤトと結婚し、孤児3人を引き取った子連れ結婚は、当時の話題を呼んだ。

フラウ・ボウの祖父　FG(1)

ザクによるサイド7の強襲の際、至近弾の爆発に巻き込まれ、死亡。

フラナガン博士　FG(37)

ジオンでニュータイプの研究をしていた、フラナガン機関の責任者である。サイコミュを開発し、ブラウ・ブロ、エルメスなどのニュータイプ用MAの基礎を作っていた。

フラナガン・ブーン　FG(26～38)

マッドアングラー隊士官。パイロット上がりで、現在ユーコン艦長である。がっしりした体格の古強者。WBの情報を得るために、自ら偽装してWBに潜り込んできたりもする。ガンダムに倒された部下の仇を討つべく、MAグラブロで出撃するが、ガンダムにやられ戦死する。

ヘイブ　FG(23)

マ・クベの部下。クリンク中尉の指揮下、マチルダのミデア補給部隊を襲ったドダイYSに乗ったグフのパイロット。ガンダムの足の回路を破損させるが、グフもガンダムの攻撃で破損し

爆死する。

ベルガミノ　FG(33)

サイド6の修理屋。連邦とジオンの両軍に顔がきき、両軍の戦艦を領空外の浮きドックで修理して大儲けをしている男。コンスコンの攻撃によって破壊され、大いに取り乱していた。小心者で、戦争を金儲けの道具としてしか考えていないような人物である。

ベルシア　FG(8)

サイド7からの避難民。夫を早くに亡くし、サイド7へ息子のコーリーと共に移民していた。他の避難民と一緒にWBを降り、夫の故郷であるセントアンジェに向かうが、その故郷は、ジオンの爆撃によって消滅していた。

ベルファスト基地司令　FG(26)

連邦軍ベルファスト基地におり、レビルが基地に来た際、レビルについて防衛の指揮をとった。

ベロ　FG(5)

サイド7からの避難民。スミス老人の孫。スペースコロニーで生まれ育ったため、自然の星、地球を知らない。おもちゃのラジコン自動車をアムロに直してもらう。

ボラスキニフ　FG(29)

シャアの部下で曹長。シャアと共に金属反応でジャブローの入口を発見しゾックに乗って侵入する。ガンダムのビームライフルであっという間に倒されてしまった。

ま行

マーカー・クラン　FG

オスカと同じくWBのオペレーターで、連邦軍訓練生として乗り込んでいた。この二人が正規の訓練を受けた少年兵でなければ、WBは危なかったろう。そういう意味では、WBが生き延びてこられた影の功労者である。乗組員の中で最も睡眠時間の少なかった者の一人で、オスカより一年先輩の17歳。

マーシー　FG(26)

マッドアングラー隊員。サラ曹長の部下で、ゴッグのパイロット。二手に別れてベルファストに上陸し、WBを叩こうとするが、Gブルに阻まれる。ビーム砲の直撃を受け、セイラにとっては初の戦果となった。

マーチ　FG(23)

グフパイロット。マ・クベの配下であるクリンク中尉の指揮の下、マチルダのミデア補給部隊を襲った。ドダイYSに乗るグフに苦戦したガンダムは届けられたばかりのGファイターに飛び乗りこれを撃退する。Gメカ初の犠牲者。

マイル　FG(23)

ジオン軍ラル隊隊員。サグレドと共にソドンのレストランで見張りに立つ。おそらくまともな食事をする余裕はなかったであろう。

マイヤー少尉　FG(36)

ソロモン攻略の時、ギレンから送られた大型MAビク・ザムにドズルと共に搭乗した。戦局不利とみたドスルに

よって、戦場から脱出しザクに曳航されていく。

マクシミリアン　FG(20・30)

ハワド、カイ、ハヤトらと一緒にWBを飛び出した少年。普段はエンジン関係の整備担当をしている。

マ・クベ　FG(16・18〜25・37)

キシリア配下でジオン突撃機動軍大佐。常に特注の白い軍服を着込んでいる。物腰が女性的で、その病的な目付きと秀でた額という奇異な容姿から、奸智に長け、計算高い性格が感じとれる。キシリアに地球上にある最大のレアメタル鉱物資源採掘基地を任されている。この基地の存在はギレンに知られているが、採掘量に関してはキシリアとマ・クベしか把握していない極秘事項だ。戦争終結後、キシリアがジオンを掌握するために、どうしても必要な施設だけに、その管理は忠実な部下に任せておかなければならなかった。

連邦のオデッサ作戦に敗退し、採掘基地を放棄、撤退する。その後はソロモン救援艦隊指令から、ソロモン戦争終了後の脱出者救援の任務などを遂行。比較的前線に近い部隊の指揮をとることが多かったところを見ると、ある程度キシリアに見限られていたのだろう。そのことに気づいていた彼は、再びキシリアの信を得ようとしてガンダムに戦いを挑んでいった。自分専用に作らせたMSギャンを使ってテキサスコロニーでガンダムと死闘を繰り広げるが、死亡。その戦いの中で初めてニュータイプの存在をTV視聴者に教えてくれた。壺などの骨董品収集が趣味で、地球ではかなり高級な壺を集めていた。最後の最後まで壺の心配とキシリアへの忠誠を口にして散る。

マサキ　FG(35)

WBの看護兵、階級は軍曹。前半には出ていなかったところを見ると、おそらくジャブローで補充された要員であろう。ロングでチラッとしか出ていない。

マジソン　FG(30)

シャアの部下で、ジャブロー内のGM工場破壊工作員。他の工作員と共に工場に潜入し、爆弾を仕掛けた後にアッガイに搭乗し、ジャブロー内に攻撃を仕掛ける。爆弾はカツ、レツ、キッカにより排除されてしまう。

ませた少年　FG(30)

ジャブロー基地内の育児施設にいた少年。父や母のことをいい、キッカを泣かせてしまった。余談になるが、そのひねくれ具合から、彼こそ後のカミーユ・ビダンであるという噂もたった。たしかに両親が軍属なので、ここに居た可能性もなくはない。

マチュウ　FG(3・4)

シャアの部下。ガデムの補給したザクを駆使してルナツーのWBを強襲するが、爆死する。

マチルダ・アジャン　FG

連邦軍のミデア輸送部隊、マチルダ隊の指揮官。レビル将軍の下、WBに密かに補給物資を届ける任務に就く。大学の途中から士官学校に移り、卒業

後職業軍人となる。女ながらも軍隊において自分の信念を持って任務に臨んでいた。

仕事に接するときの冷静さと厳しさの裏に、人としてそして女としての優しさ、強さを合わせ持った人物。中尉に昇進したのもうなずける。ジャブローにフィアンセであるウッディ大尉がいる。

彼女の存在がアムロの成長に大きく影響を与えた。オデッサ作戦の直前、ジオンの黒い三連星の前に戦死した。

マッシュ　FG(24)

キシリア直属のジオンの黒い三連星の一人。右目を過去の戦闘によって潰している。ガイア、オルテガと共にドムに乗り込み、WBを強襲する。ガイアの指示によって、ガンダムにジェットストリームアタックをかけるが、アムロの機敏な操縦によってかわされ、ドムごとビームサーベルによって切り裂かれて、戦死。

マリガン　FG(26〜41)

ジオン軍中尉。キシリアの下で戦線に復帰したシャアの副官。マッドアングラーからザンジバルに乗り込み、再び宇宙に出た後もシャアの副官を務めていた。冷静沈着なシャアと比較すると、人間的に弱い面がみられる。まだ若い将校である。第13独立部隊(WB)に艦隊特攻をかけた際、戦死する。

ミサキ　FG(21)

ラルの部下。ランバ・ラルの生き残りの16人内の一人。ラルの仇を討つためハモンの下、WBに特攻をかける。

ミデアパイロット　FG

ミデア輸送部隊(マチルダ隊)のマチルダ機主任パイロット。マチルダと共にミデアごと、黒い三連星・オルテガのドムに叩き落とされた。

ミネバ・ラオ・ザビ　FG(35・36)

ドズル・ザビの忘れ形見。母親に似た可愛い子で、ドズルに似なくて良かったと思う。父の死も知らずに笑うあの顔が印象的であった。

ZGでは、ザビ家の唯一の生き残りとして描かれる。サイド3からはア・バオア・クーを脱出したシャアの乗るグワジン級戦艦アサルムに乗って脱出、アクシズに向かった。その時はまだ一歳に満たず、アクシズに着いて間もなく母ゼナも死亡。一切の身寄りを失い、その後はシャアに育てられたが、彼が地球圏にいってしまった後は、ハマーンが後見人にとなる。

ミノフスキー　FG

フルネームはトレノフ・Y・ミノフスキー。『機動戦士ガンダム』には登場しないが、アインシュタイン以来の物理の天才。特に放射線物理学における彼の理論は、それまでの物理学を一変させてしまった。彼の功績には、実用超小型核融合炉の完成、ミノフスキー物理学の確立、などがある。一年戦争においてレーダーが全く無力化してしまったのは、彼が発見して実用化したミノフスキー粒子のためであった。輝かしい業績の割には不遇な生涯を送っており、自分の研究の活かせる所を求

めて、連邦からジオンへ、さらにジオンから連邦へと亡命している。

ミハル・ラトキエ　FG(26〜28)

北アイルランドのベルファストに住む少女。両親は戦死し、弟のジルと妹のミリーとの三人暮らし。ジオンのスパイ107号として連邦のベルファスト基地を探ることで、生計を立てていた。カイとの交流の中で、WBの情報をマッドアングラー隊に送ったことから、スパイとしての能力をシャアに過大評価され、WBに潜入するように指示されてしまった。本来スパイを職業とする少女ではなかったため、哀しい結末を迎えることとなる。

ミライ・ノア　ZG(17〜)

元WBの乗組員であり、終戦後ブライトと結婚している。旧姓はミライ・ヤシマ、連邦の名家であるヤシマ家の娘であった。ブライトとの間にハサウェイとチェーミンと言う二人の子供をもうけ普通の母親であろうと思っている。

ミライ・ヤシマ　FG

サイド7を脱出する際、たまたまスペースグライダーのライセンスを持っていたために、WBの操縦を務めることになった。地球連邦の故ヤシマ高官を父に持つエリートである。

WBにおけるミライは、みんなのお母さん的存在で、優しく、暖かく、包容力があり、乗組員全員から慕われていた。

世が世なら良家の奥方におさまっていたであろう彼女だが、戦争という異常な体験を通じて大きく成長していった。親同士の決めた婚約者カムランとサイド6で再会するが、彼を振り返ることはなかった。ブライト・ノアに好意を抱いていたが、途中からWBに乗り込んできたスレッガー・ロウと、束の間の恋をする。インスピレーションが良く働き星回りの良い女性として設定されていたが、マチルダの死の頃からニュータイプ的素養を垣間見せるようになる。18歳。

ミリー　FG(27)

ミハルの妹で、兄のジルと共に、ミハルの留守を守っている。

ミル　FG(14)

クワランの部下。極東のジオンの前線基地にいるコロニー育ちの青年兵。ガンダムにワッパで吸着爆弾を取り付けたひとりである。

モスク・ハン　FG(40)

電磁工学の新鋭の学者。ガンダムに自分の理論を応用したマグネットコーティングを施し、反応速度を大幅にアップさせてくれた人物。地球連邦に亡命してきたミノフスキー博士の理論をいち早く勉強し、取り入れた人物である。科学者としては非常に自分の研究に素直な人であったようだ。アムロに言った「データのために生き延びてくれ」という台詞は、彼なりの照れ隠しを含んだ優しさであったのだろう。

ちなみにTVシリーズでは、時間不足から設定は顔のみで、胴体はテム・レイをそのまま使用していた。身長、

体重はテム・レイのそれと同じだろうと想像されている。

や行……

ユウリ　FG(2)

シャアの攻撃を受けたサイド7で行方不明になってしまった女の子。スペースゲート付近で母親が必死に捜しまわる描写がある。

ら行……

ラサ　FG(26)

マッドアングラー隊の隊長。水陸両用のMAゴッグのパイロット。マーシーと共にユーコンから発進し、ベルファスト基地に奇襲をかける。水中にガンダムをおびき出して翻弄するが、ビームサーベルの威力の前に北アイルランドの海に散る。

ラコック　FG(35・36)

ドズル付きの参謀。ジオン軍の大佐。ソロモンにおいて、ドズルの補佐をしていた人物で、ソロモンの部隊の直接の指揮はこの人が取っていた。ビグ・ザムで出撃したドズルを最後まで案じていた忠実な部下。ドズル自身も自分が特攻をかける時に脱出命令を彼に下している。

ララァ・スン　FG

一週間戦争で両親を亡くし、場末の街に流れ着いたところシャアと出会う。

他の人間にはない感性のゆらめきを感じたシャアによって、ニュータイプ研究組織である、フラナガン機関に送られた。サイド6で秘密裡にニュータイプ能力の開発を受けていたとき、アムロと出会い、彼がニュータイプ能力を自覚し始める契機となった。テキサスコロニーで行われたサイコミュの最終同調テストでは、的中率7割という優秀な成績を修めた後に、エルメスのパイロットとして実戦配備される。

エルメスによる実戦1日目にして連邦の巡洋艦4隻を撃沈し、護衛に付いた歴戦のパイロットを驚愕させた。これは1年戦争での撃破レコードである。

精神的には、より自分に近いアムロに共鳴していたのだが、不幸な身の上から救い出してくれたシャアに対する思慕の念を捨て切れなかったことが、彼女を哀しい運命へと誘っていった。WBとの戦闘中シャアをかばい、ガンダムのビームサーベルをコクピットに受け宇宙に散っていった。しかし、彼女の思惟は共鳴したアムロの中に残り、彼をニュータイプへと導いていった。

ララァの魂はその後も地球圏にとどまっていたとZGでは描写されている。

ラング　FG(22)

バイスと共にWBの破壊工作に向かったマ・クベの部下。作戦は成功し、誘導兵器に無力となったWBは、マ・クベの罠に落ち危機に陥ってしまった。WBを待ち伏せしているときに緊張し、額の汗を拭おうとしたとき、ヘルメッ

トを被っている自分に気がつき、苦笑してヘルメットをコツンとやるなど、ちょっとしたことだが従来のロボットアニメとはひと味違うところを見せてくれた。

ランバ・ラル　FG(12〜21)

ジオン軍宇宙攻撃軍大尉。ゲリラ戦の専門家である。ドズル中将の命で、ガルマの仇討を任務とする独立戦闘部隊として地球に降り立つ。陸戦用のギャロップでWBを追い、自ら新型の白兵戦用のMSグフを駆って出撃する。根っからの職業軍人で、剛胆で判断力に優れている。指揮官としてもMSのパイロットとしても一級の戦士である。部下想いで、WBをしとめるのも部下のためという純粋で実直な男。内縁関係の女性ハモンが常に影のように寄り添っている。

ジオン・ズム・ダイクンにつかえていたジンバ・ラルを父に持ち、WBに特攻した際にかつて世話をしたジオンの子、アルテイシアと敵味方で再会。そのことでショックを受け、油断したため手傷を負い、彼女達の目の前で自決、爆死する。

アムロはWBを脱走した際、ソドンのレストランでラルと出会い、その落ち着いた態度に、少なからぬ衝撃を受けた。ランバ・ラルの軍人としての態度と能力だけでなく、完成した大人の自信に、完全に打ちのめされてしまったというべきだろう。

ランバ・ラルはそれ以来アムロの目標であり、ライバルとなっていった。ガンダムとグフの一騎打ちは壮絶を極め、双方のコクピットを切り裂くが、互いに相手を見て衝撃を受けるのであった。爆発するグフから逃れる際のランバ・ラルの言葉「自分の力で勝ったのではないぞ。そのMSの性能のおかげだという事を忘れるな」は、アムロの闘争心に火を付けたようである。ラルがいなかったら、アムロを含めたWBのクルーが大きく成長することはなかったであろう。

リード　FG(5〜9)

連邦軍中尉。ルナツー艦隊所属の巡洋艦サラミスの艦長で、WBとガンダムを無事に参謀本部のあるジャブローまで届けるのが任務であった。だが、大気圏突入の最中にシャアからの攻撃を受け、ジオンの勢力圏内の真っ只中に降りることを余儀なくされる。以後WBの仮艦長としてしばらくWBの指揮をとるが、最新鋭艦とMSがありながら、パイロットは素人同然という状況で、指揮能力は発揮できなかった。物事がうまくいかないと怒りっぽくなるところがあり、ブライトとは噛み合わなかった。それどころか、WBを捨てれば生き残れるというエゴイスティックな発言をしたのは、軍人にあるまじきことであり、逆に使える人材を適切に運用するブライトとの差が目立った。マチルダの補給部隊が来た際に、難民と同時にリード中尉を引き取ってくれたのは、WBのみならず視聴者もホッとするエピソードであった。

リュウ・ホセイ　FG

連邦軍のパイロット候補生としてWBに乗り込んでいたが、まだ3カ月と日が浅くシミュレーション訓練を何度かしただけで、戦闘機の実施訓練も受けていなかった。

コアファイターの操縦の他、ハヤトと共にガンタンクにも乗り込む戦闘員のリーダー役。性格は温厚で、その素朴な風貌に男の優しさを見いだせる少年達の兄貴分。

ランバ・ラル隊が白兵戦を挑んできた時、ラルと相打ちのような形で重傷を負った。更にラルの生き残り部隊の攻撃があった際、コアファイターでハモンのマゼラトップに突っ込み、爆死（戦死後に二階級特進、中尉となる）。彼がWBの仲間に与えた影響は大きく、彼の死後、バラバラだったクルーが生き残るために協力するようになっていった。特にアムロにはリュウ自身が大きく期待していた面もあって、好意的に接してくれていた。

レストランの親父　FG(19)

中央アジアの中立地帯・ソドンにある小さなレストランの経営者。ここで黒パンと水という食事をしていたアムロは、ランバ・ラルとハモンに出会ったのである。

レツ・コバヤシ　ZG(13〜14)

一年戦争時、WBに乗っていた三人の子供の一人。終戦後結婚したハヤトとフラウの養子となっている。旧姓はレツ・コ・ファン。カツは宇宙へ行ったが、彼とキッカは地球上に残ってフラウのお腹の子供を護る役についた。

レツ・コ・ファン　FG

WBチビッコ3人組の一人。3人の中では一番向こうっ気が強い。まだまだ遊びたい年頃のレツ君だが、WBにおいては生活班の手伝いをするなど、健気に働いていた。彼らは彼らなりに戦争というものを理解し、協力していたのだろう。最終回において人類の光明であるニュータイプに目覚めた彼らは、果たして救われたのであろうか。

レビル　FG

地球連邦の高級将官で、階級は大将。ルウム戦役の時に黒い三連星に捕らえられジオンの捕虜となるが、連邦が行ったレビル救出作戦によってジオンから脱出した。当時、ジオンが突きつけてきた最後通告を連邦が退けたのは、脱出してきたレビルが行った「ジオンに兵無し」の演説のためであった。事実上の連邦降伏宣言は、この演説によって両軍の軍事協定「南極条約」が結ばれたに終わった。これにより、ザビ家のジオンによる地球圏支配の野望は砕いたが、戦争は膠着状態に陥り、長期戦の様相を帯びてしまった。

WBの実力を正当に評価し、参謀本部とは別個にマチルダ補給部隊を差し向けたレビル将軍は、オデッサ作戦にWBを参加させようと画策する。事実オデッサ作戦においてはレビル将軍はヨーロッパ方面軍の指揮者として、連邦を勝利に導いたが、その陰ではWBに必要以上に気をとられたマ・クベの

動きがあった。また、ソロモン攻略戦において宇宙軍を指揮するティアンム提督が戦死してしまったため、ア・バオア・クー戦においては急遽宇宙軍の指揮を取っている。だが、デギンの和平工作による会見を行おうとしたときに、ギレンの放ったソーラレイによって、消滅した。連邦軍の組織は一枚岩ではないのでレビルの立場は非常にわかりにくい。参謀本部の将軍たちとは考えの異なる将軍で、実戦においては最高指揮官ではあるが、政治力は強いわけではなかった。

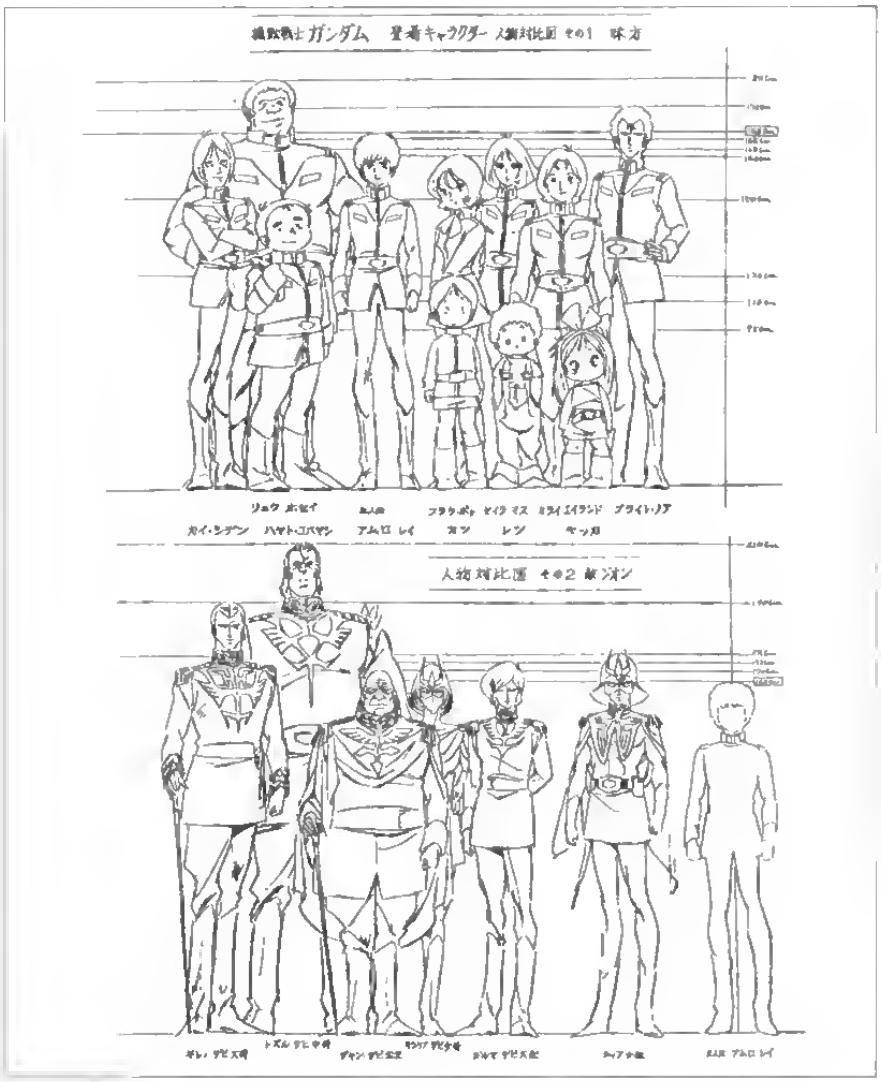
わ行

ワッケイン　FG(4・36・38)

地球連邦のルナツー方面軍司令官で、連邦宇宙軍少佐。融通のきかない面があり、故にブライト達と対立してしまう。シャアがルナツーを攻撃した際、パオロ艦長の言葉に己の非を悟り、WBでシャアを退けるのを許可する。ソロモン戦の直後の掃討戦でWBと再会しブライトと旧交を暖めるが、シャアのザンジバルに敗れ戦死する。

ワッケインの副官　FG(4)

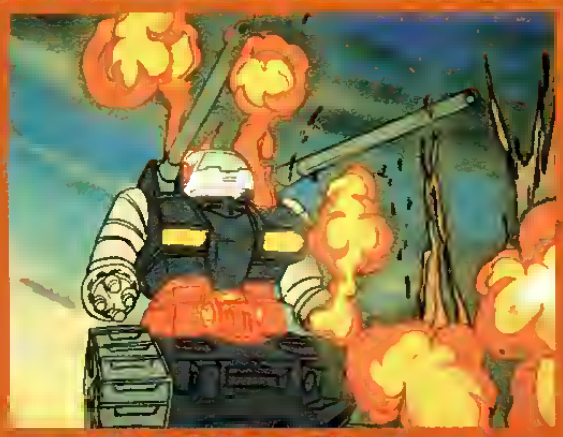
ルナツー司令ワッケイン少佐の副官。日系人でルナツーに寄港したWBを迎え入れる。



メカニカル PICK UP

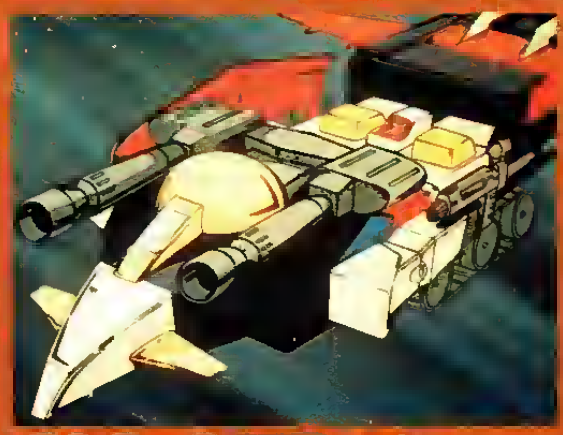
連邦軍

白兵戦用 MSガンダム



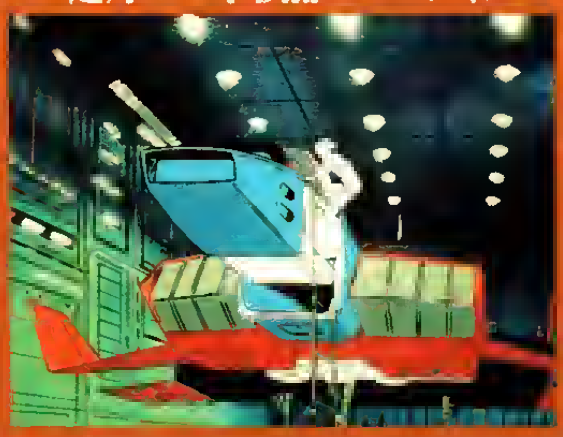
長距離支援MSガンタンク

中距離支援MSガンキャノン

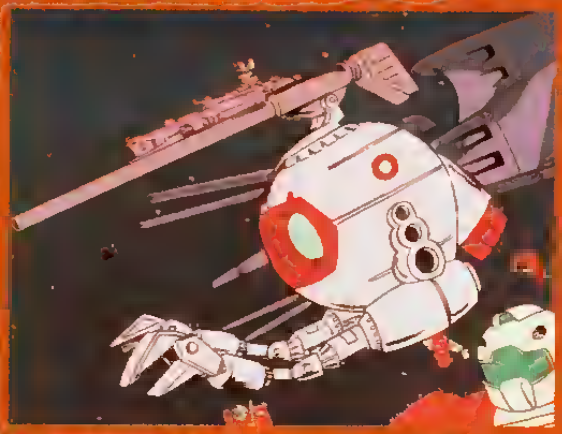


盾を失ったGアーマー

連邦MS中核部コアファイター

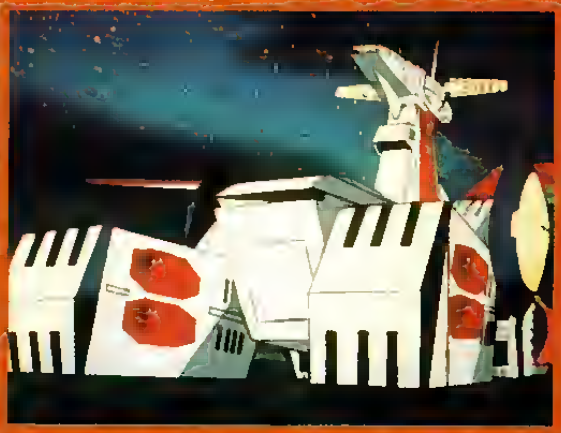


長距離支援用ボール



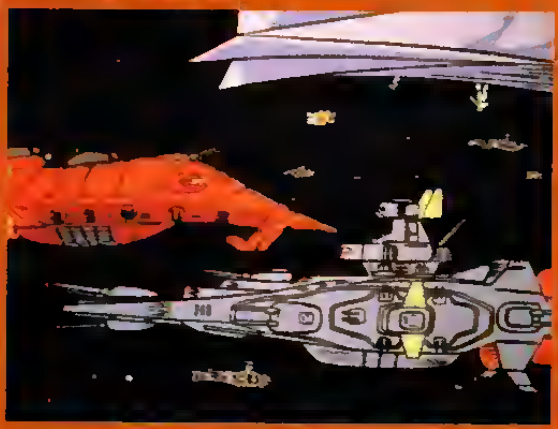
ガンダム生産タイプGM（ジム）

強襲揚陸艦ホワイトベース



コア・ブースター006

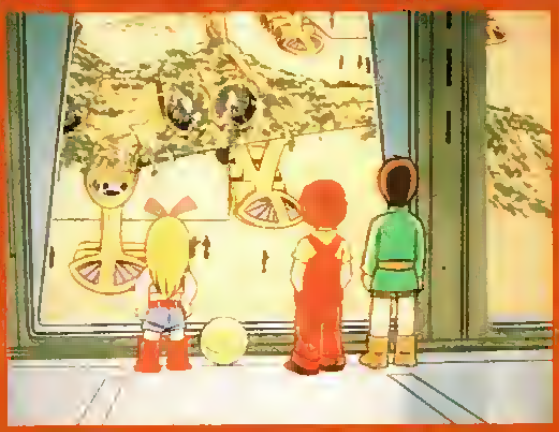
ミサイル突撃艇パブリク



連邦軍戦艦マゼラン

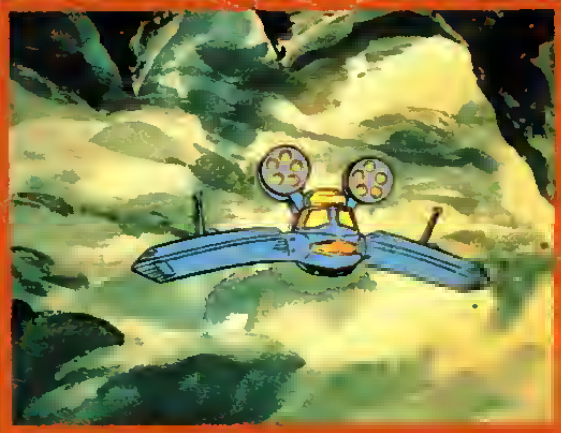
連邦軍

連邦軍



偽装中のミデア輸送機

偽装工作中のガンペリー

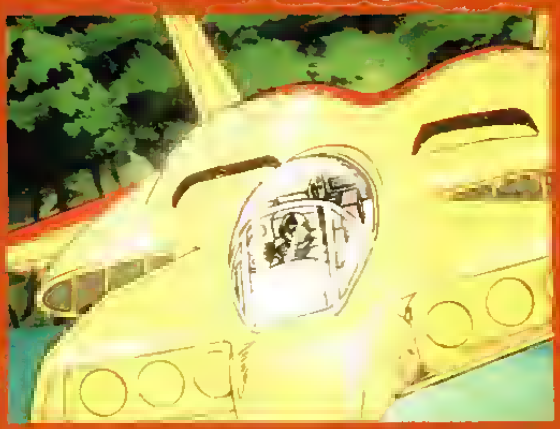


ミサイル・ホバークラフト　ファンファン

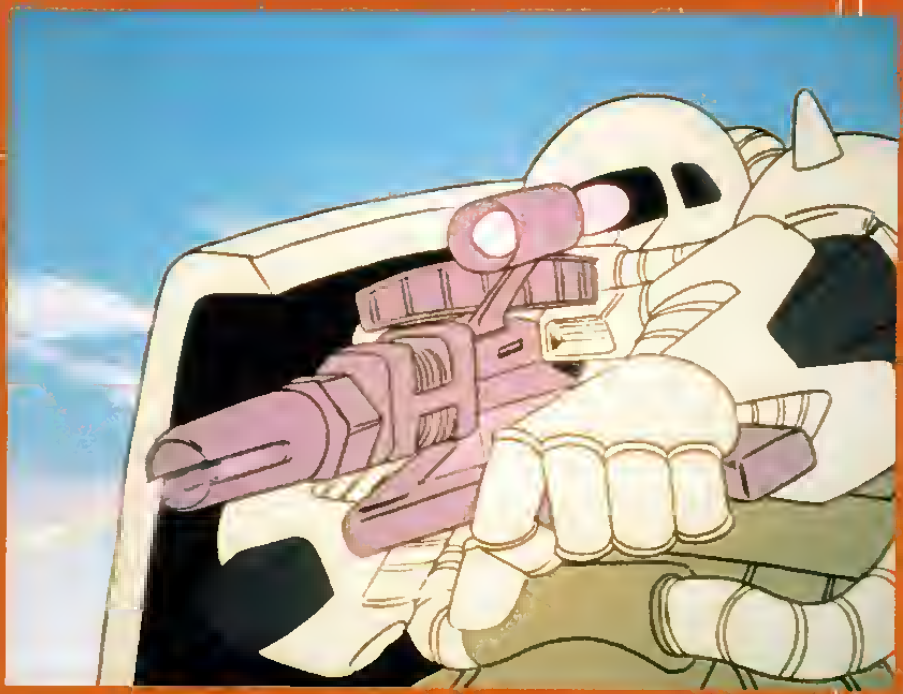
レビルの乗るビックトレー

WBのスペースランチ

フライ・マンタ



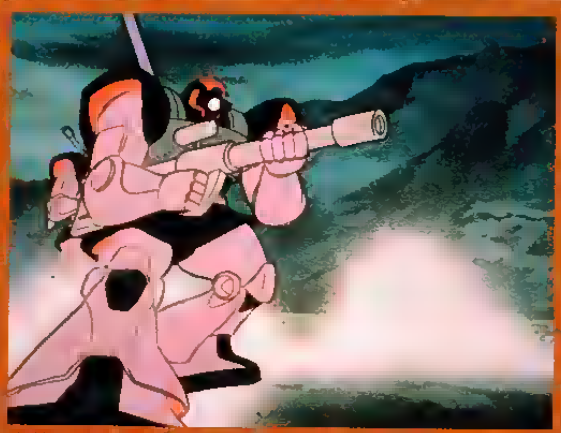
ジオン軍



MS-06ザクII

MS-06Fシャア専用ザク

MS-05ザク



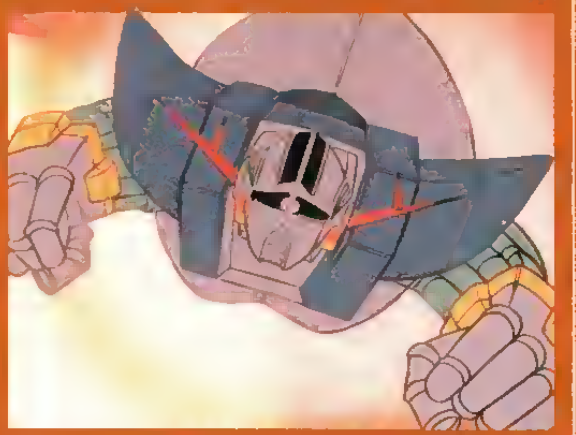
MS-08ドム

MS-07グフ

MS-14量産型ゲルググ

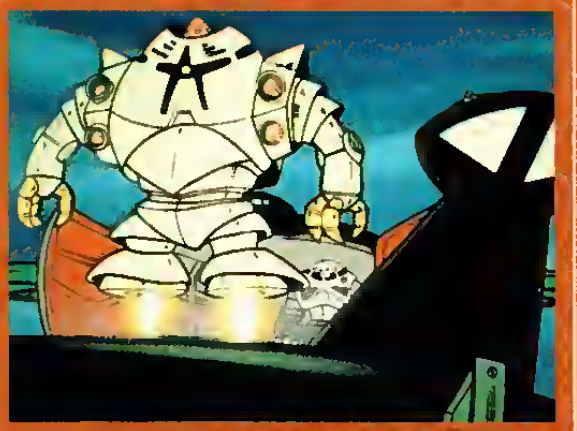
MS-15マ・クベ専用ギャン

MSM-03ゴッグ



MSN-02ジオング

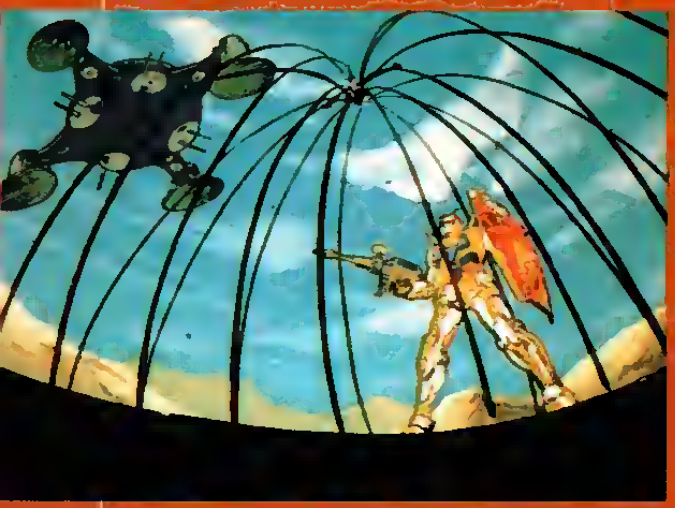
MS-07Sシャア専用ズゴック



MSM-10ゾック

ジオン軍

MAX-03アッザム



MSM-04アッガイ

MA-05ビグロ

MA-04Xザクレロ

MA-08ビグ・ザム

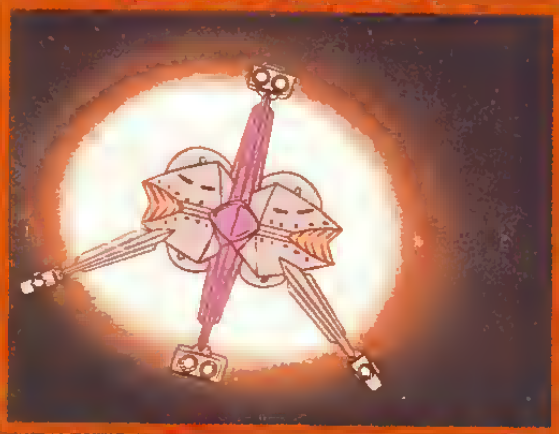
MAM-07グラブロ

ジオン軍

ジオン軍

MAN-08エルメス

MAN-03ブラウブロ



ジオン軍機動巡洋艦ザンジバル

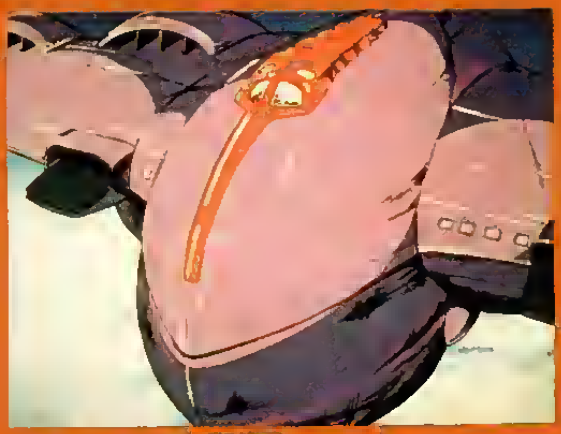
グラナダから発進するムサイ

ジオン大型戦艦グワジン

ジオン軍重巡洋艦チベ

ジオン軍

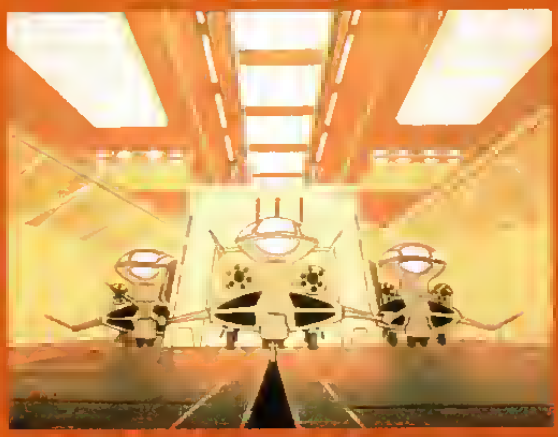
ジオン巨大空母ドロス



ガウ攻撃空母

マゼラアタック

小型戦闘機ドップ



陸戦艇ギャロップ

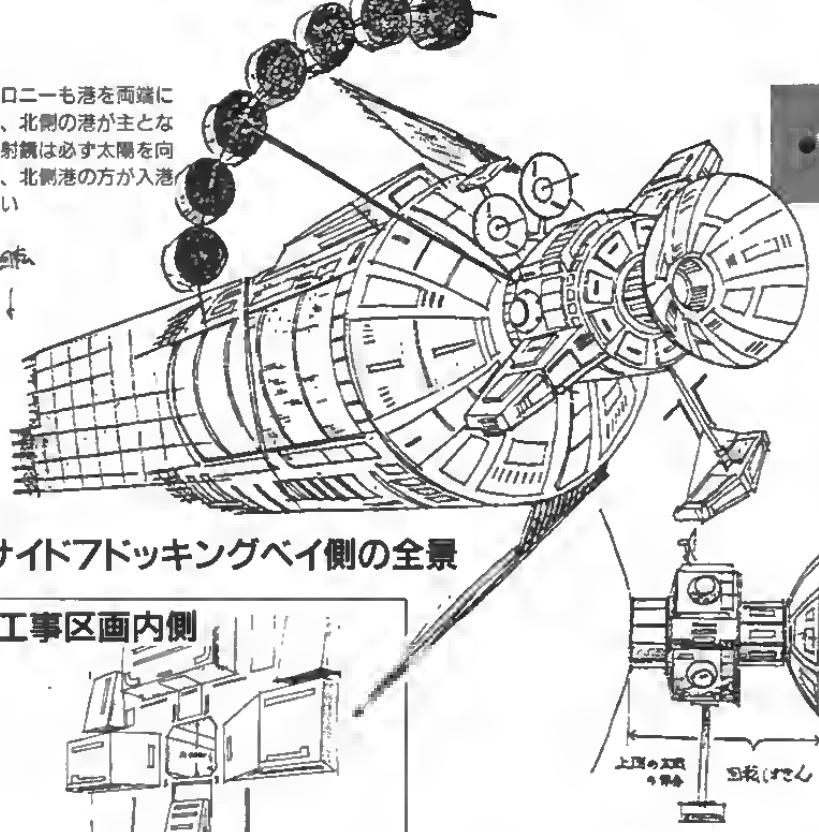
大型陸戦艇ダブデ

第四章●宇宙世紀設定資料館

スペースコロニー

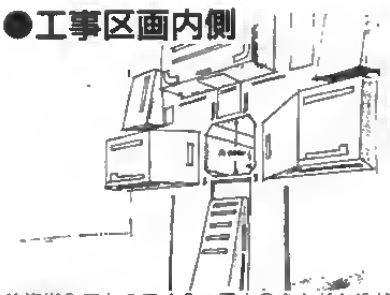
一年戦争の初期に、コロニー群は全滅しており無傷な物はサイド3、サイド6、そして建設途上のサイド7だけであった。（全滅と言っても、放射線と毒ガスで住民のみ殺戮されたコロニーは後に整備して再利用されている）巨大なシリンダーが回転する事で、内部に重力を生み出す人工の大地である。

どのコロニーも港を両端に持つが、北側の港が主となる。反射鏡は必ず太陽を向くので、北側港の方が入港しやすい



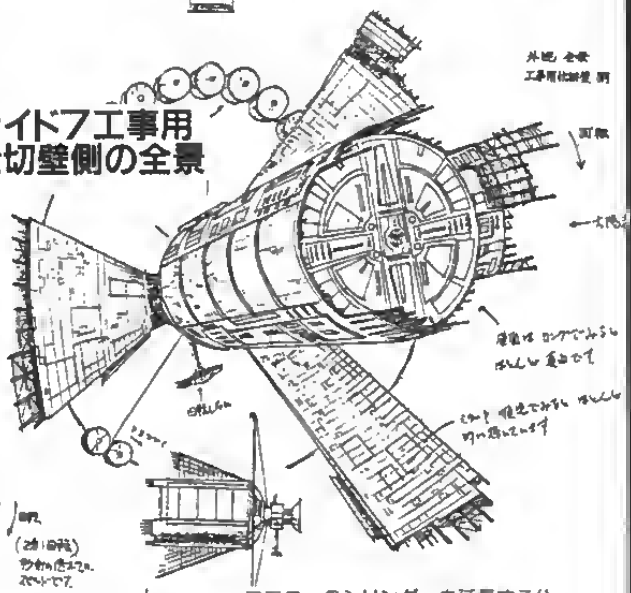
●サイドフドッキングベイ側の全景

●工事区画内側



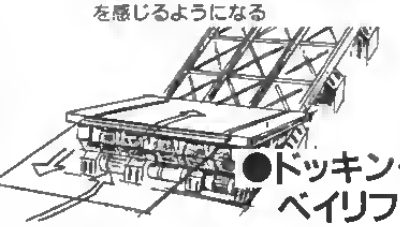
物資搬入口なので４０m四方の広さがありザクでも簡単に入れる。ちなみにこの日は曇りであり、地表に降りる途中には雲海が広がっていた

●サイドフ工事用仕切壁側の全景

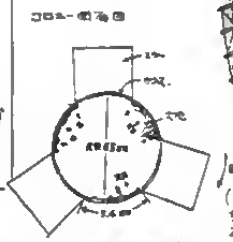


コロニーのシリンダーを延長する仕切りかあるが、工事用搬入口があり、ここからザクが侵入した。こちらの面は太陽光線の反射が強いので遠近感は非常に掴みにくくなっている

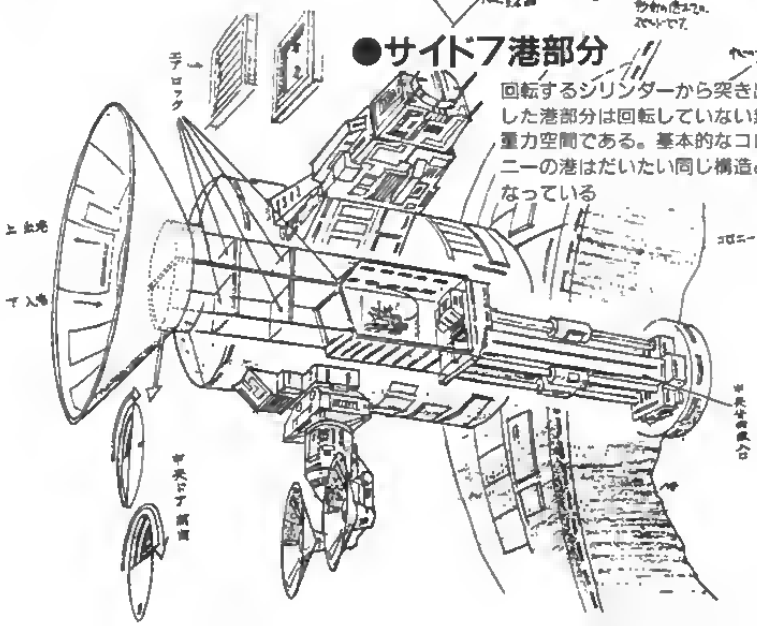
輸送用のリフトであるが、コロニーによってはコミュニティバスを港から直接地表に降ろすのに使う場合もある。港では無重力だが、降りるに従い重力を感じるようになる



●ドッキングベイリフト



●サイドフ港部分

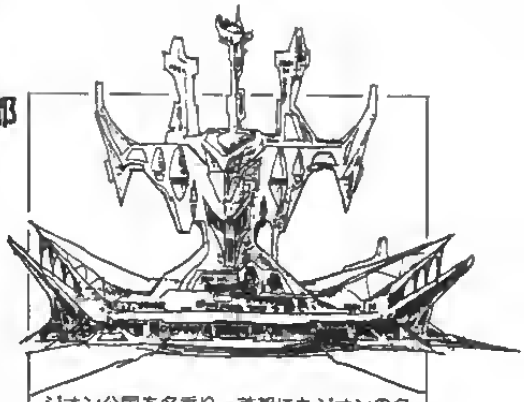


回転するシリンダーから突き出した港部分は回転していない無重力空間である。基本的なコロニーの港はだいたい同じ構造となっている

●サイドフの一般住宅地

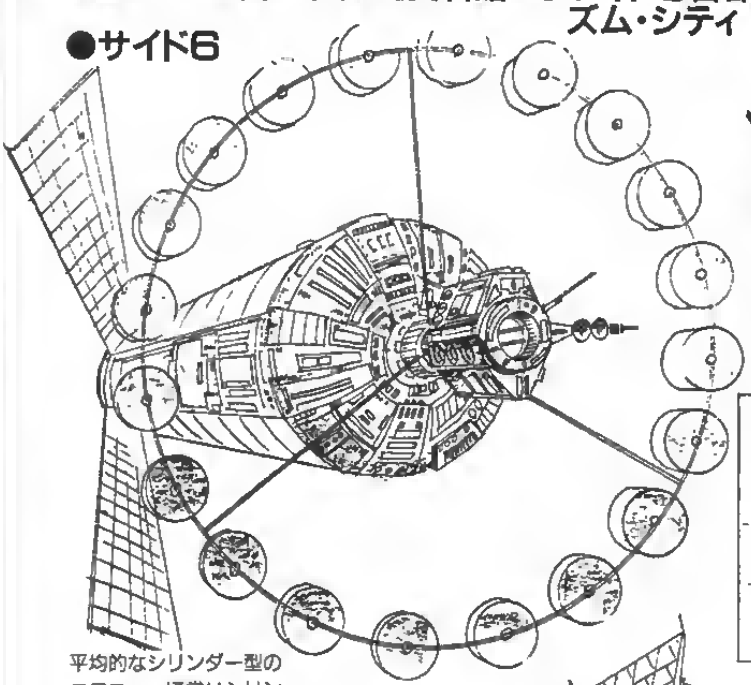
この７マーク入りのポリペールが生活感を表していたのだがやはり生ゴミ収集用なのだろうか？

●サイド3首都 ズム・シティ



ジオン公国を名乗り、首都にもジオンの名前を残しているのはサビ家の策略。ズム・シティの中央にあるのがジオン公館でありデギンはここで執務している

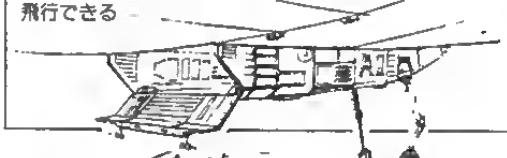
●サイド6

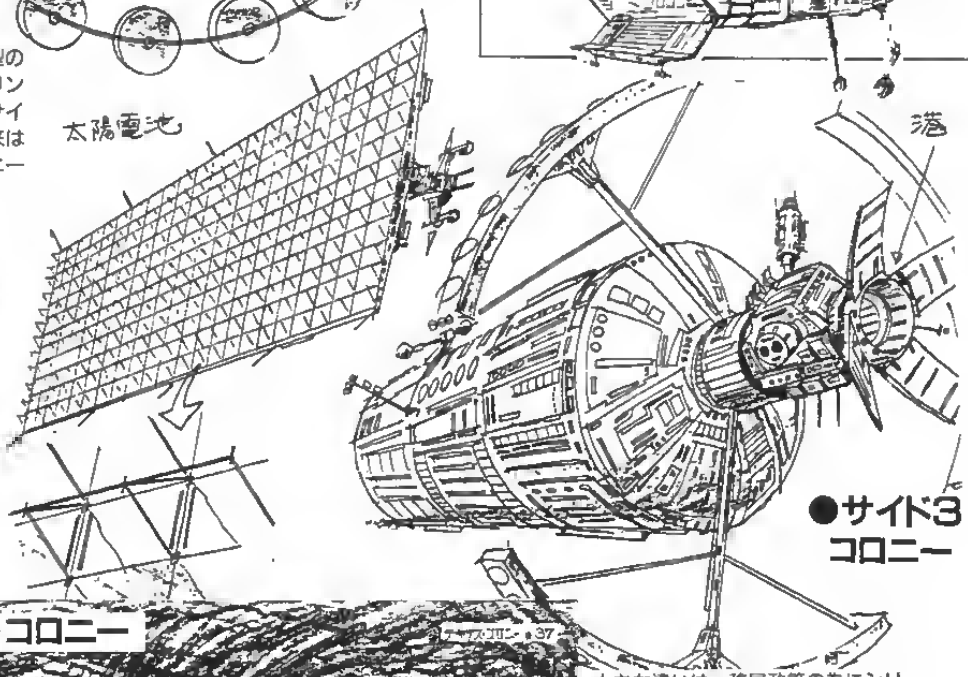


平均的なシリンダー型のコロニー。通常はシリンダーが数十集まり1サイドとなっている。本来は周辺に幾つかのコロニーが視認できるらしい

●サイド3スペース・バス発進口

これはマハルの物。回転方向に向けてスペースバスを送り出せば、推進エネルギーを使う事なく、同じサイド内に浮かぶ別のシリンダーまで飛行できる



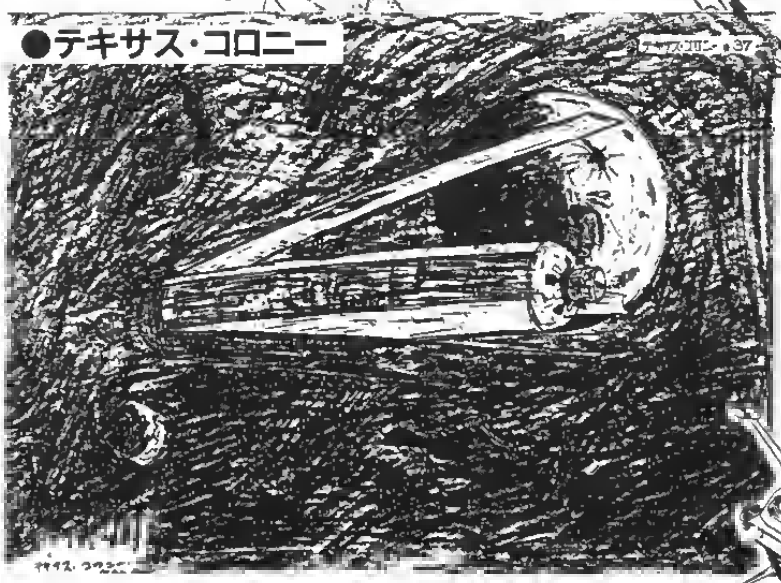


サイド4にあった観光と牧畜用コロニー。一週間戦争で直接攻撃されたわけではないが、細かい調整がされていないので気象は安定せず、砂漠化しつつある。この種のコロニーは各サイドに存在したらしい

●サイド3コロニー

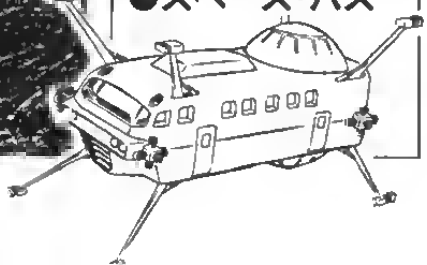
大きな違いは、移民政策の為にシリンダー内面を全て陸地にしている事。巨大な太電池板で発電し、その電力で内部の人工太陽灯を輝かせている

●テキサス・コロニー



姿勢制御バーニアはあるが、あくまでもコロニーの回転力により隣接するコロニーへ移動する交通機関である。平時には定期運行しているが物語中で使われたのは強制移住のみであった

●スペース・バス



美術設定 1

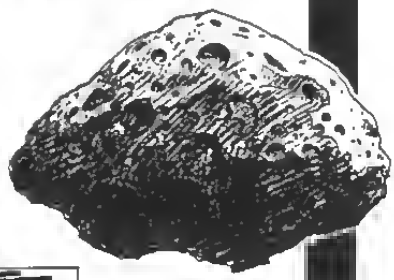
物語の背景となる美術設定の幾つかをセレクトしてみた。今までとは少しばかり違う物を紹介してみよう

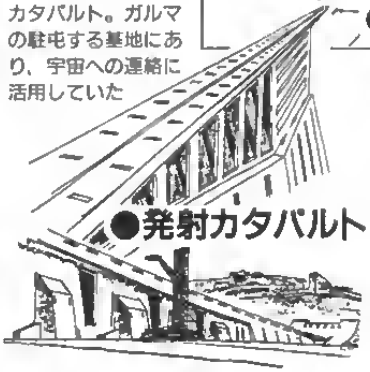
●ルナツー重力ブロック

WBの遠心ブロックを大きくしたような部屋。廊下の湾曲がゆるやかなのはそれだけ径が大きいからである。宇宙ステーション程度の重力は発生する

●ルナツー

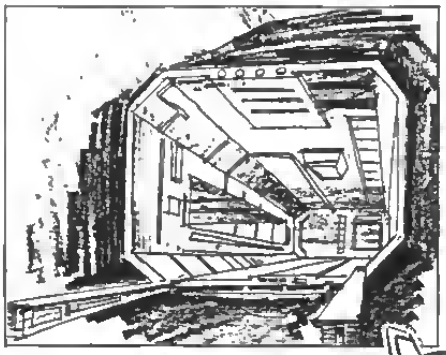
連邦の支配する小惑星である。長辺で１８０㎞もある巨大な岩塊で内部に鉱山・基地・工場がある





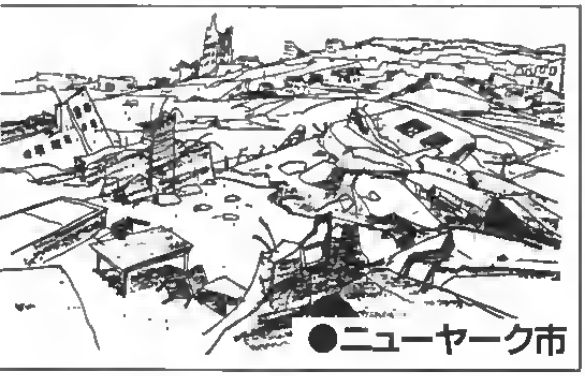
●発射カタパルト

シャアがコムサイで、コアファイターを追撃するのに利用したカタパルト。ガルマの駐屯する基地にあり、宇宙への連絡に活用していた



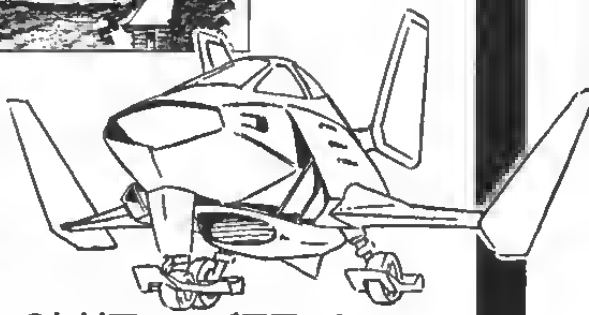
●宇宙戦闘機発進口

シャアの機雷攻撃の直後、戦闘機がここから発進する予定だったが割愛された



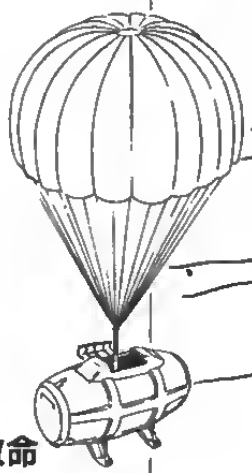
●ニューヤーク市

地球・北米の瓦礫に覆われたニューヤーク市の美術設定。つまりニューヨークではないという事で「ニューヤーク」表記をするようになった根拠の設定



●トリアエーズFF-4

これが発進するはずだった連邦軍小型戦闘機である。正式戦闘機は後に出るので『とりあえず』設定されたものの使われなかった不遇の戦闘機。出たとしても４話のカット１１８の１シーンだけなのだが

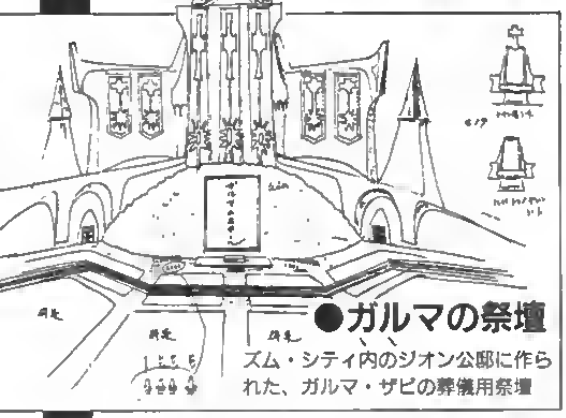


●救命カプセル

ルッグンに搭載されている救命カプセル。ベルシア親子の為にと投下したものだが結局バムロの手当に使われた

●セントアンジェ

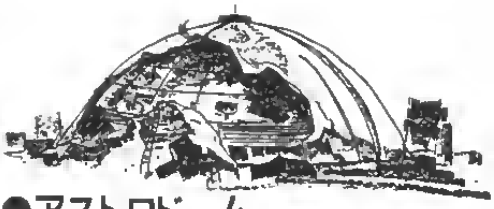
正確には北米セントアンジェの勝地。爆撃で出来た巨大な湖が、セントアンジェの中心地であった



●ガルマの祭壇

ズム・シティ内のジオン公邸に作られた、ガルマ・ザビの葬儀用祭壇

設定ではニューヤーク市のアストロドームとなっているが、WBが帰れるまでの移動距離を考えるとシアトルでもロスアンジェルスでも似たようなものか…



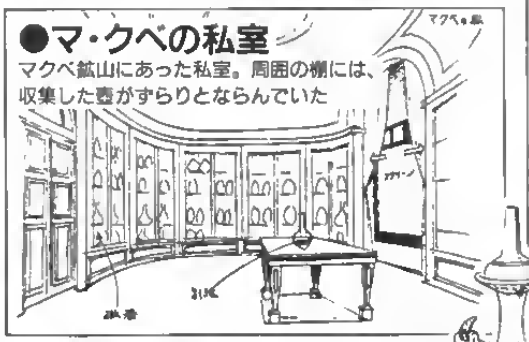
●アストロドーム

●アムロの実家

日本、山陰地方のアムロの実家

●マ・クベの私室

マクベ鉱山にあった私室。周囲の棚には、収集した壺がずらりとならんでいた



●日本の海岸

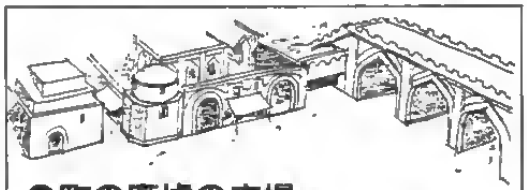
WBクルーが海水浴をしていた海岸である。雰囲気的には天橋立から鳥取付近の海岸線に似ている

これが壺の設定。ウラガンにチーンと鳴らして「いい音色だろ」と聞いたのはこれ。北宋らしい…読者の多くはウラガンと一緒でわからないと思う

●マ・クベの壺1

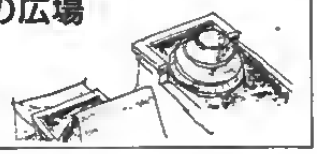
●マ・クベの壺2

ガンダムに討たれ、死ぬ寸前のマ・クベが心配していた壺「ウラガン！あの壺をキシリア様に届けてくれよ。あれは…いいものだ」



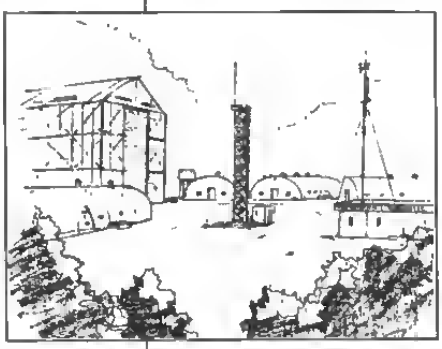
●町の廃墟の広場

脱走したアムロがガンダムを隠していた廃墟の中にある広場



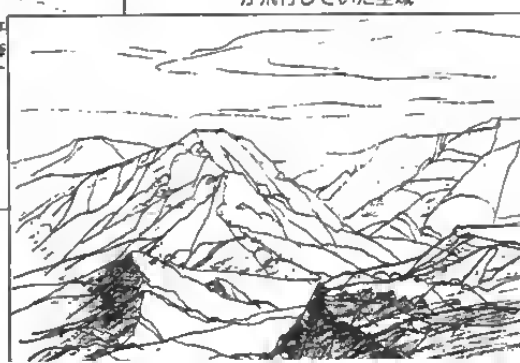
●クワランたちの前進基地

これでも小規模な基地で、稼動可能なザクは一機だけであった



●カルパート山脈

オデッサ作戦でWBが飛行していた空域

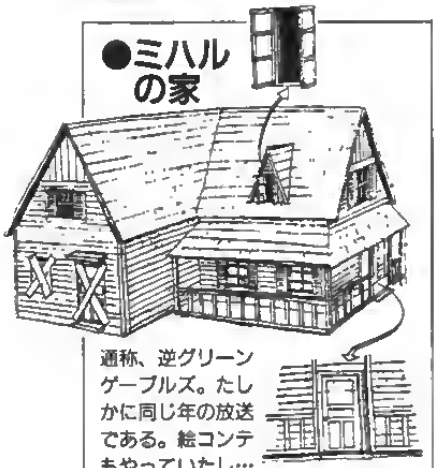


●レストラン

ソドンの町のレストランのある町並み

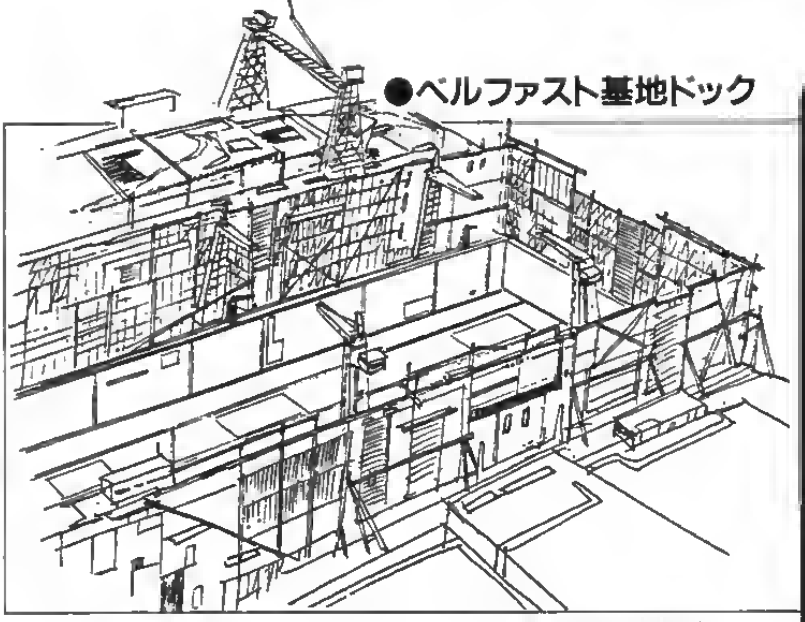
美術設定 2

●ミハルの家



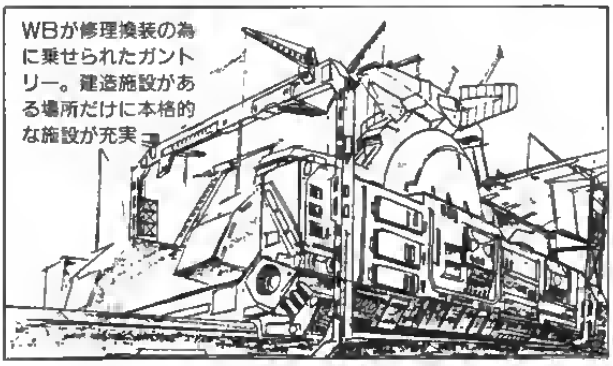
通称、逆グリーンゲーブルズ。たしかに同じ年の放送である。絵コンテもやっていたし…

●ベルファスト基地ドック



WB用のドックだが、他に空を飛ぶ重能はない

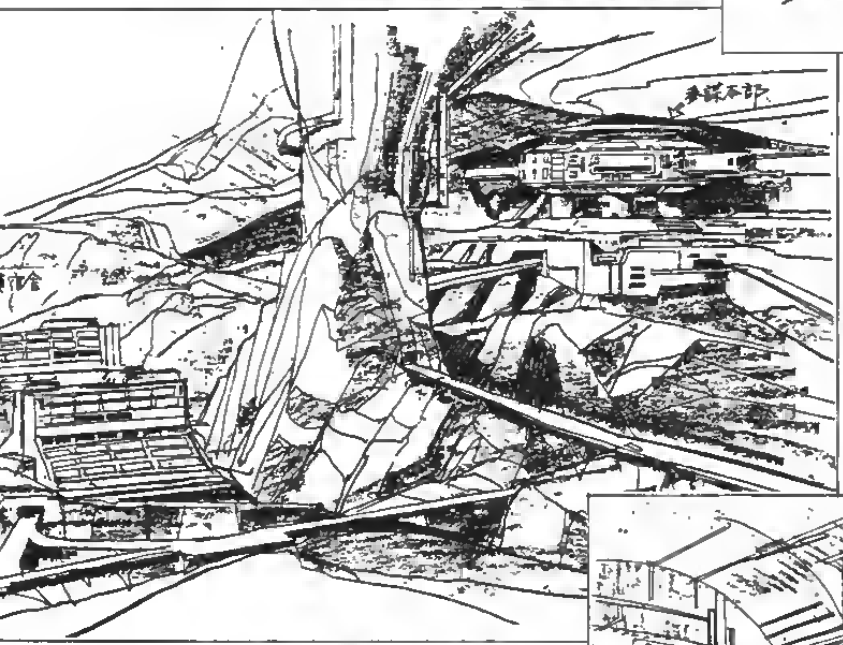
●ジャブロー内ガントリー



WBが修理換装の為に乗せられたガントリー。建造施設がある場所だけに本格的な施設が充実

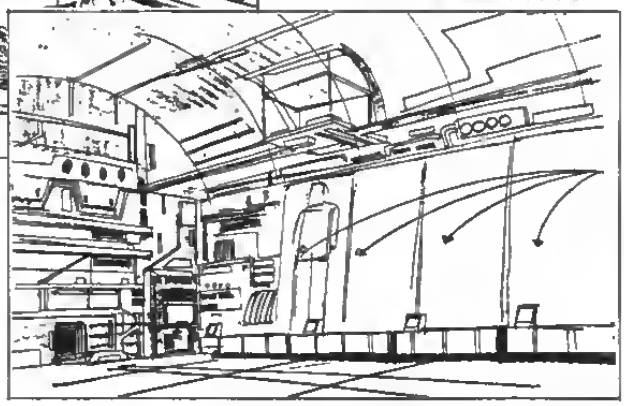
●ジャブロー入り口

これはWBの侵入口で、その他多数の出入り口がある



●GMの工場

ジャブロー内にあるGMの工場。最終調整状態のGMがズラリと並ぶ様は壮観であった

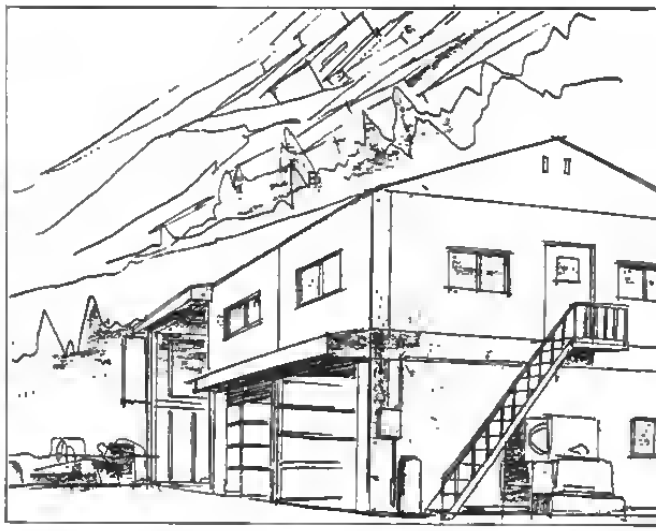


●ジャブロー中央部

南米の地下大空洞に建造された連邦軍基地。そうとう巨大な空洞である

●サイド6のジャンク屋

テム・レイが下宿していたジャンク屋。この外付け階段が宇宙世紀とは思えないのだが…これが原因で死ぬ人だっている（劇場版）



●ララァの家

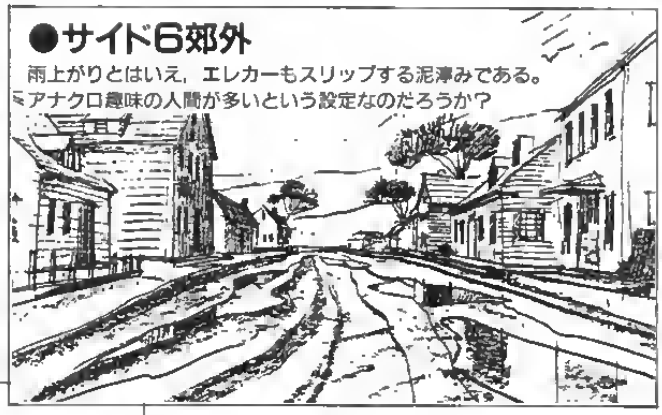
湖の辺にある家。この湖には白鳥まで生息していた

●宇宙要塞ソロモン

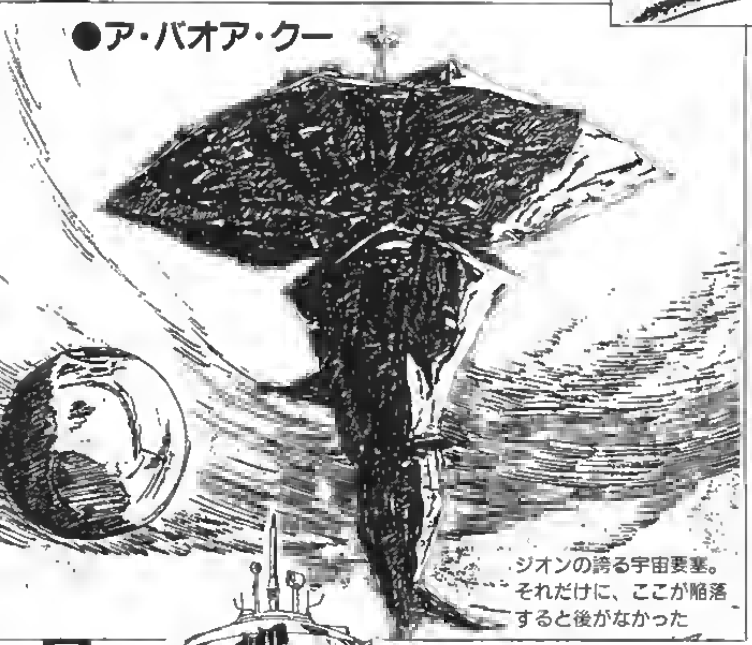
ジオン本国を守るように，ソロモンとア・バオア・クー，それに月面基地グラナダが配置されていた。ソロモンは陥落後、連邦の前進基地となる

●サイド6郊外

雨上がりとはいえ，エレカーもスリップする泥濘みである。アナクロ趣味の人間が多いという設定なのだろうか？



●ア・バオア・クー



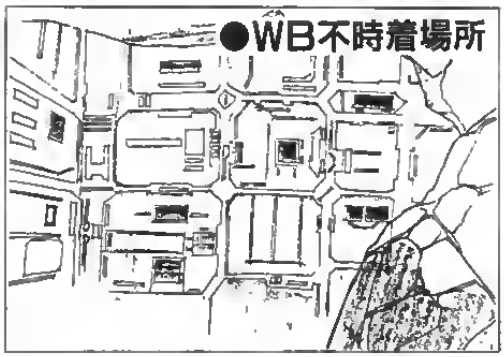
ジオンの誇る宇宙要塞。それだけに、ここが陥落すると後がなかった

●グラナダ

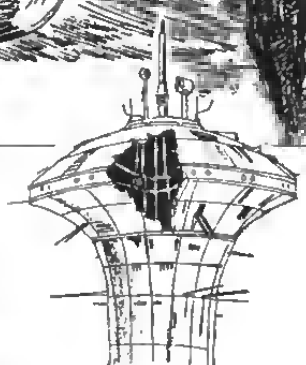
月面基地グラナダは，地球からは見えない裏側に位置し、ジオンの最終防衛拠点となっていた

ア・バオア・クーでエンジンを切り離したWBが不時着した場所

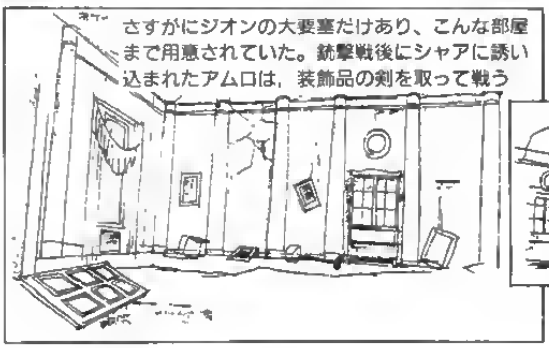
●WB不時着場所



ロビーから続く



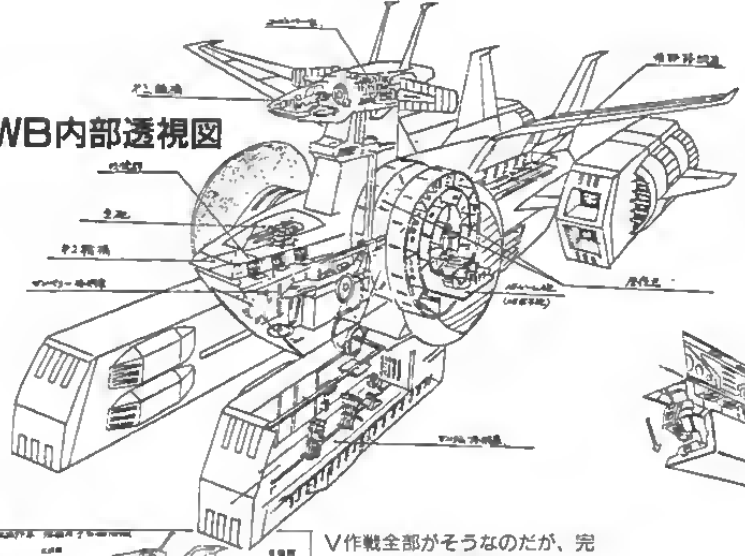
●ア・バオア・クーのセントラルタワー



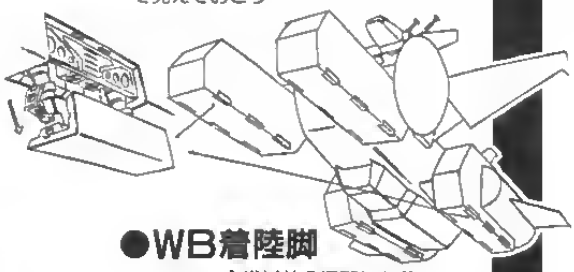
さすがにジオンの大要塞だけあり、こんな部屋まで用意されていた。銃撃戦後にシャアに誘い込まれたアムロは，装飾品の剣を取って戦う

●来賓室

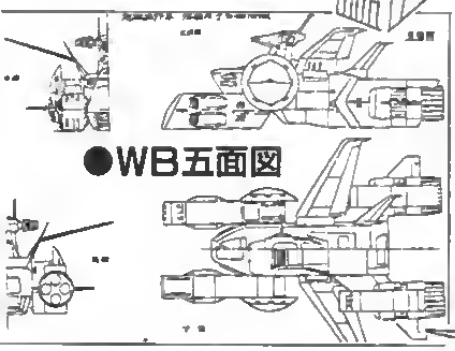
●WB内部透視図



海軍艦艇の法則通り、右舷から番号が振られている。つまり馬にたとえるなら右足が第一デッキ、左足が第二デッキである。ガンペリーが収容されている中央は第三デッキ、スペースランチが収容されている後部が第四デッキとなり、台詞でも混乱なく使われているので覚えておこう



●WB五面図

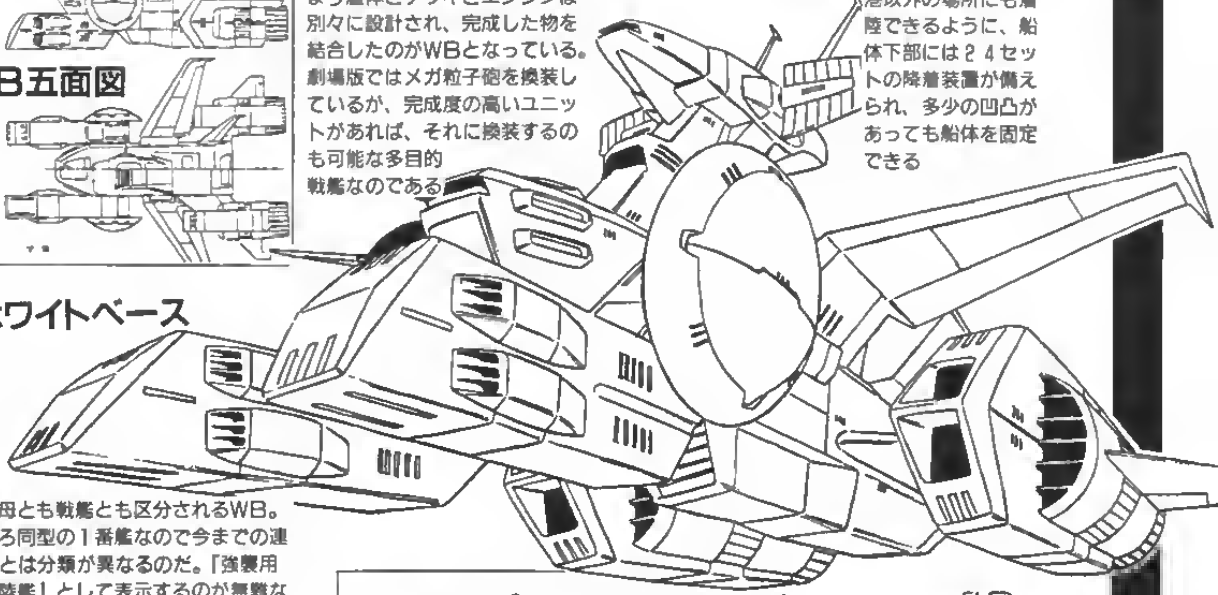


V作戦全部がそうなのだが、完成したユニット優先である。つまり艦体とデッキとエンジンは別々に設計され、完成した物を結合したのがWBとなっている。劇場版ではメガ粒子砲を換装しているが、完成度の高いユニットがあれば、それに換装するのも可能な多目的戦艦なのである

●WB着陸脚

港以外の場所にも着陸できるように、船体下部には24セットの降着装置が備えられ、多少の凹凸があっても船体を固定できる

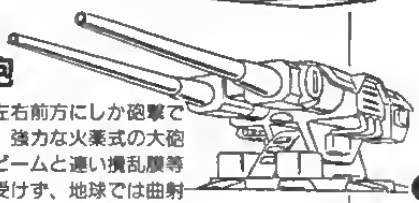
●ホワイトベース

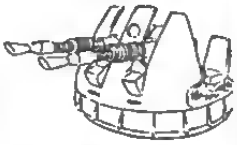


宇宙空母とも戦艦とも区分されるWB。なにしろ同型の1番艦なので今までの連邦艦船とは分類が異なるのだ。「強襲用宇宙揚陸艦」として表示するのが無難なところだろう。ジオン軍のコードネーム「木馬」企画段階では「ペガサス」と呼称されていた特殊な形状の船である

●主砲

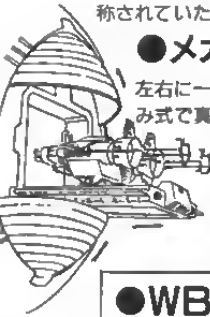
構造上、左右前方にしか砲撃できないが、強力な火薬式の大砲である。ビームと違い撹乱膜等の影響も受けず、地球では曲射攻撃も可能

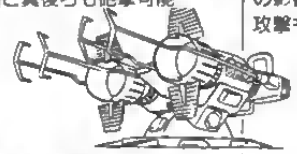




●メガ粒子砲

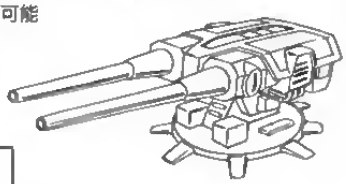
左右に一基づつある二連の砲は、引き込み式で真正面と真後ろも砲撃可能



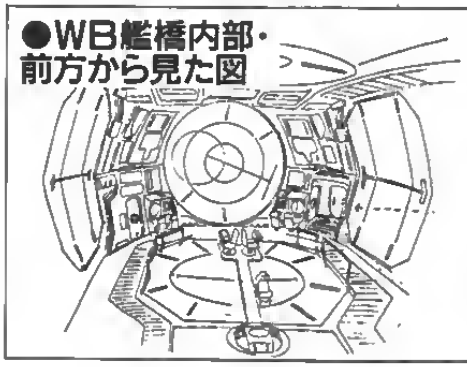


●対空機銃座

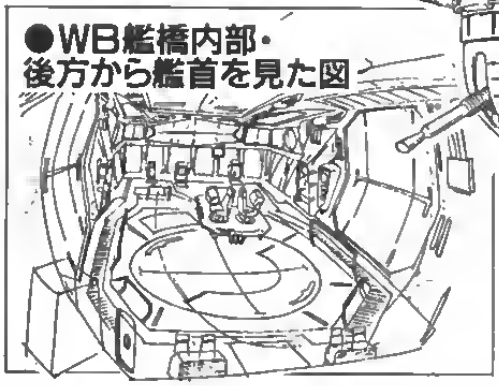
左右両舷に迫り上がるタイプと下方に突き出すタイプがある。ミノフスキー粒子下の戦闘を考慮し、手動操作となる。ブライトの「弾幕を張れ」で、少年たちは総出で操作する

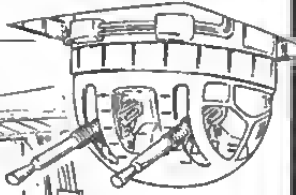


●WB艦橋内部・前方から見た図



●WB艦橋内部・後方から艦首を見た図

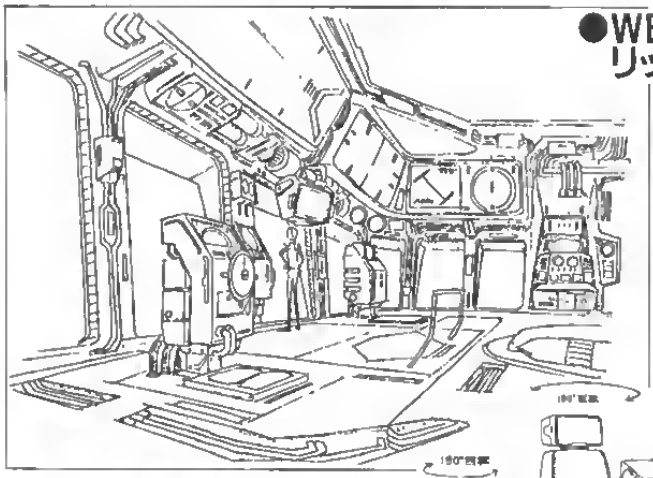




ホワイトベース1

地球連邦軍が起死回生の秘密兵器として開発したガンダム。そして、MSを効率良く運用するための艦がWBである。
全編に登場するWBの内部を詳細に解説してみよう。主人公たちの家であっただけでなく、大切な主役なのだから

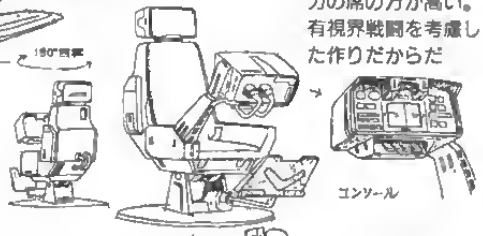
●WB艦橋ブリッジ付近



艦橋もブリッジも同じ意味だが、WBでは操舵装置付近を特にブリッジと呼称していた。ミライは立ちっぱなしである

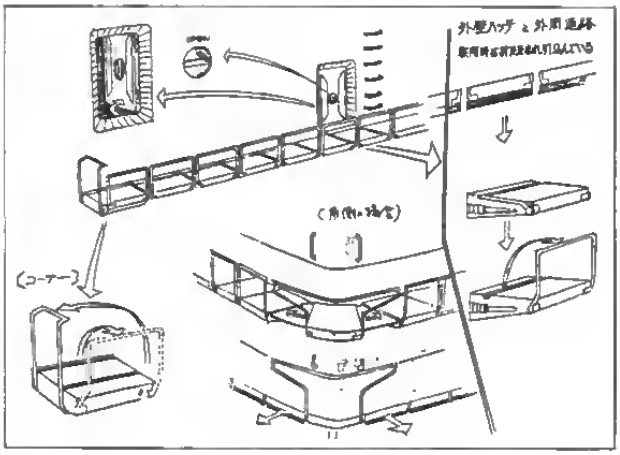
●WB艦橋オペレーター座席

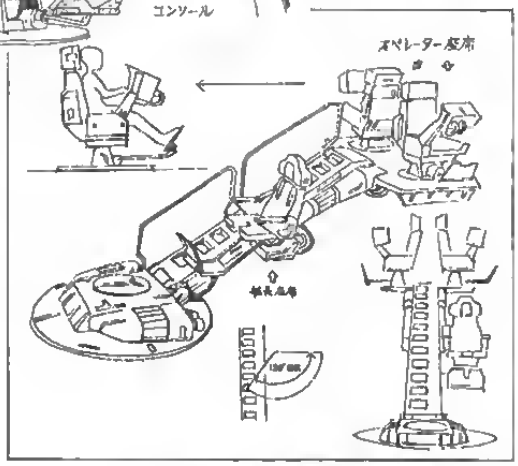
ブライトの艦長席よりもマーカー&オスカの席の方が高い。有視界戦闘を考慮した作りだからだ



●WB外周通路

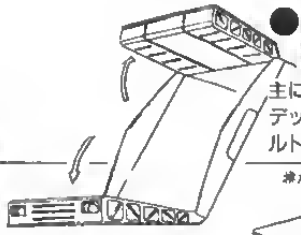
戦闘時はハッチが閉鎖され、外周通路も折り畳まれているから外壁には何もない。必要な時にはハッチを開き、通路を展開するのである





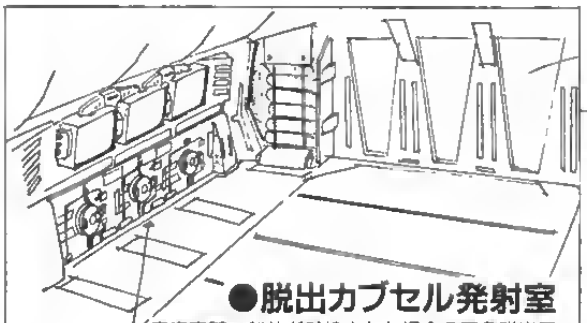
●第一・第二デッキ開閉扉

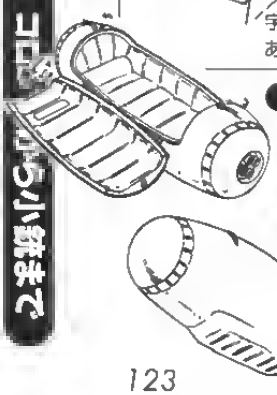
主にMSの発進は、このデッキから行う。カタパルトの推力も最大である



●脱出カプセル発射室

宇宙空間で船体が破壊された場合の緊急脱出用。あくまでも船から脱出するだけの気休めである



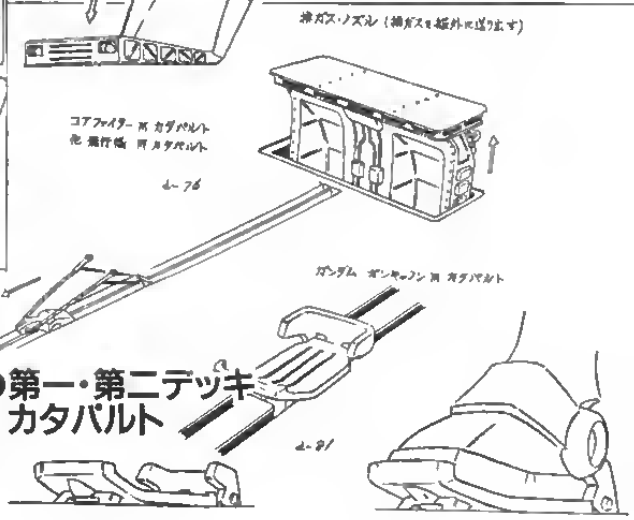


●脱出カプセル

ほとんど棺桶。最低限度の生命維持装置があり休眠状態の乗員は運が良ければ味方に拾ってもらえる

●第一・第二デッキカタパルト

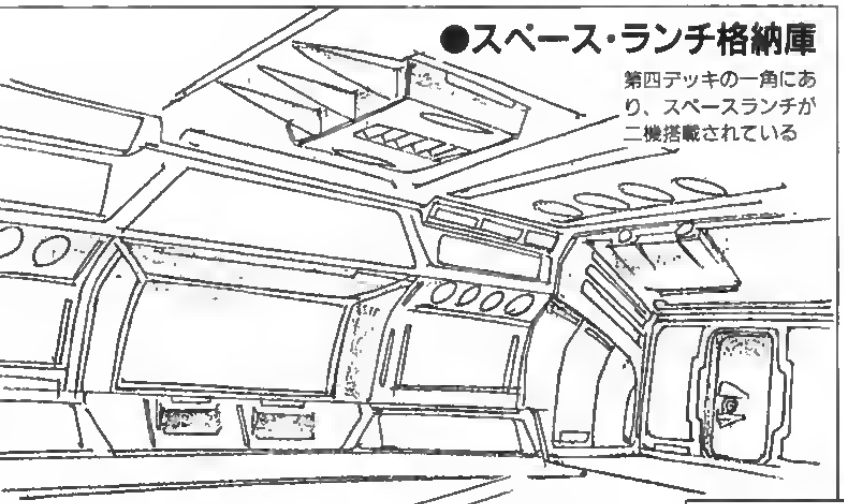
コアファイターや将来搭載される艦載機用のカタパルトと、ガンダム・ガンキャノン用の大型カタパルトが用意されている



ホワイトベース2

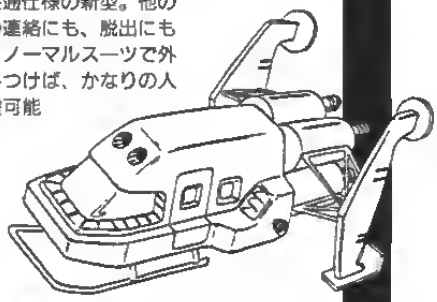
●スペース・ランチ格納庫

第四デッキの一角にあり、スペースランチが二機搭載されている



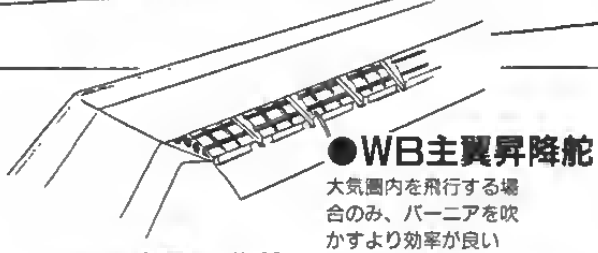
●スペース・ランチ

連邦軍共通仕様の新型。他の艦艇との連絡にも、脱出にも使える。ノーマルスーツで外にしがみつけば、かなりの人数も運搬可能

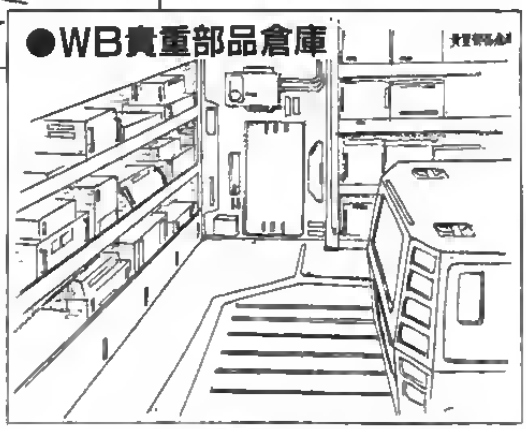


●WB主翼昇降舵

大気圏内を飛行する場合のみ、バーニアを吹かすより効率が良い



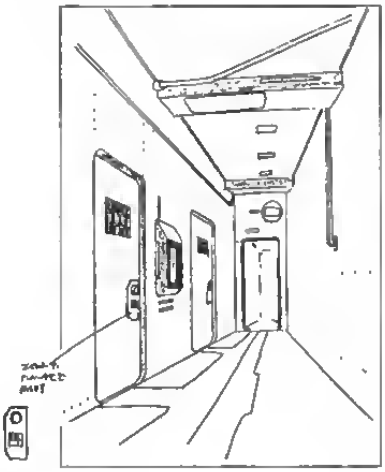
●WB貴重部品倉庫



本来、整備はオムルの担当だが、アムロは自分でガンダムを修理するので、関連パーツはここに収納して自分で管理していた

●WB独房の入り口

さすがに軍艦である。捕虜や反逆者を想定した施設である。キーはナンバー式で艦長が任意に決める事ができる

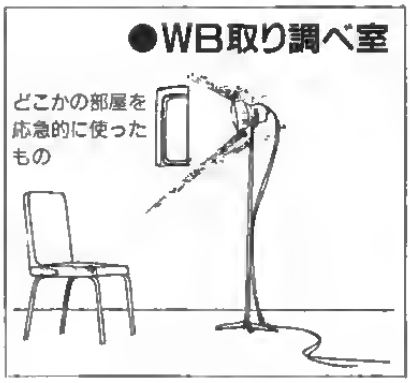


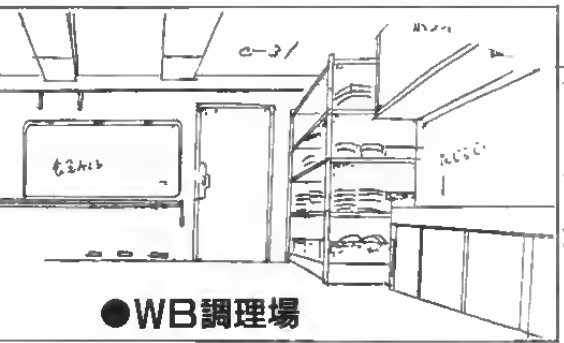
●WB重力ブロックの廊下

遠心力で軽い重力を発生できる

●WB取り調べ室

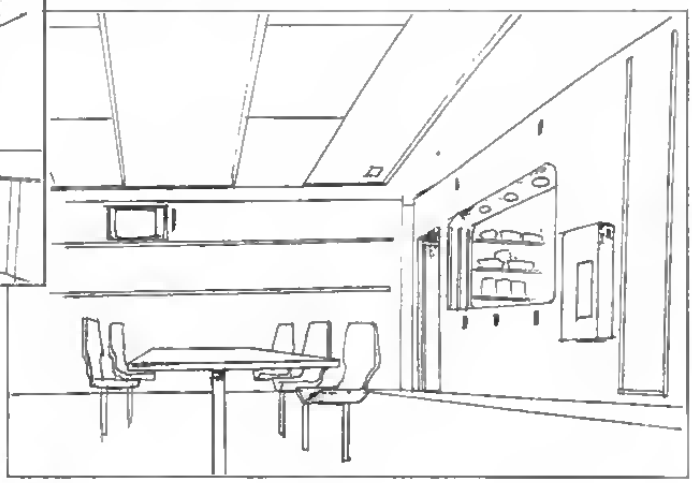
どこかの部屋を応急的に使ったもの





●WB調理場

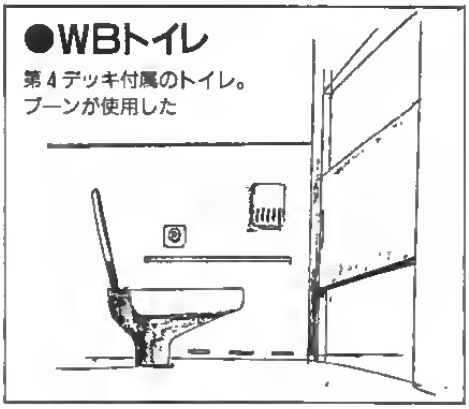
タムラの戦場。食堂と隣接し、配給はセルフサービス



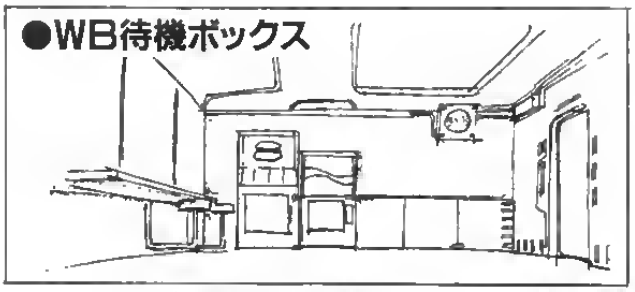
●WB食堂

●WBトイレ

第4デッキ付属のトイレ。
ブーンが使用した

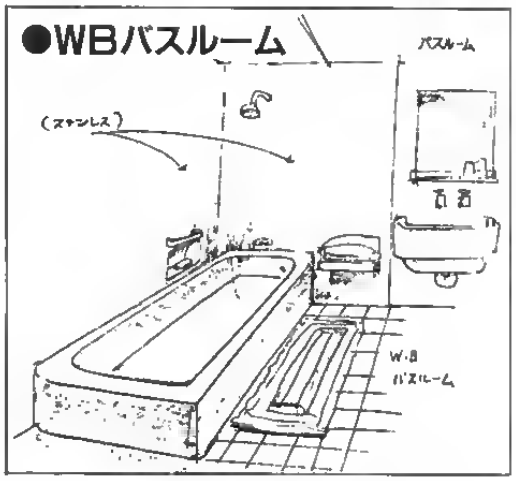


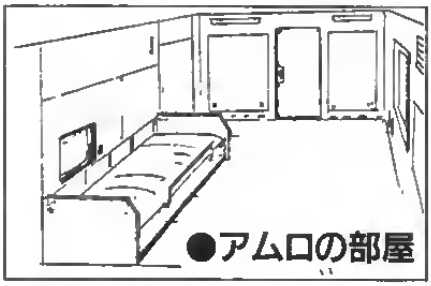
●WB待機ボックス



デッキに隣接し、出撃待機中のパイロットが休息する場所

●WBバスルーム





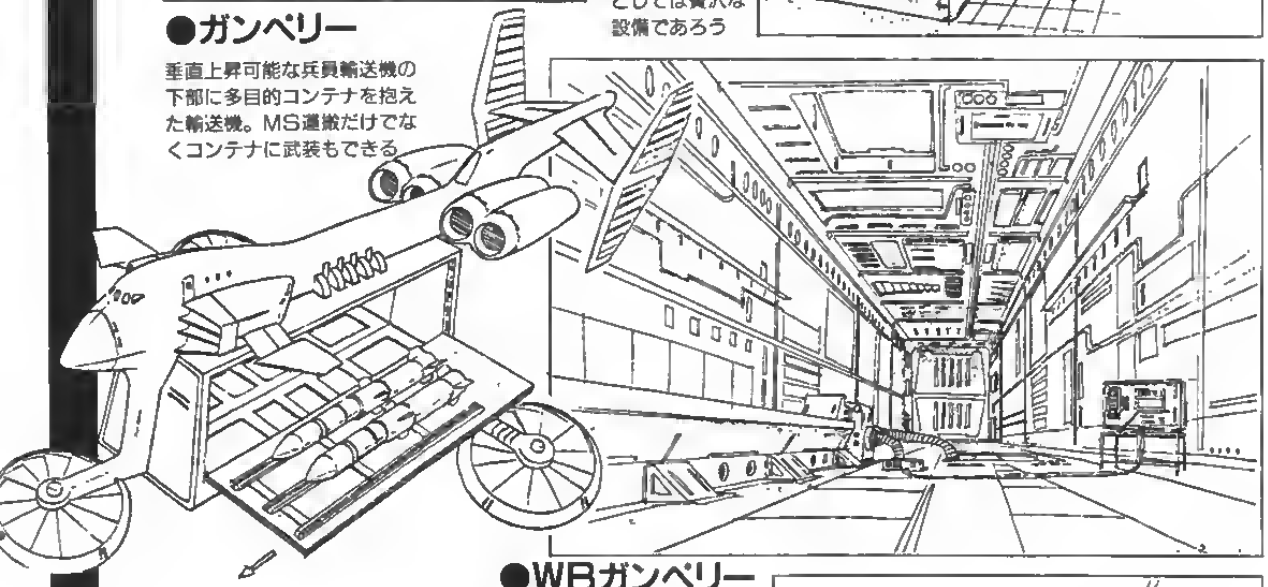
●アムロの部屋

パイロット待遇なので個室が与えられていた

重力ブロックの中にある。軍艦としては贅沢な設備であろう

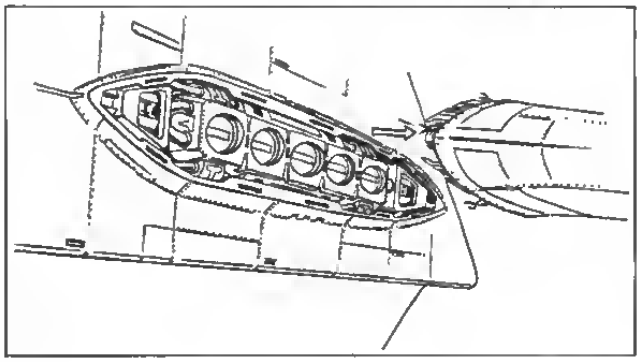
●ガンペリー

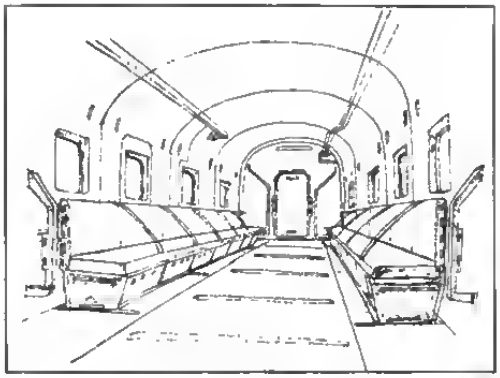
垂直上昇可能な兵員輸送機の下部に多目的コンテナを抱えた輸送機。MS運搬だけでなくコンテナに武装もできる



●WBガンペリー格納庫

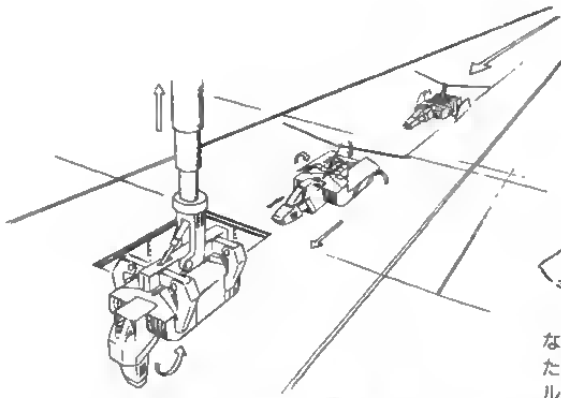
第3デッキにあるガンペリーの格納庫



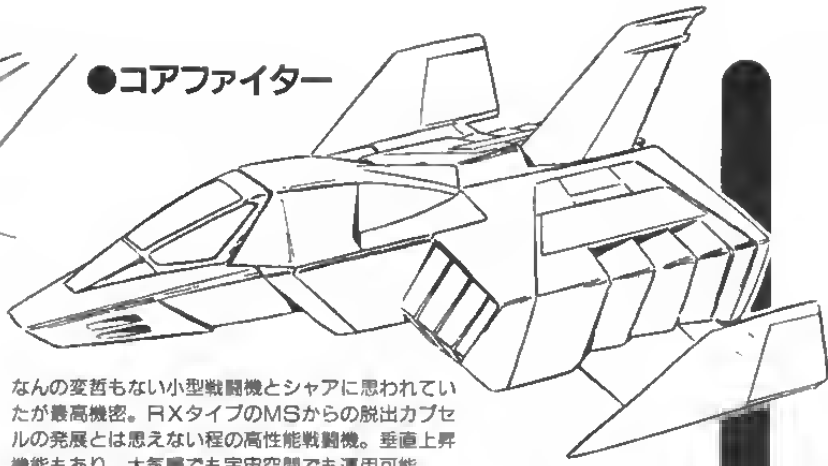


●ガンペリー内部

●WBエンジン切り離し部分



●コアファイター

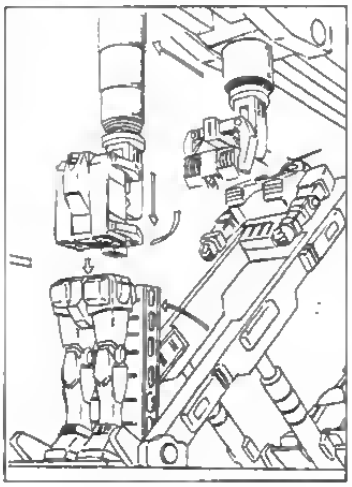


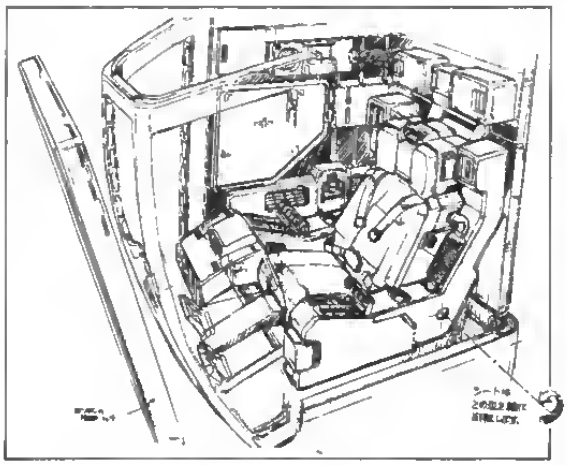
なんの変哲もない小型戦闘機とシャアに思われていたが最高機密。RXタイプのMSからの脱出カプセルの発展とは思えない程の高性能戦闘機。垂直上昇機能もあり、大気圏でも宇宙空間でも運用可能

全長8.6／全備重量8.9ｔ／大気圏内最高速度マッハ4.8
大気圏内コアチェンジ後速度時速600km/素材ルナチタニウム
主動力　航空機タイプ核融合エンジン　タキム式NC－3
主武装：３０mm２連装機関砲×２（機首）
　　小型ミサイル・４発×２　（全て放映中のデータ）

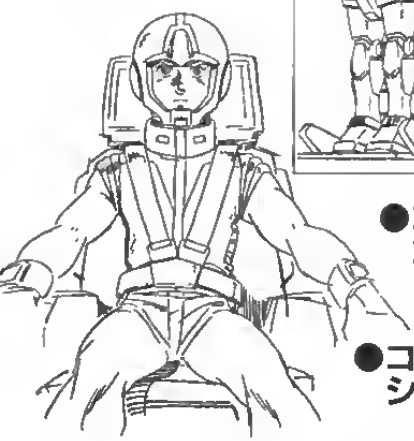
●コアファイター変形パターン

出撃したコアファイターは格納庫でコアブロックに変形しRXタイプのMSにはめ込まれ、MSとして出撃する

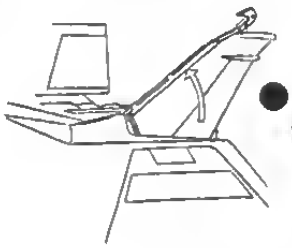




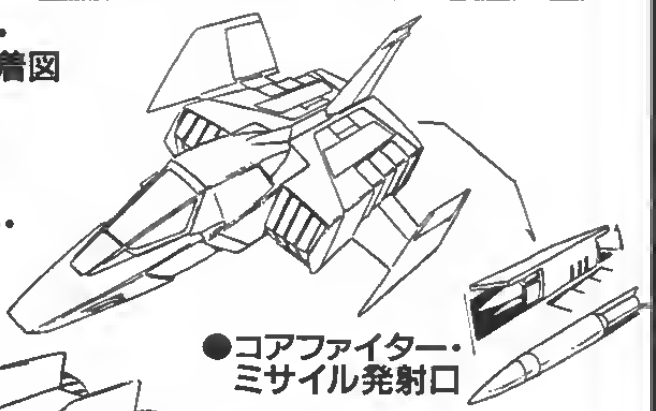
●コアファイター・コクピット



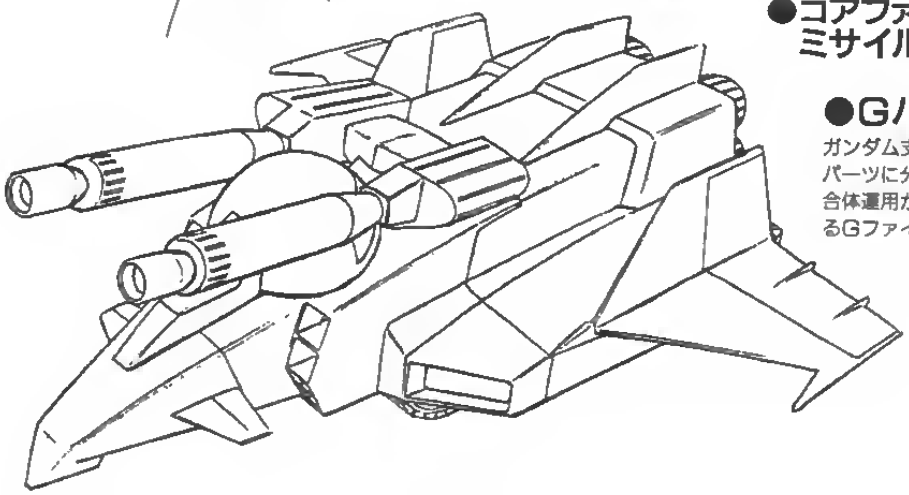
●コアファイター・シートベルト装着図



●コアファイター・着艦フック



●コアファイター・ミサイル発射口

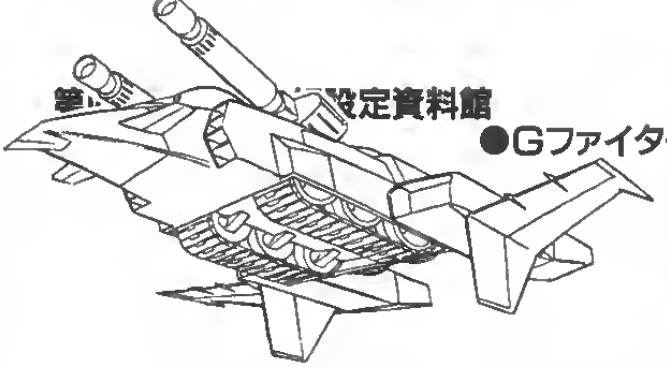


●Gパーツ

ガンダム支援強化メカ。AパーツとBパーツに分離し、ガンダムとの多彩な合体運用が可能となる。図は基本となるGファイター

支援メカニズム

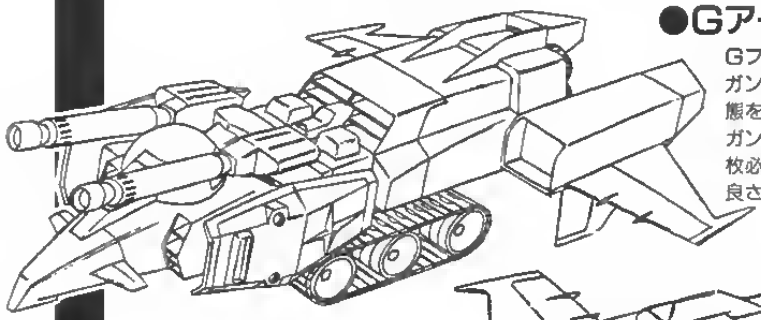
●Gファイター飛行形態



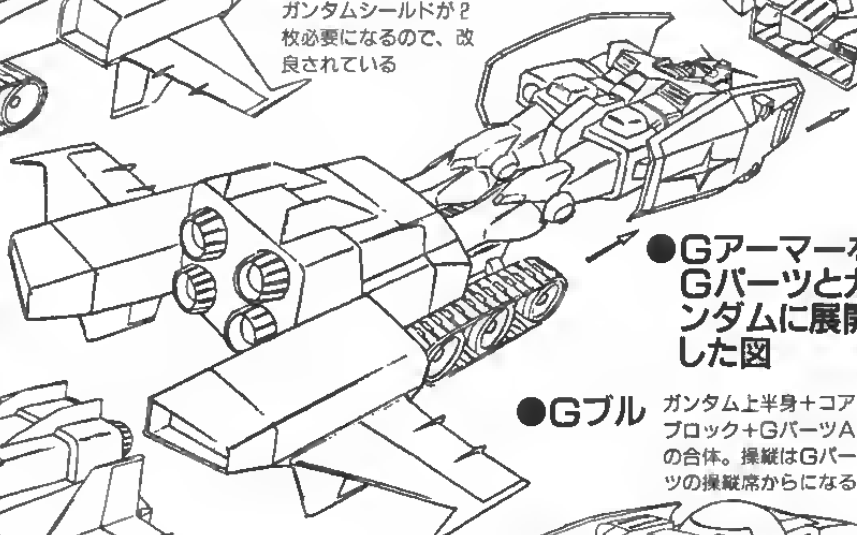
Gファイターのエンジンが後部にスライドし、翼が変形して飛行安定性を増したもの

●Gファイター機首ミサイル

●Gアーマー



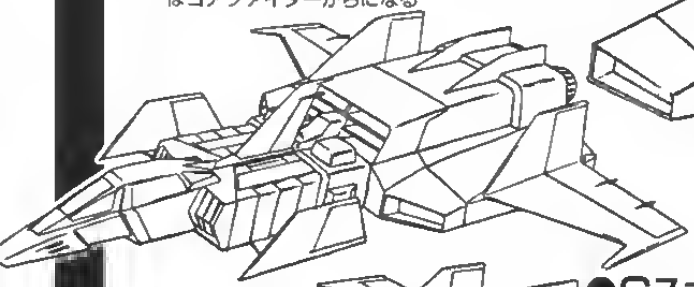
Gファイターの内部にガンダムを収容した状態をGアーマーと呼ぶ。ガンタムシールドが2枚必要になるので、改良されている



●Gアーマーを Gパーツとガンダムに展開した図

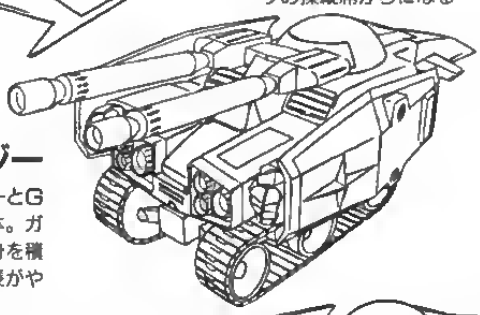
●Gスカイ

コアファイター+ガンタムBパーツ+GパーツBの合体。操縦はコアファイターからになる



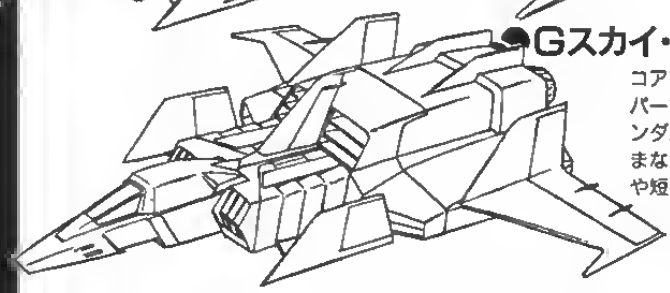
●Gブル

ガンタム上半身+コアブロック+GパーツAの合体。操縦はGパーツの操縦席からになる

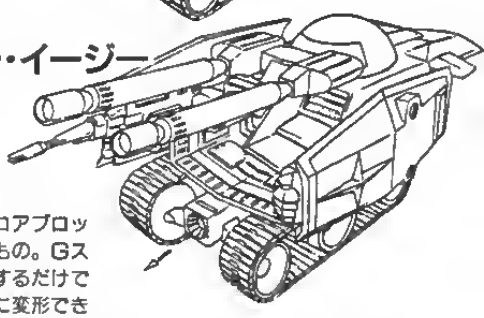


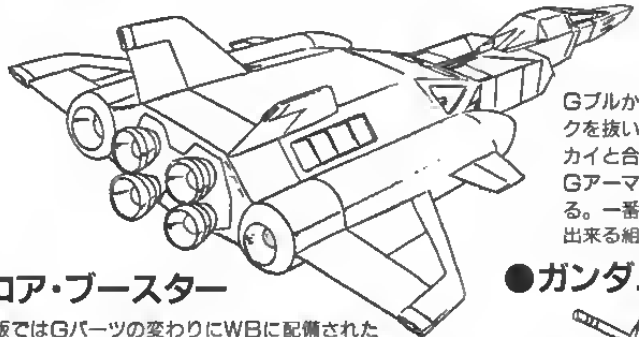
●Gスカイ・イージー

コアファイターとGパーツBの合体。ガンダムの下半身を積まないので全長がやや短くなる



●Gブル・イージー





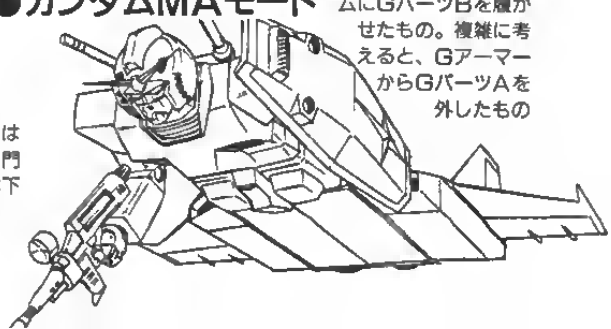
Gブルからコアブロックを抜いたもの。Gスカイと合体するだけでGアーマーに変形できる。一番多様な運用が出来る組み合わせ

●コア・ブースター

劇場版ではGパーツの変わりにWBに配備された
全長13．8m／全備重量18．3t／最高速度マッハ5．38
大気圏内、宇宙空間兼用の戦闘機である。
予備のコアファイターを使った支援戦闘機。コアファイターからはバルカンしか使えないが、ブースターに装備されたメガ粒子砲2門と両脇のミサイルランチャー2機が威力を発揮する。さらに機体下面の爆弾倉より多弾頭弾を投下した事もある

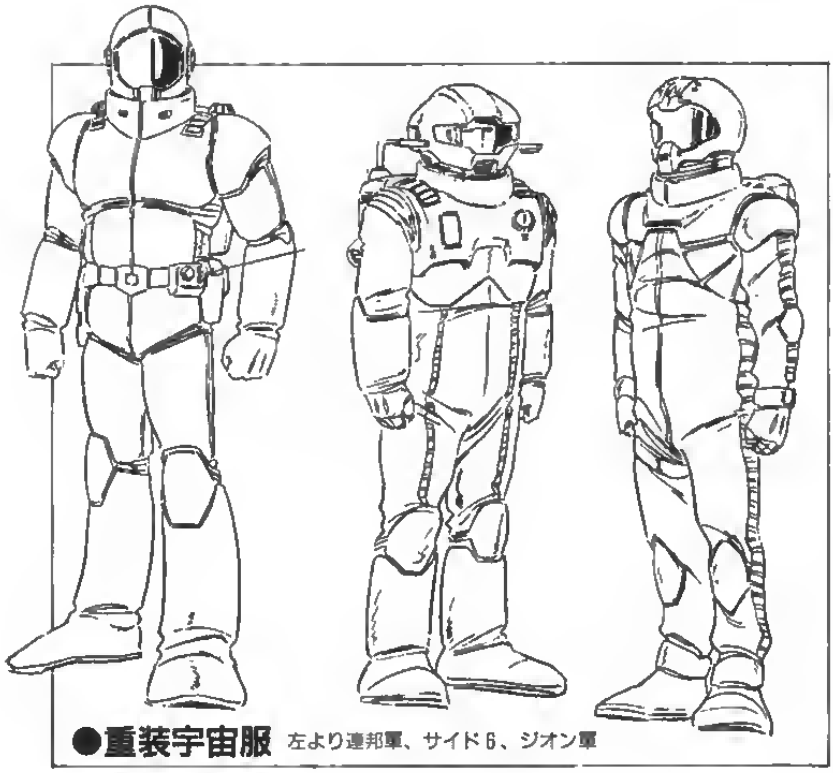
●ガンダムMAモード

単純に考えるとガンタムにGパーツBを履かせたもの。複雑に考えると、GアーマーからGパーツAを外したもの

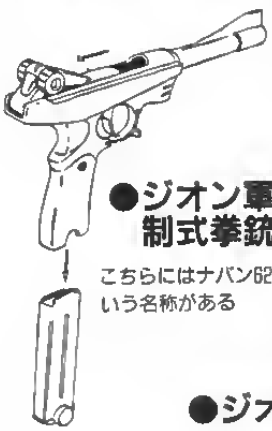


宇宙服セレクション

宇宙世紀においては、宇宙服は二種類存在する。純粋に宇宙空間で活動する為の重装宇宙服と、MSや戦闘機に搭乗するパイロットスーツである。MSに対応させてノーマルスーツと呼ぶのは、パイロットスーツの事である。



●重装宇宙服　左より連邦軍、サイド6、ジオン軍



●ジオン軍制式拳銃

こちらにはナパン62式という名称がある

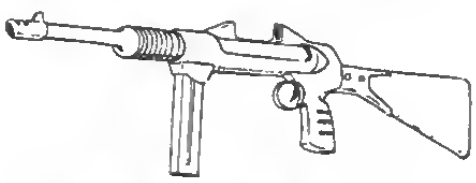
●地球連邦軍制式拳銃

ノーマルスーツ付属の拳銃である

●ジオン軍正式狙撃銃

ノーマルスーツでも扱えるスコープが特徴

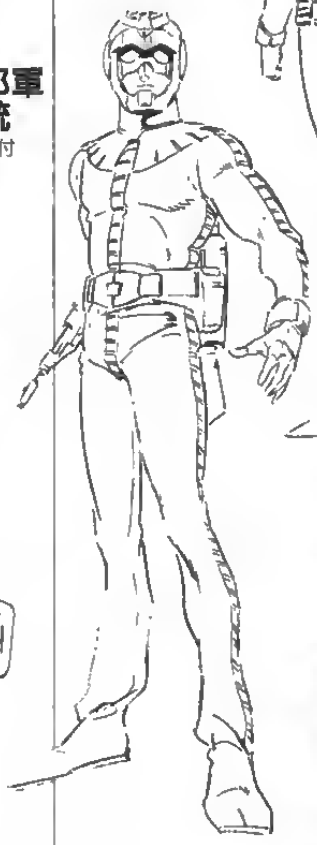
銃器の色々



●ジオン軍正式無反動ライフル

タイガー70円

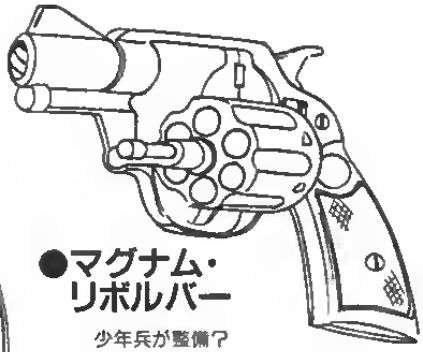
●ノーマルスーツ



連邦軍とジオン軍。ほぼ同じような物であるが移動用バーニアであるランドムーバーの機能が大きく異なっている

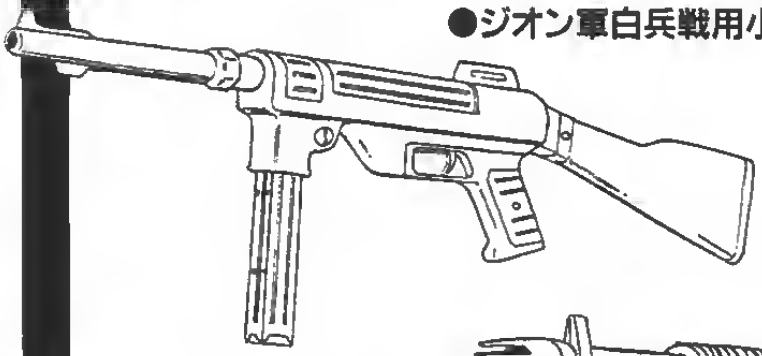
●ミハルの持つ銃
ベレッタ1934

前世紀の遺物だが
名銃である

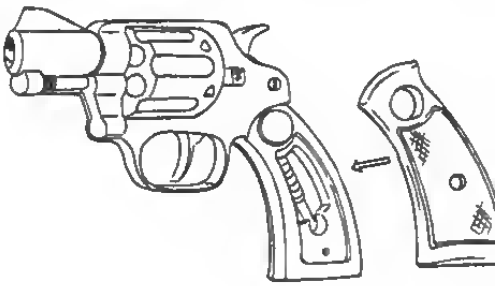


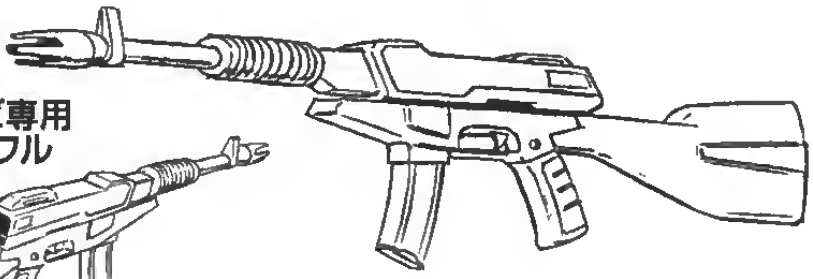
●マグナム・
リボルバー

少年兵が整備?
していた銃

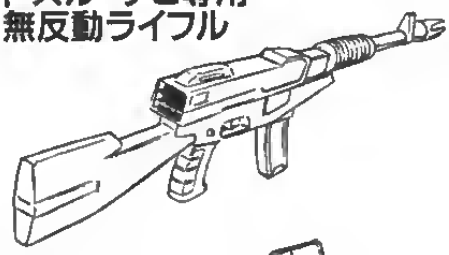


●ジオン軍白兵戦用小銃



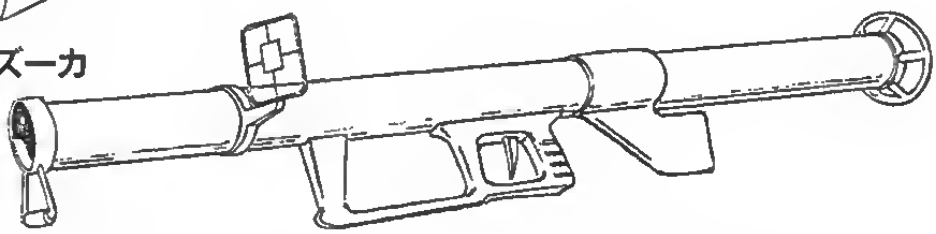


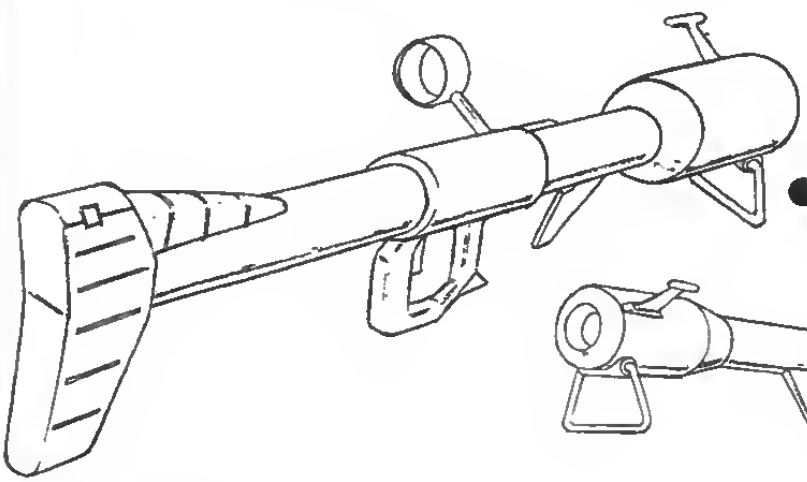
●ドズル・ザビ専用
無反動ライフル



●連邦軍バズーカ

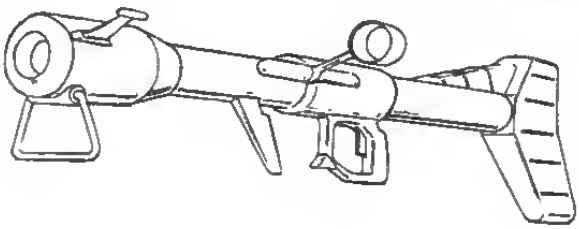
オムルが使って
コズンを吹き飛
ばしてしまった





●シャアがキシリア殺害に
使ったバズーカ

ジャイアント・バズに似ている



似てるけど違う

●ランバ・ラルが自爆に使った手榴弾

●操艦手引書

WBの主砲、機銃、ミサイルの操作方法が書いてあり少年たちはこれを見ながら射撃していた

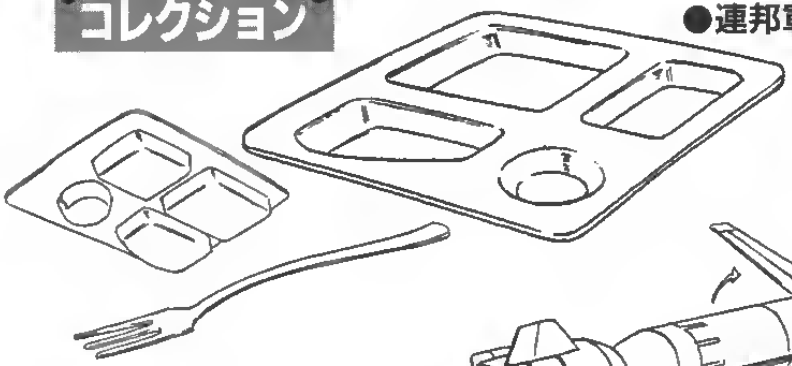
●V作戦シークレットファイル

アムロが拾ったガンダム関係の極秘ファイルである

小道具コレクション

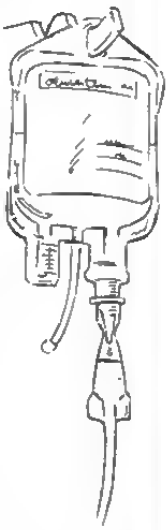
●連邦軍制式食器盆

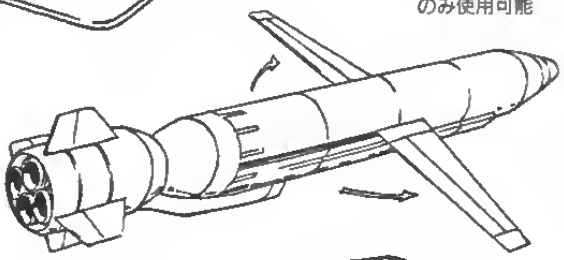
ルナツーでもWBでもこれを使っていた

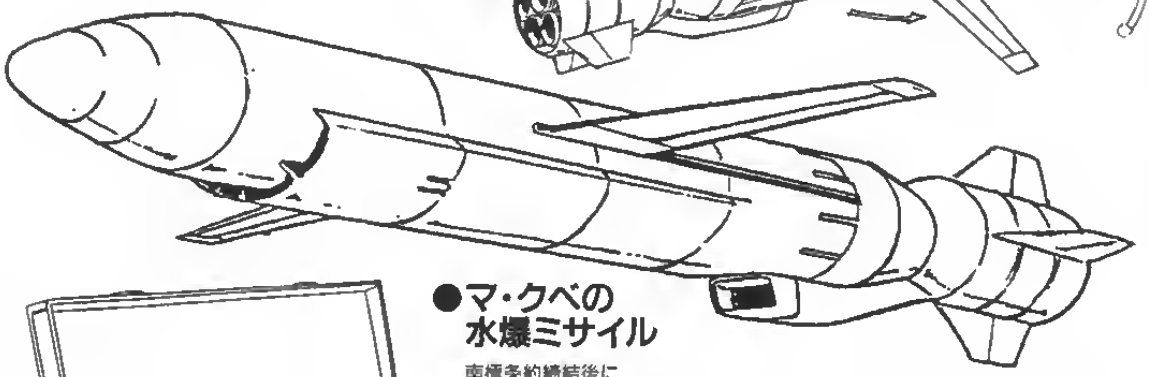


●輸血パック

書力のあるWBのみ使用可能



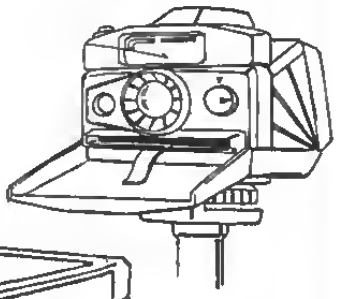




●マ・クベの水爆ミサイル

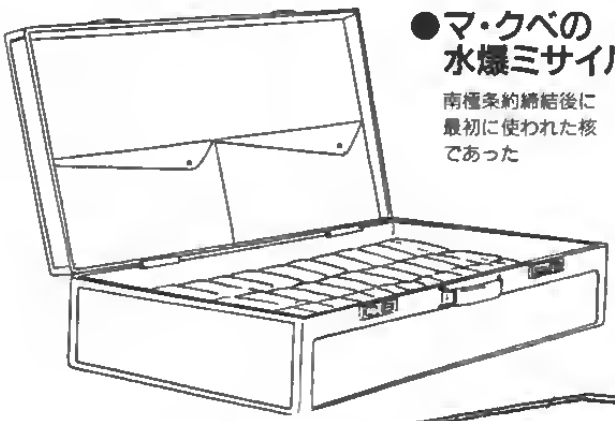
南極条約締結後に最初に使われた核であった

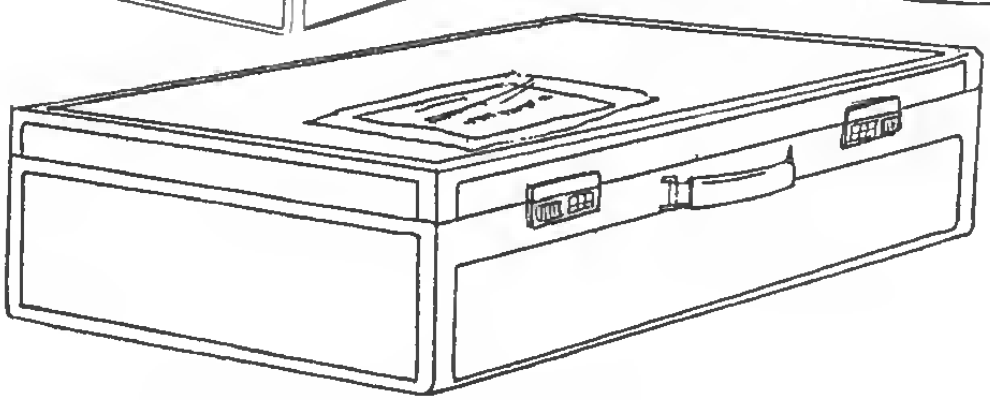
●カイのポラロイドカメラ



●トランク

シャアがセイラに残した金塊の入ったトランク





第五章●機動戦士ガンダムメカ&用語大事典

あ

アーマー

装甲の事。鎧の事をそういう場合もある。ガンダムに使われているアーマーは、分割式のルナチタニウム製三重ハニカム構造で、被弾した部分を手早く交換できる。

RX-78

ガンダムの形式ナンバー。ジオンのザクに対抗するMSとして開発された。連邦軍の現用技術でガンタンクを開発し、超小型核融合炉の完成でガンキャノンを完成。量産型MSのプロトタイプとして開発されたRX-78は、ザクMS以上の性能を誇っている。一機の強力なMSを投入することで、戦果を発揮したガンダムの成功により、ジオンの開発途上のMS・MAが戦線に投入される呼び水ともなった。

Iフィールド

ミノフスキー粒子に電磁波を流し、立方格子状にした力場。核融合炉の炉心を維持する為に開発された技術だが、その応用として地球上で巨大な船を浮上させるミノフスキークラフトも実用化されている。またガンダムの使うビームサーベルもプラズマ状態のメガ粒子をIフィールドで包み剣の形にしたものである。

アイランド

スペースコロニーのシリンダー一基を指す言葉。スペースアイランドが正式名称でガンダムの世界では、直径6・5km、長さ30数kmの島3号タイプが基本である。コロニー一基を1バンチと呼び、30～40バンチで1サイドとなる。各サイドに愛称があるように、アイランドにも固有名詞がある。たとえば、マハルやテキサス等がそれにあたる。

本来コロニーは、同じ空域に幾つも浮かんでいるのだが、サイド7は最初の一基が建設中、テキサスは他が破壊されて単基であった。サイド6については他のアイランドが見えなかっただけである。

アイルランド

イギリスの西にある島。ジオンの占領をまぬがれていたので、WBは北アイルランドのベルファスト基地で修理と補給を受けた。その後は大西洋を横断するだけでジャブローに向かう。

赤いモビルスーツ

シャアが搭乗するMSは全て赤色で塗装されていた。やはりハデ好きとしか思えない。ジオン軍では佐官クラスやエースパイロットになると官給品をカスタムメイド化して使う例が多い。小はヘルメットから大は宇宙戦艦まで実に多く画面に登場した。そんなシャアでもジオングの塗装をする時間的な余裕はなかったようである。

アクアラング兵(3B)

水中戦闘部隊であるマッド・アングラー隊の兵士達のことで、水中での戦闘、作業などを遂行する為に特別な訓

練を受けている。しかし、実際に地球で活動したのは半年程なので水圧に悩まされたであろう。

アサルム(ZG)

一年戦争終結時、キシリアを殺した後に、シャアがア・バオア・クーからアクシズまで乗艦していったグワジンタイプの戦艦の名称。

アッガイ(30)

ジオン公国が地球侵攻後に実用化した水陸両用MS。水中抵抗を減らす為のズングリムックリな外観に似合わず、陸上においても運動性が高い。伸縮する腕、接近戦用の爪、腕にしこまれたロケット砲と簡略されているが信頼性の高い兵装を持つ。

アッザム

移動重機関砲座。8基のローターにて飛行可能。4本の足は固定用で歩行はできない。二連装メガ粒子砲塔を上下各4基ずつ備え、底部よりリーダーを放出し敵を高熱で溶かす。MAの前段階的存在。何故MAと分類されないかと言えば、アッザムがMSからの発展型ではなく、重機関砲座に高い機動力をもたせるという移動砲台の発想のもとに開発されたことにあるからである。

アナハイム・エレクトロニクス(ZG)

地球に本社を持つ巨大複合企業。主に宇宙にたいして投資を行ってきた。一年戦争終結後、各コロニーが経済的に維持できたのも、この企業のテコ入れによる為と言われている。それ以前にも宇宙開発にはさかんに出資しており、ジオン公国でさえ接収をひかえた程である。ZGに際しても、エゥーゴの出資者の一つであった。それは連邦の宇宙政策が低調になってきたためであり、資金を提供する事によって戦争景気を得ようとしたためであろう。実際にはティターンズに対しても武器給与を行っていた。会長はメラニー・ヒュー・カーバイン。機動戦士ガンダムでは名前すら出なかった企業ではあるが、この時代から存続していた歴史的な事実がある。

ア・バオア・クー(37〜43)

ギレン・ザビの支配する宇宙要塞で、月面基地グラナダと共にジオン本国(サイド3)を守る最終防衛拠点。ソロモンと同じように小惑星帯から運んできた巨大な岩塊がその本体である。内部に司令室、対空火器を備え、空母ドロスを初めとする艦隊が守りを固めていた。連邦軍の「星一号」作戦により壊滅されジオン敗戦のきっかけになる。

アフターバーナー

エンジンの燃焼増幅装置。離陸、急加速時に使用する。長時間使えないが、一時的にカタログデータの数倍のパワーが出る。

アフリカ戦線(28)

オデッサ作戦後のジオンの支配区域は、北アメリカとアフリカ、それに潜水艦部隊だけとなっていた。ベルファストを出たWBが、大西洋を南下している場合はアフリカ戦線に向かう可能性もあったのでシャアが判断に苦慮し

ていたが、ミハルのジャブロー行きの報告で、安心する。

アマゾン

南アメリカ大陸のアマゾン川流域一帯をさす。このアマゾン川の地下にある天然の大洞窟を利用して、地球連邦軍本部(ジャブロー)が建設されている。

アルファゲイン(ガイン)

暗号化された友軍の通信内容を解読するための回路及びそのマスターコードの名称のひとつ。作戦の重要度によってコードは変更される。WBは初期に連邦軍と連絡を取るのに使用していた。

暗礁空域

破壊されたコロニーの残骸、コロニー建設のために運んできた小惑星のかけらなど、さまざまな障害物が集まり、ミノフスキー粒子と相乗効果をなし、レーダーはもちろん、あらゆる探知システムを不能とする空域。ラグランジェポイントに多く、軍事上の目的で、故意にミノフスキー粒子を散布することもある。

暗礁空域(ZG)

廃棄された衛星や隕石、一年戦争時の残がい等が微妙な引力等の影響によって集まってきた場所。結構いたる所にあり、航行の障害になったりしているが、隠れ蓑としても役立つ。

アンチ・ミサイル・ミサイル(36)

敵ミサイルを迎撃する為の小型高速ミサイル(略称A・M・M)。WBに搭載されているミサイルは、発射後、近接信管の動きによって敵ミサイルを破壊するタイプ。これはミノフスキー粒子下で、誘導が不可能なため。

ECM(36)

エレクトリック・カウンター・メジャーの略。敵の使用する電波と同じ周波数でより強力な電波を発信して、相手のレーダーを、一時的に使用不可能にすること。ミノフスキー粒子濃度が高い空域では使う必要もない。

ECM発信器

対電子機器妨害電波を発信する装置の総称。電子技術においては連邦軍の方が勝っていたがミノフスキー粒子の登場で価値がなくなった。それでも、ミノフスキー粒子が薄い空域ではWBの物は役に立っていたようだ。

ECCM発信器(22)

エレクトリック・カウンター・カウンター・メジャー。ECMをくらった時にレーダーの周波数やパルス幅を変え、出力を増大することにより、その妨害を解除すること。旧来の電子戦では技術力の差がそのまま戦力の差になったが、ミノフスキー粒子の登場で戦術が根本的に変わってしまった。

Eフィールド(42)

ア・バオア・クーの座標のひとつ。月面方向にあたる。Nフィールド上にサイド3、Sフィールド上には地球が見える。ジオン側の呼び方なので、連邦軍には別のコード名があったと思われる。

Eブロック(36)

WBの重力ブロックの一番内側にあ

る区域で、装甲が厚く被弾率も少ない一番の安全地帯。非戦闘員(特にチビ3人組)の避難場所となっている。

育児室(30)

ジャブローには多数の地球連邦の軍人や軍属が生活しているので、子供を収容する施設が充実している。ここはその中の一部で、4~7才程度の子供の遊戯場があり、さまざまな遊び道具をそろえている。

育児室用サービスロボット(30)

子供達のおもりロボット。ジュースやソフトクリームを腹から出す。

育児センター(30)

ジャブロー内にある軍属の親をもつ子供を預かる施設。育児室・宿舎他、色々な施設がある。

一週間戦争

U・C0079、1月のジオン侵攻開始後、ほぼ一週間にて、サイド1、サイド2、サイド4の全てのコロニーが破壊され、30億もの人類が死に至らしめられた戦争をこう呼ぶ。BC兵器と核兵器が多用され3つのサイドの住民は虐殺され、サイド2のひとつはプリティッシュ作戦と呼ばれるコロニー落としで地球に落下し、2億人を直接殺し、地球環境にも大打撃を与えた。

一年戦争

RX-78ガンダムが活躍した、ジオン公国と地球連邦の戦争をこう呼ぶ。宇宙世紀0079年1月に開戦、年末には決着がついていたが、終戦協定は0080の1月1日に結ばれた。『機動戦士ガンダム』は9月~12月の約4ヶ月間の物語であった。

107号(27)

ミハル・ラトキエに付けられた、ジオン軍のスパイとしてのコードナンバーである。

145型ミサイル(1)

ムサイの大型ミサイル。一番主砲の両側に一基ずつ発射孔がある。

ウォールフィルム(処理)(2)

コロニー、宇宙船などの壁面補修フィルム。通常風船の型をしており、内部の空気流出とともに破損箇所に流され、そこで割れて亀裂を覆い、瞬時にして凝固する。この型は大きな破損部修復には用いられないし、あくまでも緊急用である。

浮きドック(33)

宇宙船の構造、改造のために使う施設のこと。無重力であるが故に、地上より作業が容易な面が多い。サイド6の実業家、ベルガミノ所有のドックは、連邦、ジオンを問わず修理が行われていたが、領空外にあったためコンスコンの攻撃で破壊された。

宇宙

ガンダムの世界では、宇宙と書いてある場合は「そら」と呼ぶのがお約束である。木星船団を除く全ての船は月の軌道の内側を航行する。

宇宙整備艇(33)

サイド6の港湾作業用の小型ボート。マジックハンドを二本備えたオープンタイプの軽作業艇である。ボールの基本もこういう作業ポットだった。

宇宙移民

増え過ぎた人口とエネルギー問題を解決する地球の政策。宇宙移民も当初は華やかであったが、この時代になると地球連邦にコネのない者が宇宙に強制移住させられるようになっていた。その為に宇宙移民の感情として、一部のエリートが地球を独占しているという不満が高まりつつあった。各サイドに独立を求める気運が強くなっていた。

宇宙世紀

ユニバーサル・センチュリー（UC）の事で、元年が西暦何年であるかは、表示されていない。宇宙島に移民を開始した年を元年とするのだが、これもそれなりに幅があるようだ。人が宇宙に住むようになって半世紀が過ぎているという時代考証である。

宇宙船ドック(29)

ジャブローにある連邦軍最大の規模の宇宙船ドック。宇宙船の修理・改造・建造を行う施設。WBはここで修理を受けた。ドック内では、ペガサスタイプの2番艦が最終整備を受けている絵もあった。ルウム戦役で失われた連邦艦隊の増産がビンソン計画に基づき急ピッチで進められており、宇宙船専用の偽装出入口がある。

宇宙都市国家

人類総人口の80%以上が、宇宙に移民し、一つの社会単位として立場をサイドが持ち始めそれがひとつの独立した主張をもつようになった時、一国家たらんという動きが出て来る。その代表的なものがサイド3である。しかし、宇宙に住む民が望んだのはジオン・ダイクンの思想であり、ザビ家はその考えを歪めて戦争を始めたのであった。

宇宙標準食(4)

ルナツー内に監禁されたブライト達に支給された食事。重力ブロック内であったので、固形物中心の献立となる。

雨天野球場(10)

アストロドーム式野球場。ジオン降下部隊に北米大陸が侵略された時の戦闘で、すでに半壊していた。WBはこのドーム内に隠れ、ガルマの絨毯爆撃から逃れる。

曳航艇(33)

サイド6でWBを浮きドックへ誘導するのに使われた。だが、近くをリック・ドムで哨戒中のカヤハワ少尉に発見されてしまう。ベルガミノKK所属のいわば宇宙タグボートである。

衛星軌道(7)

惑星（地球）のまわりをまわる物体の重力と遠心力がつり合った運動の軌跡。大気圏外の人工衛星などはこの軌道を飛ぶ。

衛星ミサイル(35)

ソロモンに装備されている岩塊にエンジンを付け、目標に体当たりさせるという凄いもの。質量が大きく、内部破壊できないので迎撃は不可能であるうえ当たれば破壊力が大きい。但し、運動性が悪いので、対MSには不向きである。

エイリアン号(10)

エッシェンバッハ家の自家用VTO

L（垂直離着陸）ジェット機。

Aパーツ

ガンダムの上半身をAパーツと呼ぶ。→ガンダムAパーツとも言う。Gパーツの前部をAパーツと呼ぶ→GパーツAと呼ぶ場合もある。

Aブロック(29)

ジャブローの区画の一つ。宇宙船ドックはここにあり、WBが停泊してウッディ大尉率いる技術陣の本格的な整備をうけた。

SR-4(26)

ジオン軍が用いるベルファスト基地の暗号名

Sフィールド

ア・バオア・クーの座標のひとつ。アムロがジオングを追って侵入した場所。

Nフィールド

ア・バオア・クーの座標のひとつで、連邦の第二、第三大隊が侵略した。

F36-J(21)

WBのアムロが入れられた独房のドアナンバー。ナンバー設定は自由に変えられるのでラルの特攻時のものとは違っていた。

Fライン(42)

ア・バオア・クー攻防戦において、連邦軍が設定した戦闘ラインの一つ。ア・バオア・クーの防衛圏内の境界線。

M3作戦(20)

マ・クベの思惑によりドムの補給を受けられなかったランバ・ラルの苦肉の作戦。

ギャロップとザクを囮にキュイ揚兵戦車に突撃部隊を乗せ、WBに切り込むというランバ・ラルならではのゲリラ戦術。第二ブリッジ占拠に成功するが、セイラの存在により作戦自体は失敗。ラルは自決した。

MS(一一)

モビルスーツの略称。字数を減らす為に使われたのが最初。アニメックではホワイトベースをWB、モビルスーツをMSと記述していたが、いつの間にかザクがMS-06で、旧ザクがMS-05になったので驚いた記憶がある。一年戦争ではザクの形式ナンバーは使われていなかった。ちなみにMS-06F、つまり実戦で使われている後期型のザクはザクIIと呼称するようになっている。

MDMC-18小型輸送機(28)

ベルデ諸島の漁業組合が使っていた飛行機。WB内のミハルと連絡を取るのにブーンが利用した。軍用機でもないこの飛行機を収容できるくらいWBは安定飛行ができるのだ。ちなみに機密度の低いランチが収容されている後部第四デッキに収容した。

エリア(26・27)

自陣をいくつかのブロックに分け、目的の場所が分かるようにコード化したもの。この場合のエリアは、ベルファスト基地の海中防衛用の機雷区域。触発機雷を用いている。26話ではゴッグがフリージーヤードにて突破する進路が報告された。独自の座標なので味方にしか位置はわからない。

エリート

この時代の上流階級とは、地球に残る特権をもった人々を指す。全人類を指導する立場にありながら自分の事しか考えない官僚主義者が多い。宇宙移民の反発を感じ取れるだけの政治家がいれば、今次大戦は防げたかも。

エルメス

ニュータイプ専用MA。フラナガン機関で開発されたサイコミュを最大限に応用し、12基のビットを手足のごとく操り、オールレンジ攻撃というサイコミュ搭載ならではの攻撃方法をとることができる。空母の概念を極限まで小型化したもので、ジオン軍ニュータイプ戦術の典型を表すものである。しかし、実戦に耐えうるニュータイプはララァ・スン少尉一人であり、戦局の奪回にはいたらなかった。一年戦争において、ミノフスキー粒子の中で無線攻撃が可能だった唯一の機体。

エレカー(1)

スペースコロニー内や、基地の中などで使われる電気自動車の総称。特にコロニー内では空気を清潔に保つ必要上、無公害な電気カーが交通機関として発達している。エレカーの免許は15才以上で取得可能。時速40kmがコロニー内の制限速度。というより、50kmを越えるとコリオリの力が働き、操縦性が極度に低下する。

遠心重力装置

無重力空間で重力を得る装置。回転体の加速度は中心を向くことを応用し、内側壁面に回転速度に応じた重力を生む。直径6・5kmの円筒形コロニーの場合、2分に一回転で、約1Gの重力を生むことができる。またWBの居住区やルナツーの居住区にも同様の装置が付いている。

応急テープ

宇宙空間の戦闘により、ノーマルスーツに穴が開いた場合に貼られるプラスチック自己誘着テープで、添付すると薬品が溶け、瞬時にしてノーマルスーツと一体化する。内部から吹き出す空気を遮断する必要から接着力が強い。腰のケースのサバイバルキットのひとつである。(服の穴をふさぐだけで、人間の傷口は直せない)

オートバイ1(27)

ベルファストでカイが民間人から徴用したバイク。構造・性能的には現代のものと変化ない。単気筒200cc。

オートバイ2(19)

ランバ・ラル隊のゼイガンが、フラウ・ボウのあとを追う際、使用した軍用バイク。砂漠用の低圧タイヤ使用の200cc。

オートバランサー(16)

MSなどの姿勢制御のための自動安定装置。ガンダムでは脚部にあり、これを失うと直立することもできなくなる。

オートマチック修正軸(5)

大気圏突入の際、進入角をコンピュータと連動させて計算する修正機で自動操縦装置の一種。進入角度が浅ければ宇宙に弾き飛ばされるし、深いと大

気との摩擦で燃えつきてしまうので、とても重要な装置。

オールレンジ攻撃(39~43)

ニュータイプ用に開発された、サイコミュを搭載したMAやMSの攻撃方法で、有線ビーム砲、ビット等で同時に多方向からの攻撃をかけ、単艦で相手を包囲攻撃する戦法の総称である。

オデッサ・デイ(=オデッサの戦い)

連邦側のヨーロッパ反攻作戦のコードネーム。オデッサ作戦(16)とも呼ばれる。レビル将軍指揮下の連邦軍がマ・クベ大佐の確保する鉱物資源採掘基地に向けて行う大反攻作戦。WBもこれに参加。連邦側の勝利に終わり、ヨーロッパにおける勢力図は大きく塗り替えられた。この戦いの後は地球でのジオン公国の勢力は激減し、連邦軍は制宙権を取り戻すのに専念できるようになる。

オニール計画

米国プリンストン大学教授であるジラード・K・オニール博士によって生まれた宇宙植民島のアイデアで、米国で少なくとも、数十年後には実現にこぎつけるべく、着々と準備されている。(と20年前にも書いたような気がする)しかし、宇宙開発の遅れは放映当時の予想と大きく異なり、スペースシャトルの定期運用もまだ行われてはいない。宇宙世紀元年はまだ先の事らしい。

オフロード・クルーザー

連邦の六輪駆動バギー車。ローターがわりにタイヤを横にしてエアカーとしても使える。高い機動性を買われ、WB他いたるところで用いられている。

オミエ作室

WBにある大工作室。MS等の修理を主に行う。大型パーツの加工もここでしていた。

親の七光り(9)

「しかし、見事じゃないか。ガルマ大佐の攻撃ぶりは？　親の七光りで大佐になっただけの人物ではないな」と言いつつシャアは無線器のジャックに細工をした。

か

カーゴ

ジオンの野営用キャンピングカー。ドーム状で、ホバークラフトとジェットで走行しギャロップと連結することもできる。ハモン率いるランバ・ラル隊の生き残りは、カーゴに爆薬を満載して、WBに特攻させようとしたが、ガンダムにはばまれた。

回避運動(31)

通常は敵ミサイルから艦を避難させる運動の事であるが、敵艦との戦闘を避ける為に、コースを変える事も含む。コンピュータにすら予想もつかないようなアトランダムに進行方向を変える必要がある。ガンダムやWBが被弾しにくいのは、アムロやミライの能力によるところが大であろう。

外壁冷却機能(5)

WBの大気圏突入対策の一つ。突入

時には空気との摩擦で高熱を発するので、船体と搭乗員の安全のため、主要箇所を冷却してやる必要がある。WBは補助機能として、ミノフスキー粒子を噴出し、船体をIフィールドで包み込むミノフスキーエフェクトによるバリアを展開していた。ガンダムにも同様の冷却機能はあるが補助手段として耐熱フィルムを併用する。

ガウ攻撃空母(5-)

地球におけるジオンの戦略空中空母。前部にMS3機を格納、両翼にドップを4機ずつ搭載可能。この戦力で機動一個中隊を構成する。ガウ自体、メガ粒子砲5門を備え、対地攻撃用の爆弾倉を持ち、大型爆撃機としても使用できる。欠点としては航空機とも思えない速度の低さである。

拡散ビーム(24)

重MSドムに装備されている、めくらまし用光線。TVカメラに対して焼き付け現象をおこし、一時的にモニターが使用不能になる。ドムの左胸に発射器があった。本来は敵のビーム兵器に干渉して直撃を避けるように設計されたのだが、まだ出力不足でビームサーベルの刃を乱す程度の力しかない。

拡散ビーム砲(32)

MAザクレロに装備されたビーム砲。命中率が高く、連射も可能だが、ビーム粒子の拡散率が高すぎて有効射程距離が短く、実戦に耐えうる兵器ではなかった。

学徒動員(42)

戦闘員の不足を補う為に、年端の行かぬ少年ともいえる学生を速成教育にかけ、戦闘員として戦場に出撃させる事。ここまで追い詰められた国家が戦争に勝ったためしはない。ア・バオア・クー戦では、新鋭のゲルググに搭乗したのが学徒兵ばかりで力が発揮できていなかった。

格納庫

WBの格納庫は全部で5ヶ所にあり、MSや搭載戦闘機が格納されている。木馬の右前足にあたる第1デッキは、Gファイターの発進に使われた。もともと、左右に3機ずつのMSを搭載する予定だったが、機体が不足していたので右デッキは、あまり使われていなかった。左足が戦闘中一番使われる第2デッキで、ガンダム等のMS発進に使われた。中央の第3デッキは主にガンペリーの発進に使われる。後部の第4デッキはランチの発着に使用される事が多い。これらの格納庫は船体中央の大格納庫でつながっているので、作戦目的に合わせて自由な運用が可能であった。大格納庫に隣接するのがオミ工作室である。

カスピ海

カフカズ東方の世界最大の湖で裏海ともいう。16話においてWBは、レビル将軍より5日以内にカスピ海を渡るように、と指令を受けるが守れなかったようだ。もっともエルランの裏切りでオデッサ作戦に集結する予定の連邦軍も遅れていたので、予定よりかなり遅くオデッサ作戦が始まった。

風はすぐ吹く(19)

オートバイでフラウ・ボウのあとをつけたゼイガンがラルに送った暗号通信。木馬の発見を意味する内容。

カタパルト

広義では飛行機などの射出装置。WBにはガンダム、ガンキャノン用の特殊なカタパルトが装備されている。MSのような重い物を射出できるので、コアファイターやガンダムの武器をかなり遠くまで発射するのも可能。

カッパドキア高原(20)

グフを失ったラルたちがドズルからのドムを受け取る為に待機していた地点。マ・クベの思惑によりドムは来なかった。配達されなかった三機のドムというギャグが放映時に囁かれた。

ガデム搭乗ザク(旧型ザク)(3)

ザクII以前の量産タイプ、ザクMS-05。平和利用という連邦に対する政治的カモフラージュのため作業用として登録されていた。ザクIIの登場で補給艦などに配備されている。出力が低く、作戦時間も短い。

低く、作戦時間も短い。

ガトル(35)

ジオンの宇宙高速重戦闘爆撃機で、機の両舷に単発式大型ミサイル各2発。及びミサイルランチャー10門を装備している。また、30㎜のバルカン砲を脱出飛行が可能な2つのコクピットに、それぞれ2門ずつ装備している。

カルバート山脈(23)

別名カルパティア山脈。ヨーロッパの東部、ポーランドとチェコスロバキアの国境からルーマニアにかけ、ほぼ半月形に展開して横たわっている山脈で、長さ、面積においてはアルプスに匹敵する。オデッサの戦いをひかえたマ・クベ大佐のダブデが待機していた。隆起状平原や平頂峰の地形を示す部分が多く、豊かな鉱床を有する。オデッサ作戦の激戦地。

ガルマ隊(9)

ガルマ直属のドップ編隊。指揮官はガルマ・ザビ大佐。この時、隊長機(ガルマ機)の機体色は茶褐色。

ガンキャノン

ガンダム計画により開発されたMS。核融合炉が大きい分だけ重量が増加したので、砲兵タイプMSとして実用化された。頭部に60㎜バルカン砲2門、両肩にキャノン砲2門、携帯武器として専用のビームライフル(狙撃用)を装備し、中距離攻撃用の火器構成を取る。ガンダムより装甲が厚いが、そのかわり運動性がやや落ちる。頭部のメインカメラはガンダムに使用されているタイプより効率が良く、工程が容易なため、生産型のGMにも採用された。

監視所(29)

アマゾンのジャングルの中に設置されている、目視による監視所で、ジャブローの周囲数百カ所に設置されている。この監視所に配備される兵士にとっては、地下基地ジャブローの人工の中から逃れられ、上官の監視のもとから離れられ、アマゾンの大自然を堪能する良い機会である。定期爆撃には皆慣れていたようだ。

慣性飛行(31)

宇宙空間でロケット等を噴射して推力を得たのちに噴射を停止し、惰性で飛行する事。空気抵抗がないので速度は維持できる。

換装

この場合は、ガンダムタイプのMSの分割された上半身、下半身のパーツにコア・ブロックを接続する作業を指す。通常の換装はコアファイター着艦後にコア・ブロックに変形、それをクレーンでパーツの固定されたハンガーに運び、上下に別れたMSに入れて、合体させる。これを空中で行う場合は空中換装と呼び、ガンダムのみが行った。

ガンダーX78

MSガンダムの正式名称だった。いまいちなので、アニメックでは『RX-78』と命名。以後の正式名称となった。Rを連邦のRと解釈した無認可謎本があったが、ローマ字で連邦か？マッドなテム・レイであるから、当然ながらRは「ロボット」である。

ガンダム

連邦の試作MSの愛称。連邦のV作戦の一環、ジオンのザクMSに対抗して開発された。その多用性はいかなるMSにも勝る。操縦中核は本体より分離させ、軽戦闘機として使用可能。頭部に60㎜バルカン砲2門、背部にビームサーベル2本装備。携帯武器として、ビームライフル、ハイパーバズーカ、ガンダムハンマーがある。背中のランドルのバーニアを全開にすることによって、短時間ながらも大気圏での飛行が可能。駆動系にマグネット・コーティング処理を受けてからは、従来の3倍の反応速度を得る。耐熱フィルムを装備し、大気圏突入能力を持つ。

ガンダムAパーツ

ガンダムの上半身。

ガンダムシールド(5)

ガンダムの予備装甲板、盾の形状をしている。ハニカム構造の超鋼合金ルナチタニウム製。ストラップが付いており邪魔な時には背中に装着する事が可能。のぞき窓が付いており、バズーカ射撃などは盾に隠れながら射つ事ができる。Gアーマーにはこれが2枚必要なので、後にシールドが二枚重ねられるジョイントが開発される。

ガンダムの弱点(11)

タロタ中尉を援護しに現れたシャアがルッグンで叫んだお言葉。「腹だ、ガンダムは腹が心臓だ」たしかにコクピットの位置は知られていたのだが、いつガンダムの名前を知ったのだ？

ガンダムハンマー

ガンダムに装着される白兵戦用ハンマー状兵器。一撃でザクタイプを撃破する破壊力を持つ。後に改良を加えたハイパーハンマーが代わって装備される。→ハイパーハンマー

ガンダムBパーツ

ガンダムの下半身。

ガンダム類運搬大型トレーラー(1)

コロニー内で使用されるMS運搬トレーラー。積載量が多いので、特別に

ガソリンエンジンを用いている。

ガンタンク

ガンダム・ガンキャノン以前に開発された戦車タイプのMS。コアブロック構想の実験機でもあった。MSに搭載する核融合炉の完成前に作られたので、既成のガスタービンエンジンと燃料電池により駆動される。後にガンキャノンとガンダムの開発に成功したので、量産されなかった。120㎜キャノン砲を両肩に2門、ポップミサイル4連装を両腕に2門装備し、長距離攻撃用の火器構成を取る。陸上での機動力が低く、白兵戦主体の対MS戦では、ほとんど役に立たない。砲座と運転が別々であったが、ガンダム強化パーツを輸送に来たマチルダ隊によって、砲座での操縦が可能となる。となると、非常脱出カプセルでもあるコアファイターは無人で腹に入っているだけの存在となり意味がなくなる。

ガンタンク後退(35)

ハヤトの負傷により、ガンタンクが後退する。「ガンタンク後退により、11パーセント戦力低下」と報告されるのだが、WB部隊の1割以上の戦力がガンタンクにあったのは驚き。それとも艦載機の総合戦力だろうか？　それならばガンダム・ガンキャノン・Gファイター・ガンタンクの4台であるから納得できる。

ガンペリー

ガンダムの大気圏内での長距離輸送を主目的としたVTOL機。WBの中央第三デッキに格納されている。予備パーツの運搬、空中換装の中継ぎ、対潜ミサイルを積んでの攻撃など多目的に用いられたが、武装が貧弱で、大気圏外では使用できないことから、Gメカにとって代わられた。

義歯(17)

コズンの奥歯。それだけならいいが、小型爆弾になっており独房を破って逃亡する。

脚部スラスター

ガンダムの足の裏にある2基のバーニア。必要な時以外は作画されない。ちなみにロボット工学的にはMSの脚は前後に二分割しないと地上に立てないのだが、これも作画では省略される。

逆光(3)

パプアとムサイに奇襲をかけるガンダムとコアファイターであるが、素人のアムロは、リュウに逆光での侵入を指示する。アムロは、その後も宇宙空間での戦いでは、太陽・地球・月を巧みに光源に使い、ガンダムが敵から逆光になるように戦闘を進めていった。

キャノピー(43)

コクピットの風防のこと。Gファイターのものは特に強力に作られており、有害な放射線を遮断し、並の戦艦の装甲よりも強度があった。ビームを受けても内部には何も影響がなかった。

キャプテンシート

WBブリッジの指揮官席。ブライトの動きのほとんどがバンクというのが哀愁を誘った。名場面として「弾幕を張れ」を選ぶと全部同じになる。

キャメル(32)

キャメル艦隊の一番艦。ドレン大尉の乗艦するムサイ艦である。設定書がないので二連装砲塔のムサイがバリエーションなのか作画ミスなのかは、今に至るも不明である。

キャメル艦隊(32)

シャアの副官であったドレン大尉が指揮するパトロール艦隊で、二連装砲塔ムサイ艦3艦キャメル・スワメル・トクメルと、リック・ドム6機で編成されている。シャア大佐の命令により、WB迎撃にまわったが、10分たらずの戦闘で全滅してしまった。しかし、コンスコン機動部隊にくらべれば、善戦したといえよう。

キャリーカー(18)

二人乗りエアカー。鉱物資源採掘基地でマ・クベ大佐とキシリア少将が使用する。

キャリフォルニア基地(29)

北米大陸にあるジオン軍の地球上における最大の戦略基地で、連邦軍に対する攻撃命令はすべてこの基地から発せられる。また地球上で使用されるすべてのMSの製造・開発がここで行われていた。オデッサ作戦の後にまともに機能していたのはここだけであったが、戦力のほとんどをジャブロー攻撃に使い果たしてしまう。

ギャロップ(16～)

ジオン軍の陸戦艇。ホバークラフトで浮上し、ジェットエンジンで進む。前部に二連装機銃2門、背部二連装砲塔1門を装備。前部にもMSを3機収容できる格納庫を持つ。両舷のブリッジは、射出式でそのまま脱出用となる。

ギャン(37)

ゲルググと同時期に開発された重MS。ゲルググが重火砲タイプなのに対し、ギャンは白兵戦、特に剣技用に作られている。したがって、マ・クベのような〝しろうと〟でもガンダムと互角に剣を競うことができたのである。補助火器てある針状ミサイルをしこんだ楯、ジオン軍初のビーム剣など携帯兵器に改良が目立った。しかし、大戦後半においては、白兵戦より対艦船を撃破する重火力を持つMSが要求され、量産型はゲルググに決定した。プロトタイプのギャンはキシリアによって、マ・クベ専用MSとして、マ・クベに与えられた。

キュイ(19～)

ジオンの白兵戦用の揚陸戦車。左右に兵員待機用の大きい張り出しがあり、中央の指揮塔には二連装機関砲が装備されている。その構造、デザインからみても明らかに実戦向きではない。

救命カプセル(8)

偵察機ルッグンに装備されていた。空中投下用で、パラシュートが開く。非常食料、医薬品などが入っており、寒冷地ではカプセルの中に入って暖をとることができる。撃墜されたパイロットや前線で負傷した兵士に投下するのが目的のカプセルである。

救命具(28)

地球上でWBが行動する時に標準装

備される。非常用の無線機、信号弾、食料などを組み込まれたジャケットで、水中に落ちた時などには、自動的にボンベから圧縮空気が送り込まれ、浮袋となる。また、この圧縮ボンベは宇宙空間において予備タンクとして、10分間の使用に耐えられる。

教育型コンピュータ

ガンダムタイプに搭載されているもの。ジオンのものと違い、最初から組み込まれているデータだけではなく、作戦中に戦闘データや操作パターンを新たに記憶し、ある程度新しいデータを基に応用する能力がある。またデータの蓄積が十分ならばパイロットが負傷、あるいは気絶していても、ある程度コンピュータが判断し行動する事ができる。連邦軍のGMがあれだけ戦えたのは、WBの収集した戦闘データをジャブローで移植していたからである。

強制排除(17・19・43)

コアブロック脱出機能の一部。手動で、MSからコアファイターを自力発進させるために、上半身または下半身を強制的にロケットノズルで排除する。パイロットが機外に出ている時は、MSの外装に隠されたスイッチで操作するのも可能。

巨大投光器(12)

ランバ・ラル隊が地球に来た時に乗艦した試作ザンジバルに装備されている目くらまし兵器。量産型からは撤廃され、代わりにメガ粒子砲が装備された。

機雷

海中に浮遊し敵が接触すると爆発する兵器。ミノフスキー粒子に関係なく接触すれば爆発するようにセットされた物が多い。これの宇宙用が宇宙機雷。

機雷デック(4)

シャアがルナツーの各所にしかけた爆弾の一種。専用キャリアにより3機セットで用いられることが多い。ワッケインのマゼランはこれに引っ掛かり港口を塞いでしまう。

錐の戦法(21)

ラルの死後、ハモンを補佐するタチが用いた突撃攻撃法。古来より伝えられる最高戦法の一つ。以下タチの台詞より「第一波の攻撃を敵の最も弱いと思われる処にかけます。外の攻撃には一切目を向けずただ一点をぬく、我々の生還は不確実ではありますが、間違いなく木馬を撃破することができます」

金属反応探知法(29)

ジオンのMS隊がジャブローのハッチを探す時に磁気反応を利用し、アマゾン川の岩石との反応の違いから、ハッチを発見した方法。

金ののべ板(39)

シャアがセイラあてにテキサスの港に置いていった金塊。セイラの希望でWB乗員に配られるはずであったが、WBから脱出するランチに積み込んだかどうかは、疑問が残る。

空中換装

空中での換装には三通りある。ガンペリーから投下されたガンダムA・Bパーツとコアファイターが空中にて合

体するパターン。WBからコアファイターのカタパルトで強制発進させられたA・Bパーツとコアファイターとの合体パターン。GブルイージーとGスカイが一度合体してGアーマーになり、ボルトアウトしてGファイターとガンダムに分離する方法である。Gメカの空中換装は時速600キロ以下では失速するのだが、コアブロックの最高速度が同じ時速600キロなので、かなりきわどい作業となる。

グフ

ジオンの白兵戦用MS。ザクタイプの有重力下の機動力を強化したもの。右手にヒートロッド、左手に四連装ショットガンをしこみ、携帯武器としてはヒート剣、ザクから流用した120㎜マシンガンとヒートホーク等がある。装甲・兵装・機動力共にザクを上回るが、宇宙空間では使用できないことから、宇宙機動軍には配備されなかった。MSの特徴である武器の流用という点にも左手が使えないという問題があった。

グフ部隊(17)

この場合、新型MS、グフを有するランバ・ラル隊を指している。

クラッカー(12・16)

ザクが使用したMS用の多弾頭手榴弾。これを投げると、途中で本体より六つの弾頭が飛散し各々爆発する。

グラナダ

月の裏側のウラン山脈の南西に位置するジオン公国・突撃機動軍の最前線基地。キシリアが支配する。宇宙要塞ア・バオア・クーと共にジオン本国(サイド3)を守る最終防衛拠点。

グラナダ(ZG)

月面における第2の都市。地球からみると裏面にあり、フォン・ブラウン市の次、つまり2番目に開設された都市でもある。一年戦争時には、サイド3に近いと言うその位置的関係からジオン公国の最終防衛ラインの一角を成していた。その為か、現在でもスペースノイドの政治・経済面の中心となっており、エゥーゴの活動の要でもあった。連邦でもここまでは完全にその管理下におけなかったようである。だが、それにより廃棄コロニーやアクシズを落とされそうにもなった。人口は規模から見て1～2万程度、ほぼ完全な自給自足が可能である。

グラブロ(28)

水中用MA。左右各7門の水中ミサイル発射口、各1門の対空でブーメランミサイル発射口を装備。接近戦用の巨大な爪は普段は航行の邪魔にならないように後方に収められている。水中での運動性能、火力共に水陸両用のMSをしのぐが、逆に水中でしか戦えないという欠点を持つ。

グレートキャニオン(8)

合衆国南西部アリゾナ州北部にある雄大な峡谷。コロラド川からコロラド高原をきざんでできた。グランドキャニオンのこと。ガンダムでは実際の地名が微妙に変更されている場合が多い。

グレート・デギン

ジオン公国の公王、デギン・ソド・ザビの旗艦で、グワジンタイプの戦艦の一番艦。機首にジオン家の紋章がかかげられている。連邦軍のレビル艦隊と和平交渉を行うべく接触した際、ゲルドルバ照準で発射されたソーラレイに巻き込まれ、公王もろとも消滅した。

黒い三連星(24・25)

キシリア配下の歴戦の勇士。ガイア、マッシュ、オルテガの異名。常に3人で行動する独立した戦闘隊で、各人黒いノーマルスーツを着ていることからこの名がついた。ルウム戦役では黒塗りのザクを使い、連邦軍の旗艦を沈め、司令官のレビルを捕虜としたことで有名。本編ではドムを使ってアムロたちを襲撃する。

クロスサイクルWF

WB側の使う暗号通信の波長。オデッサ作戦中の連絡周波数で、フラウの発信した「至急戻られたし」に対して、Gアーマーのアムロとセイラは「行動不明の連絡機を追跡する」と返信した。

グワジン

ジオン軍巨大戦艦。二連装主砲3門、二連装ビーム砲10門。ほか各種ミサイル搭載。戦力として両軍通じて敵なしだが、量産がきかない。キシリアの旗艦とデギン旗艦グレート・デギンが確認されている。グワラン、グワリブなどの同型もみられるが実数は少ない。ZGの26話では、その残骸の中で戦闘が行われた。

軍楽隊(39)

軍のレセプション・パレードなどで音楽を演奏する部隊。レビル艦隊を迎えるのに活躍した。

ゲートセンサー(2)

コロニーのスペースゲート内を航行する時、艦がゲートと接触しないための監視装置。戦時ではミノフスキー粒子により通常レーダーは使用できず、宇宙空間なのでソナーも使えない。基本的には磁気センサーと赤外線、レーザーを複合した特別な装置が必要となる。

撃雷(4)

マダガスカルの搭載兵器。ルナツーにおいて搬入する描写があったが本編では切られている。何だったのか不明。

ゲビル隊(6)

ガルマ配下のドップ戦闘機。WB攻撃を行う。

ゲリラ戦地帯(13)

世界各地のあまり戦略的な価値のない土地では連邦とジオンの小競り合いがくりひろげられていた。アムロの故郷がある、日本の山陰地方もそのひとつ。本隊からの補給も満足に受けられないので、手持ちの武器だけで戦っているため、自然にゲリラ戦となるのだ。

ゲリラ掃討作戦(1)

ルウム戦役後、戦争は膠着状態になり大きな作戦の機会を両軍共に待ち構えていた。宇宙空間でも残存勢力によるゲリラ戦の様相をみせる。ゲリラは主に暗礁空域を中心に活動する。シャアは巡洋艦ムサイとMSザク5機で、連邦軍ゲリラの掃討にあたりザクを1

機失っている。その作戦の帰り、WBを発見し物語が始まる。

ゲルググ(37～)

ジオン軍最終量産タイプのMS。専用ビームライフル、ビームナギナタなどの新兵器を備え、装甲、火力、機動力などドム以上の性能を持ち、ア・バオア・クーの戦いに新戦力として投入されたが、充分にその性能を引き出せず、大勢を変えるにはいたらなかった。ZG26話で廃棄されたジオンのグワジンタイプの戦艦の中にすてられていたが、七年前のMSのくせに、かろうじて動かす事ができ、カツはこのバズーカを使ってガンダムを襲うヤザンを撃退した。その装甲を、ネモのムーバブル・フレームに装備させて、一般人のMS(あるんですZGでは)に見せかけ、レコアはジュピトリスに潜入、偵察をしてきた。この機は後にもメガ・バズーカ・ランチャーのエネルギー源としても使用されていた。それから考えるとゲルググの原子炉はかなり耐久性に優れているらしい。

ゲルドルバ照準(41・42)

一度しか使用できないソーラレイ発射のために設定した照準の一つ。連邦軍の艦隊の進行予想コースをいくつか設定していた。連邦軍の艦隊から見ると、ア・バオア・クーに対しての第三戦闘ライン上に位置する。その照準上には連邦軍艦隊の30パーセントの戦力がいた。

検察官(33)

サイド6で連邦船、ジオン船の出入国の際に手続きを執り行う高級官吏。領空内での戦闘防止の為、全ての武器を封印する。カムラン・ブルームがその任務にあたっていた。

拳銃A(18)

アムロが脱出中に、少年兵たちが整備していた6連発のマグナム・リボルバー拳銃。ラッチはS&W方式で、シリンダーの回転方向はコルト方式、スナップノーズ(短銃身)の軍用銃というのも珍しいので、誰かのコレクションだったのだろう。

拳銃B(27)

ミハルがバスケットのそこに忍ばせている拳銃。イタリア陸軍の制式拳銃のベレッタ1934。ガンダム全話を通して実在する銃はこれしか出ていない。ミハルが撃つには反動が強いのではないだろうか?

コア・チェンジ

連邦軍の軽戦闘機コアファイターがガンダムに換装するために、中核たるコア・ブロックに変形する過程を言う。

コアファイター

連邦軍の多目的軽戦闘機。二連装30㎜バルカン砲2門、四連発対艦ミサイルランチャー2基装備。全長8・6m、自重8・9t、大気圏内最高速度マッハ4・8。コア・チェンジすることにより、ガンダムタイプの操縦中核コアブロックになる。本来は脱出カプセルに過ぎなかったが、軽戦闘機並の性能を引き出せることから、Gファイターが配備されるまでWBの主力戦闘機と

なった。

コア・ファイター・バリエーション（ZG 12〜）

ジャブロー防空隊に配備されていた大気圏内用戦闘機。M・S・Vのものでは RX－78ガンダム等に使用されたコア・ファイターの母体となった機体。FFS－3セイバーフィッシュとTINゴッドが登場した。

コア・ブロック

ガンダムの操縦中核、航空機タイプのコアファイターに変形できる。製造コストが高いので量産タイプのジムには採用されなかった。

工具箱(27)

アムロがサイド7の自宅からWBに持ち込んだ私物。基本的な工具類だけでなく、ハロを作る時に使われた、精密工具や教育型コンピュータの子備パーツも入っている。ジオンに売れば、いい値で売れるだろう。

アムロはWBを降りようとするカイにこれを手渡した。が、カイはWBに帰って来た。

公式データ内蔵カメラ(25)

Gファイターに装備されている偵察用カメラ。撮影と同時にその状況が記録され、そのデータは修正ができない。ジオンのスパイ、ジュダックが伝令の為、ジオン軍前線から連絡機で飛び出すところを撮影したので絶対的な証拠写真となる。

高所作業車

WBにある、高所作業用の多目的車。ハンガーの定位置にいないMSの整備に使う。ガンダムに仕掛けられたプラスチック爆弾を撤去するのにも用いられた。

光電子管(24)

センサーの一種。光によって情報を伝達する。故障したWBは周囲の監視にこれを配し、ドムの動きをキャッチできた。

高熱源体(2〜)

ミサイルなど燃焼式エンジンを動力とするものを主として指す。ミノフスキー粒子で電波類が使えない時、これの発する赤外線を探知して、レーダーの代わりとすることができる。ただし、ミノフスキー粒子は、赤外線もかなり遮蔽されるので、相当温度の高いものでないと検知されない。

後部格納庫

WBの後部にある格納庫。第4デッキともいう。宇宙ではランチの発着に、地球では小型飛行機の発着に使われる。

航路コンピュータトレース(32)

ジオン軍が、自軍のパトロール隊の現在地点を知る為の方法で、パトロール隊の予定コース、定時連絡をもとに、現在地点を割り出す事ができる。推定地点に高出力レーザー通信を送れば敵に盗聴されずに味方と連絡を取れる。

港湾警備砲台(27)

北アイルランド補給基地、ベルファストの海岸線に設置され、海からのジオン軍を監視する。主要な防御兵器として、触発機雷、魚雷、短距離ミサイル等がある。

小型ブイ発信アンテナ(26)

自動発信装置の付いた風船の電波を海中の情報収集艦に中継するブイ。情報収集艦にて適当と判断されたものは、本体のマッドアングラーにまわされる。ミハルの使用した電子スティルカメラはミノフスキー粒子の妨害でWB本体を写してはいなかった。

個人通話(36)

特殊回路で接続され、当事者以外には通信されない。艦内通話は、一般作業中でも決められた周波数は常に開けておくことが義務付けられている。まして、戦闘中では私語など厳禁されているのだが、ブライトもにくい真似をしたものだ。

ゴッグ(26)

ジオンの水陸両用MS。腹部に固定式のビーム砲2門。水中用防御兵器フリージーヤードを装備。接近戦においては両腕の爪が強力な武器になる。腕と足を引き込んで、水中推進の体型に変わる。装甲、馬力共にザク等の比ではないが、陸上での運動性は低く、真の威力は水中戦にて発揮される。

コップ(29)

シャアが戦線に戻って来たのを知ったセイラが動揺して床に落として割った。宇宙戦艦の中にガラスのコップがあってもいいのだろうか？　せめて強化ガラスで作って欲しい。

固定アーム(4)

この場合、艦船類の固定装置を指す。マゼラン艦排除のため主砲を撃つ際、ルナツーのドッグには重力が作用していないので、WBは艦を固定する必要があった。コロニーの港では宇宙船は全て固定アームで繋留される。

コ・パイ

副操縦士のこと。コ・パイロット

ゴビ砂漠

モンゴル高原内部に横たわる砂漠。WBの航路は、ほぼシルクロード横断であった。

ゴミ箱(2)

スペースコロニー内一般住宅用の外部設置ゴミ回収ユニット。第2話でWBに住民が避難し、無人となった市街で、犬がゴミを漁っていた。

コミュニティーカー(33)

サイド6内部で使用されている電動バスの名称。速度は自転車程度なのでアムロは父が降りる停留所まで走って追いかけられた。

コミュ連絡機(20)

マ・クベの部下ウラガンが、ランバ・ラルにドムが届かないと伝えるために使用した、ジオン軍の小型連絡機。どんな狭い場所にも離着陸できるが、武装はない。

コムサイ(5-7)

ムサイの大気圏突入カプセル。ムサイ本体は大気圏突入ができないので、連絡船としてカプセルのみを突入させる。地上基地からは大型カタパルトとブースターを用い、成層圏まで上昇できる。ザク3機を収納し、バルカン砲を装備するが、航続距離も長くなく、本格戦闘には不向き。

コムサイの射出口

ムサイが衛星軌道からコムサイを射出する場合、本船が反作用を受け減速する恐れがある。そこでコムサイの噴射ガスを両サイドに排出して軌道に影響を与えない工夫がしてある。ジオンが地球降下作戦を考慮してムサイを設計した証拠であろう。

これで勝てねば(8)

WBの提案した難民降ろしの時間稼ぎ休戦の時間に、準備万端整えて出撃するガルマを見送りながら、シャアの言ったひとりごと。

「これで勝てねば、貴様は無能だ」

非常に応用範囲の広い名台詞である。ライバルのいないところで呟くと、アニメファンらしい暗さが醸し出せる。

コロニー落とし

一週間戦争の際、ジオンが行った作戦のひとつ。ブリティッシュ作戦ともよばれ、核攻撃にも耐えられるジャブローを直撃する計画であった。核パルスエンジンを使い、サイド2コロニーのひとつを減速させ地球に落下させたが、大気圏突入時に分解し、オーストラリア大陸に落下した。地球規模の大災害を巻き起こした史上最悪の環境汚染作戦でもある。

この作戦でザクはコロニーの減速に忙殺され、連邦軍艦隊によって大損害を受けた。南極条約によって、コロニー落としは禁止された。

コロンブス(35〜)

連邦軍の新造MS輸送艦。MS一個中隊に必要なジムとボール及び予備パーツ類を一度に輸送する能力をもっている。ソロモン攻略戦では、ソーラー・システムを輸送した。

コンスコン機動部隊

ドズル中将の命令により、シャアの監視に来たコンスコン少将率いるチベタイプ重巡1艦、ムサイ2艦からなる部隊。新鋭のリック・ドム12機を使いながら、WBとの戦闘であっさりとやられてしまった。

こんな古いもの(33)

酸素欠乏症になったテム・レイがガンダムの強化パーツと称してアムロに渡した謎の部品。アムロが投げ捨てた時に、プラスチックの音がわびしく響いたのが印象に残る。

コンベアパイプ(3)

この場合、パプア補給艦の舷側より伸びる3本の補給筒を指す。ムサイ艦の格納庫にピッタリはまる。

さ

サーベル(43)

ア・バオア・クー内の貴賓室の壁の装飾品。アムロとシャアが決闘に用いた。バイザーが貫けるのだから実用品だったと思われる。

サイコミュ(39)

ジオンのフラナガン機関によって開発された脳波伝動システム。ニュータイプの深層意識にある拡大された認識域から発信される、予知能力ともいう

べき精神波を受信、電気的に増幅して、パルス信号化した精神波をふたたび発信する。それを受信したメカニズムは、具体的動作を示す。電波干渉の著しいミノフスキー粒子下にあっても、その精神波は影響を受けず、無線誘導を可能にする。概念があいまいだったニュータイプを軍事体系に組み込む具体的な手段となる。サイコミュ自体は単なる機械的操縦装置の一部に過ぎないが、増幅された精神波は、ニュータイプ同士では共振作用を引き起こし、複合的な認識域の拡大を生む。ニュータイプ以外であっては「ラ・ラ」という不明瞭な共振しか生まない。

最終防衛線(4)

ア・バオア・クーと月のグラナダ基地を結ぶ防衛線。ここを抜かれるとジオン本国が直接攻撃を受けることになる。

最小戦闘単位(40)

連邦軍の最小単位は、マゼラン・タイプ1、サラミス・タイプ3。

サイド

スペースコロニーの集合体でもあり、一つの行政単位。一基のコロニーを一バンチとし、35～40バンチを一群として一定の空間に浮かべ、建設順にナンバーをうつ。サイド1(ザーン)サイド2(ハッチ)サイド3(ムンゾ)サイド4(ムーア)サイド5(ルウム)サイド6(リア)サイド7(ノア)と愛称がついている。この内、サイド1・2・4・5は一週間戦争の際にジオン軍の攻撃で全滅させられた。

サイド6(31)

南極条約により中立サイドとして、ジオン軍、連邦軍のどちらも非戦闘区域としたサイド。どちらかといえばジオン寄り。

サイド6のスペースゲート

傷付いたWBが船体の修理と補給物資の調達のために入港する。おりしも昨日まで追撃してきたシャア大佐のザンジバル艦が、ニュータイプ、ララァ・スンを引き取りに入港し、ジオンと連邦の艦が同じ港に接舷するという中立サイドならではの光景を見せる。

サイド6の民間宇宙船(34)

コロニー間連絡用スペースバスと異なり、短距離ながらも自力航行が可能。カムラン・ブルームがWBの盾となるべく、個人的にパイロット付きで雇った。

サイド3

地球から最も離れた、3番目のサイド。月の裏側に位置する。住民は独立の気概が強く、UC0062に連邦からの独立を宣言、ジオン公国を名乗る。連邦がこの独立を認めないことからジオン独立戦争が勃発する。他のサイドと異なり密閉型コロニーが多い。

サイド7

建設中のスペースコロニーで、まだ正式にはサイドに昇格していない。連邦V作戦の一つ、MS最終テストのための施設がある。この物語の発端となったところ。

サイド5

愛称ルウム、5番目に建設されたサイド。ルウム戦役のあった激戦地。今は無人のコロニーの残骸のみがある。ガンダムとマ・クベのギャンとの決闘が行われたテキサス・コロニーもサイド5の一つ。

材料工学(ZG 3～)

MSや戦艦の装甲等は同じ厚さでも、その質の違いで圧倒的な差が出る。MS-06ザクに代表される初期のものはハイマンガンスチール、RX-78ガンダムにおいてはルナチタニウムとセラミックの複合素材、そして今回はリック・ディアス以後のものにルナチタニウムの発展金属、ガンダリウムγを使用していた。カミーユの母親はこの分野のスペシャリストであった。

ザク(1～)

ジオンが連邦に先がけて開発した最初の、実戦量産型MS。ザク・マシンガン、バズーカ、ヒートホークという専用携帯武器の他に、足用ミサイルポッド、マゼラトップの主砲を改造したものなど、他の武器の転用が容易。完成度の高い汎用タイプ。一週間戦争の際にはスペースコロニーを地球に激突させるという戦略の中核的存在となる。全高17・5m、自重74・5t、出力5万5千馬力、地上走行最高時速85km、超硬スチール合金製。

作戦会議室(30)

士官たちが、さまざまな戦略・戦術を会議するために作られた専用室で、コンピュータディスプレイなどが完備しており、ありとあらゆる情報をリアルタイムで利用することができる。ジャブローにあった。

作戦本部(29)

ジャブローに対するジオン軍の攻撃を、総合的に判断し、防御方法の指示及び基地外部の情報提供を目的に設置された基地の一部門。しかし、シャア率いるMS隊の攻撃があった時、不思議にWBに対して指令も情報も与えられなかった。

ザク・マシンガン(1～)

120㎜のザク専用マシンガン、使用法は人間の使うものと変わりない。マニピュレーターを用いザク自身が分解組み立てをできる構造になっている。武器の持ち替えがMSの汎用性を高めており、グフにも流用されていた。ドラム缶程の薬莢が排出される迫力には圧倒された。

ザクレロ(32)

宇宙戦用MA。拡散ビーム砲1門、ミサイル発射口8門、接近戦用のナタ状の両腕などを装備するが、機動性が悪くテスト中で廃棄される予定であった。しかし、功をあせるデミトリーが無断で出撃し、Gパーツを付けたガンダムにやられてしまう。

砂漠に蝶は飛ぶのか(16)

レビル将軍の伝令を確認する際、ブライトが使った合言葉。

ザビ家の復興(ZG 44～)

アクシズ軍がエゥーゴとティターンズに対して求めている条項。つまりはジオン公国を再度築きあげたいのであ

る。

サブ・ブリッチ

この場合WBの第2艦橋を示す。WBに突入したランバ・ラル隊が占拠したがガンダムのビームジャベリンで兵は一掃され、ラルは艦外に身を投げて自決した。

サフラン(42)

星一号作戦に参加した連邦軍主力艦隊の第二分隊に所属するサラミスタイプの1隻。ソーラレイの攻撃で生き残った船。

サムソン

ジオン軍の輸送トレーラーで、ザク、グフなどのMS運搬が主用途。

サムソントップ(21)

ジオンの装甲兵員輸送車(APC)・ホバークラフト推進で二連装機銃2基を備える。普段は輸送トレーラーの機動車として使える多目的車両である。

サラミス(4～)

連邦軍の巡洋艦。マダガスカルという固有名詞を持つサラミスがいたにもかかわらず、リード中尉のサラミス以降同型艦をサラミスタイプと呼ぶ。

主砲6門、二連装大型機銃4基を持つ。戦力的にはムサイと同程度。大気圏突入能力を持たず、下部のカプセルで再突入を行う。ジャブローで建造されたサラミスは、ブースターを使って宇宙に出るだけの推力を得ている。

3986(28)

WBの各部屋には電動ロック付きのドアが備えられている。通常のドアはいつもオープン状態であるが、特殊な部屋と個室のドアなどには4桁のアルファベットと数字の組み合わせでロックされている。この番号はカイがミハルに教えたカイの部屋の電子ロックの番号である。

ザンジバル

ジオン軍の機動巡洋艦。そのまま大気圏突入が可能で、ブースターを付ければ、大気圏離脱もできる。5基の機関砲収納の二連装主砲1門を装備、ランバ・ラルがテスト用に使用したものは巨大投光器が4基付いていたが、実戦配備のものは4基ともメガ粒子砲に変えられ強力な武器となる。MS6機収容可能。

酸素欠乏症(33)

宇宙空間の事故などにより、脳内部の細胞に酸素が送られなくなった後遺症。救助された時間によって差はあるが、症状が軽ければ頭痛や軽い記憶喪失程度。ひどくなれば脳が部分的に破壊されてしまい人格変化から植物人間と、悲惨な症状となってしまう。

サンバイザー(27)

ノーマルスーツのヘルメット部に組み込まれている。紫外線、その他有害な宇宙線を遮断する。

三番ノズル(12)

WBの右舷メインエンジンノズルの一つ。エンジンひとつに4基のノズルがあるので、左舷のものを合わせると合計8基ある。

参謀本部(29)

ジャブローの上級士官が勤務する建

物で、連邦軍の総合的戦略がここでたてられる。

宇宙で暮らすことのないエリートの集団が、ぬくぬくとした環境で、好き勝手をやっているイメージが強い。

シークレットファイル(1～)

この場合はガンダム操縦用のマニュアルを指す。V作戦の最高機密文書扱いを受けており、関係者以外の者が許可なく、読んだ場合はスパイ容疑で逮捕、ヘタをするとその場で銃殺という恐ろしいもの。爆風で飛ばされたこれをアムロが拾わなければ、ガンダムの物語は進まなかった。

C・C・2(1)

サイド7に侵入したデニム小隊からの暗号文。「連邦のMS開発(V作戦)発見」

C・C・2(27)

ズゴックパイロットのカラハからシャアに「上陸完了」として送られた暗号文。こうして見ると、「予定通りOK」の暗号は全てC・C・2だったのかもしれない。軍用なのだからYESかNOが伝われば良いという事も考えられる。

C・クラスミサイル(2)

ムサイ艦装備の小型ミサイル。主砲わきの両舷4基ずつのスリットから発射する。

Gアーマー(23～)

Gファイターを前後に分割して、ガンダムを収納したもの。操縦はガンダム本体からもできるが、Gファイターのコクピットで行う事が多い。重装甲の戦闘機になり、連邦軍のMAと言えない事もない。ガンダムの長距離輸送と支援に役立った。ただし、ガンダムの武器は使えないので、兵装はGファイターと変わらない。

Gスカイ(23～)

Gファイターの後部パーツに、ガンダムBパーツとコアファイターを接続させたもの。コアファイターの航続距離と火力を増した長距離重爆撃機となるし、ガンダムを乗せて飛行できるだけの推力もある。

Gスカイイージー(23～)

Gスカイのパーツ構成から、ガンダムBパーツを除いたもの。直接、Gファイター後部とコアファイターを接続させる。性能差がほとんど無いこと、予備のコアファイターを使用することにより、別にガンダムを出撃させられるので、このイージータイプで使用することが多い。

Gファイター(23～)

ガンダム支援用戦闘機、補強用Gパーツ AとBで構成される重戦闘機。ガンキャノンのビームライフルより強力なビーム砲2門及び小型ミサイルを装備する。ドダイ重爆撃機のようにMSを乗せ飛行できる。

Gブル

Gファイター前部Aパーツにガンダム Aパーツとコアブロックを接続させたもの。ビーム砲を逆向きにし、コアブロック側で操縦、Gファイター側は砲術を受け持つ。陸上ではキャタピラ

走行、短時間の飛行も可能。宇宙空間での機動力も大きかったが、Gスカイと併用した場合ガンダムへの換装が困難となるので、あまり使用されなかった。

Gブルイージー

Gブルのパーツ構成から、コアブロックを除いたもの。操縦はGファイター側でする。欠点として、ガンダムAパーツのドッキング部分が露出するのだが、Gスカイとドッキングすると、Gアーマーになれ多目的運用が可能になる。

G3ガス(ZG 29～)

青酸ガスの数百倍の威力を持っており、液化状態のこれ200㎥位でコロニー一つ分の住人を楽々と殺すことができる。今回使用されたものはジオンが一年戦争で使用したものよりもさらに強力であった。

シーランス(26)

マッドアングラーに搭載されている高速艇。水上を2基のジェット・エンジンで滑走する。2人乗り用で、武器は装備されていない。

シールド

MS用の盾の事。パイロットの練度によっては白兵戦で圧倒的に有利な装備。装甲の弱い部分を保護するだけでなく、シールドの影に機体を隠し被弾を防ぐ目的にも使用する。ガンダムはシールドを効果的に使っていた。

Jタイプミサイル

ザンジバル級の戦艦に搭載されている大型ミサイルで、両舷に1門ずつの発射口があり、合わせて2発の発射が可能である。1発でサラミスタイプ巡洋艦を撃破する性能を有し、終戦間際に実戦配備された。

ジェットストリームアタック(24)

ホバーリング効果により高機動性を得た、数体のドムによる対MS用攻撃フォーメーション。〝黒い三連星〟が得意とする戦術。

ジオニズム

シオニズム(亡国のユダヤ民族統一に関する主義)に類する言葉で、ジオン共和国の創始者ジオン・ズム・ダイクンによって提唱された宇宙移民から生まれる新人類の未来に関する主義主張。彼自身もニュータイプではなかったかと後の歴史学者は推察している。

ジオン共和国(43)

ア・バオア・クーの攻防戦後、ザビ家が全員死亡し、残された内閣に連邦が圧力をかけて共和制に移行させた。サイド3の民衆の意志は反映されていないので、連邦に都合のよい政策が強行されていくと思われる。

ジオン共和国(ZG)

一年戦争時、ジオン公国を名乗っていたサイド3はザビ家が全員死亡した終戦直前に共和国と名を変えた。連邦と平和協定を締結した後もこの名称を続け、一般的には自治区という事になっている。が、実際は事実上のジオンの敗け戦であったがために首脳陣は総入れ換えとなり、連邦政府の意志を伝えるだけのものとなっていた。再び地

球から一番遠いサイドに住む彼等が戦いを仕かけていくのを恐れていたからである。結局、Zガンダムにおいては名前だけのものであった。

ジオング(42・43)

その名の通りジオン軍の威信をかけた最終MS。技師によれば脚は飾りだそうだが、形状や戦術はMAに分類されてもおかしくない。頭部にコクピットがあり脱出カプセルにもなる。頭部にもビーム砲1門を装備し、単体でもかなり戦力になる。腕部は五本の指にビーム砲をしこみ、有線ながらオールレンジ攻撃が可能。最大の特徴はサイコミュが搭載されたことで、ジオングがニュータイプ用に開発されたことを示唆している。

80%完成したプロトタイプが一機、ア・バオア・クーに投入され、ニュータイプの素養を強く持つシャアがパイロットとして搭乗するが、より以上の能力を持つアムロのガンダムに追い込まれ互いに大破する。

ジオン軍制式拳銃(ナバン62式)

ジオン軍兵士の一般装備されている火薬式自動拳銃。ルガーで有名なトルグ・ジョイント式の遊底で、宇宙で使うには機械抵抗が強くて問題がありそう。九連発。

ジオン軍制式双眼鏡(1)

野戦用。宇宙空間での使用に耐える。性能的には、現在のものと変わりない。光学製品は連邦の方が質が良い。

ジオン軍用バイク(18)

砂漠用の低圧タイヤ使用の200ccガソリンエンジンのバイク。WBに帰るフラウ・ボウのサンドバギーの追跡に用いた。

ジオン公国

サイド3を中心とした独立国家。宇宙世紀0062、革命家ジオン・ズム・ダイクンによる独立宣言が行われ、共和国の道を歩むが、0068のジオン・ダイクンの死後、デギン・ザビが主権を確立し、公国を名乗る。内閣を掌握し、ザビ家による軍制独裁体制を固め、0079に地球連邦政府に独立戦争を挑む。ア・バオア・クー陥落により、ザビ家は全員死亡、残された内閣により公王制を廃止、共和制に移行する。0080、終戦協定が結ばれた。

ジオン十字勲章(6)

ジオン公国の戦功をたてた勇士に与えられる勲章。シャアがガルマに木馬をやれば「ジオン十字勲章ものだ」とそそのかした事からすると最高位の勲章と思われる。ガンダムの機密の凄さを知ったガルマは、一度はシャアに文句を言うが、「ジオン十字勲章ものだといったろ」で納得させられてしまうくらい価値がある。なにしろこれを貰ったら「キシリア姉さんにも実力が示せることになる」くらい大変な勲章。

ジオン陸軍白兵戦用自動小銃(20)

ランバ・ラル隊が使用した三十連マガジンを使用した小型軽量の突撃銃。使い易く、命中率も良い。

磁気圧(35)

MSの動力源である核融合炉のプラ

ズマを封じ込めるための磁気圧力。磁場を設けて、高温のプラズマで炉心を傷めないようにする。磁気圧が低下すると、プラズマを制御できなくなり、出力の低下を招く。炉心そのものはミノフスキー粒子で包まれているので、磁気圧が下がっても、メルトダウンの心配はない。

シスコ(42)

星一号作戦に参加したサラミスタイプの一隻。ソーラレイの直撃は免れたものの、他艦の爆発の破片を受け、被弾・損傷した。

姿勢制御バーニア連動システム(35)

連邦軍のソーラシステムを制御し、全ミサイルの焦点を合わせる為にコンピュータによって、各ミラーに付いているバーニアを連動するシステム。

自走対モビルガン(1)

対MS用の自走砲。二連装機関砲搭載、有線ミサイル・エレカーと共に、サイド7のコロニー内守備用として配備された。

コロニーの外壁を破壊しない程度の威力にセーブされており、ザクに対してそうときめのある武器ではなかった。気休め程度のものである。

ジッコ(36)

ジオン軍の小型突撃艇。七連装ミサイルランチャー装備。時代遅れの宇宙戦闘機の一種だが、質より量の艦隊戦では、今なお役に立つ。

失速(27)

低速飛行、あるいは急激な方向転換を行った時などに、機体のコントロールを失い墜落しそうになること。Gファイターとガンダムのドッキングは地球上では時速600km以下では失速する。宇宙空間ではまったく関係ないが、あまり遅いと標的になってしまう。

自転車1(27)

ミハルの自転車。カバーなし、泥よけなし、ペダル反転ブレーキの最も単純な構造。

自転車2(27)

連絡員コノリーが民間人より取りあげた自転車。ミハルとの連絡に使用される。

「お急ぎですか」「いや別に急いでいませんよ」が合言葉。

自動防御機構(38)

ギャンの爆発で空気流出があったテキサスコロニーであったが、自動防御機構が作動して流出はとまった。

シミュレーター

模擬演習のこと。状況を実戦同様に考えて行う訓練。コンピュータ記録によって実戦に限りなく近い戦闘を体験できる。慣れたパイロットであれば、新型マシンのシミュレーション訓練をすれば、実機でもほとんど同じように動かせる。

シミュレーター訓練(6)

戦闘機のコクピット等の操作装置の実物大模型を使用する訓練。実戦に近づけるため、操作コクピットそのものを画面と連動して動くようにしたりはするのだが、あくまでも操作系統の訓練装置。発進や歩行といった単純操作

を覚えて訓練効果を高める。しかし全長20mというMSが動作する場合の加速はすさまじいものがあり、シミュレーション通りに動かせたとしても、その加速に身体が振り回されて思い通りにはならない。

ジム(GM)(29)

連邦軍の量産型MS。ガンダムの戦闘データをもとに開発された。基本的にはガンダムと同一のものであるが、コアブロックシステムはない。工程の単純化をはかるため、遠距離レーダー、予備のビームサーベル、耐熱フィルム、腰の予備動力ボックスなどが省略されている。ジャブロー製とルナツー製がある。GMの戦闘方法には1小隊3機が基本戦闘隊形で中隊(1中隊は12小隊)単位の戦闘隊と10~20小隊のボール部隊が同一作戦をとって戦うグループ戦法を主体とし、近距離の敵に対してはGMが、中・遠距離の敵に対してはボールが、それぞれ攻撃を加えるという戦法をとっている。

GMのドック(30)

ジャブロー工場内にある稼働前のGMの格納庫。ジオンの工作員に時限爆弾をしかけられた。

ジャイアント・バズ

ドムに装備されているバズーカ。破壊力は強く、WBのエンジンを一発で撃破できる。最終話でシャアがキシリアに向けて撃ったバズーカと同じ形であったのが涙を誘う。

ジャブロー

南米アマゾン川上流にある連邦軍本部。ジャングル地下、大鍾乳洞を拡張し設置される。強固な岩板に守られているので、核攻撃にも耐えられる。コロニー落としの目標いされたが命中しなかったので、連邦の拠点になる。連邦軍最高指令室、宇宙船用ドック、各種工場などがある。WBの乗員は、ここで辞令を受け正規の連邦軍兵士となる。

ジャブロー内エアスクーター

基地内の連絡用に使用される。一人乗り用エアスクーター。

「シャリア・ブルに関するニュータイプの発生形態」

フラナガン機関が、木星エネルギー船団隊長シャリア・ブルについてまとめたレポート。シャアの進言により、ニュータイプに関係した研究はキシリアの管轄になっている。

シャワールーム

要するにフロ場。WBにおいては数々のエピソードを生む。重力ブロックの中にある。

ジャンク屋(33)

俗に言うくず鉄屋。宇宙では鉄は大切な資源である。古い機械の中から、使えそうな部品をより出して、中古部品として安く売る事もする。サイド6のテム・レイが住みついているジャンク屋のくず鉄の山の中に、壊れたザクの頭があるように、戦争時にもそれなりに、収入源があるようだ。

終戦協定(43)

ア・バオア・クー攻防戦以後、連邦

とジオン共和国との間で調印された。しかし、連邦側のゴリ押しにより、真の終戦協定とはいえない点がある。宇宙世紀0080、1月1日に調印された。

絨毯爆撃(19)

半壊した雨天野球場に隠れているWBをいぶり出す為にガルマのガウ空爆にて、周辺の市街をしらみ潰しに爆撃を行った。空撮フィルムを細かく調べれば、こんな作戦をする必要はなかった。

自由落下(7)

重力に任せて重力中心へ一定加速度で接近すること、一般に物が落ちることをいう。

高度数千mからMSで自由落下しながら戦うのであるからシャアのいうとおり「言葉でいうほど自由ではない」

重力に引っ張られる(30)

引力圏を振り切り慣性飛行に移ったWBから後方へ向けて発進したアムロとセイラ。この時のアムロのセリフがリアル。「気をつけて下さい！スピードをあげると重力に引っ張られて落下します。たえず、上昇する気分で飛行して下さい」こういうセリフの後に地球に引かれるセイラのGブルの前にミサイルを撃ち込み減速させると、なんとなく出来そうな気になるから凄い。

重力ブロック

遠心重力装置により形成される。無重力の宇宙船内での長期間の生活に必要な空間。小型の円筒では、1Gを得るのは難しいが、多少の重力を得るだけで身体への悪影響は軽減する。さらに器具を使った運動を併用すれば、地球を長期間離れていても問題は少ない。

少尉(14)

軍人の階級。士官としての最低ランクで、士官学校を卒業したばかりだと少尉として配属される。逆に兵士が勤続して少尉にまでなるのはかなり大変。

また軍属としての階級だと、技能職は尉官から出発する場合もある。

ブライトの場合は、仕官候補生なので訓練期間があとどれだけあったかが不明であるが、実戦経験を単位換算して少尉に任官させられたようだ。

ジョイント

各装置の接続部分。この場合はガンダムが、使うシールドを2枚接続する部品。Gファイターに収納されGアーマーとなった時、ガンダムの右腕の装甲となるガンダムシールドを、左腕から分離して取り付けるのに必要。ボルトアウトした時は右腕のシールドを左腕のそれに重ねるようにする。Gパーツ運用上の一番の問題点でもある。

焦光座標(36)

ソーラシステムの太陽光線の焦点を合わせる為の座標。コンピュータ連動でミラーを動かす。

鍾乳洞(29)

石灰岩質の土地で、石灰岩が雨や地下水によって溶け流されてできた洞穴で、連邦軍基地ジャブローは、アマゾンにある巨大な鍾乳洞に設けられている。

消防車
　WBに搭載されている、科学消防車。被弾したMS等が着艦した場合に備え、常に待機状態にある。

食事
　シナリオにおいて、WBにおける一般的な食事についての描写があるので以下抜粋。ブタ肉のゴマ和え、リンゴ二切れ、サラダ、厚手のパン、タマゴ、はちみつ入ミルク(16話より)。無重力下での食事は普通重力ブロック内で行われるが、持ち場を離れられない戦闘配備時には、ストロー付きの容器に入った流動食を取る。→戦闘食

触発機雷(28)
　ベルファスト基地の海中防衛用に使われた接触すると爆発するタイプであるが、ゴッグの重装甲には余りききめが無かった。

地雷原(37)
　マ・クベがガンダムの牽制のために、テキサスコロニーの地面に仕掛けた。ハイド・ポンプ同様、MSを破壊できる爆発力はない。

磁力中和機(14)
　マグネット吸着式のプラスチック爆弾を撤去するために反発する磁気を出す機械。操作の熟練を要する爆発物処理機材の一つ。専門訓練を受けていないアムロが操作できたのは勘の良さによるだけでは説明がつかない。

辞令(30)
　官職の任免を記した文書。ジャブローで、WB乗組員の階級が決まり、連邦軍に組み込まれた。WBの所属はティアンム艦隊の第13独立部隊と申し渡された。ようするに囮部隊でしかない。

白いモビルスーツ
　ガンダムの名称を知らないジオンの軍人が用いていたコードネーム。ランバ・ラル隊あたりからガンダムという名を使い出した。

シンクロ
　シンクロナイズの略。ここではいくつかの機械の動作を一致させること。同期ともいう。

人工降雨(34)
　スペースコロニー内は自由に天候をコントロールできる。快晴状態では頭上の陸地が精神的な圧迫感を与えるので常に雲がかかった状態に設定されている。住民の生活感を損なわないために季節もあり、定期的に雨を降らしている。

進路クリアー(2)
　進路上に障害物なしの意。

スイート・ウォーター(ZG 27)
　ラグランジェ・ポイント2に浮かぶ島2号タイプのコロニー。今の島3号タイプを作るための前期段階に製作されたものであり、すでにかなりガタがきている。本来、このタイプのものは地球圏の外周軌道に移動されていて緊急用ベースとして使用されているが、この一機だけは外周用航行船の中継基地として、比較的地球の近くにあった。しかし所詮は忘れ去られたコロニーであり、ここに配属される者は、その大多数が権力争いなどのアオリをくらっ

て閑職に回されて来たような人ばかりである。その為、エゥーゴに参加するものが多く、実質上彼等の管理下に置かれている。

推測データ(7)

これまで入手したデータ、外部構造・行動などからコンピュータで、対象の性能を割り出すこと。ジオンMSは常にザクの性能を基本にして推測する。

水爆ミサイル(25)

大気圏内用の巡航ミサイルで、南極条約で核兵器の使用は禁止されている。連邦軍に追いつめられたマ・クベが使用したが、ガンダムに弾頭部を切断され、核爆発は回避された。

水陸両用MS

ジオン軍が陸戦用だったMSを、水中での機動力を強化したもの。対艦戦闘、敵基地への港湾、河川からの進攻など用途は広い。武器は全て内蔵式で、装甲は一般に強化されている。MAグラブロはこの発展型とみて良い。

スーパーナパーム(2)

ガンダムタイプのMSが使用する高性能ナパーム弾。アムロが破壊されたMSのパーツを処分するのに用いた。点火には、ビームライフルを使用する。これ程の高性能兵器なのに以後は使っていない。

スカート付(33)

リックドムの腰についている姿勢制御用のバーニアカバーが、スカートのように見えるので、このように呼ばれた。

ズゴック(27〜30)

ジオンの水陸両用MS。ゴッグよりも陸上戦闘に主体をおいている。鉤爪状の腕にビーム砲を装備し、頭部にはミサイルランチャーが同心円状に6基並んでいる。火力、運動性、装甲など、このタイプのものとしては、最も完成されている。

スタンバる

ガンダム上の造語でスタンバイするの意。ブライトが好んで使う。

スネークル(43)

ア・バオア・クーの守備隊の一つ。指揮系統の乱れた司令室を必死に呼んでいた。

スパイクアーマー

代表的なものはザクの左肩のトゲつきアーマーシールド。接近戦においてそれなりの効果がある。大切な関節部分を保護しつつ、体当たりで敵のMSを破壊する。連邦にMSが出現するのを想定して設計されているのが立派。

スプレーガン(29〜)

連邦MS・GM用に開発されたビームガンの事で、ガンダムのビームライフルにくらべると威力と到達距離で劣っているが、基本的には同じ物である。

スペースアイランド(1)

宇宙植民島のこと。スペースコロニーと同義語。人類は増え過ぎた人口の九割を宇宙に移民させている。

スペースグライダー(2)

ミライ・ヤシマがライセンスを持つ宇宙船の一種。エンジンを持たず慣性飛行しかできないスポーツ用宇宙船の

ようなものと思われたが、一度だけとはいえ大気圏突入経験があると言っているので小型のシャトルではないかという説もある。弾道飛行であれば大気圏再突入なので、一度は完全に宇宙空間に出る事のできる宇宙船と考えられる。そういえば「クルーザー級のスペースグライダーのライセンス」と言っている。どちらにしろ、ミライがエリートの家系であるのを説明するための小道具である。「今度の休暇にはうちのクルーザーで小笠原にでも行かない」という女の子がいれば、そりゃあどこかの令嬢だとすぐに判る。

スペースゲート(2)

スペースコロニーの宇宙船発着場。遠心重力機構はなく、ここでは無重力である。通常コロニーの両端に港があるが、サイド7は建設中なので北側(太陽の反対)にしかスペースゲートはない。

スペースコロニー

宇宙に浮かぶ巨大な人工島。全長35㎞前後、直径6・5㎞前後の円筒形の中に2千5百万人を収容できる。(密閉コロニーの場合は5千万人を収容)多くのコロニーは巨大な反射鏡で太陽光線を取り入れるが、(解放型)、サイド3のように採光用の窓が無く、代わりに外部に太陽発電システムを設け、そのエネルギー供給を受け内部の人工太陽灯を輝かす(密閉型)コロニーもある。また、コロニーは二分で一回転する事により約1Gの重力を生み出し、地球同様の環境を作り出している。農場や工場を持ち、基本的には自給自足体制を持つが、いくつかの鉱物資源などは地球に依存せねばならない。

人口増加・エネルギー・食糧危機の打開のためのプロジェクトであるが、多くの人達が強制的に移住させられたようで、地球で暮らしているエリートに反発している。コロニー一基を1バンチと呼び、30~40バンチのコロニーが集合して、サイドになり地方自治組織を形成している。

スペースノイド(ZG 1~)

コロニーや月面植民都市など、宇宙に生活する人々を総称する言葉。自称、他称を問わず用いられていた。対語としてはアースノイド、魂を重力に引かれた人々である。地球連邦より見棄てられており、それが彼等にエゥーゴを創設させた。

スペースバス(40)

コロニー間の連絡に使われる。コロニーの回転力で打ち出されるため、姿勢制御用バーニアが必要なだけで、エンジンはいらない。ひとつのサイドの中だけで運行されている。

スペースランチ

WBに搭載されている連絡艇。WBには4隻積み込まれ、その内2隻が最終話にて、脱出に使用された。先に発進したランチにサブキャラクターが、後のランチにレギュラー・キャラが乗艦している。

ズム・シティー(11)

公王庁のあるジオン公国の首都。創

立者、ジオン・ズム・ダイクンの名をとってこう名づけられた。ザビ家はダイクンの名前を利用してサイド3の人々の気持ちを掌握していた。

スレッガーの指輪(36)

スレッガー最後の出撃の際、ミライに預けた彼の母親の形見の金むくの指輪。(しかしスレッガーの母親は健在という安彦氏の話もあり、この指輪が何であったかは不明)結局は彼自身の形見となってしまった。

スワメル(32)

キャメル艦隊のムサイの一艦。

赤外線探知機(4)

ルナツー基地内の侵入物発見用警備システムの一つ。ノーマルスーツで侵入したシャア達にあっさり見破られた。

ゼダンの門(ZG　1～)

もとはグラダナとともにジオンの最終防衛ラインを形成する宇宙要塞であり、一年戦争の最終決戦場となったア・バオア・クーが名称を変更したものである。終戦後もジオン共和国の管理下におかれており、コロニーの鉱物資源用としてけずられていた。しかし今回の戦争が起こってからはティターンズの手に移り再度宇宙要塞として使用されることになった。構造としては円盤状の小惑星と椎状のそれを接合した形であった。さらに今回は核パルスエンジンを完備させる事によってコロニーレーザーと共に行動する事が可能となっていた。しかし、その威力も発揮せぬうちにアクシズの体当りを受け、一番の弱点である接合面から分離、粉砕されてしまった。名称の由来はジャミトフが己の出身地であるフランスのゼダンからである。彼によればゼダンはセダンとも言い、第二次大戦時にドイツ軍がパリに侵攻した、縁起の良い地名であるから、と言う事である。だが、人によってはその地はナポレオンIII世がプロイセン軍に敗北、逮捕された場所でもあり、かえって縁起が悪いと言うものもいた。

セビア川(8)

アメリカ。ユタ州、グレート・キャニオン(グランド・キャニオン)の北、ミッド湖からデラノ山を回り込むようにして流れる川。

ゼロ方向(32)

宇宙空間での戦闘の場合方向を示すのに、自分の水平面を12等分し、上方から見て時計の文字盤に対比させる。また垂直面は、角度と呼ばれ、このゼロ方向とは0時0度、つまり自分の、真上を示すことになる。

洗浄ハッチ(24)

核融合炉とはいえ放射線漏れの恐れはあるので、エンジンルームと居住エリアとの間に備えられた部屋で防護服の放射能を洗浄するシステムになっている。その小部屋の事。

前進基地用人工衛星

月の衛星軌道上にあるジオン前進基地。サイド3や月のグラナダ基地と、地球を結ぶ中継基地の役割もある。キシリアの突撃機動軍所属。

セント・アンジェ(8)

ミッド湖の北にある、ペルシア母子が目指した故郷。町そのものが戦闘により湖になった。

戦闘エリア

戦闘空域を座標上に示したもの。

戦闘機発進カタパルト(29)

・偽装されたジャブローの戦闘機発進専用カタパルト。フライ・マンタ専用と思われる。基地の各所に設けられている。アマゾンのジャングルのあちこちから戦闘機やら宇宙船が発進するさまは壮観である。

戦闘食(40)

宇宙空間での戦闘の合間に支給されるゲル状の食品。無重力下であるため、チューブから吸う。高カロリー、各種ビタミンが含まれ、消化吸収も良い。

戦闘配備

戦闘員に出される配備命令。そのときの状態により以下の三段階に分れる。

○第一戦闘配備－最も緊急な戦闘状況における命令で、出動可能の艦載機(MSを含む)のパイロット及び各砲手は所定の位置で待機していなくてはならない。

○第二戦闘配備－第一よりやや軽度で、非戦闘員もすべてが配備される。

○第三戦闘配備－戦闘が起こりうるかもしれない状況での配備。戦闘員はすべて配備されるが、非戦闘員はあまり行動は制限されない。が、船員状況に迅速に対処するため「総員起こし」の命令は下されている。警戒体制といったところである。

戦闘ライン

自己からの戦闘等級を距離で区分したもの。第一戦闘ラインは最大射程距離。以下、第二は最大視認距離、第三は最大探知距離(レーダーが使えるか否かでかなり違う)の警戒ラインを示す。

潜望鏡(28)

海上に浮かべて映像をファイバーグラスで潜水艦に導く方式をとっている。これによって潜望鏡深度まで浮上せずとも海上を探ることができる。マッドアングラー隊が使用した。ミノフスキー粒子の中での潜水艦活動はまったく探知不能である。

染料(29)

ジャブローのハッチを発見したゾックがシャアの為に目印の赤い染料を水中で流し、それに導かれてシャアと先発隊は合流することができた。標識液ともいう。

総員起こし(37)

戦闘配備のため、乗員全てを起床させる命令。すぐさま配置に付けられる状態にならなければならない。おかげで入浴中のセイラは途中で出なければならなかった。

装甲板

この場合、MSの外装部を指す。構造的には連邦・ジオンとも余り変わりないが、材質的にはルナツーで採掘されるルナチタニウムを採用した連邦の方が勝っている。

相対速度(2)

絶対静止点から見た速度のことを絶

対速度と言うが、特に宇宙空間ではそれらに対して、自分自身の速度にかかわらず単に自分から相手がどう動いているかだけを計った相対速度を用いる。

送風機(40)

ソロモンに入港するレビル艦隊の旗をなびかせるのに用いた。それだけの器具でなく、戦闘により酸欠状態になった空気を循環させてソロモンを前線基地として使用できるようにする機械である。

ソーラシステム(35)

対ソロモン攻略戦において、連邦軍が使用した対要塞兵器。凹面鏡の原理を応用して、12m×8mのミラーを数百万枚を使っている。各ミラーをバーニアで制御して、太陽光をソロモンの一点に集光し、焦点での温度は10、000度以上になる。この高熱を利用して、ソロモンの装甲岩自体を溶解蒸発させ、破壊していった。超大型の太陽炉と思えばよい。

ソーラレイ(41)

基本原理を発案したのはシャアでギレンが実用化した。シャアも使われるまでは作戦を知らされていなかったらしく「アレを使ったのか」と驚いていた。ジオン公国の第3号密閉コロニー『マハル』を利用し、直径6kmのレーザー砲と同様の効果をあげうる兵器である。

その原理は、密閉形のコロニー内部にレーザー励起物体の一つである二酸化炭素をつめ、コロニー内壁を電子コーティングし、コロニーを巨大なレーザー発信管としたもの。励起法は高圧電流で、電子コーティング及び放電システムからの電力を利用する。それには通常の密閉コロニーの何倍もの太陽電池板を投入しなければならない。レーザーの発射方法は、コロニー内部のコーティングにより、レーザーが発射増幅され、最大出力となった時、目標に向いた港壁の電子コーティングを解除。その瞬間、コロニー内・外壁を破壊して、直径6kmのレーザー光線が目標に向かって突進していく。しかし、同時に電子コーティング・フィールド発生装置も破壊される為、連続しての使用は不可能である。目標を予測してコロニーを移動させておく。

ゾック(26)

火力を主体とした水陸両用の重MS。表裏対称の特異な形状をしている。頭部に1門、表裏両肩に8門のビーム砲を装備。水中での運動性は良かったが、ドムと同様の足のバーニアによるホバークラフトを用いているが、陸上での動きはにぶかった。

ソドン(5)

ジオンの巡航船。二連装機関砲を3基持つ。後部からザクなど補給物資を曳航することができる。短距離の移動に使われ、小回りはきくが航続距離は短い。

ソドンの町(19)

中央アジアの連邦・ジオンの中立地帯の名称。ラルたちとアムロがレストランで出会ったのもここである。また

25話のシナリオではマ・クベがここに水爆を持ち込もうとする描写がある。

ソロモン(31)

ジオンの宇宙要塞で、かつてサイド1があった空域に小惑星を連び込み、岩をくり抜いて要塞とした。ジオンにとっては貴重な鉱物資源でもある。ドズル・ザビが指揮する、宇宙攻撃軍が常駐し、連邦宇宙軍に対する要となっている。

連邦軍にとって喉元の短剣ともいえるソロモン基地を攻撃するために、連邦軍は全軍の約1／3にあたる第2艦隊と、新兵器のソーラシステムを動員することにより、かろうじて占拠できたが、被害も大きく、旗艦を含めて5割の艦艇を失ってしまった。この戦いはのちにソロモン海戦と名付けられた。

損傷度B(35)

MSの損傷度の単位。爆発は免れたものの、戦闘継続が不可能なほどに大破した状態を言う。

た

タイガー70・R

ジオン軍正式無反動ライフル。ガス圧で排出する二十連小銃、弾丸が小型軽量で、銃の自重も軽く、作動不良はよほどのことが無い限り起きない。ノーマルスーツで敵地に潜入する際、必ず携帯する。

大気圏突入(5)

宇宙船が大気圏に侵入すること。大気との摩擦熱が高いので、宇宙船外壁の温度を除去する能力を持たない船は、突入できない。WBを除き、20世紀の宇宙船と大差ない突入方法を用いていた。

大気圏突入能力(5)

摩擦熱除去の為の外壁冷却能力と耐熱フィルムの併用を主に指す。連邦・ジオン両軍を通じて、この能力を持つMSはガンダムのみである。宇宙戦艦で最初にこれをやったのはWBであった。

対空監視

ミノフスキー粒子下でレーダーが使用できないため、肉眼での監視に頼る部分が大きかった。敵の接近をいち早くキャッチするためには、重要な事である。第二次世界大戦のパイロット並の視力を要求される作業だ。

対空防御(36)

ビグザムの爪は、ビームを突破して接近する敵を撃退する迎撃ミサイルでもあった。もともと、そこまで接近できるMSや戦艦はないので非常手段ともいえよう。スレッガーのGアーマーはこれにより破壊されるが、内部のガンダムは無傷でビグザムに肉薄する。

大口径バルカン重装甲車(26)

ベルファスト基地に配備されている大口径のバルカン砲を装備した重装甲車。

第三艦隊(35)

サイド6を脱出したWBが、補給を

受けるために接触した艦隊。ワッケインが司令であったが、テキサスで壊滅する。

第十三独立部隊(30)

WBの部隊名称。ジオン側のWBの評価が高いのに眼をつけ、連邦軍の反攻作戦に際しての囮として用いられた。ソロモンの後、護衛としてサラミス2隻がつけられたが、エルメスの攻撃にやられてしまう。WBの生存率は異常に高いのである。

第十二分隊(42)

ソーラレイで失った連邦主力艦隊の生き残り部隊。サラミスタイプのサフラン一隻のみであった。同行していた他部隊の船は、同タイプのシスコと、輸送船コロンブスである。

第18ハッチ(17)

捕虜のコズンが、連絡をした後にパーソナルジェットで逃亡しようとしたハッチ。エアロックタイプなので拳銃弾程度では貫通しない。そこでオムルがバズーカを発射するのだが、コズンも吹き飛ばしてしまった。

対潜魚雷(27)

空中及び水上から、水中の敵に直接攻撃できる魚雷。この場合は、ドン・エスカルゴ対潜攻撃機に搭載されている多弾頭弾を指す。

対潜ミサイル(27・28)

対潜水艦、水中の目標に対するミサイル。ベルファスト基地に装備されていた。WB、ガンペリー、Gファイターのランチャーは多目的タイプなので、対潜ミサイルを装備することもできる。

タイタン(36)

テアンム艦隊旗艦マゼランの名。ビグザムのビーム砲に撃破される。

対地速度(3)

相対速度のうち、相手が地面である場合。地面からみた自分の速度。

第七師団(35)

ジオン突撃機動軍のうち、キシリア直属の師団。キシリアの腹心のマ・クベはレアメンタルを含む鉱物資源をジオンに送っていた。この地帯に鉱山が多かった理由でもある。

第7ポーキサイト基地(22)

マ・クベの地球での資源採掘基地の一つ。WBとガンダムの連携プレーの末に潰されてしまう。

第二大隊(42)

連邦軍が、戦艦ルザルを旗艦として残存艦艇をまとめたもの。

第2通信室(17)

WBの通信専用室。WBが艦隊の旗艦としても使用できるように設計されたものだが、人数不足の現状では、ほとんど使用されていない。捕虜のコズンが脱出する際、WBの戦力に関するデータをランバ・ラル隊に送るのに用いた。コズンに言わせるとジオンのものより同調しにくいようだ。

第2ドック(36)

ベルファスト基地にあるドック。損傷したWBがそこで修理を受けた。もともと大型船のドックではないので、WBははみ出してしまい、仮設の壁で囲われていた。

耐熱フィルム(15)

ガンダムが大気圏突入する際の大気との摩擦熱を吸収するビニール状フィルム。材質は特殊な樹脂で表面の気化熱(蒸発する際に吸収する熱量)の比率が高いので、燃え尽きるまではガンダムの温度上昇が防がれる。普段は前面専用ポケットに格納されている。

タイプ6E(20)

アムロが入れられていた独房のナンバー。いくら戻って来ても脱走兵であるから独房に入れるのは当然。

大砲

火薬式の大砲。旧式のような気がするが信頼度は桁違いに良い。光学測定した目標に確実に命中するし、目標によって砲弾の種類を換えられる。ビーム砲のようにエネルギーを消耗しないので、エンジン出力に関係なく発射可能。地球で使う場合は曲射砲として障害物の向こうにある目標を撃てる。これだけのメリットは無視できないので、戦艦の主砲として健在である。

第86ポーキサイト基地(22)

第7と同じく、マ・クベの基地。グフ、マゼラ・アタック等地上機動部隊が、配備されている。WB、ガンタンクの連携プレーで撃破されている。この戦闘後、ブライトは高熱を出して倒れてしまう。

退避カプセル(1・35)

サイド7にあった防空壕。コロニーの外壁の中にあるので、直撃には耐えられないし、1バンチしかないサイド7では切り離して隣接するコロニーへ移動するのも難しい。結局のところ、もたもたして逃げ遅れた人間が難民としてWBにたどり着くことになった。

宇宙要塞ソロモンが敵の攻撃を受けた場合最も被害を受けにくく安全な場所に設けられた独立ブロック。また、そこには、非常用の脱出ポッドが常に用意されている。

第102採掘基地(18)

WBを脱出したアムロが偶然見つけたマ・クベの鉱物採掘基地の一つ。ここがオデッサデーで連邦軍の攻撃目標となっている鉱山基地と思い込んだアムロが単身ガンダムで攻撃、撃破する。こんな基地が目標の訳がない。

ダイヤモンド編隊

最低4機の戦闘機が4角形を構成するようにして飛ぶ、最も基本的な編隊飛行のこと。

第6ゲート(35)

宇宙要塞ソロモンのメインゲートのひとつで、連邦軍のソーラシステムの目標になった。これにより第6ゲートは消滅した。

太陽電池(40)

太陽光エネルギーを直接電気エネルギーに変換する素子の事を言う。現在普及している製品の数倍のエネルギー転換効率がある。宇宙空間では、太陽光線を遮るものがないので、あらゆる場所に使われている。

多弾頭弾1

ミサイルや砲弾が目標に到達する前に内蔵した子爆弾を放出する構造にな

ったもの。敵を点ではなくて面で攻撃できる。目標によって数個から数百個の子爆弾を内蔵する。

多弾頭弾2(27～)

空中から投下され、水中にて3基の爆弾を弾頭部より排出する対潜兵器。発射してから数個～数十個の子爆弾やミサイルに分離するものをこういう。

脱出カプセル(4)

WBの一人乗り脱出カプセル。前WB艦長パオロ・カシアスの宇宙葬に用いられたものは、生命維持装置などが取り外されている。

脱出カプセル装填室(4)

通常は一人乗り脱出カプセルの装填・射出を行うブロック。パオロ・カシアスの葬儀に用いられた。

脱出ブリッジ(21)

ギャロップの脱出式ブリッジのこと。本体から射出されると安定翼が出てしばらく飛行することができる。

脱出ポッド(35)

ソロモンの退避カプセルに装備されている脱出用小型高速宇宙船。ドズル・ザビの妻ゼナが娘ミネバと共に、脱出する時使用した。乗員は高加速に耐えられるよう、耐Gシートに固定され、宇宙船はコンピュータにより制御、操縦される。外部から誘導することも可能。

ダブデ陸戦艇

ジオンの大型陸戦艇。移動司令基地として用いられることが多い。キャタピラによる高速移動が可能。主砲発射の際は四方の安定ダンパーを地面につけ本体を固定する。マ・クベが使用したものは、後部格納庫に水爆ミサイルを収納していた。

弾倉ロック

ガンタンクの両腕のポップミサイル四連装ランチャーにスペアミサイルを送り込む装弾装置の一つ。これが切れると発射できなくなる。

弾道軌道(7)

目的地点まで途中進路の修正をしなくとも到達する軌道。成層圏まで上昇し目的地に到達する。地球上の二点間は30分で移動出来る。

アムロは南米の連邦軍本部と連絡をとるために、コアファイターを弾道軌道に乗せて、敵の勢力圏を一気に飛びこそうとしたがシャアのコムサイの追撃に遭い失敗する。

弾幕

迎撃ミサイルや機銃などの火器を用いて、一定の空間に一種のバリヤーを張ること。侵入・接近してくる敵ミサイル・MSを撃退する。ミノフスキー粒子のせいで誘導はできないのだから、下手な鉄砲も数撃ちゃ当たるの精神で弾幕を張っていれば敵が勝手にあたってくれる。ブライトの得意な戦法！

地下水脈(30)

ジャブローを流れる巨大な水脈でアマゾン川と通じている。ガンダムに追いつめられたシャアのズゴックは、この地下水脈を使って脱出した。

地下組織(6)

地球でのジオン軍占領下におけるゲ

リラ組織。WBはアメリカ大陸に残存する組織と連絡をとろうとするが、結局はどことも連絡が取れなかった。

地球光(39)

暗黒の宇宙空間で地球を見ると、かなり眩しい。シャリア・ブルとの戦いでアムロは、敵と自分と地球を結ぶ一直線が常に読めるのを見せている。ニュータイプ能力云々ではなく、これはアムロが本来持っている戦闘センスである。なぜなら、3話の戦闘の時から逆光には拘っていたからである。

地球の雷(12)

太平洋を航行するWBとそれを発見したランバ・ラル。雷雲に突入した両方のクルーが互いの新兵器と思うくらいコロニーに住む人間には雷は縁遠い自然現象なのであった。

「これが地球の雷というものだ」とラルは余裕であった。

地球圏(ZG 7～)

正確な表現はなかったが、主として地球を中心とした人類の居住生活圏を指すことが多かった。その事から判断するに月軌道の外郭までと考えて良かろう。そこは現在の人類の範囲であり、新たな生活の場所である。ララァの魂は今もここにいる。

地球侵攻作戦

南極条約の直後にジオン軍によって行われた大作戦。ミノフスキー粒子の散布とMSの効果的運用により全大陸の半分以上がジオンの勢力下に入った。しかし戦線を伸ばし過ぎたジオンはそれ以上の侵攻はできず、なおかつ連邦も消耗が激しく撃退はできないでいた。その為に戦線は半年以上膠着状態で小規模なゲリラ戦が繰り返されていた。

地球でのMS(24)

アッザムでの戦いで新型MSの導入を急がすキシリアであったが、この時点で「地球での白兵戦用のMSは、シャア中佐に回すてだてをつけなさい」と命令している。シャアの赤いズゴックは比較的早めに手配されていたのだ。

地球の再生(ZG)

人類は進化をする為に母なる地球を汚し続けて来た。今、宇宙に生活の場を得たのであるならば、人は地球の再生を図るべきである。と言うのがエゥーゴの主張であった。大筋ではジャミトフとシロッコもその事を理解していたようである。

地球連邦軍本部(16)

南アメリカの参謀本部ジャブローのこと。

地球連邦第二連合艦隊(32)

ルウム戦役で壊滅した第一連合艦隊に代わり建造され艦隊。ジャブローからブースターを装備して宇宙に出たティアンム艦隊の事。

チベ(33～)

ジオン軍重巡洋艦。3連装ビーム砲を前後各1門、小型2連装砲塔を両舷各9門、ミサイル発射口を前部両舷に各6門が装備されている。リック・ドムを数機搭載可能で、火力が大きいこと、機動性に富むことから、小艦隊の指揮艦として用いられることが多い。

着艦フック(7)

航空機の尾部についているカギ。空母など限られた滑走路におりる場合、このカギを滑走路上のワイヤーにひっかけて強制的に機を停止させる。WBは第1・第2デッキの艦底にも装備しており、あらゆる状況下でコアファイターを回収できるようにしている。

中央アジア

ユーラシア大陸中心部に位置し、東はゴビ砂漠から、西はカスピ海まで広がる内陸地域。太平洋より侵入したWBはここを経て、カスピ海に至る。

中央格納庫(7)

WBのガンペリー格納庫のこと。第3デッキと呼ぶ事もある。

蝶(29)

WBのジャブロー入港時に群舞したモルフォ蝶のこと。南米アマゾン一帯に生息する渡り蝶で、WBはちょうど渡りの時期とぶつかったのである。

聴音センサー(12)

相手の機械音などを探知して、位置、状況を知る装置。聴音器。電波の使えない状況ではかなり有効な探知手段。当然宇宙空間では音を伝える空気がないので使えない。

長距離ビーム砲(36)

戦艦クラスに装備されているメガ粒子砲。射程距離が長いが、出力の高い核融合炉を必要とする。MSで最初に装備したのはガンダムである。

ツメバケイ(29)

南米北部に生息する鳥。

ティターンズ(ZG)

ジオン公国の残党狩りを名目として地球上のエリートのみで構成された組織。総帥は連邦軍の影の実力者と言われるジャミトフ・ハイマン大将が努める。しかしその実体は、再度のスペースノイドの台頭を恐れた地上の人々(＝魂を重力に引かれた人々)が宇宙に対して圧力をかけ続けるために組織したものであり、ローゼンクロイツとのつながりも有ると言われている。連邦軍の一部であったが、後に実権をすべて掌握、地球上をほぼその手中に収めたかに見えた。宇宙空間においてもゼダンの門、グリプス、ルナ2を足場として艦隊とコロニーレーザーを製作、エゥーゴに対して一時期はかなり優位に立っていた。

しかし地上においてはカラバ、宇宙ではエゥーゴとアクシズ軍の反攻、さらにはジャミトフとシロッコの内部抗争が起こり弱体化、シャアのダカール演説での一般市民への実体の暴露等によってその正統性を失っていった。最終的にはコロニーレーザーを巡る戦いにおいて、その宇宙艦隊をほぼ撃沈されてしまい歴史の表舞台から降りていかざるを得なくなった。主要人物も全員死亡している。

停戦信号(ZG　4～)

ミノフスキー粒子の散布下の戦場においては無線通信が不可能である為、停戦の合図をオレンジ色の発光信号弾で行う。一年戦争時にも使われた例はあるが7年後の世界ではルールが確立

している。宇宙戦闘において、この合図を無視する事はかたく禁じられており、もしも知っていて破った場合は一族全員死刑が待っているぐらい厳しい。しかしそれだけのものであるので、使用した方は停戦後のかけ引きにおいてかなり不利な立場に立つ事になる。ごくまれに昔ながらの白旗も用いられる場合もある。

ティアンム艦隊(29)

ティアンム提督率いる地球連邦第二連合艦隊の別名。ソロモン攻略の主力。ビグザムの攻撃で旗艦を失い、再編成されるが、ジオンのソーラレイにより全滅に等しい被害を負い、事実上壊滅してしまった。

定期攻撃(29)

ジャブローに対するジオンの「定期的」攻撃。だが、これはシャアの巧妙な作戦で、連邦がこの作戦にすっかり慣れた頃、彼はひそかにジャブローに潜入した。

D級消耗パーツ(22)

MSの交換・予備パーツを使用による消耗で分類したもの。D級ならかなり消耗度が激しいといえる。ガンダムのビームサーベルの粒子収束フィルターがD級に分類されている。パーツナンバーは133番。さすがに整備しただけでは不完全で、グフとの戦闘中にサーベルのビームが消失してしまい柄で殴りつけるはめとなる。

TC17ブロック(32)

ガンダムの右手の操作ブロックの一つ。MAザクレロの攻撃でやられた部分。簡単に交換ができる部位である。

定時報告(30)

トーチカから決まった時間にもたらされる報告。ジオン軍のジャブロー定期攻撃は、「異状」にはならない。なにしろ「定期」なのであります。

ディッシュ連絡機(26)

連邦軍の連絡用高速ジェット機。レビル将軍が、ベルファスト補給基地に来る時に使用した。亀の形に良く似ている。

テキサスエリア(37)

テキサス・コロニー近辺にある暗礁空域のこと。なにしろ戦略的な価値のないテキサスを残し、周囲のコロニーは破壊されているので浮遊物だらけで、絶好の隠れ場所となっている。

テキサス・コロニー(37)

サイド5にあったレジャーと牧畜専門に建設された開放型コロニーの一つ。戦争激化のため、少数の保安要員を残して、放置された。採光用のミラーも動かなくなり、8ケ月余りの夕暮れの状態が続き、そのため砂漠化してしまった。フラナガン機関が秘密裡にこのテキサスをララァの訓練場として使用していた。ガンダムとマ・クベのギャン、シャアのゲルググとの戦い。ララァとニュータイプに目覚めたアムロの再会。シャアとセイラの運命的な再会。ワッケイン司令の死等、数多くのエピソードを残した地。

テスター(11)

主に電気測定器を言う。電圧、電流

などを測定し、故障箇所を発見する。

テスト・ターゲット(37)

テキサス・コロニーでフラナガンがララァに行なわせたニュータイプ実験での的。ララァは、70パーセントの的中率だった。

デッキ

船の甲板のこと。WBにはMS、艦載機などの発進収容用の4つのデッキがある。第1デッキはWBの右脚に相当するブロックにあり、Gファイターが配備されるまで、ほとんど使用されなかった。第2デッキは左脚にあり、MS、コアファイターなど、大半がここを使用する。第3デッキ(中央デッキ)は腹部にあり、主にガンペリー専用だが、最大のカタパルトがある為、コアファイターなどの小型機でも弾道軌道まで打ち上げる事ができる。第四デッキは後部にあり、着陸が一番容易である為、ブーンの漁業組合機はここを使用した。また各デッキは船体中央格納庫にて接続している。

デック(4)

ジオン軍制式機雷。時限、金属感応、圧力感応のいずれかにより起爆することができ、それぞれ組み込み式である。これを三つまとめて運搬するものをデックキャリアという。シャアは生身でルナツーに潜入し、この機雷だけでそうとうの戦果を上げた。

デブロック(20)

連邦軍の重爆撃機。オデッサの戦いで活躍する。一見、古めかしい外観である。

TV局(34)

WBとジオンの戦闘を、もっともなことを言いながら、放送するサイド6のTV局。未来でもマスコミは変わらない様だ。サイド6の中立がどの程度のものか見当がつく。

TVモニター(19)

この場合はWBの艦内の監視装置をいう。TVカメラが艦内に多くセットされており、ブリッジなどで必要な場所を見ることができる。

天気予報表(34)

コロニー内の天気は自由にコントロールできるが、住民の生活のリズムをくずさぬように、雨の時間を設けたりする。このための予定表が配られる。

天測(6)

望遠鏡など肉視観測で星座の位置を測定し自分の場所を確定すること。ミノフスキー粒子の濃い空域では電波測定ができない。

ドアンの島(15)

ドアンが戦災孤児たちを集め、ジオンの目を逃れて、一緒に生活している島。日本の五島列島の一つ。

トイレ(28)

WBに潜入したブーンはトイレでミハルの情報を受けとった。WBの後部デッキ横のトイレは単なる水洗式のようで、宇宙に出た場合重力ブロックのトイレしか使用できなくなると思われる。

トーチカ(30)

ジャブローの肉眼監視による詰め所。

常時何人か詰めている。数百ケ所あり、ポイントB－3は、シャアが率いる工作隊のアッガイに潰された。

同調(13)

シンクロと同義。同期ともいう。目的とする動作を行う為には複数の機械が同時に働かなくてはいけない。

動力ボックス(16)

ガンダムの腰の両側にあるボックス状のもの。無断で出撃したセイラの操縦するガンダムは、コズンの乗るザクに追いつめられ、右の動力ボックスとメインカメラが破壊された。

トクメル(32)

キャメル艦隊の三番艦。WBに撃破される。

時計(28)

ブーンがミハルとの連絡のため使用した通信機内蔵の時計。艦内通話程度にしか使えない。ミハルのものと同じタイプらしい。

ド・ダイYS(23)

ジオン軍の要撃爆撃機。前部にミサイルランチャーを8基備える。エンジン出力が大きいので、MSを乗せて飛行可能。その運用方法が有効だったので、ガンダムにもGファイターが開発された。

ドッキングサーチャー(13)

ガンダムの空中換装の時、パーツのドッキングの状態を教える探知機。地球に到着してからマチルダが補給物資と一緒に運んで来た。一定距離に近づくとレーザーセンサーとコンピュータでオートマチックドッキングが可能。アムロはマニュアルで短時間にドッキングする訓練を繰り返していた。

ドッキング・サイン(36)

Gファイターに乗ったスレッガーが、コクピットより手振りで、ガンダムのアムロに指示を送った。ドッキングして、Gアーマーになりビグザムにつっこんだ。

ドッキングパーツ(13～)

コアファイターがAパーツ・Bパーツに空中ドッキングできるパーツ。「マチルダ中尉の持って来てくれたドッキングパーツ。まだテストもしてないんですから」……また謎が増えた。

我々の知らない補給があったらしい。9話では、マチルダは少尉だったのである。

ドッキングベイ(2)

スペースゲート内の宇宙船拘留所のこと。

ドッキングロック(30)

宇宙船を着艦、固定させるためのダンパーのこと。

ドック(27・33)

船舶の製造・修理・改造のために使う施設のこと。WBは本編で2回ドック入りする。北アイルランドのベルファスト基地(26)、アマゾンのジャブロー連邦軍本部(29)、サイド6では民間の浮きドックを使用しようとしたところ、攻撃され、そのままソロモンに向かう。→浮きドック

ドップ(5～)

ジオン軍の小型戦闘機。ミノフスキ

ー粒子下での戦闘に視界を広くするための設計がなされ、コクピットが張り出して、風防が広いのが特徴になっている。しかし、サイド内で開発されたので、地球では燃費があまり良くなかった。揚力を無視した機体なので片翼でも問題なく飛行する。6連ミサイルランチャーを左右に1基ずつ搭載し、バルカン砲も備えている。ガルマ専用機は一般の緑色とは違い、茶褐色である。

トマト(9)

カツ・レツ・キッカが調理室より盗んだもの。たび重なる戦闘に疲れ果てたアムロにプレゼントした。トマトを齧るアムロは、放映時には有名な構図である。

ドム

ジオンの地上戦用重MS。ザク・グフに比べ最初から地上戦だけを考慮された局地戦用MSであるだけに、その地上戦闘力は高く、重装甲・高機動性・携帯火器の強力さなどがあいまって、ガンダムを苦しめる。足のホバークラフトのおかげで高速移動ができる。ヒート剣を背負いジャイアントバズを持つ。その性能が認められバーニアを強化した宇宙用のリック・ドムも開発された。

ドラゴンフライ(25)

トンボとあだ名される連邦の小型連絡機でプロペラ機である。本編ではジュダックがマ・クベのもとへ情報提供する際使用、訓練中のアムロとセイラの乗るGアーマーに発見されスパイであることが判明した。

トリアーエズFF4

4話においてルナツーの防空戦闘機としてとりあえず登場するはずだったが、本編では省かれた。設定書があるのでたいていのガンダム図鑑に登場する。

トリプルA(AAA)(4)

連邦軍の最重要秘密に属するガンダムタイプMSの開発とそれに伴う新造戦艦の開発などの計画の別称：V作戦。

ドロス(39)

ジオン軍の大型輸送空母。2連装ビーム砲前部両舷に各3門、後部左右端に各1門持ち、他に二連装機銃を艦尾両端上部に各1門装備している。MSなら100機以上搭載可能で、他にもMAなどを輸送したりすることもある。ア・バオア・クーではNフィールドを守り善戦した。

ドン・エスカルゴ対潜攻撃機

基地からも、空母からも発着可能な対潜攻撃機。魚雷及び爆弾を水中の敵に発射する。かたつむりに似た機首をしている。

とんがり帽子(41)

WBのクルーの間では、エルメスはこの呼び名で通っている。

な

内火艇(33)

海上では艦船に搭載されたエンジン付きの連絡船をいう。この場合は宇宙

船と基地、あるいは宇宙船同士の間を往復する時などに利用される低速の小型船の総称。スペースランチともいう。

ナカワレ(23)

ガンペリーのジオンでの呼び名。敵の新兵器の名前がわかるわけはないので、見た目でコード名をつけている。「戦場は荒野」で兵員輸送機とばかり思っていたガンペリーのコンテナが割れて白いMS(ガンダム)が飛び出し敗退したジオンでは、このコードネームをつけた。WBを木馬と呼ぶのと同じような意味合い。

ならし運転(38)

この場合、シャアのゲルググの調整運転を指す。新型MSは基本的運転データが未整理なので綿密なテストが必要。慎重なシャアには似つかわしくない事だが、アムロがニュータイプである事を確認する為に、事を急いだと言える。WBのエンジン修理後や、Gパーツの試運転でも使われる言葉であるが、ゲルググの場合は本当に新品だったようだ。

南極条約

ルウム戦役後、ジオンと連邦の間に取り交わされた条約。核兵器及びBC兵器の使用禁止、木星エネルギー船団に対しての不可侵の他、捕虜の扱いなどが定められ南極で調印された。南極条約が万能ではないのは、もともと連邦の無条件降伏に近い調印を白紙撤回して作成されたものだからだ。

難民キャンプ(13)

戦火で焼け出された避難民を収容する施設。アムロと彼の母カマリアとの再会があったキャンプはジオン軍が設置したもので、日に一、二度武装兵の巡回が行われていた。ただし、アジアでの戦力分布は流動的であり、いつ立場が入れ替わるかは予測できない。

二階級特進(30)

軍務中、戦闘などにより死亡した場合二階級の繰り上げ任官を受ける場合がある。パイロット候補生であったリュウは一度曹長に任官されており、ガンダムを守る特攻で戦死という記録があるので中尉に任官された。もちろん戦意高揚を目的としたものであるから、アムロは必要以上に反発したのだ。

入港基準速度(2)

スペース・コロニー等に入港する際の、決められた宇宙船の速度。誘導装置が優れていても、巨大な質量である宇宙船がコロニーに衝突すると致命的なので非常制御が利く程度の低速進入となっている。

ニュータイプ

スペースコロニー時代にあり、宇宙という環境の中で、認識力が拡大・強化された種。人類全体が変革すべき理想の形と言われている。人の思想が他者との直結する手段を得た時、誤解が生じ得ないコミュニケーションの拡大を生む。そうしたニュータイプ同士の交感が個人及び集団の認識力を拡大・強化せしめ、深い洞察力をもたらす。こうしたコミュニケーションが人類全体に広がった時、人類総意による社会

体制の運営が初めて可能になる。一般にESPと誤解されているが、ニュータイプの超感覚的知覚は、コミュニケーションの為の手段に過ぎず、そこから生み出される複合知性が、ニュータイプの本質と言える。しかし両軍ともに戦闘に利用する事しか考えていないようであった。

熱源体

熱を発散させる物体。高度の赤外線探知装置によって、その赤外線放射源を探知する事ができる。レーダーが使用できないミノフスキー粒子下でミサイルや艦艇を探知する手段となる。赤外線もミノフスキー粒子にかなり遮断されるので、人間やエンジンを停止した船のように熱量が少ない物は発見しにくい。

ノーマルスーツ

宇宙服の総称。MSに対して呼称される。重装宇宙服と軽装宇宙服（パイロットスーツ）の二つに分類できる。パイロットが着るノーマルスーツは対Gスーツも兼ねている。なおパイロットが着用するノーマルスーツは、宇宙服としては究極の性能があり、そのままパトルスーツとして兵士が使う場合が多い。

は

ハーバート隊(35)

ア・バオア・クーの防衛線の一つを守備していた小隊。名前のみ登場。

パーソナルジェット

大気圏で使用されるジェット飛行装置。背中に背負って、自由に飛行できる。WBで脱出用に装備されているフラウたちが使った物はダイターン3からの設定流用。ジオン軍では、ランバ・ラル隊がWBに切り込むゲリラ戦に用いた。

ハイドボンブ(37)

マ・クベがギャンより放出した空中機雷。ガンダムはその誘爆に巻き込まれたが、威力は弱く致命傷とはならなかった。かえってアムロを怒らせて勘を冴えさせてしまった武器である。

ハイパーバズーカ(3一)

ガンダム専用の大型バズーカ。核融合炉のエネルギーを消耗しないので、ビームライフルが使えないような時には重宝する武器。装弾数は5発と多くないが、破壊力は大きくメンテナンスが比較的容易である。ビームライフルと併用して使えば、ガンダム一機で小艦隊なら相手にできる。

ハイパーハンマー(26)

ベルファスト基地で新たに装備された、ガンダムの携帯用兵器。従来のガンダムハンマーは、鉄の塊を振り回してぶつけるという単純なものだったので、強化改良したもの。加速用ブースターを備え初速を得、その破壊力をアップさせた。しかしビーム兵器に比べると、明らかに旧式でこの時に使用したきりであった。

ハイパーマグネット(21)

WBのメインエンジンの磁束帯。常温超伝導物質でコイルが作られており炉心のプラズマを保持している。これが不安定だとエンジン出力が上昇しないので飛行できない。

爆弾

テキサスコロニーの最も内側のハッチに仕掛けられた爆弾。マ・クベのギャンがガンダム牽制に用いた。ハッチが開くと爆発するようになっていたが、爆発力は低い。立て続けのレベルの低い攻撃にはアムロの怒りが爆発した。

発光信号

ミノフスキー粒子の中での乱戦状態では、あらゆる通信手段が役に立たない。そこで考え出されたのが、高輝度照明弾による発光信号である。南極条約では『停戦信号』だけが取り決められ、それ以外の信号は両軍で独自のものを使用している。信頼性はあるが、色と数の組み合わせなので複雑な内容は伝達できない。

Zの時代になると、停戦信号だけは厳しく定められる。

発光信号(36)

ソロモン遺棄を決意したドズルが上げさせた「各自脱出命令」である。ザクにロープで牽引される兵士が印象的な脱出劇であった。ドズルは操縦系を切り替え、たったひとりでビグザムを操縦し、最後まで戦う。

発光信号FW(38)

地球へ降りて来たラルのザンジバルへWB発見を知らせるため、随伴のコムサイが打ち上げた発光信号。コムサイは大気圏突入カプセルでありながら、短時間であれば自由に飛行できるのが実証されている。

発信物体(38)

テキサスの港を出るWBが発信物体として感知したのは、シャアがセイラに渡す金塊を入れたトランクであった。それに取り付けられた発信機がセンサーに反応したもの。一財産入っているからそれなりの工夫をしたもの。

ハッチ

WBには人間が出入りするハッチが80あり、その内、約半数がエア・ロック兼用である。エア・ロックとして使えないハッチは、宇宙空間において完全にロックされ開くことは無いようにしてある。

各ハッチの配置については、連邦軍の機密につき、掲載不可。ちなみに、第78ハッチが最も有名で、「ランバ・ラル特攻」の際、ここを守っていたのが、例の金髪の美少年である。しつこいようだが、ジョブ・ジョンではない。

バッファロー(38)

テキサスコロニー内の観光用動物。管理する者がいなくなり、野放し状態になっていた。

パトロール機(33)

中立宣言をした自治国家であるサイド6が、自国の領空に接近する宇宙船を監視するために飛ばす。戦艦こそもたないが連邦もジオンもサイド6を刺激しないように、パトロール機の命令には従う。

パプア輸送船(3)
ジオン軍の旧式となった補給艦。双胴船で、両舷のコンベアバイプ3本が、ムサイ艦の格納庫ハッチとドッキングし、物資を搬入する。防空用の二連装機銃を各所に装備する。双胴の片方だけのコンテナでムサイ一艦を完全補給できる。

パブリク(35)
連邦軍の大型ミサイルを2機備えた突撃艇。通常はミサイルを敵に向けて発射するが、ソロモン攻略戦、ア・バオア・クー戦略などの対要塞戦にはビーム攪乱膜を張るビーム拡散用粒子をつめたミサイルを使った。発進時にはブースターを付けているが、攻撃後は切り離す。

パラロム・ズ・シャア(33)
サイド6に向かう途中のシャアがキシリア宛に送った暗号電文。内容は副官のマリガンですら知らなかった。
内容は次の通り。
「これから目的地に行き、例のニュータイプを回収します。シャア」

バランサー(16)
正確にはバランス・コントローラーの事。この部分を壊されると、MSは立つ事もできなくなる。砂中に隠れたランバ・ラルのグフのヒートロッドでガンダムの右のつま先のバランサーが破損した。アムロであれば手動回復ができたのだが、慣れないセイラではガンダムは動けなくなった。

針ミサイル(37)
ギャンの盾に組み込まれた小型ミサイル。あれでは、盾なのかランチャーなのかわからない。

バルカン砲
20世紀の米国空軍で戦闘機の標準武装となっていたジェネラル・エレクトリック社製のM61A-120㎜機関砲の固有名詞。6砲身で毎分4千~6千発の高速射撃ができる。この機関砲があまりにも有名だったので、ガンダムの世界は口径に関係なく、すべての機関砲をバルカン砲と呼んでいる。ガンダムの頭部のバルカン砲は、短銃身なので接近戦用である。メンテナンスの様子を見ると、ケースレスタイプ(薬莢がない)なので排莢する必要はない。

ハルク(34)
カムラン・ブルームがWBがサイド6から出航する時の護衛用にと雇った民間宇宙船。専用のパイロットがつく。

バロム艦(38)
チベタイプの戦艦。ワッケインの指揮するマゼランに撃破される。

ハンガー
戦闘機やMSの格納庫の総称。整備や修理も行え、発進準備の整った機体を待機させておく場合もある。

汎用兵器
多目的に使える兵器。しかしオールマイティというより、中途半端に終わる事が多い。その点MSは両手で武器を持ち換える事によりいかなる戦闘にも対応していた。

ビーコン(4)
電波、光などを出す標識。ルナツー

のスペースゲート入口に浮かべられていたのが最初で、コロニーや要塞の進入路にはたいてい設置されている。

ヒート・サーベル(19)

グフの盾の裏側に装備された剣。グフのヒートホークと同様の原理で稼働する。

ヒート剣(25)

ドムの背中に装備された剣。ザクのヒートホークと同じ原理で稼働する。

ヒート・ホーク(4～)

ザクに装備される斧。ザク本体の原子炉から動力をもらい、刃の部分を赤熱させ、敵の装甲を焼き切る。ガンダムの装甲でも傷付けられることから考えると、かなりの温度となっている。

同様の動力システムをもつ、グフにも転用できる。これとて戦艦の装甲を簡単に切断できる武器だが、ビームサーベルと比べるとあまりにも旧式である。

ヒートロッド(12)

グフの右手から出るムチ。最長で17・5mだからビームサーベルよりは遠くまで届くが、あくまでも格闘戦用武器。4000℃までの放熱ができ、ガンダムの装甲すら切断できるし、そこに流れる電気エネルギーを応用して機器にダメージを与え、パイロットに電気ショックを与える事もできる兵器。

ビーム撹乱膜(35)

対要塞戦などで用いられる対ビーム兵器。宇宙空間に放出された重粒子によりビームは乱反射を起こし拡散される。ただし、この兵器は使用した側もビーム兵器の使用が制限されるので、扱いは十分注意が必要となる。ミノフスキー粒子の拡散を押さえる触媒を混合したもので、メガ粒子と共振して長距離からのビームを無効にする。しかし、近距離での効果が薄い。

ビームサーベル

MSに装備される白兵戦用ビーム兵器の一つ。MS本体メインエンジンより動力をもらい、柄から粒子ビームを放出させ、10数mのメガ粒子の放射束を形成する。30㎝厚のチタニウムを1秒弱で切断することができるが、エネルギー消費量が多く、長時間の使用はできない。ビームサーベルを装備するMSは、連邦側でガンダムとGM、ジオン側でギャンとゲルググがある。

縮退寸前のメガ粒子が、供給される電力によってプラズマ化した物という説もあり、その場合はプラズマの周囲にIフィールドで覆いを形成しなくてはならない。

この説の有利な所は、供給電力によってプラズマの色が変化するので、話数によって色の違うビームナギナタの説明がしやすい事。

ビームジャベリン(11)

ガンダムのビームサーベルの変形で、安全装置を外す事で、柄から先端までが特殊金属の鞘に覆われ先端に三ツ又のビームが発生する。特筆すべきは、ジャベリンにした場合は筒内部に縮退してメガ粒子になる寸前のミノフスキー粒子を充満させ先端から数十秒の間

ビームを放出し続けられる。ジャベリンは、本体からのエネルギー供給なしにビームが発生できることから投槍として使用もできる。敵戦艦に刺し離脱した後もビームが戦艦を破壊し続けるのである。

ビームスプレーガン(29〜)

連邦軍MS、GMに装備されている携帯用のビーム砲の事。ガンダムのものより威力と到達距離において劣るが、単機で行動するわけではないのでこれで十分である。拡散ビームといえば聞こえがいいが、焦点距離の短い懐中電灯みたいなもので、遠距離の敵には届いても眩しい程度になる。

ビーム砲

レーザーと異なり、プラズマ状態の粒子を放出する。この世界ではメガ粒子砲のこと。どうしても光速よりは遅くなるが、発射されてからの回避は不可能である。

ビームライフル

MS用携帯ビーム砲。従来戦艦、巡洋艦クラスの主砲に用いられたものを、極限まで小型化し、MS本体との動力接続により携帯兵器として、確立しえた。初期設定では、20㎞離れた30㎝の鉛板を貫通する威力を有する。ビームライフルを装備するMSは連邦側はガンダム・ガンキャノン・GM、ジオン側ではゲルググのみ。ガンダムの物は戦艦並の威力を誇る。最大出力で15発程度発射するとジェネレーター出力が低下して、再び電力が溜まるまではライフルが使えなくなる。

その場合は、バズーカやビームサーベルで戦いながら、原子炉の余資電力を蓄え、エネルギーCAPを装填した予備のライフルを射出してもらう。

ビービ隊(9)

ガルマ・ザビ隊と同時に出撃したドップ編隊のこと。ガルマ隊はMSを、ビービ隊はWBを攻撃した。

ビグ・ザム(35・36)

強力な磁場による対ビームバリヤを持つドズル・ザビ専用MA。戦艦を一撃で撃破するビームと接近戦用の6本の打ち出し可能のツメを有し、まさに無敵と思われた。しかし接近してバリヤーの内側に飛び込み、ビーム攻撃を行うというスレッガー&アムロのGアーマーの捨て身の作戦により破壊される。

ビグロ(31)

高速戦闘を得意とする宇宙戦用MA。ミサイルランチャーを左右に各4門、中央にビーム砲1門、接近戦用の爪のついた巨大な腕を持つ。グラブロと似ているが、高速性を主体とし完成されている。

ビック・ジョン(9)

ルッグン偵察機を使うパトロールのコード名。機長はバムロ。木馬側の民間人の下船を監視する。フラウにいわせると「つけ馬」である。下船監視任務後に、ガンダムに撃墜される。

ビック・トレー

連邦軍の移動要塞。将官たちが戦場において指揮をとるために使用してい

た。ドラゴン・フライが着艦したので、偵察中のGアーマーも着艦する。つまりそれくらい巨大な移動要塞である。

ビット(38)

MAエルメスの付属兵器。ミノフスキー粒子そのものを振動させるサイコミュによる遠隔操作兵器で、いかなる戦場でも無線誘導が可能。メガ粒子砲1門の小型高速メカであるが、エルメスに搭載された12機のビットが誘導者の意のままに攻撃をかけるので、小艦隊なら一瞬にして全滅させられる。

ビデオレター(12)

ビデオディスクをクレジットカード状の板に封じ込めたもの。ガルマからの便りをデギンが見ていた。

ヒマラヤ(28)

連邦軍大西洋艦隊の大型戦闘空母。現代のミンスク級タイプと同程度で、アフリカ戦線へ向かう途中、護衛機ドン・エスカルゴと共に、マッド・アングラー隊の攻撃を受けて、沈没。

ファットアングル(11)

ジオン軍の大型輸送機。垂直上昇用に大型ローターを2基持ち、前進用に2基のジェットエンジンを持つ。格納庫扉が前部にあり、ザク等を運搬できる。対空武装として二連装機銃を4基持つ。

ファンファン(29)

連邦軍の陸上用兵器。五連装ミサイルランチャーを二基装備したホバークラフト。狭いジャブロー内の鍾乳洞では、唯一の飛行メカとなる。

V・S・O・P(18)

「アムロ兄ちゃんってVSOPだったのかぁ」

カツによるところの最重要人物の事。VIPをV・S・O・Pと間違えたわけだが、放送当時のフィーリングではV・S・O・Pとはベリィ・スペシャル・ワン・パターンのことで20年前のギャグの一種。ブランデーの等級と間違えたわけではないようだ。

V作戦

連邦軍のMSと新造戦艦の開発計画。ジオン側は主にこの名でこの計画を呼んでいる。失われた宇宙戦艦を建造する計画は『ビンソン』計画。ただし放映中に画面に出たのはV作戦だけ。

封印(33)

中立地帯であるサイド6に入港する場合、サイド領空内での戦闘を避けるため、サイド6の監察官によって、兵器の封印を受ける。出港時にこの封印が破損していると、莫大な賠償金を支払わねばならない。

ブースター(31)

戦艦、巡洋艦などの宇宙船を地球上から宇宙空間に打ち上げる為の補助加速装置。WBから2時間遅れで飛び立つ艦船のブースター写真を選ぼうとしたらない…よく考えたらそのシーンはSDガンダム等にしかないのであった。(本放送で見たような記憶があるんですが、じつはないんですね)

ブーメラン状ミサイル(28)

水中用MAクラブロの兵器の一つで、水中発射ミサイルに整流板が付いて、

ブーメランに見えるというもの。実際問題として、発射したミサイルがブーメランのように戻って来たら大変である。

フォーメーション同調(35)

連邦軍のソーラシステムの焦点を合わせる為、全ミラーをコンピュータにより同調させ、ひとつの巨大凹面鏡を作る作業。数百万枚のミラーを同調させようというのだから大掛かり。

フライドチキン(25)

オデッサの戦いに投入された、マ・クベ指揮下の戦闘隊コード名の一つ。

フライマンタ(25・29)

連邦空軍の戦闘爆撃機。オデッサ作戦においてレビルの戦力の中核となる。その爆撃と6連装ミサイルによって大活躍した。

ブラウ・ブロ(33・39)

ニュータイプ用に開発された宇宙戦闘用MA3機に別れ単独航行が可能。ビーム砲4門を備え、有線だがオールレンジ攻撃が可能。サイコミュを搭載しているが、砲手がいればオールドタイプでも使える。外観・機能共にMAというより、小型宇宙船といった感じである。

プラスチック爆弾(14)

一般にプラスチック状の固形火薬を使う爆弾のこと。クワランたちが使ったジオン軍のものは30分の時限装置付きの小型爆弾。破壊力は強大で、底部のマグネットで吸着し、無理に取ろうとすると爆発するので磁気中和をしながら静かに外すしかない。

ブラックジャック(8)

ミッド湖を背にしてWBを攻撃してきた部隊。ガンペリーで偽装運搬されたガンダムが後方に現れて壊滅する。

フラナガン機関

ジオン軍のニュータイプ研究・開発機関。シャアの提唱したニュータイプの戦闘利用を目的としたキシリア直属の秘密機関として発足した。フラナガン博士をトップに置いている。

フラミンゴ(31)

南米、インド、アフリカなどに分布している紅色の羽を持った優美な鳥で、宇宙に飛び立つWBを見送るように群をなして飛んだ。WBのデータバンクにはこのシーンのビデオが収められているはず。ガンダム本編の中でもっとも美しい場面の一つだった。

フリージーヤード(26)

ゴッグが使用した防御兵器。潜水艦がソナー妨害に用いる発泡性ケミカル剤の進歩したもの。特殊プラスチックがゲル状のシールドを形成し、ソナー探知から逃れる上に、機雷を包み込んで爆発を防ぐ動きもある。

ブローバー(26)

ジオン海軍の情報収集を任務とする潜水艦。ベルファストのスパイ107号(ミハル)の通信をこの艦で中継し、シャアの下へ送った。

ブロック

船・基地をいくつかの区画に分けたもの。機能により大別される事が多い。宇宙空間で使用されるものは、ブロッ

ク間が機密隔壁で区切られている。

ベーター・トワ(42)

連邦軍の暗号コード。ソーラレイにより旗艦が消滅した後の残存艦隊用コードとして使用されていた

ベダル(10)

ガルマ隊をWBの前に誘導しようとガンダムが囮になった時に、バーニアを吹かすのに使用。アムロは3つあるペダルをヒール&トウのポジションで使っていた。アニメーターの中にカーマニアがいたのだろう。今なら豆腐を運ぶのであろう。

ベッド

MSのハンガー。人間がベッドに寝ているような形状なので、こう呼ばれている。火気厳禁なので禁煙である。(当時のギャグ、ベッドでタバコを吸わないで…という歌があったのだ)

ヘリウム輸送船団(38)

ジオン軍が核融合炉の燃料として、木星大気からヘリウム3を採取しジオン本国へ運び込むために編成された船団。これによってジオンは戦争を継続することができた。連邦の木星船団もあるが登場していない。人類の存続に不可欠な資源なので、戦時中も保護されている。

ベルデ諸島の漁業組合(28)

ジオン軍のフラナガン・ブーンが、WBの目的地を知る為に、スパイとして潜りこませたミハルと、連絡をつける為に使った名前。ベルデ諸島の漁業組合の飛行機が、パトロール中のジオンに威嚇射撃され軽微な損傷をしたのでWBに不時着したという設定であり、連絡を取るのに成功する。

なお、この時の修理費伝票を連邦から貰ったベルデ諸島の漁業組合こそいい迷惑であろう。

ベルファスト基地(28)

北アイルランド、ベルファストの連邦軍の軍港。艦船用のドックがあり、WBはここの第2ドックで修理・補給を行ってジャブローへ向かった。

ポイント305(15)

日本の五島列島付近。ドアンの島がある。アムロのコアファイターはドッキング訓練中、連邦軍のSOSを受け急行する。

ポイントB-3(30)

MSアッガイによって破壊されたジャブローの監視所のある場所。

防衛攻撃(17)

WBから逃走しようとするコズンを足止めにするためにチビたちの立てた作戦。「防衛攻撃、行け!ハロ」という命令でハロが飛び出し、コズンはつまづく。

一応ロボットとして作られたハロは人間を傷つける事ができないので、「身を守る為の攻撃動作」として納得させたもの。このあたりに制作者としてのアムロの性格が出ている。

放射能洗浄室(24)

WBのメイン核融合エンジンの整備の時の防護服に付いた残留放射能を除去する部屋。

放射能防護服(24)

WBの核融合エンジン整備のために使用した放射能防護服。エンジン外側にビニールシートを張っただけで修理をしている時もあるので、見えているのはノズルだけで、エンジン本体は艦内にあるものと思われる。

防塵マスク(16)

砂漠の中をレビル将軍の伝令がWBに来た際、ブライトが着用していたマスク。このマスクから、あの名セリフ「砂漠に蝶は飛ぶのか?」が発せられた。息もたえだえの伝令の少年は「砂漠に飛ぶのはサボテンの刺」と符丁を返した。これがなぜ名セリフかわからんと言う人へ説明。

これまでのWBは逃げ回る難民船であり、レビル将軍から正式の伝令が届いたこの瞬間から戦略に組み込まれたのである。

ボール(35)

MS・GMと同一行動をとり、中・遠距離援護を主任務とする、大量生産向きの安価な簡易MS。作業用ボールの装甲とバーニアを強化し中口径ビーム砲を1門備えただけで、他に火力は持っていない。質より量の思想で作られただけに、GMと共同で戦わないと役に立たない。有人浮遊砲台という設定なのだが、中にはボールでザクを倒した兵士もいるらしい。

保険庁(29)

ジャブローの軍人・職員の健康管理を行う場所。WB乗員もここで身体検査を受けた。ジャブローの地下空洞だけでコロニー1バンチに匹敵するくらいの都市が広がっている。

星一号作戦(40)

連邦軍の、ジオン要塞ア・バオア・クー進攻作戦の暗号名。事態があまりにも流動的なのと、オデッサでの情報漏れに懲りたレビル将軍が立てた作戦。ソロモンでの説明は、各艦隊は、それぞれ定められたコースをとって攻撃目標の『星』へ向かえである。

その星が、グラナダかア・バオア・クーかジオン本国かは8時間後まで誰も知らないのである。

レビル将軍がア・バオア・クーを抜きジオンへ進攻すると攻撃目標を示した次の瞬間、ソーラレイが発射された。

補助カメラ(1一)

MSの全身に配置されている、モニター用テレビカメラ。頭部にあるメイン・カメラが壊れた時、補助的に使用できる。ザクの場合は全身いたるところに装備されている。ガンダムも首を飛ばされ「たかがメインカメラをやられただけだ」と言っているので、補助カメラは多数あるようだ。

ホットドック(13)

日本上空で飛行していた偵察機ルッグンのパトロール隊のコード名。リュウのコアファイターの襲撃を受けるが逃亡を図り、アムロが呼び出された事で悲劇が起こる。

ポプソン(8)

ガルマの仮司令部のコード名。

ボラロイドカメラ(24)

WB乗組員とマチルダとの記念撮影

に使用されたカイの私物のカメラ。フラッシュ付きの自動焦点合わせ機構を持つ。但し12枚しかコピーがとれない。

ボルシチ隊(25)

マ・クベ本隊に属する戦闘部隊の軍コード名。オデッサの戦いに参加。

ボルト・アウト(28)

Gアーマーからガンダムを分離し、Gファイターとガンダムになる事。ボルトアウトするフォーメーションは頻繁に使われた。敵を攻撃してパスした後に、山陰や岩陰を利用して一度敵の視界から消え、ガンダムとGファイターに分離して敵に攻撃をかけるのである。別名をフォーメーションGと言う。

幌馬車(37)

サイド6内のテキサスコロニーで使用される観光用の幌馬車であったが、サイコミュを積み込みララァのテストを行うのに使用した。

WB(ホワイトベース)

連邦軍の新造戦艦で、多目的宇宙空母ともなりうる、強襲揚陸艦。MS戦略の一環となるMSの運搬、支援戦闘を目指して建造された。大気圏突入能力を有し、地上ではミノフスキー粒子を応用した暫定反重力推進ミノフスキークラフトにより航行する。本来は6基のMSを搭載可能。他にコアファイター、Gファイターなどの支援戦闘機やガンペリーという輸送機数機を搭載している。二連装主砲(火薬式)1門メガ粒子砲2基を備え、その他対空機銃、ミサイルなどで武装している。外観が羽を持った馬に似ていることからジオンでは木馬というコードネームで呼んでいる。

WB待機ボックス(36)

MS、戦闘機などのパイロットの待機室。ハンガーに隣接しハンバーガーとコーラの販売機が置いてある。またこの様な待機室がWB内各所にある。

WB二番艦(29)

ジャブローの宇宙船用ドックで、WBの横で整備を受けていたのがそれという説もある。艦首付近の形状が違っているが、WBよりも頑強そうに見える。ソロモン戦や星一号作戦には登場しなかったが、サラミスタイプ&マゼランタイプと異なり、MS戦を主力とした新造戦艦であるのは間違いない。(小説版に登場するペガサスJr.のような、WBとまったく同じ形状の宇宙船は本編では確認されていない)

WBブリーフィングルーム(27)

WB内の会議室。レビル将軍達を招いて、アムロがGメカの技術解説を行ったところ。普通はメインクルーが少ないので、たいていはブリッジで会議をしている。なお、この時のアムロの提案はただちに実行され、ジャブローではGパーツの予備とガンダムシールドの改良型が多量に搭載された。

WBランチ格納ブロック(35)

スペースランチ2機が格納されているブロックで、WB後部第4デッキ内にある。ここのランチを使い、全員が脱出した。

本部官邸(10)

北アメリカ大陸ジオン軍占領本部官邸。元ニューヤーク市長エッシェンバッハの官邸を接取したもの。ガルマはここに住んで部隊の指揮を取っている。

ま

マイクロ・ウェーブ送電(41)

発電衛星から密閉型コロニーへ極超短波で電力を供給する事。地球では静止衛星の太陽電池板から、同じようにマイクロ・ウェーブ送電が行われエネルギー不足を解消していたのだが、戦争の初期段階で、ほとんど破壊され現在は電力不足になっている。

マイクロボム(2)

ジオン軍の制式手榴弾。シャアが装備していた。

マグネット・コーティング(40)

電磁工学の新鋭、モスク・ハン博士が、ガンダムのメカニック的な干渉を打ち消すために、可動部分に互いに反発する磁気成分をコーティングした。この場合の主成分であるモノボールの安定には、ミノフスキー物理学が応用されている。このためガンダムは3倍の速度で動けるようになった。ブライト曰く「まっ、油をさすみたいなもんだそうだ」

マグネットコーティング車(40)

マグネット・コーティングをガンダムに施すため、モスク・ハンがソロモンで使用した作業車。これだけ早く作業できたのは、予備のガンダムで実験したものと思われる。

マ・クベの壺(16・37)

全編を通じて2つ登場した。16話の白磁の壺と37話の北宋の壺である。地球の鉱物資源採掘に地球に訪れた際、シルクロードで個人的に収集していた。「ウラガン!あの壺をキシリア様に届けてくれよ、あれは……いいものだ……!」という名台詞はマ・クベのキシリアに対する忠誠心と、つぼに対する執着とが端的に表されている。が、ウラガン本人には骨董品の知識はなく、自慢するマ・クベに反応した事はない。

マゼラアタック

ジオン軍の制式戦車。地上部隊の中核をなす。上部砲塔(マゼラトップ)に主砲、本体部(マゼラベース)は三連装機銃を装備。マゼラトップは本体を離れて飛行できる。現実から離れた設計思想で、凄そうに見えるのだが陸戦兵器としては使い勝手が悪い。どちらかというとマゼラトップをMS等と共同運用した方が奇想天外な兵器として活用できる。

マゼラトップ(6)

マゼラアタックの砲塔部分。VTOLで自由に飛行し、あまつさえ、空中静止のままで砲撃ができる。一人乗り。

マゼラベース(6)

マゼラアタックの車体部分。三連装機銃が前部にある。残されたマゼラベースだけでどうやって戦うかが問題であろう。おそらくジオン軍には、マゼ

ラアタックの戻って来なかったマゼラベースが大量に保有されているのだろう。ザクタンクを作る要素は十分だ。

マゼラン(4)

連邦軍の戦艦。ルナツー方面軍の旗艦であり、ワッケイン司令が乗艦した。二連装砲を7基、二連装機銃を14基備える。大気圏突入性はないので大気圏突入カプセルを使う。

マゼランは船のタイプか固有名詞かは不明であったが以後このタイプはマゼランタイプと呼ばれていた。

どちらにしろ連邦にはマゼランタイプとサラミスタイプしかないので宇宙艦隊の旗艦は全てマゼランタイプであった。

マダガスカル(4)

連邦軍の巡洋艦。ルナツー基地に停泊していたサラミスの同型艦。巡洋艦サラミスについては、最初にマダガスカル、次にリードのサラミスが画面に出たのだが、以後同型巡洋艦がサラミスタイプと呼ばれた。

マッド・アングラー

戦線復帰となったシャアが乗る巨大潜水母艦。マッド・アングラー艦隊の指令艦で、触角の様につき出した二つの指令塔が特徴。ユーコン同様、アスロック、サブロックで武装し、水陸両用のMS、MAなどを多数搭載できる。この時からシャアの上司はドスルからキシリアに移っている。

マッド・アングラー隊

シャアの指揮するジオンの特殊潜水艦隊。オデッサの戦い以後のジオン軍は指揮系統がズタズタにされていたので、独立した戦闘部隊として各地のジオン軍支援を主任務とする。

マニュアル(一)

一般的には操作教本の事。アムロがサイド7で拾ったものは、ガンダムの操縦法とメンテナンス(整備)法が示されている極秘ファイルである。

マハル(40)

ジオン公国第3バンチの固有名詞。ソーラレイに改造されるため、住民の強制移動が行われた。

マルチスクリーン

WBのメインブリッジ後部に備えられた円形の情報スクリーン。

ミサイル

誘導できるからミサイルなのであって、一発必中という事なら、ビーム砲やバズーカ砲に分がある。ミノフスキー粒子の登場によって一番威力のなくなった兵器といえる。

ミサイルカー(1)

連邦軍の6輪ミサイル車。八連装ミサイルランチャーから有線ミサイルを発射する。コロニー内など狭い場所では手元でコントロールできる有線ミサイルが必要。ミノフスキー粒子を散布されても影響を受けない兵器。

ミサイルポッド(7)

ランバ・ラル隊が少ない戦力を補うために用いたザクの火力強化策の一つ。ザクの両足にそれぞれ三連発のミサイルを装備、至近距離での攻撃ではかなり効力がある。

ミサイルランチャーバギー(26)
　ベルファスト基地に配備されている。10発のミサイル(無線タイプ)が入るランチャーを装備した6輪のバギー車。カイとハヤトがゴッグ迎撃に使用する。

ミッド湖(8)
　グランド・キャニオンの西、ラスベガスとの間に位置するミード湖のこと。

ミデア(9〜)
　連邦軍の輸送機。5つのローターで上昇、6つのジェットで前進する。コンテナは脱着可能で対空用に機銃がある。輸送部隊の指揮官はマチルダで自らミデアに乗る。コンテナから出した運搬ユニットの中にGメカが入っていたのだから、かなり大きい機体である。

南ブロック(29)
　ジャブローの基地は大きく分けて東西南北の4ブロックに、また小さく分けるとAからZまでの26ポイントに分けられていた。

ミノフスキー粒子
　レーダーや無線の電波を広範囲な区域で妨害する物質。数種類の帯電機能を持つ極微粒子を散布することによって、宇宙空間のプラズマと融合を起こして不安定イオン状態を作り、電波の反射・吸収をおこすもの。白ロシア系のジオン人ミノフスキーが発見者。レーダーなどの電波誘導兵器が使用できなくなることで、MS戦略はここにおいて存在理由が生まれる。という初期設定だったが、番組後半で核融合炉やビーム兵器、WBの反重力推進システムにもミノフスキー粒子が用いられているというミノフスキー物理学が誕生した。現在のところ、エネルギーCAPまでが、誰でも知っている設定と言えるがミノフスキー物理学としてはこれで中級程度である。

ミラー(35・36)
　ソーラシステム用の鏡。折りたたみ式で、パネルにアルミコーティングをした軽量な物。四隅のバーニアで方向を調整し、太陽光線を集光してソロモンを焼いた。

民間機(28)
　軍に所属しない飛行機のこと。

ムサイ
　一週間戦争で最も活躍したジオン軍の機動巡洋艦。二連装メガ粒子砲を3門装備し、他に大型ミサイル(145型)、小型ミサイル(Cクラス)を装備、ザクタイプのMSを最大5機を搭載可能。前部には大気圏突入カプセル・コムサイを格納する。キャメル艦隊に配備されているような、主砲が2門のみの小型ムサイもある。シャア専用ムサイはブリッジの形状が異なる。

ムスタング・ツー(17)
　ギャロップで木馬を追うランバ・ラル隊のコード名。

無反動ライフル(36)
　宇宙空間で使用される銃器。この場合は、銃身の伸縮と後方に排気することによって銃の反動を消している。この種の宇宙兵器はジオンの方が進んでいる。

メインカメラ

MS・MAの目に相当する。主に照準器用に使われている。他に補助カメラが外部各所に配備されている。

メカマン(28)

メカニックマン(機械整備工)のこと。メカマンの重要性が描かれたのはガンダムが最初であった。これにより後のロボットアニメに補給とメンテナンスの必要性が生まれた。

メガ粒子砲

粒子砲は、重金属の粒子を磁気により加速して発射する荷電粒子砲と呼ばれるビーム兵器の一種。砲台・戦艦の副砲として装備される。それを小型軽量化したのがガンダムの持つビームライフルである。ミノフスキー粒子を縮退させるとメガ粒子になるので、この世界の核融合炉を使うと比較的容易にメガ粒子砲を発射可能となる。ガンダムといえども、そんなに強力な融合炉を搭載しているわけではないが、メガ粒子になる寸前まで縮退させたミノフスキー粒子(エネルギーCAP)をライフルに充填し、発射寸前に電力を追加しているので戦艦並のビーム砲となっている。

木馬

ジオン軍がWBに付けた識別コード名。たしかに木馬のようなシルエットである。ジオン軍は終始この呼び名でWBを呼び通していた。

モノアイ

ザクを始めジオン公国のMSに採用されているメインカメラシステム。有視界戦闘用に開発されたカメラで、波長やフィルターを交換しながらレンズが高速で動いて目標を捕らえる設計になっている為に、非常に命中精度が良い。

モビルアーマー(MA)

MSの機動戦力の強化のため、従来の人型を廃した発展型。用途に応じてさまざまな形状をとる。MSの数倍の戦闘力を持つ。大半が局地戦用で極度に戦場が限定されるのが、欠点といえば欠点。

モビルカー(1)

連邦のMS用の大型輸送車。車高が低く荷台は平らで、操縦室は右側についている。一人乗りで前三輪、中四輪、後二輪で中後輪はダブルタイヤ。出力が必要なのでコロニー内とはいえ特例としてガソリンエンジンを使用している。

モビルスーツ(MS)

ジオン独立戦争で戦闘の中核となった兵器。人間の形状を取り、内部に人が入り操作する。歩兵の柔軟な行動力・機動力を増すために強化核融合炉を搭載し、核戦争を想定した重装甲のための全身約20m、重量は60t以上におよび、スーツ(服)というイメージではなくなってしまった。水陸両用タイプを除いてはマシンガン、ライフル、剣など携帯兵器を装備するのが普通。

モルモット(14～)

WBの戦闘記録に注目したレビルが補給を続ける理由。マチルダに「モルモットはおいや」と聞かれたブライト

はたじたじになる。

や

ユーコン(26〜)

地球にいるジオン海軍の中核をなす潜水艦。主に大西洋に配備され、連邦軍の後方攪乱、物資補給路の切断などを主任務とする。ゴック、ズゴックなどの水陸両用MSを2機搭載可能。サブロック、アスロックで武装している。

有線ミサイル(1〜)

有線による誘導ミサイル兵器。ミノフスキー粒子下でも誘導可能。狭いコロニー内といった特別の状況下のみで使用され、有効射程は2㎞程度である。

有線ミサイルカー

サイド7に配備されている8基の発射孔をもつランチャーを装備するエレカー。ミノフスキー粒子下で無線誘導ができないため、狭いコロニー内で有線コントロールのミサイル発射器が用いられる。

有限ミノフスキー粒子

核融合炉があるならミノフスキー粒子は無限に発生できる物と思うのだがWBのミノフスキー粒子はタンクにでも貯蔵されているような描写がある。

3話「ミノフスキー粒子の残りは35時間分あります」

12話「ミライ、どこかに着陸してやり過ごすんだ。このままではミノフスキー粒子を無駄にするだけだ」

有視界戦闘(4)

レーダー等を使用不能にするミノフスキー粒子が実用化され、戦闘の大半は人間の目に大きく依存することとなる。そのおかげで、敵の内懐に飛び込み攻撃するMSが戦闘の主力となった。

誘導灯

ビーコンと同じ。標識灯。

輸血セット

WBの備品。ハヤトが負傷した時には3本輸血した。重力ブロック内でないと点滴方式の輸血はできない。

ユニバーサル信管(37)

宇宙空間用の接近信管。マ・クベは小惑星に爆薬を仕掛け、この信管を取り付けていた。接近したガンダムに反応して小惑星は爆発するが、アムロはこれを切り抜けた。

指輪(36)

スレッガーが、ミライを安心させる為に渡した指輪。

「安物なんだがね…おふくろの形見なんだ…。宇宙(そら)で無くしたら大変だ。預かっといてくれ」

いい話なんだが、スレッガーの母はこの時に生きていたらしい。ここはミライの一時的な感情を受け流す為の優しい嘘という解釈にしておきたい。

ら

ライトペン(17)

ブラウン管ディスプレイ(CRTディスプレイ)に直接書き込んだり指示

したりする器具。有線で、ペンの形をしているが、中に受光部があり、ブラウン管専用。いやー今ならこんな説明はいらない程に普及しているんですが。

ライン諸島(12)

太平洋中南部、北緯7度、西経163度付近から、南緯11度、西経149度付近に存在する総面積800km程度の小サンゴ礁。ほぼその間を直線上に点在する。ザンジバルの攻撃を受けたWBは、X07、Y161ポイントに身をかくした。

ラグランジェ・ポイント

フランスの数学・物理学者ジョセフ・ルイ・ラグランジェが提唱した月の軌道上にある重力の釣り合った場所。地球と月から等距離にあるL5は一番安定しておりコロニー1号もここに建造された。コロニーのミラーは常に太陽を向く必要があり、少ないエネルギーで定位置を確保できる安定した場所。サイド7は一番重力変動の多い場所なので開発が遅れていた。

ラジカセ(13)

晩秋の山陰地方で、日光浴をするWBのクルーが使っていた。ミノフスキー粒子があるのでラジオは受信不能。かといって、カセットテープにミノフスキー粒子が侵入すると録音記憶が消去される思われる。じゃあ何のために持っていたんだカイ。(放送当時CDなんて無かったんですよ。)

「ラ・ラ」

ララァのニュータイプとしての能力が強力であった為、ビットの攻撃を受けた連邦軍兵士達の脳に対して、一種の共振を起こし、それが〝ラ・ラ〟という音に聞こえた。

ラビアン・ローズ(ZG 35〜)

エゥーゴ保有の宇宙ドック艦。ベルガミノの浮きドックの進化発展形と思われる。理想的な艦艇修理施設である。

ランチ(43)

内火艇の事。この場合宇宙戦艦に搭載されたスペースランチを言う。

ランドムーバー

NASAでいう宇宙銃のこと。宇宙空間での移動用ロケット。ノーマルスーツの腰に取り付ける。サイド6の港での作業員は、宇宙銃を使っていた。

ランドル

MSの背中の姿勢制御用ロケットのことをいう。ランドセルにその形状が似ていることからこう呼ばれた。

ランバ・ラル隊

ドズル中将の宇宙攻撃軍に属するゲリラ戦専門に編成された特殊部隊。隊長は言うまでもなくランバ・ラル大尉その人。ガルマの仇討ちの任務を与えられた独立した部隊。新型MSグフ1機を新たに配備され、新鋭艦ザンジバルと共に地球の戦線に投入される。ラル隊の構成員に士官が多いのは、ゲリラ戦などで指揮官を失った場合でも、各人がその代わりを果たすという理由に基づいているためと思われる。隊員のラルに対する忠誠心が高い。

リーダー(18)

アッザムの武器の一つで、底部から

カプセルに入って発射される粉末。目標の上部でカプセルを破裂させ、リーダーをふりかける。そして特殊な電磁波の檻の中では4千度の高熱が発生し、目標を焼く。大気圏突入能力を持つガンダムでなければ耐えられなかった。

リック・ドム(31〜)

極地戦闘用MSドムが非常に使い勝手が良かったのでバーニアを強化して宇宙用に改良したMSである。連邦側ではその容姿から「スカート付き」というコードネームで呼んでいる。

リフトグリップ

スペースコロニー内、特に遠心力機構のないスペースゲート(宇宙港)や宇宙船内に装備された簡易移動装置。WBの中の各所にもリフトグリップが装備されている。

リフトジェット(22)

ジオン軍の個人用飛行装置。高圧ガスの噴射により自由に飛行できる。またオールプラスチック製で、近距離でもレーダーにかかりにくい。

領空侵犯(34)

国家の領空を支配する権利を許可なく犯し、その国家の秩序・安全を乱すこと。国際問題になるから注意。

臨界点(4)

ある変化が起こるのに必要な条件の最低値。主に核反応において用いられる。ミノフスキー粒子に保持された炉心の中でヘリウム3が臨界点に達すると核融合が始まる。

臨界透下膜(41)

ソーラシステムに用いられた電子コーティングの一種。最大出力になった時、自動的にコーティングが解ける。その瞬間、レーザーはコロニーの外壁を溶かし発射される。マハルの物は実験段階で一度しか使えなかった。

ルウム戦役

一週間戦争後の、サイド5(ルウム)方面の戦いを特にルウム戦役という。連邦軍とジオン軍の艦隊総力戦が行われ、双方が壊滅状態になり、サイド5もジオンの無差別攻撃で全滅した熾烈を極め戦いであった。残存艦隊はジオンが優勢で連邦軍は制宙権を失う。

ルザル(42)

ソーラレイの攻撃を免れた、連邦軍主力艦隊マゼランタイプの一つ。Sフィールドより侵入した残存艦隊の旗艦。

ルッグン(6)

ジオン軍の偵察機。両翼端に二連装機銃を持つ。底部に弾倉があり、小型爆弾を装備。2基のレーダードームは上下移動式で、上部にあるときは空中探査、下部のときは地上用と使いわけることができる。強力な聴音機が備えてあり、パトロールに使われる。

ルナツー(4〜)

鉱物資源を得るため、人類が月軌道上に運んで来た小惑星(ユノー)である。ちょうど地球を挟んで月とは反対側に位置し、現在ここには地球連邦の最前線基地がある。ジオンからもっとも遠い位置にあるので、機密が守られ易い。ガンダムの最終精密加工やジムの量産もここで行われていた。

ルナツー艦隊(4)
ルナツー方面軍に配属されている連邦の宇宙艦隊。旗艦は戦艦マゼランで、ルナツー方面軍指令ワッケイン少佐が艦隊指令を兼任していた。

ルナツー方面軍(4)
ルナツーにある連邦宇宙軍の最前線に駐屯している。宇宙における数少ない連邦の宇宙戦力である。方面軍指令はワッケイン少佐。

冷却シフト(5)
ガンダムの大気圏突入能力の一つ。冷却装置で外部装甲板の表面温度下げるがパワーの消耗も激しい。

レーザー計測
レーザー光により、相手の大きさ、速度などを割り出すこと。ミノフスキー粒子下であってもレーザーは使える。

レーザーサーチ(12)
レーザー計測と同じ。

レーザーサーチャー
レーザー計測をする装置。電波の使えない環境では着陸・ドッキングに不可欠な機器。

レーザー通信(2ー)
レーザー光線を媒介とする通信。普通、長距離通信は電波を使うがミノフスキー粒子下では使用不能となる。外部から盗聴されない利点があるが、通信者同士が直線上にいなければならないし、空気中では到達距離が著しく低くなる欠点もある。宇宙空間では、基点となる中継衛星に焦点を向ければ、直線上にない味方とも通信可能。

レーザーバーナー(4)
レーザー光を集中して得られる光熱を利用した過熱兵器。極めて小さな点にのみ熱が集約されるため、主に金属の切断に用いられる。

レーザーライフル(42)
ジオン軍において光学兵器の発達は遅れているため、レーザー銃はどうしても大型になる。よってめったに銃を抜かない幹部クラスが使用している。ほとんど飾りのようなものであるが、兄の頭くらい打ち抜ける。

連邦軍制式拳銃
13話でアムロが難民キャンプでジオンのパトロール兵を撃ったオートマチック式拳銃。宇宙空間でも使用できる。

連邦軍戦闘機(15)
名称不明。ドアンの島に不時着した戦闘機のこと。二人乗り。この名作は見なくてもガンダムの本筋には影響しない。あ、また腹が立って来た。

連邦のクジラ(28)
大西洋に配備されていた、連邦軍の空母「ヒマラヤ」のこと。マッド・アングラーのシャアが言った台詞。

ローラーシフト
絨毯爆撃体制(フォーメーション)。目標物がはっきりしない時には、その区域全体に爆撃してしまうやり方。

60E(20)
アムロが入れられた独房のキーナンバー。独房のキー変更は指揮官が簡単にできるようになっている。

61式戦車
オデッサ作戦で戦った連邦軍の主力

戦車。コンピューター照準を持つハイテク兵器であったが、ミノフスキー粒子の散布された戦場ではほとんど役に立たなかった旧時代の兵器。

ロック・オン(27)

戦闘機の照準スコープに敵影を合わせること。セイラが言うはずだったが、ボツにされた。通常ロック・オンすればコンピューターが命中するまで誘導してくれるが、ミノフスキー粒子の中の戦闘ではパイロットが手動で照準合わせをした方が命中率が上がるのだ。

ロプ湖(16)

正式にはロプノールという。シルクロードタリム盆地の東端に位置する塩湖(カン湖)「500年ごとに振り子のように移動する」(マーカーの台詞より)「さまよえる湖」として古くから伝えられており、マルコ・ポーロの東方見聞録では不気味な砂漠としてロプ砂漠が記されている。楼蘭の都がこの湖のそばに栄えたという記録もある。今ならタリム盆地の楼蘭(ローラン)付近にあるさまよえる湖ロブノールはシルクロード名所として有名。ただ放映当時は、楼蘭の記録フィルムすら存在しなかったのである。

わ

Y軸

連邦のソーラレイシステムの照準。垂直方向をY軸の座標で、水平方向をX軸で指示し、バーニアの微調整により焦点を合わせた。数百万枚のミラーを誘導して巨大な凹面鏡にする作業にはティアンム艦隊の旗艦のコンピューターが使われていた。

ワイヤー

細い鋼線を束ねた物。ガンダムの世界では新素材で作られた脱出ロープをジオン軍の兵士がよく使っていた。張力のある細い線をワイヤーと呼ぶ。

ワイヤレス

有線に対する無線の事。ミノフスキー粒子のせいで、電波通信は艦内通話ぐらいしか使われていない。光波(レーザー)通信や、超音波通信も無線である。最高のワイヤレス通信はサイコミュであった。

ワッケイン隊

テキサスコロニー空域でWBが補給を受けるのに合流した小隊。正式名称の第三艦隊というより、この方がわかりやすい。

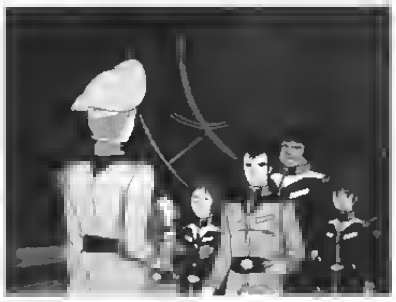
ワッパ(14)

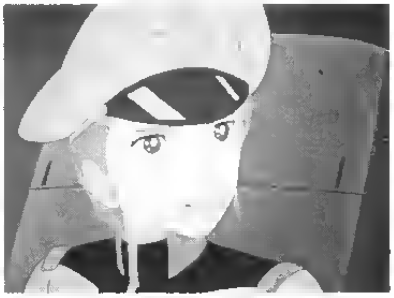
ジオン軍の戦闘パーソナルジェット。一人乗りで、上部に小口径機銃が付いており、飛行しながら攻撃をかける。機動性に富み、森の中を飛びぬけることもできる。

和平交渉(41)

ア・バオア・クー攻防戦の前、ギレンの強硬な姿勢を恐れた、デギン公王がゲルドルバ空域にて、連邦軍のレビル将軍と会談しようとしたが、ソーラレイにより連邦軍主力3分の1の艦隊と共に葬り去られた。

第六章●機動戦士ガンダムの謎





マチルダ中尉の任官

我々が、マチルダを見たのは記憶に間違いがなければ第9話「翔べガンダム！」であった。忘れもしない名セリフと共に…。

「そこのモビルスーツ！きこえるか！山を越えると、ガウの餌食になる！ホワイトベースへ戻れ！」

そうして、やっかい者の(酷い)リード中尉以下のサラミスの乗員と避難民の中でも病人や怪我人の35名を引き取ってくれたのである。ありがたやありがたや。

なにしろ戦闘記録のコピーだけはレビル将軍に提出する事になるが他に指示はない。

だからこそ、ブライトが質問するのだ。

「しかし、マチルダ少尉。わかりません。なぜ、ぼくらも船も現状のままなんですか？」

とにかく、これがWBが地球に来て最初に受けた補給であった。

ところで、レビル将軍はニュータイプの存在を信じている人であった。連邦内部ではニュータイプという言葉はあまり普及していないのだがレビルが知っていたのはベルファストであきらかになる。

その話を示唆されたマチルダは、この時点でアムロにとんでもない事を言っている。

「あなたの戦いがなければ、私たちもやられていたわ。ありがとう…あなたはエスパーかもしれない…」オヒオヒ(笑)。

で、第14話「時間よ、とまれ」において、第2回目の登場になるのだ。

しかし、ちょっと待って欲しい。

第13話「再会、母よ」においてとんでもない台詞がジョブから出ているのに注意だ。

「マチルダ中尉の持って来てくれたドッキングパーツ。まだテストもしてないんですから」

そう、ガンダムの初の空中ドッキングは、13～15話の3本は放映順序差し替え可能に作られているのだが、空中換装はカイのセリフにもあるように13話が初めてである。

放送中は、夏休み進行スケジュールに伴うオプション3話と聞いていたので疑問には思わなかったのだが、それにしても変である。

13～15話の3本は放映順序差し替え可能に作られているのだが、空中換装はカイのセリ

フにもあるように13話が初めてである。

「よう、アムロ！　空中換装ってやつをやってみるかい」と言っているのだから。

14話では、例の「モルモットはおいや？ブライト少尉？」というさりげない台詞によってブライトは少尉に任官する。

この時のガンダムは、単機で発進してミデアを守るのである。だから空中ドッキングはしていない。

冒頭に空中換装の訓練シーンが入るようになるのは第15話以降である。

そして次にマチルダが現れるのは、第23話「マチルダ救出作戦」であり、ここでは中尉として登場している。

もう一度整理してみよう。

9話　補給1回目　マチルダ少尉
13話　マチルダ中尉からの補給という台詞
14話　補給2回目　マチルダの階級不明
23話　補給3回目　マチルダ中尉

「さすがは中尉になっただけの事はある」というブライトの台詞からすれば、番組中で昇進したのは間違いないのだが、それがいつなのかは判断できない。

そうなると、幾つかの仮説ができる。

1・マチルダの2回めの補給は14話で、この時にドッキングパーツの補給を受け、中尉に昇進していた。放送順序が13と14が逆の説。

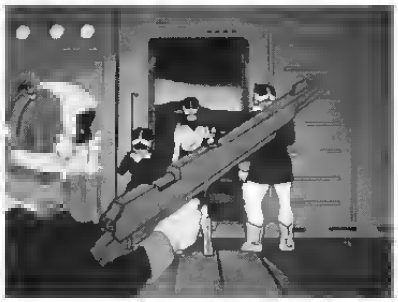
2・13話のジョブジョンが階級を間違えていた。9話でもらったパーツを忙しくてこの時まで組み込めなかった説。（妥当だな）

3・14話は群馬県あたりの話で、この時に貰ったドッキングパーツを途中で取り付けて山陰地方に行き13話となった。（無茶だな）

どっちにしろ、マチルダが少尉から中尉に昇進したのは間違いなく、中尉になってからの補給物資にドッキングパーツがあるというのも間違いがないという事で、全て丸く収まるのである。実はガンダムのキャラクターたちは階級章を見せてくれないので困るのだ。いや、バンクが多いからシーン毎に階級が違っても困るのだが…特にブライト（笑）。

しかし、どうしてこんなややこしい事を今になって思いついたのやら。放映中は疑問にも思わなかったのだが不思議である。

機動戦士ガンダム…奥の深い物語といえよう。…とまとめてしまえ（笑）。



砂漠に塩はあるのか

今回は人間の身体にとっても大切な塩のお話。第16話「セイラ出撃」のテーマに迫ってみよう。いや、セイラが出撃する話がメインというのは、置いておきましょう。

「砂漠に蝶は飛ぶのか」

「砂漠に飛ぶのはサボテンの刺」

という名セリフもこの際は置いておきます。

タムラコック長が前回の戦闘で倉庫に直撃を食らって塩がなくなった事を嘆きます。かといって塩がないと人間動けなくなりますからなんとしても塩を独力で確保しようというのが今回の作戦骨子。ほんとかよ。

そこで地図を調べたWBクルーたちはシルクロードのカン湖に向かいます。この時のミライの説明は「塩を含んだ湖。そこに行けば、塩が取れるかも知れないわ」と視聴者にとてもわかりやすいものでありました。

この時のWBの位置は、タリム盆地なのですから目指すはロプノールです。マルコ・ポーロの東方見聞録では楼蘭の都に近いさまよえる湖として記載された有名な場所でございます。もっともNHKの「マルコポーロの冒険」はこれより後の放送なので視聴者のほとんどは知らない知識といえましょう。

なにしろNHKの取材班が、伝説の都楼蘭の現地撮影に成功するのはこれから10年も後のお話。シルクロードに詳しい人でないとわかりにくいかもしれませんね。ついでに説明するとWBのこの後の行路は、シルクロードの名所旧跡の旅なのですよ。

さてカン湖の定義なのですが、1リットルの水に0・5g以上の塩分を含む湖です。標準的な海水は1リットルの水に35gの塩を含みますから、なかなか薄い物です。

ところが、さすがにさまよえる湖、行ったらなかったというとんでもない事に…なにしろブリティッシュ作戦でコロニーが落ちて以来の地球環境は激変していますから砂漠の湖がどこかに移動するというのは十分に考えられます。WBが持っていた地図そのものが戦前の物なんですから。

「塩がないばかりにWBをうろうろさせてしまった。もう、ジオンに見つかっちまってる」

というタムラさんの言葉通り、ランバ・ラルの攻撃はあるわ、セイラさんが出撃するわという大騒ぎの末に、WBはロブノールにたどり着いたのでした。

「ほー、こんなに移動しとったのか！これで塩が取れるぞ」と安堵するタムラコック長。

ちなみにカン湖のカンは、本では使えない漢字ですが、ラーメンを打つのに使う『カン水』のカンです。麺が黄色いのは、地中のミネラルやナトリウムを含有するこの水の作用なんですね。

塩のつくり方。塩湖といっても塩分濃度が薄い為に、水を煮詰めるといった方法では必要量を確保する間に日が暮れてしまいます。

WBがここで塩を精製したのは、パイプで水を汲み上げ、イオン交換樹脂を通すという単純な方法です。ブライトが「イオン交換膜の用意をしろ！」と命じているではありませんか。あっと、LDを何回見てもそんなシーンはありませんよ。水面を飛ぶWBで物語は終わっています。その直後にブライトが命令するんですが、尺が足りなくてカットされてしまったシーンです。

ミライの予知能力

星回りの良い女性として、富野さんが設定していたミライ・ヤシマ。男運はともかくとして、運の良い人でありました。

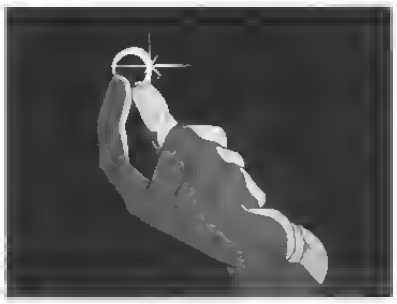
特に操艦の腕の冴えは見事で、WBの被弾率が、信じられないくらい低いのです。これは、彼女の特性と言えるでしょう。ブライトは基本ルートを決めますが、回避運動は任せっぱなしなのですから。それに、陸上をミノフスキークラフトで浮上航行する戦艦を背面飛行させた例なんて他にはないでしょう。

が、勘が良いのと予知能力は別ですね。

第24話「迫撃！トリプル・ドム」において、動けないWBに代わりミデアの用意をさせるマチルダに「少し、間に合わないかもしれない」といきなり予知をしてしまいます。

事実、その通りになり、この後もちょくちょく未来を予知するようになっていきます。

番組後半になると、アムロの覚醒に負けないくらい、各自の直感が冴えた例のひとつですね。人間、危機に瀕すると変わるものです。



形見の指輪

第36話「恐怖！機動ビグ・ザム」においてブライトの機転により、待機ボックスに行ったミライとスレッガーの物語です。

スレッガーが、ミライを安心させる為に渡した指輪なんですが、放送中はすっかりその気にさせられたものです。

「安物なんだがね…おふくろの形見なんだ…。宇宙(そら)で無くしたら大変だ。預かっといてくれ」

いい話です。名台詞です。ところが安彦さんによりますと、スレッガーの母はこの時は生きていたらしいんですね。

後にスレッガーの遺品から出て来た一枚の写真としてイラストもお描きになっています。おふくろさんは、スレッガーに似てかなり気丈そうなおばさんでありました。

「きっと、彼の死を知っても悲しみを呑み込んで…生きていくでしょう」というコメントもありました。

スレッガー中尉というのは、本当に大人だったのですね。カムラン・ブルームとの予期しない再会(正確には予期してますが)によって乱れた心に、自分が写ってしまったのだと自覚しています。ミライの一時的な感情と承知していたからこそ、その心を傷つけまいとついた優しい嘘なのでしょう。

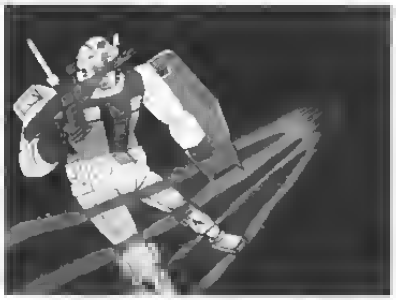
ともかく登場人物の心理描写については、製作スタッフの間にも微妙な差があります。

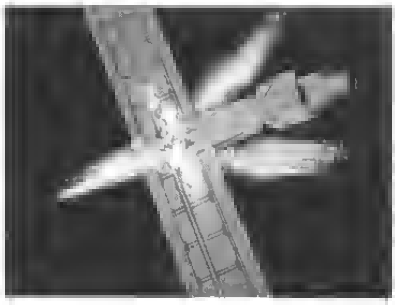
この当時の富野監督は、男性ファンの要望を一蹴してこう言っています。

「ブライトとミライが結婚するなんてありえません。彼なりに頑張ってはいるんでしょうけれど、ミライを支えるだけの男としての技量はまだないんですからね。それにブライトがそう変わっていくとは僕は思っていません」

厳しいなぁ、富野さん。そうかぁブライトは、ミライの相手になれないのかとがっかりした人間多数でありました。

いやー7年後に、Zの世界では、ブライトとミライが結婚していて驚きましたね。嬉しい驚きではありましたが、ブライトの性格が変わったとは思えないんですが、どんなもんなのでしょう。





ガンダムはなぜ強い

機動戦士ガンダムが強い秘密というのは何なのだろうか？　ルナチタニュウムのハニカム構造だから、とても丈夫というのでは不正解である。

なんとか合金で出来たスーパーロボットが、ミサイルや砲弾を浴びても跳ね返すというのは、荒唐無稽だというアンチテーゼからうまれたのが、ガンダムである。

ミノフスキー粒子の充満した戦場では、誘導兵器が使えないという設定に注目して欲しい。いかに接近戦闘とはいえ、ＭＳという小さい目標にそうそう命中するものではない。

ザクマシンガンを受けても平気だったというのは、ある意味では間違っている。省略されてはいるが傷ひとつ付かないのではなく、表面装甲は、かなり傷ついているのだ。

ザクのショルダーアタック？　アタックをかけるＭＳが壊れない程度の衝撃である。構造的にも、ガンダムはザクよりも丈夫なのであるから、ザクが壊れない限り、破損するわけはないのである。

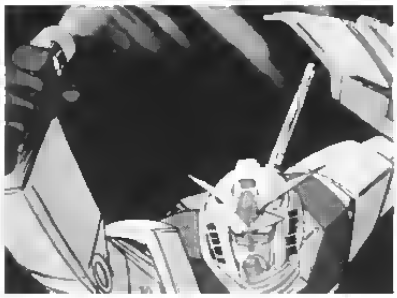
ザクバズーカとなれば、話は別。命中すればガンダムとて破壊されてしまうのだ。外部装甲よりも頑丈に作られているガンダムシールドすら貫かれてしまっているのを見れば、それは理解できるだろう。

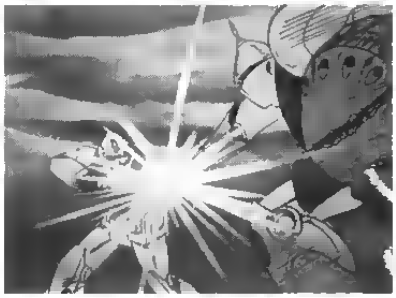
ガンダムの優位性はその機動力にある。ケーススタディを記憶し蓄積する(自己)学習型コンピュータのおかげで、アムロが一度でも回避運動をすれば、それをガンダムが覚えているのだ。アムロの練度とガンダムの記憶容量のアップにより、ガンダムの回避運動はどんどん高度に洗練されていく。

アムロそのものが勘の鋭い少年だったのも幸いして、「回避能力に優れた」ＭＳとしてガンダムは成熟していったのだ。

結論として「何を撃ち込まれても跳ね返すロボット」と、「どんなミサイルもビームも確実に回避するＭＳ」は、同じ結果を生みながらもまるで別物となるのだった。

どんな強力な兵器でも当たらなければ平気であるという見本がガンダムである。





ビームサーベルの考察

さぁ、困ったぞの大問題。実体のないビームサーベルがヒート剣と切り結ぶのはありえないわけで、「作画ミス」と「スタッフへの情報徹底が不足」でこれまでは済ましていた。

ようするに「見なかった事」にしていたわけだが、映像にあった物は(作画の遊びを除いて)事実という検証作業が始まった。

幸いにも放映中の設定とは違っているので、なんとかなりそうだ。ビームサーベルというのは、プラズマを収束磁場に閉じ込めた物だったのであるが、今では原理が違っている。

ミノフスキー物理学の統一理論により、ビームライフルと同じように、エネルギーCAPを使った兵器として解説するようになったので、強引に説明できないわけではない。

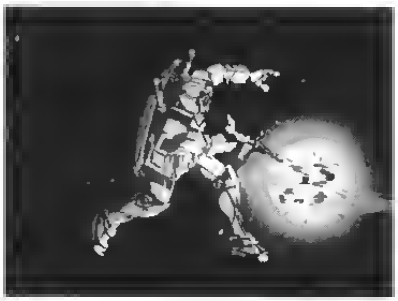
ビームサーベルの動作原理。メガ粒子に縮退寸前のミノフスキー粒子であるエネルギーCAPが柄に内蔵されており、両手のコネクターから電源を供給する事によりメガ粒子として解放される。有効射程20キロメートルのビームライフルと異なり、20メートル程度のメガ粒子の連続放出であるから、小型でありながら威力は大きい兵器となる。

もちろん、電磁場で包んだだけのメガ粒子では特定の形状を維持できないので柄から成型されるIフィールドによって、刃となるメガ粒子を包むのである。

特筆すべきは、この状態においてはビームサーベルは起動してはいるものの待機状態なのである。空気中においてもIフィールドに包まれているので、周囲の空気をプラズマ分解するような事もない。周辺は多少オゾン臭に包まれるが、そうたいした影響ではないだろう。ただし、高速で振るうと、Iフィールドの形成遅延により円弧状に流れるのは避けようがない。サーベルを振るう時には、実体のある剣よりも間合いが遠くなるので一歩踏み出す必要がある。

さらにIフィールドの発生出力を上げれば、使用時間は短くなるが、空気よりも質量のある水くらいは、斥発する力が発生するので水中モードとなる。

なぜ実体のある剣と切り結べるのか?



ドムの拡散ビームを受けると、サーベルのIフィールドが乱され、安全装置が働きメガ粒子も消失してしまった。これはD級消耗パーツである粒子収束フィルターが破損した時にも起きている。しかし、通常の物質を切断するには、まったく困らない機能といえよう。物質に触れた部分のIフィールドが消滅し、そこからメガ粒子が接触し、対象物を溶解するのである。

しかし、ヒートホークやヒートサーベルという大電力が流れる武器を相手にした場合はフレミングの法則による強い磁界が相手武器の周辺に発生しているので、Iフィールドが強い反発を受け、接触できなくなる。

つまり切り結んでいるように見えるが数センチ離れているのだ。磁石の反発力は距離の二乗に反比例するので、この至近距離ではMSの力を持ってしても接触させられない。

さらに進んで、ビームナギナタとの切り結びも同じ様な現象として説明できる。刃の形状こそ違え、原理的にはメガ粒子をIフィールドで包んだ武器同士の切り結びである。Iフィールドの偏向方式が同じ為に、二本の剣は表層が接近するだけとなる。だが、Iフィールドの発生機には多大な負荷をかける事になるので(変圧器のハム音に似た音響が発生するのはそのためである)避けるべきである。

ガンダムが使用するビームサーベルは完成度が高く、消耗率の高いパーツ交換だけで性能を維持できるが、ジオンのビーム兵器はまだ試作段階であり、一度使用する度に再度の調整が必要となっている。それでもIフィールドの出力調整は現場合わせという感がまぬがれないので、ガンダムの持つビームサーベルのように最高効率でのメガ粒子の刃は形成できていないようだ。ガンダムが白刃を振るうのに対し、戦場毎に緑色偏光した刃や、赤色偏光した刃が観察されていた。

講釈師見て来たような…という解説はアニメック独特の物であるが(笑)、これではどうだろうか？　読者の判断におまかせしたい。

それにしても、映像を完全に説明するのはかなり難しいような気がしないでもない。

例えば、ガンダムの胴体よりも太いGスカイ・イージーの先端なんてのは、レンズの歪みとでもするしかないのではなかろうか？

まとめにかえて

今回の「大事典編」では、徹底的なリニューアルを試み、アニメックの最大の弱点と言われている英文表記については、サンライズで編纂中の統一表記にしてみました。

人名の英文表記は、当時アニメックで販売していたガンダムグッズに表記されていたものを使っていたのですが、近年ではかなり雰囲気が違っていますから、こちらの方が馴染みやすいかと思います。

今回の最大の変化は、メカスペックとMSの開発ナンバーでしょう。放映中にはザクは一般兵士用と指揮官用、それに旧ザクしかなかったのですから。番組後半になると、コクピットを改造したザクが量産されてはいるのですが、MS-06という表記は、かなり後になってから登場したものです。

なにしろ放映当時には、ガンダムは馬力表示されていたくらいです。どの出力をもって馬力なのかが不明という部分がありました。原子炉の出力か、駆動モーターの出力かバーニアの推力かがわからない部分がありましたからね。

機動戦士ガンダムだけなら問題はないのですが、関連作品の中には一年戦争で活躍したMSが多数あり、今後も増加すると思います。そういったわけで、ジェネレーター出力と推力を使う一般的なスペックに統一してみました。(ただし、コアファイターの原子炉でガンダムが駆動している説は採用しませんでした。なぜなら、ガンタンクの出力に矛盾が出るからです。FGガンダムでのコアファイターは、高性能脱出カプセルだと思います)

どちらにしろ、設定詳細の定まっていなかった頃の放送中に出た資料が矛盾だらけなのは事実です。アニメ誌によってもスペックがばらばらだったのですから、何らかの統一見解は必要だと思います。資料によって、フィルムの解釈が違ってくると混乱を招きます。

そういう理由により、メカニックに関しては、サンライズのオフィシャルデータを使わさせていただきました。

アニメック編集部　(ま)

特別寄稿 オフィシャル資料の説明

サンライズD.I.D推進室 安蒜清一

本誌で「オフィシャルデータ」とされているものは、NIFTY SERVEのサンライズ・ガンダムステーション(SGUNDAM)にて、「U.C.年鑑」として編纂、検証しているものです。

「U.C.年鑑」とは、「機動戦士ガンダム」放映時より様々な形で世に出ていったU.C.ガンダムの設定を集め、資料の整合性をとり、「公式な資料」とする目的で、まとめあげているデータベースのことです。

編纂にあたって、「フィルム化された作品」をベースとし、小説や模型、コミックス等はあくまで参考資料と捉え、足りない情報の補足に使用しています。

そういう意味では、一番ピュアなものですが、データとしては、まだまだ「Ver.0.9」くらいでしょう。

もし「あれが足りない」「これは違う」というご意見がございましたら、ぜひNIFTY SERVEサンライズ・ガンダムステーション7番会議室までいらっしゃってください。

あなたのガンダムへの思いを反映させることができるかもしれませんよ。

最後になりましたがデータ編纂にご尽力いただいている、会議室ボードリーダーのNITORO(にとろ)氏、岡崎昭行氏、また検証にあたっては、ガンダムステーションの会員の皆さんをはじめとして、スタジオぬえ、大徳氏、小牧氏、バンダイ・ホビー事業部、サンライズ・ガンダムプロジェクトのご協力に感謝し、御礼申し上げます。

そして小牧さん、お疲れ様でした。

サンライズ　安蒜清一

機動戦士ガンダム宇宙世紀Ｖロー・２『大事典編』をお届けいたします。

この本の編集中に、ガンダム20周年が盛り上がるにつれ、「いにしえのアニメックガンダム大事典」が読みたいという要望が増え、1991年春に発行した『機動戦士ガンダム大事典　一年戦争編』を『緊急復刻』したりしたものですから、その内容が極力重複しないように編纂し直してみたつもりです。（それでも7年も前の本になるんですね）

ビジュアル部分については、『一年戦争編復刻版』に勝るものはありませんが、豊富な文章とデータという事では、この本が勝っていると思います。

大事典という事で図版と文章を融合させてみようと思いましたが、図版部分には最新スペックを、文章部分にはアニメックらしさをという構成に落ち着きました。

大事典部分には、長年の主観がかなり入っていますが、基本ストーリーには影響しないと思います。（笑）

もし食い違いがあったら、放送中には信じられていた説であると納得して下さい。

それにしても、アニメックの読者って熱いですよね。「歴史編」を読んだ方々からいただいたお手紙の熱狂的な事。新世紀宣言当日にアルタ前でロープを引っぱっていた人や、行きたかったのに追試で動けず未だに悔しがる人がやはりいました。嬉しいですね。

どうやらガンダムファンにとって、あの日は青春の一コマだったようです。ほとんど、伝説になってしまっていますからね。

「ククルス・ドアンの島」に説明がなかったのは何故？という質問は、若い人に多かったようです。ほら、ＬＤでしか見られないという幻の名作だから内容を書かないようにするという親切であしたんですよ。（苦笑）

機動戦士ガンダムは、アニメ史に残る名作であるだけでなく、アニメファンにとっての聖域でもあるようです。考えてみれば物心ついた時にはガンダムがあったという人もいるのですから当然かもしれません。

この本へのご意見、感想をお待ちしますので、よろしくお願いいたします。

最後に、編集部設立以来、出入りした多数のガンダムファンに感謝いたします。

アニメック編集部　（ま）

ラポートデラックス

機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.2

大事典編

◎創通エージェンシー・サンライズ

STAFF

編集／小牧雅伸　千手孝一　穂浪優子　最上満衣子　賀屋聡子
レイアウト／北の湖角子
Special thanks／飯塚正夫&サンライズ資料室
／サンライズステーション U.C.年鑑資料編纂会議室
表紙原画／大友紀弥
セルワーク／秋山季映

1998年9月20日　初版発行

編集人　小牧雅伸
発行人　海野榮一
発　行　ラポート株式会社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-1
TEL03(3354)3951　FAX03(3354)1366
©RAPPORT K.K.1998
印刷所　株式会社　美研
凸版印刷株式会社

禁無断転載　Printed in Japan
定価は表紙に表示してあります
乱丁・落丁がありましたら、おとりかえします

ISBN4-89799-294-X

機動戦士ガンダム
宇宙世紀vol.1

歴史編

好評発売中
A5判／カラー16頁・白黒192頁／定価：本体952円＋税

一年戦争の多面的な内容と歴史を包括して、
ファーストガンダムの興奮を当時の資料で再現する
スペシャル企画。アニメック独自のガンダム解説と
サンライズ・オフィシャル資料が融合した
最高のガンダム読本がここに登場！

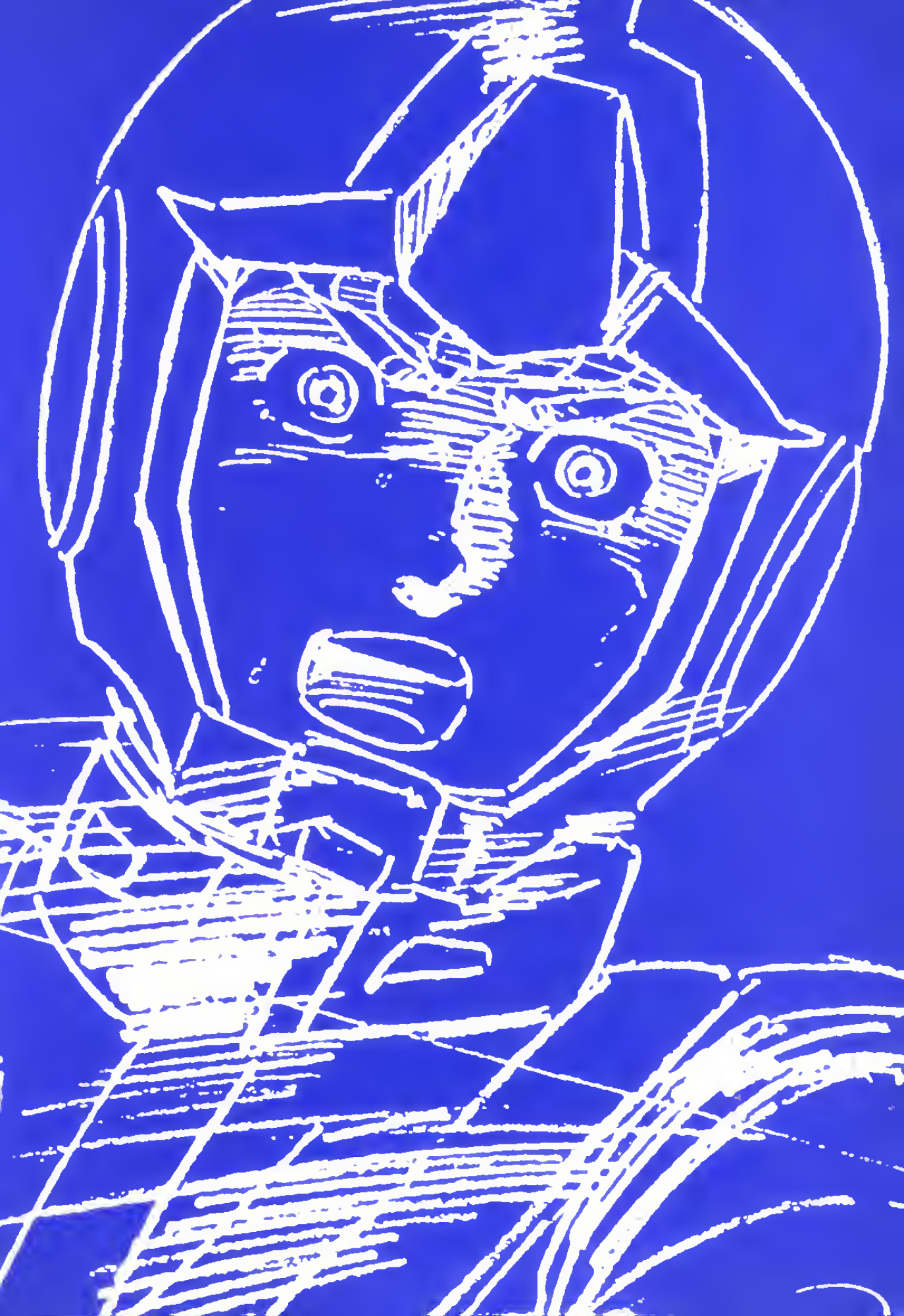
機動戦士ガンダム大事典

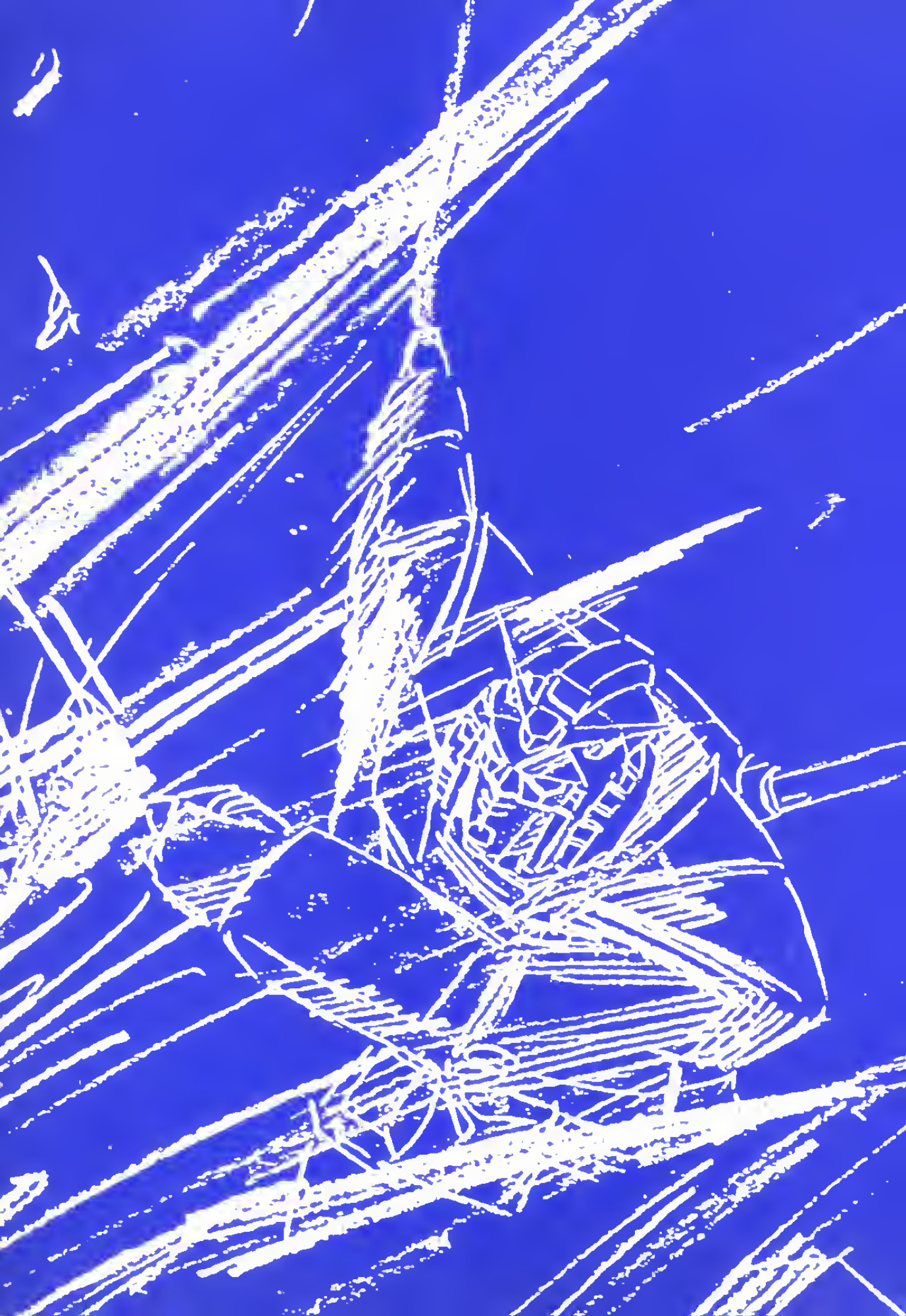
【一年戦争編】

復刻版

好評発売中
B5判／カラー98頁・白黒128頁
定価：本体1600円＋税

読者の皆様のご要望により文字解説中心の歴史編&大事典編の原型となった『一年戦争編』を完全復刻します。
全話カラーフィルム、イラスト満載の豪華永久保存版。
伝説のビジュアルムックです。





RAPPORT DELUXE

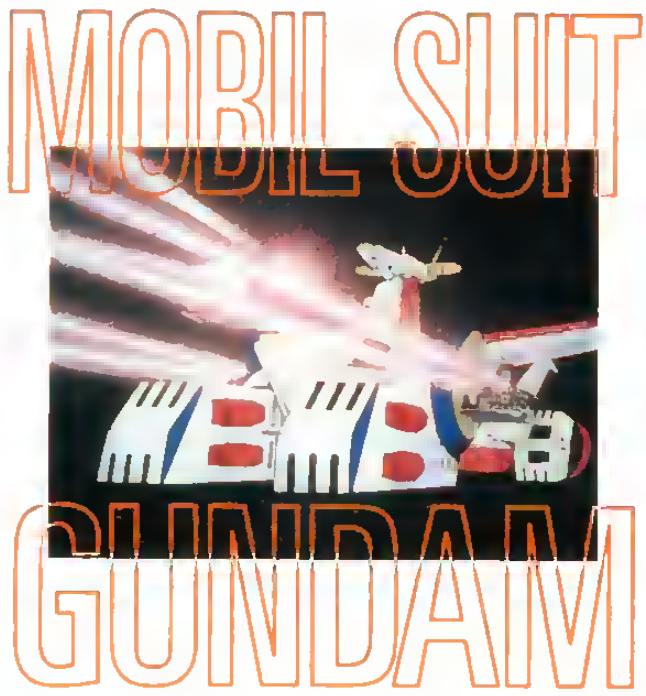
機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.2

大事典編

MOBILE SUIT

GUNDAM

© 創通エージェンシー・サンライズ



ISBN4-89799-294-X

C9474 ¥952E

雑誌69160-61

ラポート

定価：本体952円 ＋税

9784897992945

1929474009526

RD
RAPPORT DELUXE

MOBILE SUIT GUNDAM

機動戦士ガンダム 宇宙世紀VOL.2

大事典編

アニメック特別編集

ラポート